

徳島の剣道

第15号



徳島県剣道連盟



平成十一年度
徳島県剣道連盟執行部

前列右より

財務理事 森川澄

副会長 高下正義

会長 遠藤一美

副会長 大澤孝彰

副会長 柏原浩

後列右より

事務局次長 手塚十三子

理事長 藤本辰夫

事務局長 藤本雅史

副会長 勝沼信彦

新任

長谷川陽子 事務局員



退任

佃久美 事務局員



〈表紙〉

題字 堀江幸夫

絵 村嶋恒徳

いい(十一)年に



徳島県剣道連盟会長 遠藤 一美

西暦一九九九年、九が続く世紀末の重苦しい年と感じる人も多いと思います。景気も悪く、このような状態がいつまでも続くような、やりきれない気分になりがちです。

しかし、見方を変えれば、平成十一年は、「いいとし」と読むことができますし、本当に「いいとし」にすることができると思うのです。心がけることは、初心を忘れず、努力することを忘れず、勉強することを忘れず、感謝を忘れず、感動を忘れない自分をつくることであります。

また、ある著名な学者は「より健康で充実した生活」への示唆として、次のことを挙げています。

- 運動すること自体を楽しむこと
- おだやかな気質で情緒的に安定していること
- 何か夢中になれる趣味や仕事を持っていること
- 自分が何をしようかということに関心をもっていること

- すぐれた自己修養の感覚を身につけていること
- 自分も他人も愉快にできること
- 眼の輝きがあること

私たちが尊敬する剣道の先輩や同輩には、これらの条件を満たしている人がなんと多いことか。私たちも、自信をもって、今年を健康で充実した「いいとし」にしていきましょう。



『徳島の剣道 第十五号』目次

巻頭言	遠藤 一美	1
特別寄稿		
剣道範士 近江佐久郎	近江 嘉平	4
新理事長抱負		
新しい世紀を迎えるにあたって	藤本 辰夫	11
顕彰一覽		12
叙 勲	竹内 春美	15
体育功労賞	森川 澄	16
先生を偲ぶ	高田 豊	16
「堀口武州先生を偲ぶ」	堀江 幸夫	21
思いでの一枚	堀江 幸夫	23
全国講習会報告		
西日本中央講習会	中尾 正輝	25
女子講習会	手塚十三子	27
フィンランド指導	近藤 亘	37
柳生講習	北条 憲治	44
徳島の剣道史		
阿波における神道無念流の系譜	坂本 裕二	46
矯正剣道の変遷	中村 稔裕	53

支部だより

海部支部	張西 政晴	55
美馬東支部	青木 茂生	57
阿波支部	河野 耀雄	58
各種大会に参加して		
全国スポーツ少年団剣道交流大会	池田 洋一	62
全日本都道府県対抗剣道優勝大会	米倉 滋	64
四国四県剣道大会	竹内佳代子	65
全国家庭婦人剣道大会	平野 悦子	66
四国・全国矯正官大会	前田 秀一・中村 稔裕	67
全国警察防犯大会	有賀 秀敏	70
インターハイ 男子	本田 敦彦	72
女子	竈土 恵子	73
全国教職員剣道大会	森 幸子	74
四国教職員剣道大会	谷 喜史	76
国際社会人関西大会	米倉 滋	79
全国中学校剣道大会	中山希実子	80
中学四国大会	村井 正志	82
全日本女子剣道選手権大会	坪井さくら	83
国民体育大会	安藝ますみ	84
全日本居合道大会	高橋 憲司	86
全国青年大会	二反田和則	87
全国警察剣道大会	近藤 亘	89

中倉旗大会……………	白木 洋一……………	90
全日本高齢者武道大会……………	西岡 金若……………	92
ネンリンピック……………	西野 四郎……………	94
高齢者大会報告……………	東内 勉……………	95
大会所感		
全国大会の女性審判として……………	手塚十三子……………	99
武道推進研究発表……………	山田 浩史・長井 薫……………	101
随 想……………	高下 正義……………	103
	西野 四郎……………	104
	高島 稔之……………	107
	石井 博……………	109
	笠松 寛子……………	110
段位合格者		
七段に合格して……………	吉永 明彦……………	113
	久保 隆司……………	114
	中村 稔裕……………	116
	富田 正……………	117
	平尾 満紀……………	118
六段に合格して……………	土井 司……………	119
	阿部三十三……………	121
	藤田 繁……………	122
	曾根 徳治……………	123
	岡田 豊……………	124

称号・段位合格者一覧……………	柳本 巖……………	126
がんばろう徳島		
さようなら、愛する剣道連盟……………	佃 久美……………	135
徳島県下稽古場所・時間帯一覧(その二)……………	白木 崇……………	136
平成十年度戦いの跡……………		139
徳島新聞に見る戦いの跡……………		169
昇段審査学科問題・解答例……………		231
平成十年度総会議事録……………		249
役員一覧……………		252
徳島県剣道連盟事務分掌……………		255
平成十一年度徳島県剣道連盟行事予定表……………		257
平成十一年度審査実施計画表……………		259
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等……………		260
編集後記		

〈さし絵〉村嶋 恒徳

特別寄稿



剣道範士 近江佐久郎

徳島支部 近江嘉平

このたび祖父佐久郎について、執筆の依頼があり、折角の機会ですので敢えて筆を執らせて戴きました。佐久郎については、近江家に保有する資料により縷々述べることにします。

佐久郎は、明治三年二月二十七日阿波郡香美村（現在の市場町

香美）に生まれ、昭和十九年六月二日徳島市伊月町にて逝去しています。行年七十五歳でした。佐久郎の葬儀には、徳島歩兵第四十三連隊長であった辻権作陸軍大佐も参列下さり、盛大でした。

佐久郎は、貫心流正統宗家を継承しています。貫心流兵法について「宍戸記」では次のように記されています。

流祖宍戸司箭家俊（宍戸家十九代元家の三男）安芸国菊山の城主又次郎下野守司箭は他に五龍城、祝屋敷（広島県）をも築いた。宍戸家の本家は、山口県に在り、（旧男爵）流祖司箭は、剣豪にして当時剣を合わす者としてなく、極秘達したるか兵術の妙理を兄弟に伝え、兵書を授け、密法（源九郎義経鬼一法眼よりの伝来の軍記即ち義経の兵法を学びて貫心流を創始した）を伝え兄弟共に城を護り、剣を捨て安芸国厳島の明神に参籠し、親戚を離れ人倫の交わりをたち無為の境に入る。（近江家の伝書には飛行して天に昇るとある。元亀元年四月四日）

貫心流の主なる武芸は、剣術、手裡剣術、居合道、薙刀、槍術、鎖鎌、拳法、弓術、遊泳術等である。

阿波藩士の細六郎義知（六代目）が文化頃、四国阿波に貫心流を伝えてより数代を経て、山根正雄（旧武徳会範士で慶応・明治に活躍）から高弟であった近江佐久郎（明治・大正・昭和に活躍）に伝わっています。他にも貫心流を称する家もありましたが、佐久郎時代に、宍戸家より劍使二名近江家に来て、貫心流の組太刀を佐久郎より習得して帰国しています。このことから、佐久郎

が、貫心流正統継承である事を確認、されています。更に宍戸家執事福岡啓助氏が、宍戸家よりの謝意を表し、流祖家俊公佩用の備前勝光の小刀並びに宍戸記一冊を送られています。

近江家は罹災しましたが、幸いにして貫心流に関する書類並びに勝光の小刀は、近江家に現在保有されています。

佐久郎は、恩師山根正雄範士の教えを受け、自信の出来た青年時代には、諸国武者修行の旅に出かけました。

諸国を修行の途中無一文になり、宿舎はおろか食事にもありつけない状態になった時、母が旅立ちの時新しい衣類の襟に二文銭を縫い込んでくれたのに気付き、幸いに宿舎にも泊まれ、飢えも免れ、修行を続けられたことを「慈母の情けの二文銭」として子供等に母の恩を教えていました。

祖父佐久郎は貫心流宗家を継承し、正統宗家となり、大日本武徳会創立後は、徳島武徳会支部首席師範、徳島師範学校教諭、徳島県立徳島中学校教諭、徳島刑務所専任師範、徳島警察署師範として県下の青少年の指導に当たっておりました。剣道の他、鎖鎌、弓道の指南をもしていました。

山根範士の薫陶を受けた佐久郎は、有名なる第一回昭和天覧試合（昭和四年）には、六十歳で指定選士として出場の栄を賜っています。その大会の優勝者は後に十段になられた持田盛二範士でした。佐久郎はさらに昭和十年には剣道範士となっています。

その晩年に至るまで、大日本武徳会本部（京都）主催の全国大会には必ず出場し、試合はもちろん審判にも当たっています。

京都大会に於いて、長身の持田盛二範士と小柄な近江佐久郎範士の大試合は、当時の思い出に残る有名な試合であったそうです。常に剣道の指南に当たる時は、稽古人の満足するまでは、何時間でも道具をはずすことなく、面も取らず指導する姿には敬服する次第で、貫心流剣道一筋の士でありました。その門弟は数千人にも及んでいます。

また、字は達筆で門弟に与える長文の剣道の巻物は、全部直筆で、授与された方々は大変喜んだそうです。

なお、佐久郎の武者修行について「月刊剣道日本」平成十年二月号に「峠で精魂尽きた近江佐久郎の武者修行」のタイトルで掲載されています。この佐久郎の取材のため、平成十年一月上旬に「日本剣道」記者のフリールポライター神谷氏が、徳島の剣道史担当理事である坂本裕二先生宅を訪問しています。その際、坂本先生（佐久郎と同郷にして佐久郎について最も熟知されている先生）より取材して掲載されたものです。「峠道」とは大分県南端宇目町重岡の赤松峠のことであり、佐久郎がここまで修行に来ていたことが明らかになっています。

徳島県初代武徳会剣道範士山根正雄より近江佐久郎に与えた免

状目録

貫心流兵法数年被盡粉骨矣。勝負の要自然に別れて百計百

発之心法に至る。之に依つて六戸司箭依り河野大藏伝うる所之家秘並に伝授の書、一も残さず之を伝う。

劍術心明之卷

勝負決要之卷

金櫃骨碎之卷

右三卷之書者、元龜元年四月四日司箭雲中飛行の節、大藏伝うる所の要法家伝の全書たるを以て代々河野家の秘法と爲る。

山根 正雄

栄盈

明治廿一年四月四日

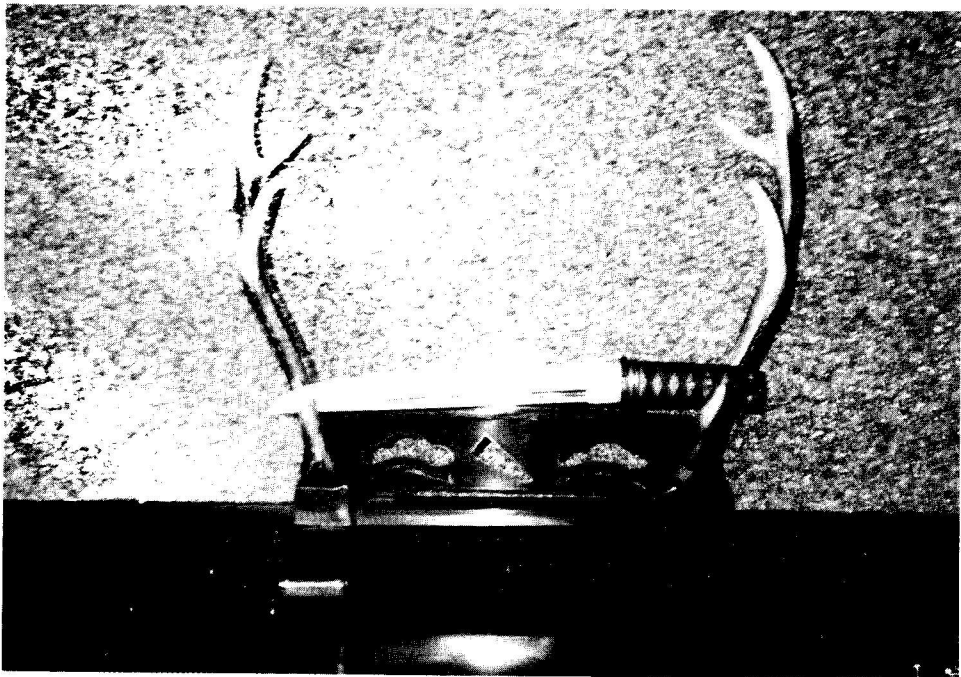
近江佐久郎殿

山根正雄より近江佐久郎に与えた免状「拾位」

貴下積年練習し、当流に於て其蘊奥を究む。故に往昔許状を授く。爾来益々篤厚熱心、而して予が教授せし門人より熟練の輩を駢出せしむ。其功績大なりと謂うべし。之に因りて這般拾位を授く。将来怠慢無く斯道の隆盛を図り、門人をして国家を保障し君恩の萬一に酬い奉らむことを庶幾わ使よ。

山根 正雄

藤原 栄盈



劍道範士 山根正雄先生より拝領（備州長船長義）

明治三十六年九月吉日
近江佐久郎殿

山根正雄より短刀を授与される

銘文備州長船長義（延文二年、一三五七年）

長さ九寸

目釘穴一つ

旧男爵宍戸家より近江佐久郎に贈られた書翰

肅啓時下炎暑の候愈々御清適奉賀候

陳者兼て本村出身原田侃劍士を通して関心流組太刀御伝授
方御依頼申上候處此事奉存候仍て介添として本村山本一郎劍
士同道参上可致候間萬事宜敷御取計之程本懇願候。付ては流
祖家俊公御幼少時代佩用之刀一口（肥前勝光作と申伝候）外
宍戸記一冊薄謝の印し迄に贈呈可致旨被申付候間、御受納被
下度此段申追候

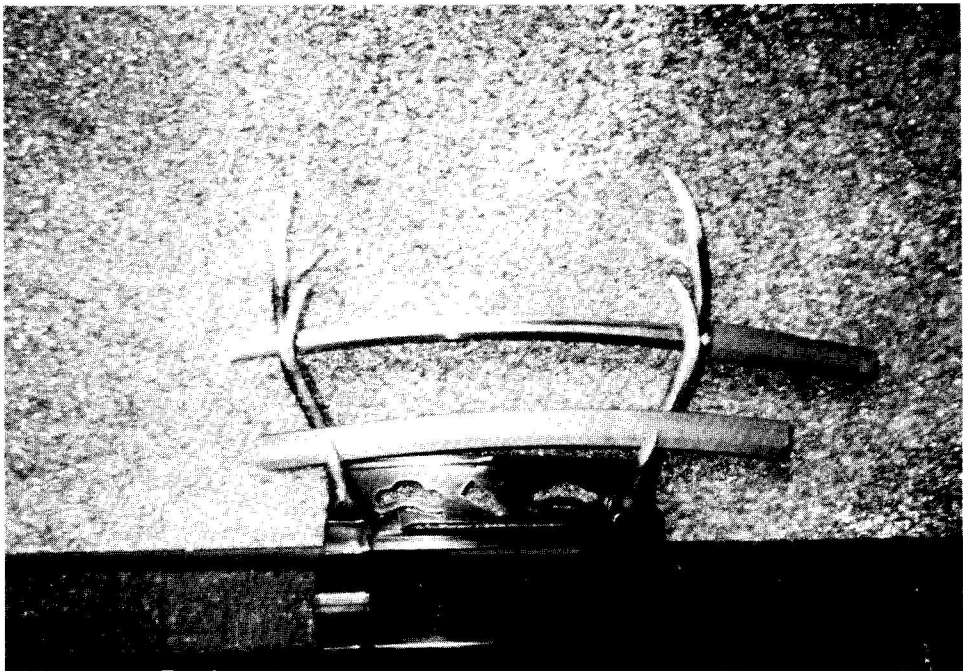
七月廿六日

男爵宍戸家執事

福間 啓助

近江先生

玉席下



宍戸男爵家より拝領（備前勝光作）

(右の年度は昭和十七年である)

貫心流宗家宍戸家より近江佐久郎に贈られた脇差

長さ 一尺六寸五分

目釘 一つ

銘文 なし

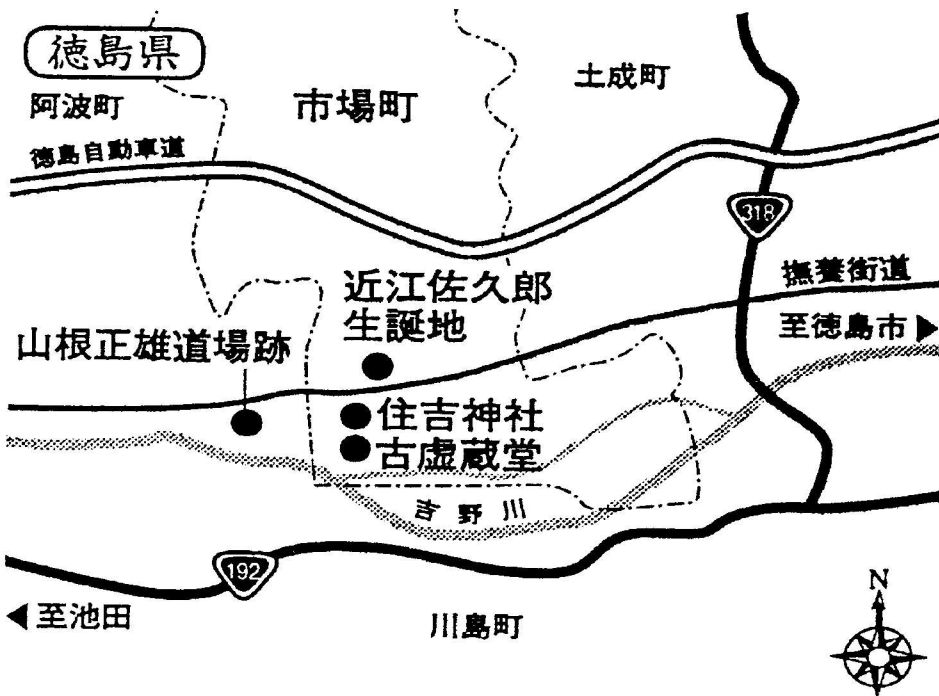
但し、流祖家俊公御幼少時代佩用(肥前勝光作)と伝えられる。

近江佐久郎範士には

長男勇(昭和五十四年二月九日逝去 行年八十四歳)

次男三輪清(昭和六十三年七月十七日逝去 行年九十二歳)

あり共に範士となり貫心流を継承した。



剣道日本 平成10年2月号」より

漫 述

佐久郎の長男（私の父）である勇は、和歌山県伊都中学校（現在の伊都高等学校）に、大正十二年三月教諭として赴任し、昭和十三年六月まで奉職致しました。

徳島の剣道第十三号（平成九年七月十日発行）「特別寄稿」に、和歌山県剣道連盟理事長である剣道八段秋山英武先生が「徳島と祖父多吉郎」のタイトルで寄稿されていますが、秋山先生も、岳父勇の教え子なのです。秋山先生の寄稿の中に近江家に「私も一度お伺いしたことがあります。」とありますが、それは昭和四十六年のことなのです。

昭和四十六年に和歌山県主催第二十六回国民体育大会（黒潮大会）が開催されました。この大会開催前に来宅下され、岳父勇に是非出席を願い、剣道試合を鑑賞して戴きたいとのことでした。その為に、乗用車にて拙宅まで送迎させて戴きますとの申し出でした。

岳父勇は当時高齢と体調も思わしくなかったため「ご好意は誠に有難いが迷惑をかけては」と感謝してご辞退した次第でした。岳父勇は、昭和五十四年二月九日逝去し葬儀は十二日に営みました。岳父勇の教え子として和歌山県立伊都高等学校剣友会代表丸井要治先生が、卒業して四十有余年にもなるのに葬儀に和歌山市より参列下さいました。

丸井先生は、十一日の通夜には岳父勇の柩の傍にて正座して一睡もなさらず、十二日の告別式には弔辞を奉呈して下さいました。

岳父勇の霊も感涙に咽び泣いたことと思います。

丸井先生の哀愁を帯びた切々たる名状し難いお声は、今もなお私の耳朶に甦ってまいります。そしてわが幽明境を異にするまで忘れないであろうし、また無量光、無量寿のあの世とやらでも魂に留めたいと願っています。

弔辞は次の通りで近江家に永久に大切に保存致します。

弔 辞

先生、先生、近江先生。幾度お呼びしてももう先生は何とお返事をして下さらないと思うと私達の胸は今にもさけてしまいそうです。

先生はつねに私達に「剣の道のみならず、人間をつくれ」人間として立派な人格を形成するのでなければ真の剣士にはなれないと教えて下さいました。

また先生は孫子の兵法である「勝ちてのち戦う」の戦法を身をもって実践されました。そして私どもが試合にのぞむに際しましては、つねに相手に勝つてのぞめ、勝つためには、平素の鍛練に汗を流せと厳しく指導されました。

今じつと目をつむりますとあのお元気なお顔が目の前にうかびあのおやさしいお声が道場にこだまし耳の中にひびいてまいります。

ああ先生は悲しいことにもうこの私達と同じ世界に住んでいらっしやいません。しかし先生が私達の心の中に蒔いて下

さった剣の道の正しい教えの種はいきいきと芽を出してすくすくと育っています。私達はその芽をいつまでもいつまでも枯らさないように見守って行きたいと心にかたく誓っております。

先生どうか安らかにお眠り下さいます様お祈り申し上げます。

言葉はまことにお粗末でその上整っておりませんが、これは敬愛する先生を失った悲しみによるものであることをお察し下さいましてお許し下さい。

ああ近江先生、悲しみは果てしなく消え去ることもありません。

それでは先生の常々のお教え「人間をつくれ、そして事をなすに当たっては、勝ちて後、戦うの心構えを忘れるな」といわれたあの言葉を私達はもう一度心の中にくり返して、この悲しいお別れのことを終わりたいと思います。

では先生いつまでも私達をお護り下さい。

昭和五十四年二月十二日

和歌山県立伊都高等学校

剣友会代表

丸井要治

丸井要治先生はもう此の世においでません。私は丸井先生の御宅（和歌山市中之島六六四）に参上し、丸井先生の御霊にあの世

で亡父と共に伊都中学校の当時を想像し睦まじく過ごされるよう祈って参りました。

「三尺下って師の影を踏まず」との格言があります。

秋山先生、丸井先生はこのことを実践された立派な畏敬する先生です。

剣道の理念として『剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である』と言われていますが、何も剣道に限るものではなく、学問であれ、芸術であれ、スポーツであれ、また何事でもあれ、目的は人間形成の為でなければならぬと思います。

私は「教育ニ関シテ下シ給エル勅語」（山県有朋内閣のもとで井上毅、元田永孚等が起草）の「父母ニ孝ニ、兄弟ニ友ニ、夫婦相和シ朋友相信ジテ云々」の儒教的、普遍的な徳目は、戦争に敗けたとはいえ、現在でも国民道徳の規範としてもとるものではないと確信します。

現在の社会に於て教育勅語に列挙された諸徳目に反する憂慮にたえない事件が続発している事は嘆かわしい次第です。現社会に於て精神面の立ち遅れを速やかに取り戻すことこそ重要な事と思えます。

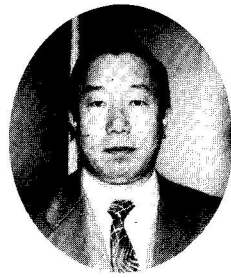
かけがえのない生命の尊厳を銘記し、ただ一度の人生を真に有意義に送られ、徳島県剣道連盟から社会に貢献される清廉潔白人材が輩出されることを待望します。

新理事長抱負

新しい世紀を

迎えるにあたって

理事長 藤 本 辰 夫



光陰矢の如しと申しますが、私が徳島県剣道連盟事務局長を拝命して十年近くの歳月が流れました。その間、東四国国体の一代行事では、剣道部門において総合優勝という輝かしい成果を、徳島県剣道史に残すことができる等、大きな感動も味わうことができました。これらすべては会員の皆様の精進と御協力の賜物であり、大過なくその任を終えることができましたことを心から御礼申し上げます。

また、この度は、徳島県剣道連盟理事長という身に余る大任を仰せつかりましたが、堀江幸夫先生、柏原浩先生の歴代理事長の御努力と御功績が誠に偉大でありましただけに、その責任の重大さを痛感しているところであります。

さて、今世紀も残すところ一年余りとなり、昨今の社会情勢あるいは国際情勢は高度情報化により目まぐるしく移り変わるようになり、地球の裏側で起こった出来事が瞬時のうちにわが国を始め世界の政治経済に影響を及ぼしています。また、世界中の人々が情報を交換し手を繋ぐことが可能になりました。

このような時代にあつて、日本古来の伝統を持つ剣道も何らかの影響を受けていくものと思われませんが、剣道の素晴らしい心と技の伝統を受け継ぎ伝えていくのが我々剣道人にとつての責務であると確信致しております。

徳島県剣道連盟も、新し世紀にふさわしく合理的で、会員の誰もが参加できる組織へと開かれ発展していく必要があると思っております。そのためには、連盟の役員の方先生方をはじめ会員の皆様方のきたんのない前向きな御意見を賜り、御指導、御協力を仰ぎたく存じます。

今年は二十世紀から二十一世紀へと人類にとって大きな転換の年であります。徳島県剣道連盟と致しましても遠藤一美会長の御指導のもとに新しい世紀を目ざして共に頑張っていこうではありませんか。

平成十年 度 顕 彰 一 覧

剣道有功賞 (全日本剣道連盟)

○石 井 克太郎 (大正三年八月十日生まれ)



徳島県剣道連盟発足以来、審議員等の役員として連盟充実発展に尽くされた。特に、剣道の理合に造詣が深く、剣道技術の向上発展に大きく貢献した。

叙 勲 (勲五等瑞宝章)

○竹 内 春 美 (大正六年三月十四日生れ)

池田警察署所長として、地域社会の信頼を得るとともに、長年にわたり、警察官として剣道の技能向上と普及発展に尽くした貢献は多大である。

体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

○森 川 澄 (昭和三年五月一日生れ)

長年にわたり、高校教諭として高校生および地域社会の小中学生に剣道を指導し、青少年の健全育成に努めた。退職後も本連盟

の支部長・常任理事・経理担当理事として十数年にわたり、本連盟発展に寄与している。

体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

○高 田 豊 (大正十四年二月二十一日生れ)

戦後、警察官大会の選手として、又、警察剣道の中心者として活躍し、警察署長時代には署道場を少年及び社会人に開放し、剣道振興に努めた。徳島県剣道連盟の常任理事、副会長として第四十八回国体の成功に寄与し、現在は審議員として連盟の発展に貢献している。

高等学校優秀選手表彰 (徳島県剣道連盟) 別表

中学校優秀選手表彰 (徳島県剣道連盟) 別表

この度、竹内先生・森川先生・高田先生より以下のような手記を寄稿していただきました。

平成10年度 徳島県高等学校剣道優秀選手名簿

男 子	学 校 名	女 子	学 校 名
谷 口 拓 之	富 岡 西	坪 井 あ き	富 岡 東
大 坂 真 右	富 岡 西	森 知 世	富 岡 東
長 谷 川 普 紀	富 岡 西	竈 土 恵 子	富 岡 東
森 英 雄	富 岡 西	檜 本 み くり	富 岡 東
尾 田 光 志	富 岡 西	服 部 茜	富 岡 東
橋 本 慎 一 郎	富 岡 西	清 水 紫	富 岡 東
日 下 誠	富 岡 東	小 川 絵 奈	富 岡 西
蛭 原 正 基	富 岡 東	菱 本 美 希	富 岡 西
横 坂 幸 憲	富 岡 東	藤 崎 蘭	富 岡 西
儀 宝 正 志	富 岡 東	北 川 真 衣	川 島
三 木 康 寛	川 島	中 村 美 樹	川 島
日 野 浦 勉	川 島	藤 原 洋 子	川 島
三 木 隆 寛	川 島	下 横 絵 美	川 島
藤 野 伸 弘	川 島	石 本 涼 子	池 田
北 岡 良 三	川 島		
谷 岡 和 夫	阿 南 工		
篠 原 義 治	阿 南 工		
谷 口 智 映	阿 南 工		
中 田 将 規	阿 南 工		
前 田 悟 志	阿 南 工		
川 又 大 吾	城 北		
田 岡 大 資	城 南		
近 藤 大 輔	城 ノ 内		
一 村 健 治	徳 島 東 工		
小 笠 航	文 理		

平成10年度 徳島県中学校剣道優秀選手名簿

男 子	学 校 名	女 子	学 校 名
河 原 弘 樹	阿 波	昇 葉 子	木 頭
六 條 勝 仁	石 井	美 馬 真 奈 美	牟 岐
檜 福 顕 生	坂 野	北 川 希 依	鴨 島 一
田 中 翔	市 場	中 山 真 希	那 賀 川
元 木 覚	相 生	宮 崎 加 奈 子	北 島
檜 本 圭 介	相 生	河 田 美 紗	那 賀 川
前 川 剛 志	相 生	竹 内 亜 紀	那 賀 川
住 友 直 城	阿 南 一	川 田 千 晶	阿 波
元 木 高 志	阿 南 一	割 石 敦 子	阿 波
坂 本 昌 章	阿 南 一	寺 井 あ ゆ み	阿 波
山ノ井 徹	阿 南 一	東 根 ゆ かり	相 生
竹 亭 賢 一	阿 南 一	檜 原 亜 矢 子	相 生
蔵 本 浩 一	阿 南 一	島 田 佳 織	阿 南 一
昇 省 吾	相 生	坂 本 裕 美	阿 南 一
井 本 航	相 生	粟 田 裕 子	鳴 門 一
株 田 大 樹	平 谷	中 津 京 子	鳴 門 一
折 坂 祐 一	平 谷	仁 木 由 加 里	石 井
佐 光 俊 介	阿 波	是 安 佐 映	貞 光
福 本 泰 志	松 茂	拙 友 由 佳	上 八 万
横 手 裕 一	阿 南	江 富 澄	北 島
星 野 宜 哉	那 賀 川		
畑 山 秀 明	市 場		
森 貴 雄	羽ノ浦		

「思ひ出」

名西支部 竹内春美



私と剣道のつながりは、今から六十九年前、旧制天理中学校一年生の折、親友と一緒にクラブ活動として剣道部へ入部したのが始まりです。

寒稽古の時など降りしきる雪の中、稽古着姿で登校したのを思い出します。卒業するまで全国中学校剣道大会に何度か出場し、奈良県予選でも戦った事を憶えて居ります。

在学時五年生の時に初段を授与されました。その後、何か社会の為にと、昭和十三年当時の徳島県警察官練習所へ入所しました。当時は故高島先生の御薫陶を受けることができました。卒業して脇町警察署の外勤係へ配属されました。昭和十四年四月と昭和十六年七月に二度の兵役招集を受け、中国の洛南と、満州にて国境警備に服しました。軍隊では短剣術や銃剣術等の訓練をうけましたが、隊員相手に剣道の稽古はできませんでした。

昭和十八年十二月、復員。本格的に稽古をし始めましたのは、昭和二十六年からの県警本部防犯課勤務時代です。県警本部剣道部の特錬生を命ぜられて厳しい勤務の傍ら稽古に励みました。当時、故魚沢清太郎先生や堀江幸夫先生より御指導を賜り、高田豊兄や堀金實兄等とともに警察管区大会に出場したことを憶えて居

ります。

その後、四国警察管区（善通寺の警察学校教官）を命ぜられたり、警察大学校へ入校命ぜられました。剣道の事は忘れず稽古はしておりました。警察本部帰遷後は、県下警察剣道大会の審判をも務めさせて頂き、署長時代には署員や学校生相手に稽古をいたしました。昭和四十七年退職後は、ゴルフやゲートボールに誘われましたがすべて断りました。毎朝の竹刀体操、竹刀の素振り、ウォーキング等で体力の保全に心がけております。

こうしている中、昭和五十七年剣道教士五段を授与されました。そして又生涯忘れる事が出来ない事は、平成十年五月に、警察に奉職期間三十二年で何の功績もないまま勲五等瑞宝章叙勲の光栄に浴したことです。又此の節受けた剣友諸氏の御厚情でございませぬ。此の事につきましては感謝と感動あるのみで到底筆舌では尽くせません。警察OBや現役の方々、又県警察剣道部の皆様方が県下各地から集まって頂き盛大な祝賀の会を催して頂き、又地元剣道連盟の名西支部の諸兄方からも同様祝賀会を開いて頂きました。

この上は、警察本部や剣道部の方々、剣道名西支部の皆様方のご多幸と御健勝を心からお祈りするばかりでございませぬ。

私も、寄る年波で当年八十一歳になりますが、趣味の川柳や温泉巡り、ウォーキング等を日課として、「自然体」「平常心」を心条としまして余命を全うしたいと思つて居ります。何卒よろしく御指導の程をお願いいたしました。拙い筆を置かして頂きます。

「剣道人口の推移とその周辺」

財務理事 森川 澄



平成十年二月十一日、剣連のご推薦により、平成九年度徳島県体育協会体育功労賞表彰受賞者四十一名の一人として徳島県体育協会会長殿より表彰状を頂戴致しました。

このことは、私にとってこの上ない名誉なことであり、誠に大きな喜びであります。剣道を通して青少年の健全育成、また剣連役員として剣道の普及・発展のお手伝いが出来たということですが、本当に受賞に値する実績を上げることが出来ていたのであるうかと面映ゆい感が致します。

これもひとえに剣連役員の先生方、会員皆様のご指導・ご援助の賜物と心より感謝申し上げます。

今後はこれを励みとして、私なりの立場においてより精進し、徳島県の剣道ひいては徳島県体育の発展・伸長に、そしてこれを通して社会への貢献に少しでもお役に立つことが出来ますよう努力を重ねたいと思っております。

皆様方の尚一層のご指導とご支援をお願い申し上げます。

ところで、ここ数年來、各家庭における少子化傾向・少年の剣

道離れ等による剣道人口の減少が話題になっています。

それぞれの教室（道場）におかれては、その変化について十分把握され対応されていることと存じますが、県下の趨勢の確認も必要かと思えます。

剣連における私の職務は、会計処理でありますので「徳島の剣道」に原稿を依頼されました機会をお借りして「剣道人口の推移とその周辺」についてご紹介したいと思います。

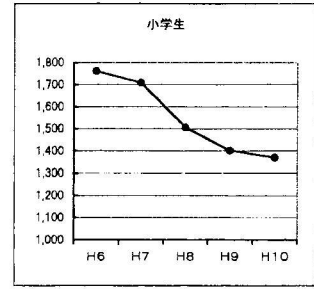
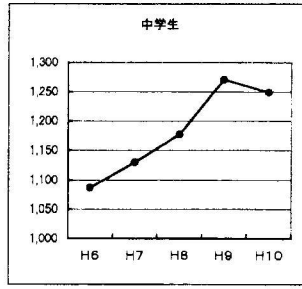
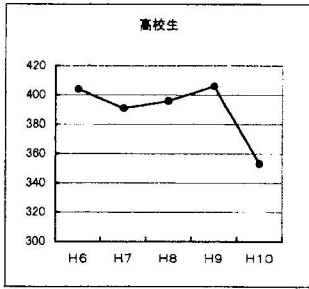
I 剣道人口の推移

	小学生	中学生	高校生	一 般	合 計
平 6	1,761	1,087	404	270	3,522
平 7	1,708	1,130	391	278	3,507
平 8	1,506	1,178	396	265	3,345
平 9	1,402	1,271	406	217	3,296
平 10	1,370	1,249	353	200	3,172

* 中学生は本年より減少傾向が現れているのでなからうか。

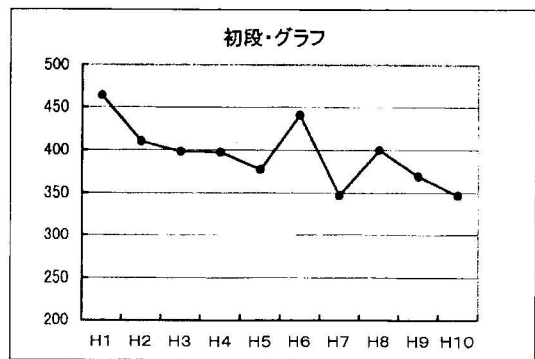
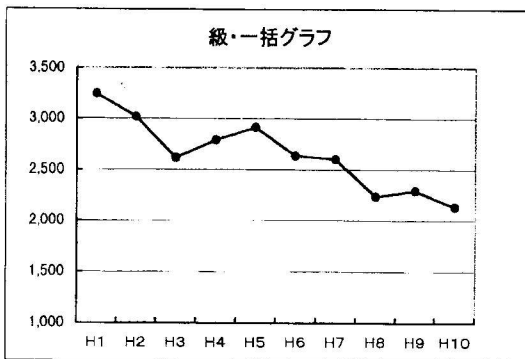
〈注〉人数把握の資料

- ① 小学生・一般…剣連少年部による剣道教室（道場）調査より
- ② 中学生・高校生…中体連・高体連における部員数調査より



	級	初 段	2 ~ 5 段	6 ~ 8 段	称 号
平 1	3,245	464	322	86	2
平 2	3,107	410	284	94	4
平 3	2,617	398	295	115	7
平 4	2,790	397	317	127	5
平 5	2,913	377	255	115	9
平 6	2,636	441	257	99	9
平 7	2,604	347	263	99	11
平 8	2,240	400	293	81	7
平 9	2,294	369	245	90	9
平 10	2,136	347	299	97	7

Ⅱ
受審者数のすう勢（剣道だけの人数）



Ⅲ 中・高校の総体参加校数調査

	中 学 校	
	男 子	女 子
平 6	63	53
平 7	62	52
平 8	64	62
平 9	65	62
平10	64	62

	高 校	
	男 子	女 子
平 6	30	14
平 7	30	13
平 8	31	11
平 9	30	16
平10	30	16

Ⅳ 審査料収入の年次的変化

審査料収入とは 審査料＋登録料＋他
 ↓
 受審料です

(単位：円)

	前年度との比較
平 6	△ 1,095,960
平 7	△ 253,290
平 8	△ 1,718,860
平 9	874,190
平10	△ 980,100

〔注〕

- ① 前年度との比較：△は減少を表す。
 - ② 居合を含めた金額である。
 - ③ H九の増収は下記の結果である。
- A 受審者数が僅少ではあるが増加した。
- B 合格率が良く、登録者数が増加した。
- C 消費税がアップした。

以上、数値により「剣道人口の推移」とその周辺の状況として「受審者数及び審査料収入の年次的変化」をご確認頂けたと思ひます。

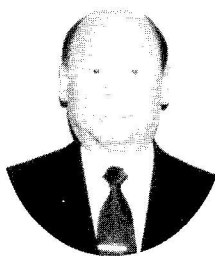
何かのご参考になれば幸いです。



いつもお世話になっている
 手塚さん(左)と佃さん(右)

徳島県体育 功労者に選ばれて

審議員 高田 豊



私、このたび思いがけず平成十年年度体育功労者として、剣道部門から推薦頂き受賞の栄に浴しました。これ偏に諸先輩及び剣友の皆様のご指導ご鞭撻のおかげと、心から感謝しお礼を申し上げます。

しかし本当のことを申し上げますと、とてもこのような榮譽に浴せる私ではありません。剣道を始めて六十年。いまだ剣道とは何なのか……も判らず迷路に入り込んで日々悩んでいるのが現状です。

二年も三年前に指摘頂いた悪癖を又指摘され、その間一体何をしてきたのか?、と反省すると共に自分の至らなさを、ひしひしと感じている今日この頃です。

「日暮れて なお 道遠し」

命ある限りこの道を、コツコツたどって行く積もりです。どうかよろしくお引き廻しをお願いします。



徳島県体育功労者（剣道）一覽

昭和30年	尾	形	郷	一
昭和31年	須	見	善	富
昭和32年	石	井	隆	介
昭和33年	石	丸	米	蔵
昭和34年	山 藤	家 川	雪 五	蔵 郎
昭和35年	浅 高	井 島	真 乘	一 吉
昭和36年	田 山	村 本	楚 忠	一 蔵
昭和37年	魚 河	沢 野	清 照	太 郎 雄
昭和38年	居 竹	内 原	勘 常	五 郎 雄
昭和39年	近 三	藤 木	阿 只	佐 市 雄
昭和40年	近 滝	江 下		勇 勝
昭和41年	中 山	野 田	武	清 雄
昭和42年	松 中	本 川	一 虎	城 雄
昭和43年	下	村	富	夫
昭和44年	堀	江	幸	夫
昭和45年	大	沢	善	二 郎
昭和46年	山	田		仁
昭和47年	清	原		栄

昭和48年	磯	部	茂	治
昭和49年	山	田	新	六 郎
昭和50年	勝	浦		守
昭和51年	井	上	健	二
昭和52年	大	沢	孝	彰
昭和53年	石	井	克	太 郎
昭和54年	久	保		勇
昭和55年	伊	原	秀	文
昭和56年	稻	木	紀	一
昭和57年	柴	田	稔	夫
昭和58年	藤	本	幾	久
昭和59年	坂	本	裕	二
昭和60年	松	浦	信	英
昭和61年	中	谷	智	好
昭和62年	西	野	四	郎
昭和63年	重	井	好	高
平成元年	坂	下	彦	之
平成2年	高	下	正	義
平成3年	美	馬	政	雄
平成4年	吉	田		租
平成5年	阿	部	全	司
平成6年	高	田		亮
平成7年	広	瀬		清
平成8年	堀	金		實
平成9年	森	川		澄
平成10年	高	田		豊

先生を偲ぶ



ありし日の堀口朝次郎範士
(剣道日本 1998. 7月号より)

せず在りのままということだ。分かった様な分からない様な、狐に包まれた様な気持ちで墨を磨る。実に豪快な筆運びだ。悪く言えば無茶苦茶とも言える書き振りだと私には写った。君の分は今度書いてくるから、さあ稽古だ。当時私は三段か四段になる前頃であつたと思う。打つても打つても、もホラホイホラホイと前に出てこられ、打ちつつ後ろへ後ろへ道場の羽目板を背負うと真ん中に戻して呉れて、又後ろへ後ろへの繰り返しだった。稽古着の袖から出ている腕は丸太の様だった。武舟先生はその頃もう六十歳前後であつたと思う。

堀口朝次郎、徳島市で明治十二年六月に生まれる。父・市九郎から貫心流及び無刀流剣術を十四歳の時から学ぶ。いつ頃大阪に出られたか詳らかではない。明治三十五年から四十年まで大日本武徳会本部講習性として修行している。奇行の多い人で有名であつた。相撲取りだとも神戸港で沖仲仕をしたとも…。

臨濟宗海清寺の寺男をしながら豪僧南天棒こと中原劉州老師に参禅して居士となられた。大阪天王寺中学、今宮中学教師、武徳会大阪師範などをつとめ、大正元年以降、西宮市、大阪市や自宅に剣道道場を開設し、門下から七百余名の有段者を輩出したとされている。

私が稽古いただいた前記の頃は大阪府警島之内警察署(現南署)の剣道教師をされていて鳴尾村(現西宮市)に住んでおられた。

武舟 堀口朝次郎範士を偲ぶ

名誉会長 堀江 幸夫



“もう少し墨を磨ってくれ” “先生何と読むのですか” “うん「良ちよしく」だ” “どういう意味ですか” “これはなア、君は君らしく、わしはわしらしく背伸び

風貌風態はよく戦国小説や講談に出てくる大阪夏の陣で活躍した三好清海入道とはこんな人かと思つたものだ。

武舟先生と交際のあつた福岡の故小城満陸先生（範士九段）が次のように語っておられる。

堀口朝次郎という豪傑がいた。西宮の海清寺の豪僧南天棒劉州老師に参禅武舟居士・鬼武舟といわれたこの人が西陣の間屋街で道場を持っていて若き齊村五郎先生（のち範士十段）に時々酒のごちそうをされていた。大阪に剣禅道場を開いて大正七年の米騒動の時に大兵肥満の武舟居士が関羽ひげをなびかせ朴菌の高下駄に赤胴を前後につけ八角棒の大きな素振り棒を杖について心齋橋をのし歩いていたら皆鬼が来たと蜘蛛の子の散る如く逃げてしまったと当時の新聞に載つていた

そうだ。又、齊村先生に書の揮毫をすすめたのは私で、当時武舟居士（堀口範士）が南天棒劉州老師張りの書をよくされて方々に頒けてやられたので勧めた。

私との約束は忘れずに後日頂戴したが、「良しく」ではなく「尽忠孝」（写真参照）と条幅半折の紙から飛び出すばかりの勢いと力強い書であつた。何れ近く戦場に出ていく私への^{はなむけ}餞のお心だつたと思う。

ずいぶんと奇行の多い方であつたらしいが、私にはやさしい温かいスケールの大きな人であつた。

終戦を待たず昭和十九年に黄泉の客となられたと後に知つた。



武舟先生の書「尽忠孝」（忠孝を尽くせ）

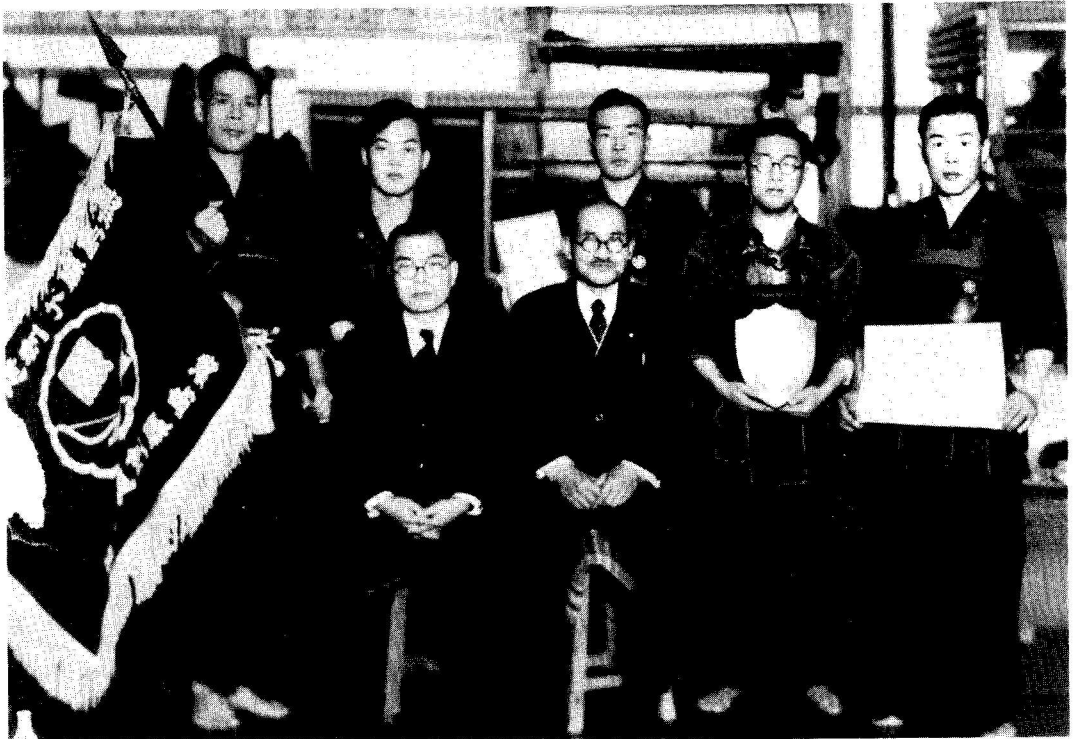
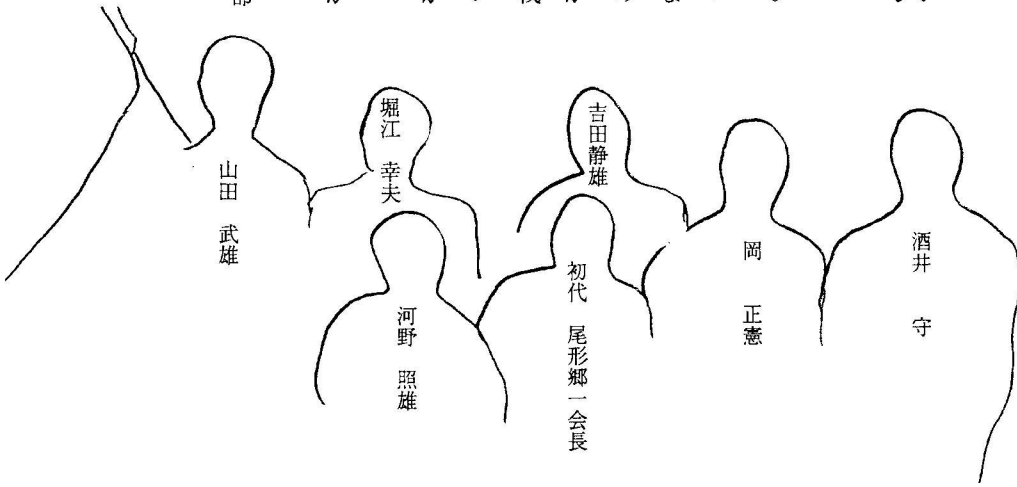
思い出の一枚

名誉会長

堀江 幸夫

戦後第二回目の県下大会。いまだ全剣連が誕生していない時代で、特に当時はまだ米軍の占領下で進駐軍の主席ハントレス中尉夫妻が来賓として出席。終日観戦終わっての感想で「ズボン姿の剣士がいたが、袴姿が美しい。ズボンは駄目だ。」と言われて周囲の者を驚かした思い出がなつかしい。

(注 鳴板支部は現在の鳴門支部と板野東支部)

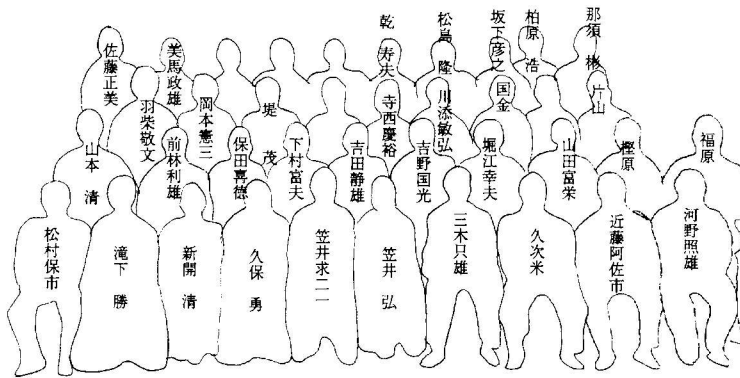


昭和27年1月3日 東邦レーヨン体育館 優勝 鳴板支部チーム (写真は鳴門市大津町貫心館道場にて)

第三回県下南北対抗大会が阿南スポーツセンターで開催された。優勝した北軍の記念写真で、紅顔の剣士も初老の県中心の剣士として活躍している。顔に見覚えがあるが、名前がなかなか出てこない。時の流れのせいか、筆者がボケたせいか。

お判りの方は知らせて下さい。

(注 南北対抗大会は第五回脇町大会で終わる)



昭和38年 5月12日 阿南スポーツセンター

全国講習会報告

西日本中央講習会に参加して

警察支部 中尾 正輝



第三十三回剣道西日本中央講習会は、平成十年四月十六日（木）から十八日（土）までの三日間、神戸市立中央体育館を会場に開催されました。

本講習会の受講者は五十一名で本県からは、私と松村和宏先生が参加させて頂きました。

指導に当たられた、役員・講師の先生方は、次のとおりです。

- | | | | |
|----|-------------|----|--------------|
| 役員 | 全日本剣道連盟会長 | 武安 | 義光 |
| 〃 | 全日本剣道連盟副会長 | 西 | 善延 |
| 〃 | 全日本剣道連盟専務理事 | 宗像 | 善俊（剣道講話） |
| 〃 | 全日本剣道連盟常任理事 | 園田 | 政治 |
| 〃 | | 興梠 | 次房 |
| 講師 | 剣道範士 | 八段 | 井上 義彦（日本剣道形） |
| 〃 | | | 小林 三留（剣道指導法） |

講師 剣道範士 八段 奥島 快男（剣道審判法）

審判法については、剣道試合・審判規則が改正され、三年が経過した。内容に精通すると共に、これが定着化していく時期に来ている。ということから主に実技指導により講習が進められました。

講義の中で特に強調されたことは、剣道試合は、剣道発展の一つの方法として試合を実施しており、指導法と関連付けなければならないということです。

中でも礼法（所作）について、指導していくと共に審判員の最大の任務である、応じ技等の有効打突の見極めをしつかりすること。例えば、自分の得意技にはすぐ手をあげることがないよう自己研鑽に努めなければならない等。我々が審判する上での心構えについて指導されました。

指導法及び日本剣道形については、実技を中心にみっちり指導して頂きました。

私が、本講習会で特に印象に残ったことは、宗像善俊専務理事による講話でした。講話は、「剣道と国際化時代・国際化時代と剣道」という表題で、内容について要約すれば、次のようでありました。

日本を支えている根幹は、「武士道」である。敗戦で否定された文化をどのように発展させていくかは、剣道家である我々に課せられている。

ヨーロッパ文化は、理性によって、合理的でなければな

らないという考え方があつた。多教決で決めていくのが、ヨーロッパの考え方であるから、有効打突を理解させることは非常に難しいところがある。

剣道を世界に広めていくためには、勝たねばならない、取り分け重要なことが試合における審判の客観性、誤審があつてはならないということである。

そのほか、各国が与えた段位の尊重、国際大会の問題点等について講話された。

三日間という短い期間ではありましたが、懇親会などにおける講師の方々とのお話の中で、中央での考え方等が分かり大変参考になりました。

気持ちを新たに剣道の修業に励むことを誓うと共に、このような講習会に参加する機会を与えて頂いた関係者の方々に感謝しながら、明石海橋大橋を渡り神戸を後にしました。



第1回女子剣道審判養成講習会日程

NTT中央研修センター

AM PM	6月20日(土)	6月21日(日)	AM PM
		自由稽古	6:30
		朝食 (AM8:00~9:00) 休息	7:30
		審判模範 角・網代・氏家 講師 試合実技: 大学生男子3組	9:30
		審判実技 試合実技 国士館大学生 15名 日本体育大学生 15名 (2コートに分かれ5人1組のリーグ戦)	10:00
13:00	—— 集 合 ——	昼 食	12:00
13:30	〈開 講 式〉	審判実技 試合実技 受講生及び大学生男子 (午前中に同じ)	13:00
13:50	審判の心構え…福本講師	〈開 講 式〉	15:00
14:20	試合・審判規則要点説明… 後藤講師	—— 解 散 ——	15:30
15:00	審判模範 後藤・長尾・脇本 講師 試合実技: 受講生の中から3組		
15:30	審判実技 〈審判・試合実技・ 進行は受講生が3人1組で 実施、組合せは別紙〉		
17:00	夕食 (PM17:00~18:00) 休息		
18:30	ビデオ 研 修 質 疑 応 答 (福本・後藤講師他)		
20:00	自由稽古 入浴 (AM10:00~ PM23:00可)		



今回、全日本剣道連盟が初めて主催した表記の講習会に、徳島県を代表して参加させていただきました。第一回が六月、第二回が十一月に別表のように実施されました。その内容を以下のようにまとめ、報告とさせていただきます。

女子部長 手塚 十三子

女子審判講習会に参加して

6/20

13・50 ↓ 審判の心構え…福本講師

「女子の審判は軽い打突を取る」という意見が多い。しかし、講師の私としては当然の事だと考える。(筋力差があるのだから) 男子からする評価は「軽い」

男子から見ると基準と女子から見ると基準は異なる。

何故「規則」が必要なのかを考えることが大切である。

打つ楽しみができて以来↓ルールが必要となった。

伝統性を重んじる——一本の基準がない(演武大会等) ↓

競技性を重んじる——(優勝試合等) ↓

剣道はこの二面性で動いている。

その条件は

①公平、公正、平等であること。



②有効打突

剣道以外の競技はゴール(シュート)をすればいかなる形であろうと「一点(本)」である。

しかし、剣道はそのようではない。↓即ち「伝統生」である。

それは ○旺盛なる気力を要す。

○打突部位を打突箇所。(刃筋を正しく)

○適正なる姿勢。

○残心。

正しく伝承するためには伝統性を忘れてはいけない。『文化』が消滅する

人間形成につなげていくことこそ大切。

(審判を行う際に)

- 1 特に子供たちに与える影響は大きい。
- 2 有効打突が瞬時に見極めできないようでは審判の資格はない。禁止事項がきちんと取れぬ人ではダメ。(観客の信用まで失う。)
- 3 「ダメな審判員」のレッテルを貼られること間違いなし。所作の問題について

自分の勝手な都合で審判をしてはならない。(例えば睡眠不足、二日酔い?)

「これ以上の審判はできません」の覚悟で行って丁度よい。

↓旗に対する責任を持つこと。

☆ 何を目的とした審判なのか。―その幅を持った態度で臨むべし。

道場の二人の生徒に対して積極的に技を出させる審判なのか?
全日本選手権の覇者を決定するのか?

つまり、判定よりもその大会(試合)の主旨を審判員がよく理解していることが重要。

試合者と審判員の心のつながりは、「正確さ」である。だからこそ毅然とした態度で臨むこと。

14・20) 試合、審判規則要点説明……後藤講師

(剣道試合、審判規則を参照のこと)

P1 第一条 「全うしつつ」――願望の意味を込めて。

「適正公平」――平成七年八月の剣窓を参照されたし。

石丸俊彦氏――「剣道と裁判」

公平↓片寄らない。事実の認定(確定と評価)

審判は好悪の感情で行うものではない。あくまでも客観的に。

審判員は試合上では正に裁判官である。(唯一の証言者なのです。)

P6 第十一条(試合の中止要請)

特に最近はこの傾向が多い。「面ダレと肩の間に竹刀が入る。胸(亀甲部)に竹刀が触れるなど。」

P6 第十二条(有効打突) 気剣体の一致を平坦に文章化したもの。

〈審判員にとって最も難度の高いものである。〉

最近試合が多く、打った所だけを重視する審判が多い。

打った(当てた)時点で旗を上げぬ審判員は、見る目のない審判員と見る観客の目も少なからず影響している模様。

P 6・7 第十一条(有効打突) 細則

1 竹刀を落とした者に、直ちに加えた打突。

3 倒れた者に、直ちに加えた打突。

上記に対して、即座に「止め」を掛ける審判員が多い。

一呼吸置くことが肝要。しかし、間延びせぬように。

P 8・9 第十五・十六・十七条(禁止行為事項)

非礼な言動について、控え席や試合終了後にしばしば見かける事があるが、非常に見苦しく、印象が悪い。(試合者、観戦者ともに人格を培うことが大切。)

P 17 第二十九条(審判方法)

反則の際の旗の表示について

二名の審判員が反則の表示をしても、後の一名が意思表示をせぬ場合は、「反則決定」を下すのではなく、「合議」をし、反則の有無の確認をすること。

P 17 第二十九条四項

鏢競り合いについて

○小手と小手が必ず接した状態とは言えないだろう。

○ついたり離れたりすることもある。

○作戦として裏に取ることもある。

三人の審判は同等の権利を有するが、常に主審がリーダーシップを取ることが大切。副審が「止め」ばかりを掛けて

いたのでは進行しない。

P 18 第三十条 審判の処置(負傷または事故)

「……。その処理に要する時間は、原則として五分以内とする。」

上記のように定めているが、一本先取している後の負傷の際に、残り時間なんとかコート上に立つ(勝敗のためだけに)という行為は剣道の理念からして如何なものか。

五分は一応の目安としてとらえるべき。

P 21 第三十八条(旗の表示)

○「斜め上方」——その意味は45度。

○「無し」と表示する場合も赤旗を前面にする。

○副審が定位置につく場合は開始線を踏んで(方向を示す)内回りに。

○選手の動きの癖を予知する。(移動を素早く行う。)

○上段の選手については、中段の立つ位置と異なり、突部がはつきりと見えるように回り込む。

○不要な「止め」を掛けない。(選手が審判に頼ることになる。)

○進行の際の目付けを的確に。(全てを視野に入れ、最後まで確認、目印の有無、打突後の所作など。)

○立った姿勢の悪い人↓審判まで下手に見える。(良い人↓信頼できる)常に毅然とした態度で臨むこと。

○有効打突の取り消し（例えば氣勢に欠ける場合）は、その打突を行った選手が元の位置に戻るまでに「合議」を宣告する。

○鏢競り合いから反則を見極める際は、まず正しい鏢競り合いをしているか否かを判断する。反則事項を犯していないか否か。

（時間の空費、相手の肩に故意に竹刀をかけるなど）
○異議の申し立てについて

団体戦同様、個人戦においても監督をつけても原則としては構わない。ただし試合によっては、監督をつけない（認めない）場合もある。

だからこそ主任は相手の展開を良く見るべき。

○判定が曖昧な時には「止め」↓「合議」（主審、副審どちらも可）（旗を上げてみたものの、不安を感じたり釈然としない場合など）

○弦が回ること有効打突の見極め。P18（審判方法）第二十七条「試合者の竹刀が弦が上になっている場合、それを主審が明確に指導する。以後その行為が続く場合は有効打突としない。」

・一度目は副審や観衆にも分かるように手元を持って指導する。
・二度目以降は有効打突としない。

その後二人の審判が有効打突として旗を上げた。

（一人の審判は以前として弦が回っているので有効打突と認めず。）

めず。）

「合議」を掛けることが可能か否か？↓否

（他の二人は弦が回っていないと判断した上での有効打突の表示であるから。）

○不正な鏢は取り換えさせる。P2（竹刀）細則第二条三

一見して直径9cm以上のものを使用している場合がある。

○試合進行中、副審が「合議」を掛けた際には主審は再び「合議」を宣告する。

9・30 1 審判模範……角・網代・氏家 講師

（試合実技：大学生男子三組による）

大学生は動きが速い。高校生はそれ以上に速い。機を見て敏に。

審判実技においてたびたび指導いただいた点

○立つ位置のまずさ↓主審を中心に二等辺三角形。試合者の背を見ぬよう。主審は試合者の常に中心に。副

審同士、互いが視野に。

○有効打突の見落とし（見極めができない）

○宣告の際の声が小さい。

○錯誤（目と身体が動きや竹刀についていけない）

○試合規則で規制するのではなく、ふだんの指導の中で改善でき

第2回 女子剣道審判養成講習会日程

J R 西日本研修センター

AM PM	11月28日(土)	1129日(日)	AM PM
		朝稽古	6:30
			7:30
		朝食	
			9:30
		審判実技 全講師	10:30
			12:00
		昼食	
13:00	—— 集 合 ——		13:00
13:50	〈開 講 式〉 試合審判規則	審判実技 全講師	14:00
14:00	要点説明 審判実技 角講師 (全講師)	閉講式(解散)	15:00
16:30	夕食(休憩)		15:30
18:30	審判実技 全講師		
20:00			

るところが多々ある。

◎誰が見ても一本(有効)と分かるような技しか表示できない。

そのことは剣道を非常に単調なものにしてしまう。

(攻め込んだ状態からの技、瞬時の応じ返しなどの確に判

断する力こそ大切。)

11 / 27

13・50) 審判員の心構え……長尾講師

この講習会の目的は女性の審判技術の向上にある。正しい剣道の普及につながるように。そのために高度な技術を研修することを願う。

剣道をよくするため、正しい指導、正しい審判を心がけたい。

(毅然とした態度で)

一、審判の目的(有効打突の見極め、剣道の理念に基づく試合のスムーズな運営)

二、審判員としての条件

- ① 公平であること
 - ② 試合審判規則に精通していること
 - ③ 攻め、受けなど剣理を熟知していること
 - ④ 審判技術に熟達していること(段位には無関係、数をかけて審判すること)
 - ⑤ 健康体であること
- 三、審判員としての任務

① 有効打突、及び反則を適正に判断すること(第十二条を瞬時に判断すべし)

明らかな有効打突、また合議を要するものがある

有効打突と認めないもの(相打ち、充実した氣勢で相手の打突を制しているもの細則十二条)

② 試合の運営をうまく行うこと

③ 試合者が納得する判定を行うこと（観客にも理解が求められるように）

④ 裁決は果敢に行うこと

14・20 試合審判規則要点説明——角講師

第一回の講習内容と事ならないようにとの配慮から前回の後藤講師の説明に添って展開される「審判は試合規則を熟知していることがまず第一です。そしてあとは経験です」

P 1 第一条 「全うしつつ」——自らが求めて知り尽くして審判に当たること（法の精神）

P 6 第十一条 「試合の中止要請」——中止の理由を質すこと。これは近年特に多い傾向である。（面ダレの下に竹刀が入る、袖口に軽く竹刀が引っ掛かる等）選手に事故回避能力があるか否かを審判は判断すべきである。

P 6 第十二条 「有効打突」——今の打突を何故有効打突にしないのか、という問いに対して「軽い」「不充分」という返事がしばしば聞かれる。しかしそのような文言は規則、細則にはない。

有効打突にはパーフェクトなもの、そうでないものの二つがある。

試合者の技量も勘案する必要があるろう。

しかし審判は「一本であるか、ないか」である。瞬時の動

作を言葉で表現することは難しい。特に氣勢などは難しいものである。「打つ」とは中心部に力が加わることである。（胴打ちなどはその典型）打つ前、打ったとき、打ったあとの見極めが大事である。

P 8 第十五、十六、十七条 「禁止行為」

P 17 第二十九条一 「審判方法」——自己の判断を直ちに表示しなければならぬ。しかし以外と表示しない場合が多い。審判が試合者の二人しか目で追っていないからであろう。

P 18 第二十九条

4 「分かれ」——氣勢が途切れないように分かれさせる。
4 「こうちやく」——動きが中止することだけでなく、心が中止してどうにもならない状態である。鏢と鏢がずれたからといって即、「止め」「合議」ではない。裏攻めもあるう。

P 13 第十二条 「審判員」

② 主審は当該試合運営の全般に関する権限を有し、審判旗（以下旗とする）を持って有効打突および反則などの表示と宣告を行う。

③ 副審は旗を持って有効打突及び反則などの表示を行い、運営上主審を補佐する。なお、緊急のときは試合中止の表示を宣告することができる。よって鏢競り合いにおいて副審が「止め」をかけることはできない。裏をかえせばそれだけ主審の責任が重いということだ。

審判員は「止め」をかけるタイミングを適切に。緊急時は即座に。しかし一方が攻めの状態で追い込んでいる場合の「止め」は不適切。

有効打突の判定に際して

他の審判員に追隨して旗を上げることのないように。

「棄権」(この判定からおります)は本人の資質が問われるものです。なるべくしないこと。

しかしながらどうしても判断できないときは、勇気をもつて棄権をすべきです。

15・30 審判実技 第二コート 塚本・角・氏家講師

全体的な流れの中で ▲受講生による二分三本勝負▼

○ 「小手の打突部はよかったが氣勢が今少し不足しているので取りませんでした」正解

○ (有効の判定) —— 「縁の切り方もよろしい、有効な技です」

○ 「打った瞬間は面部に当たっているが残心を取り得ない状態でした」

○ 「適正でない姿勢の小手打ち」

○ 「前回と同じレベルの面でしたが、今回は追い込んでいたの面で有効としました」

○ (審判が位置につくとき) —— 「副審二人が同時に同じ所作で定位置につくことが望ましい」

○ (審判が位置につくとき) —— 「白線より約1m内側」(概して中に寄りすぎ傾向)

○ 「今の技は絶対一本にしてやるという気迫に欠けるため、有効打突として認めにくかったのだ」

○ (不当な鏝競り合い) —— 「副審が『止め』をかける権限はない」

○ (試合者が作為的に不当な鏝競り合いを演じ、試合の流れが不自然になった)

「試合者は余計な策を練る必要はなし。有効打突を出すことに専念すべきです」

右記のような内容で実技を繰り返す

18・30 ビデオ研修・質疑応答 進行——角講師

奥園先生より本日の審判実技の講評をいただく

(さすが！人生剣道の師である。引き立てもうまい、お世辞とわかりつつ。)

○ 控え席での所作の悪さ(足を開く、腕を組む、隣りと話をする等)

○ 審判旗の扱い方をもっと丁寧

○ 試合開始の宣告の仕方(試合者のつもりで、もっと緊張感をもつて)

○ 審判の立ち姿(足を開いたま、ズボンやスカートでは更に要

注意)

○ 審判旗の持ち方(握りの中に巻き込むように、余して握らぬこと)

○ 審判旗を体側へ自然に添わすこと(女性は前傾が多い)

○ 有効打突の判定(全体的にはよいが当たった瞬間だけを見て上げる人がいる。最後まで確認)

○ 三人の審判員の呼吸(三人が同じように上がると試合者は気持ちがいいもの。試合後の反省も必要なことである。速やかに)

○ 審判をする目がきれいでした。本日の出来栄は六〇〜七〇点。明日はもつと厳しいですよ。

〈質問一〉

問 鏢競り合いにおいて、副審は絶対に「止め」をかけることはできないのですか

答 できる、できないとは言えない。規則、細則に則り守っていくべきです。

ルールでは主審の責任をうたっている。

この問題は地方においては切実な問題です。理想論は角先生のおっしゃる通りです。依然として守れない人が多いのを目にします。

(作道講師)

審判会議で徹底研修を、また試合後の反省も適切にすべきです。

(長尾講師)

〈質問二〉

問 竹刀操作不能の状態について——一瞬離れたとしてもすぐに握れるような(てこの原理)状態であっても反則ですか。

答 反則です。

〈質問三〉

問 時計係が時間をオーバーしてしまった。試合進行中に有効打突が決まった場合それは有効となりますか。

答 時間の長短にかかわらず、審判員、コート主任が気付いていないのだから有効となります。宣告を受けて礼を終えた後は異議の申し立てはできません。

〈質問四〉

問 竹刀の基準について

高校生女子四一〇g以上、大学生・一般四二〇g以上(規則、細則P25)と規定されているが、全日本女子選手権には高校生も大学生・一般も出場している。

同一の大会に二つの基準というのは釈然としないものがあります。

答 その通りです。補則、付則一に照らし合わせて検討すべきでしょう。

11/28

9・30 審判実技第二コート

塚本・角・氏家講師

▲大学生による二分三本勝負▼

全体的な流れの中で

- 定位置より後退する見方は気分も後退します
- 現在の技に残心が有ったか否か（身構え、気構え）
- 打突と残心の評価は別問題
- 袖口に竹刀が入った。直ちに主審の「止め」。また副審が同様の状態で黙って手を挙げた。↓選手が甘えるので即座の「止め」は掛けないように（自己回避）

二〇班（手塚・樋口・黒田）にご指導をいただく

- ☆ 落ち着いた声の宣告はよろしい。ただし試合であるため「引き分け」の宣告も力強く大きな声ではつきりと行うように。

☆ 旗が体側になっている。

- ☆ 定位置（二等辺三角形）↓選手の動きにつれて移動しつても↓いつでも二等辺三角形の形に戻れるように動きを頭に入れて。

☆ 動きが遅れて選手の後ろ姿を追っている。

- 上段の審判は中段の場合と立つ位置が異なる。中段の突きがよく見える位置に立つ。（従って少し中寄り）
- 反則の表示は指を立てて選手にも観客にもよく分かるように。
- 前の技にこだわっていると次の判定に迷いが生じる。切り捨てて判断すること。

○ 引き面の際、大学生などに最近多い「メン、メーン」は途切

れているので氣勢不充分とみられる。見方を変えれば打突後の誇示とも言える。指導上の問題でもある。

- 中止要請に対しては即座に「止め」を掛けること。そうしないと相手が（有効）打突を加えてしまった場合、一本を取らざるを得ない。

○ 打ち合って直後、ぶつかって直後の技を見逃さないこと。

- 後付けは癖になり、また危険でもあるので適正な判断を要する。

午前の全体的な講評をいただく。

所作について

○ 静止状態の際、足を開いて立たないこと

- 態度良し——しかし体側に腕がついてない——自信がないため、速く打突に反応したいためか——速く反応しなくてよい——下腹に力を入れて自然体で。

○ 反則を指で示す際に間違いがみられた（赤は右手で、白は左手で行うこと）

勝敗の結果について

- どちらがポイントを取っているのか、平常心で頭の中に入れておくこと。

○ 残心はなかったが打ちがよかったので有効打突として旗を上げた——打ちと残心は全く別問題です——残心がなければ合

議の結果取り消しを。

〈以上奥園講師〉

○ 上段の位置取りを的確に——動きが速くて見えないというのは義務の怠り——選手の動きをよく読んで動くこと。

○ 何といつても有効打突の見極めが問題である——「選手が一生懸命やっているのですから私も一生懸命見ますよ」の気持ちが必要である。所作のことなど考えているから緊張するのです——今後の課題は身を以て稽古をすることです。審判だけしていたのでは上達しません。

〈以上塚本講師〉

○ 起こり頭——技の尽きたところ——息を抜かないで出た技の見極めを（一打ちした後、選手は息を抜く）

○ しかける技と応じる技について——眼られたものしか見ていないのではないか。瞬時のすり上げ技などよく見るべきです——多彩な応じ技を引き出すように見るのが大切です——何よりも打たれた本人が一番よく分かっているはずで

○ 選手と審判の一体化を図ること。

〈以上角講師〉

○ 審判は警察官です。時には牽制球も要ります。それでも犯したものはペナルティを加えます。審判は運営を司る重要な役目を担っています。歯切れのよい試合の進行を心がけるべきです。

○ 立ち姿について——足は交差しながらも目と体の軸はしっかりとさせる

○ 移動について——ペンギン歩きの急ぎすぎはダメです。行き着いたところに静止の瞬間を保ちます。落ち着きのある動きを。

○ 剣道は美意識が必要です。人が審判される姿を見て「きれいだなあ、私もあの方のようにと学ぶ姿勢を持つべきです」

〈以上作道講師〉

二〇班（手塚・樋口・黒田）にご指導をいただく

○ 起こり頭 技の尽きたところの見逃しあり。

○ 三試合とも引き分けに終わったがいずれも勝負のついてよい、試合であった。

13・30 審判実技（第二コート塚本・角・氏家講師）

〈大学生による三分、一本勝負〉

○ 鏝競り合いの時に「タイム」を要請する。或は攻防の途中等

○ いいかげんに「タイム」を掛ける時が最近の傾向として多い。

○ 宣告について「勝負……あり」ではなくて「勝負あり」と宣告する

○ いかなる状態であろうとも場外に出た場合は即座に「止め」をかける。

十二時 閉講式

奥園先生により全体の講評が行われた。

持田盛二先生曰く

『審判は、その人の今現在の力でしかできない』

（自己の審判 稽古の力量）

フィンランド共和国 剣道指導の旅

警察支部 近藤 亘

平成十年二月四日から四月二十六日までの約三か月間、全日本剣道連盟の派遣でフィンランド共和国へ剣道指導に行つてまいりました。

▲フィンランドという国▼

○位置

スカンジナビア半島のつけ根に位置し、南北に細長く広がる国。東はロシア、北はノルウェー、西はスウェーデンと国境を接し、フィンランド湾を挟んだ南にはエストニアがあります。

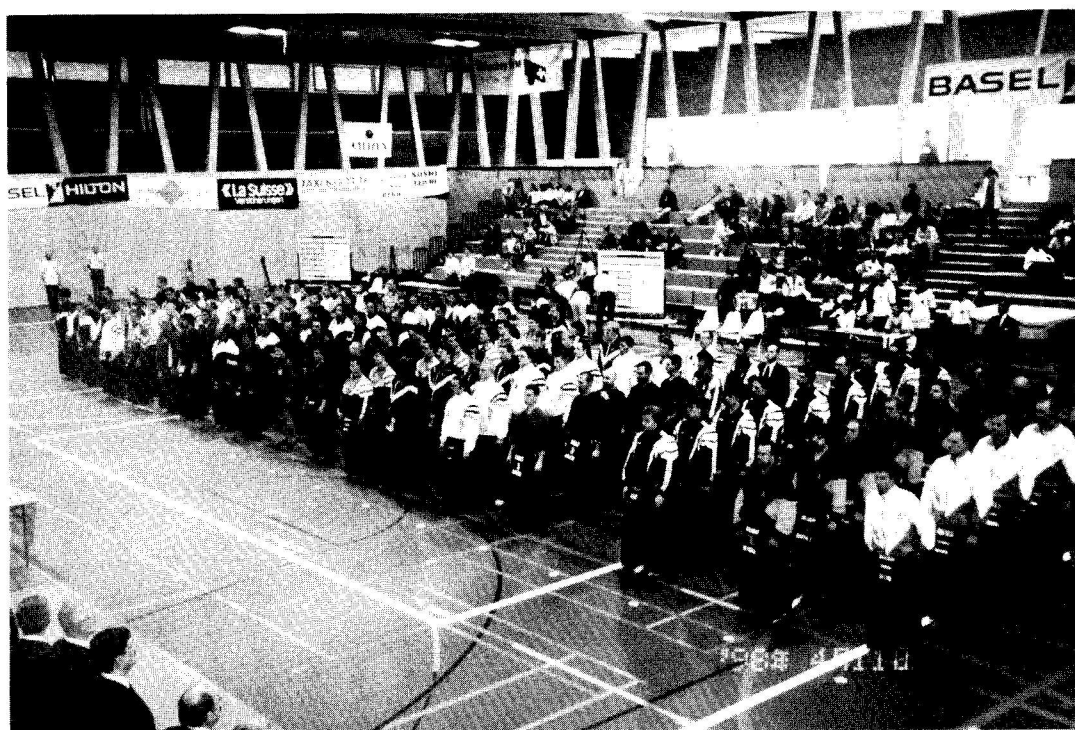
○国土

国の面積は約三十四万平方キロメートルで、日本の九州を除いた広さに相当します。

人口は約五百万人で、国土の三分の一は北極圏にあるため、人口は南部に集中しています。首都は最南部のヘルシンキにあり、人口は約五十万人です。

○気候

北極圏に近い高緯度の国であるため冬は寒く、一、二月の平均気温はマイナス六度、最低気温はマイナス三十度くらいのもきもあるそうです。私の滞在中は例年より暖かいということ



ヨーロッパ選手権大会

したが、それでも地方へ巡回指導に行ったときマイナス二十三日を経験しました。

○言葉

フィンランド語とスウェーデン語。ほとんどすべての道路名、駅名は二か国語で記されています。若い人の多くは英語を話します。



ヘルシンキ市内

ます。フィンランドで一番困ったのは言葉です。剣道用語は日本語ですし、地元女性剣士の通訳でどうにか通じましたが日常生活は大変でした。散髪をするときなどは、通訳にわざわざ付いてきてもらってやつとできると行った状況で、言葉ができないということはない便ということを



昇級審査

つくづく感じました。

○通貨

マルッカと呼ばれるフィンランド独自の通貨で、一マルッカは日本円に換算すると約二十五円です。ただ、物価が高いため買物には適していません。それは、徹底した社会保障制度にともなう税金や消費税（二十二%）の関係のためです。

○歴史

古来からこの地にフィン人が他の少数民族とともに生活していましたが、スウェーデンとロシアの領土争いに巻き込まれた結果、十三世紀から約六百年スウェーデンの統治下となり、十八世紀からは約百年ロシア領になっていました。二十世紀に入り、ロシア革命に乗じて一九一七年独立を宣言し、



ヘルシンキ市（合同稽古）

現在に至っています。

○対日感情

フィンランド国民の対日感情は、一般に極めて友好といえます。なぜかという点日露戦争での日本の勝利がフィンランドの独立に間接に寄与したと考えているからです。

○治安

この国では物を盗まれる心配はまずないといわれています。私も三か月間生活してみて、国民のモラルの高さ、治安の良さを実感しました。

○サウナ

サウナは国際語になったフィンランド語のひとつです。フィンランド人は家を設計する場合にまず、サウナの設計から取り掛かるといわれるくらい、サウナとフィンランドとは切っても切れない関係にあります。

フィンランドのサウナは日本のサウナと違い、焼けた石に水をかけて水蒸気を発生させるため、喉にやさしく、滞在中に二回ほど風邪をひきかけましたが、サウナのおかげで治っていました。

△フィンランド剣道▽

○歴史

フィンランドにおける剣道の始まりは、十年前の一九八八年（昭和六十三年）時の駐フィンランド日本大使館の駐在武官で



タンペレ市（樹氷）



コトカ市（剣道指導）

あつた上松大八郎という自衛官が、首都であるヘルシンキ市において数人による剣道クラブを発足させたことによります。

現在では、国内十三市において十四の剣道クラブが誕生し、剣道連盟も組織され、会員もおよそ二百人余りになっています。日本からの指導者も毎年二〜三か月単位で一人づつ派遣され、指導に努めています。

その結果、過去これまでの世界大会など国際大会の試合状況は、発足した翌年の一八八九年にはヨーロッパ大会に初出場、五年後の一九九三年にはヨーロッパ大会をフィンランドで開催し、女子チームが三位に入賞したのをきっかけに、その後の大会において、ヨーロッパ大会女子優勝、男子三位、世界大会男子ベストエイトに輝く等、着実に実力をつけてきています。

○組織

フィンランドの組織形態は、全体的に日本と変わりはありません。トップに剣道連盟があり、その下に各地区に一つづつ（ヘルシンキは二つ）剣道クラブがあり運営は剣道連盟と各地区剣道クラブの長とで協議して全体的な運営を行っています。

連盟会長は、ヘルシンキ大学の学生（三十四歳）で百九十七センチ近い大男ですが、頭が良く気のやさしい会長の下、スムーズな運営が行われているようです。

各組織のことに关してもいろいろと思ったのは、各地区の剣道クラブの名称に日本語を使っていることです。例えばヘルシンキの剣道クラブは剣道用語である「気・剣・体一致」クラブ、

タンペレ市のクラブは「不動構え」クラブ、そしてポリ市のクラブは「大熊剣会（だいくまけんかい）」といます。この意味は、ポリという名はフィンランド語で熊という意味であることと、発足当時の剣道仲間が熊のような大男ばかりであったからだそうです。

今年一月、コトカ市に音楽好きの仲間十人ほどの剣道クラブが誕生しました。そこへ指導にいったとき、私に名前を考えてほしいといわれまして、「求道剣会（ぐどうけんかい）」と名付け、大変喜ばれました。

○活動内容

私のフィンランドにおける活動内容は、国内における少年および初心者、一般に対する指導、剣道会員募集のための剣道紹介行事（デモンストレーション）、昇級審査、国内大会の審判、ヨーロッパ大会のフィンランド臨時コーチなどがその主なものでした。また、滞在期間中はヘルシンキを拠点として活動し、基本的には月曜から金曜まではヘルシンキにおいて指導、週末は国内巡回指導というローテーションでした。国内の巡回指導は、フィンランド八都市に向き指導を行いました。

○各稽古対象から感じたこと

◇少年剣道

少年剣道人口は、全国で二十五人ぐらいです。その内ヘルシンキの気・剣・体一致少年剣道クラブが十四人で大半を占めています。少年だけの稽古日を週二回設けているのはここ

だけで、他のクラブにおいてはその数が少ないため一般と一緒に少数の少年が稽古している状況でした。少年剣道の年齢構成は、五歳から十四歳までで一〜二名を除きその技術的レベルは高いとはいえません。

◇初心者の剣道

初心者の剣道は、ビギナーコースといって最初の三か月の間、防具はつけずに素振りや足さばき等基本的なものを学びます。ヘルシンキの初心者の稽古日は週二回あり、指導者三人が交替で指導しています。初心者指導の内容も、今までに多くの指導者から彼ら自身が教わったことを取り入れ、変化をもたせて指導しています。

こうして三か月が過ぎると、級審査を受け、級をもらおうとビギナーコースを終了し、防具をつけて一般の稽古会に仲間入りできます。

◇一般の剣道

フィンランドにおける現在の最高段位は四段で二人います。ヘルシンキの剣道クラブではこの二人が指導して常時十五人くらいが活気のある稽古をしています。また日本剣道形の稽古も週一回設けて熱心に形の稽古も行っています。

△ヨーロッパ選手権大会▽

四月九日から四月十二日迄の四日間、スイスのバーゼルにおいて第十五回ヨーロッパ選手権大会が二十か国、約二百人の選手が参加して盛大に開催されました。私もフィンランドコーチ



ヨーロッパ選手権大会でのフィンランド選手団とともに



1998年ヨーロッパ選手権大会（女子団体2位）

として選手十人とともに参加しました。

スイスは春真つ盛りで緑も多く、今年は桜も見えないだろうと諦めていたのですがスイスで見ることができました。

試合結果は、女子団体が地元スイスに惜しくも破れ準優勝。

男子団体はベストエイト、女子個人が三位、男子個人がベストエイトでした。自分の力を出し切った好試合だったと思います。

△その他感じたこと▽

○フィンランド剣道は歴史は浅いですが、

全体的に基本を重視した正しい剣道を行っており、将来が楽

しみな国です。

○指導者不足

・初心者指導についてはある程度確立されていますが、指導者自身の実力アップをはかるのが今後の課題です。

・滞在中に真剣にいろいろな質問を受けました。彼らの剣道に対する真摯な態度に感動すると共に、彼らには指導者が必要なんだということを強く感じました。

○剣道防具等の不足

・ビギナーコースを終了し防具をつけるときになって、防具が高価なためそれ以上続けない者も多いようです。少年についても同じことがいえます。

△おわりに▽

言葉や習慣の違う異国の地で、剣道を通じて友好を深めることができました。また、剣道防具の不足のなか、防具を大切にしながら剣道に真摯に取り組んでいる姿をみて頼もしく感じると共に、私たち日本人が忘れかけている何かを発見したように思いました。

フィンランドの三か月間は、私にとって本当に貴重な体験となりました。こういう機会を与えていただいた関係者の方々に
お礼申し上げ報告いたします。



第三十六回西日本

中堅指導者講習会に参加して

阿南支部 北條 憲治

六月十日、高速バスにて難波まで行き、近鉄奈良線に乗り替えて奈良へ。鴻ノ池中央道場に午後二時半の集合である。一抹の不安と、やる気満々ところが混じり合い、三十分前に到着すると、すでに大半が集まっていた。西日本各府県を代表する、教士七段二十九名である。

全剣連の講師先生十一名、柳生氏代々の菩提所である芳徳善寺橋本紹尚和尚もご列席され、柳生正木坂道場において厳かに、重みを感じる開講式が行われ、開講式が終わると、すぐに基本稽古である。切り返し、打ち込み、とレベルの高さを痛感し、先生の一言一行が心に響き、道場内の雰囲気にも心身共陶酔してゆく。

六時起床、雑巾がけから始まる二日目。座禅、稽古、一日中剣道形、また五時まで稽古と続く。雑巾がけ入浴の後、食事、いかにもビールが旨い。懇親を深めながらも剣道談義である。そこへ先生が肴をさげて来、盃を交えながら人間性豊かな話術に、のめり込んでいく、これも又、剣道談義である。

朝夕の稽古と日替りに剣道形、指導法、審判法実技、スポーツ医学と日程は消化されていく。一日を振り返り印象に残った事項を、ノートに記録する。西川源内先生の講話の中に「持田先生の



第36回西日本中堅剣士講習会 平成10年6月10日～14日 於 柳生正木坂道場

修業」と題して「数をかける」「理合いの稽古」「事理一致の稽古」「攻勢（気攻め）」とある。又持田先生の座右の銘として「先生ぶるな、未だ足りない人」「高段者として常に慢心せず、謙虚であるべし」と戒め「剣と心」について今後一層の努力をするよう求められ、身の引き締まる思いがした。

木刀の柄が汗で滑る、袴で手の汗を拭う、真剣勝負の中より、より選った形なので、申し合わせの形ではあるが真剣勝負のつもりで、真剣に稽古をする様に、特に鎬の使い方について、日頃「かたち」だけにとらわれ易い所を指導され、解りやすく説明と指導をして頂いた。

山根幸恵先生の「求道と弘道」について、の講話も印象に残った。武専卒業時、恩師より「四年間で基本ができたのだから今後はそれを基として稽古に励みなさい」常に基本に帰り正しく道を求める心が大切である。先生の一言一言がごくあたりまえの事ながら心に突きささる思いがする。剣道を正しく伝承し、心を養い人間を育てる指導者になる様、自ら日々鍛練する事が求められ、中堅指導者として重責をひしひしと感じた。「規矩作法、守りつとして破るとも離るる時も基を忘るるな」利休

審判法実技、指導法においても、一本の見落としは絶対あってはいけない、と厳しいご指導。「二足一刀の間合から一拍子で、機を見て気剣体の一致で打突する、そこに有効打突がある。」自称、私の有満先生も真剣である。受講生も、年齢職業は違っているが、同じ目的意識を持って集まって来ているだけにこちらも真

剣である。

習の最終日、皆、敗残兵のごとく足を引きずっている。しかし、五日間を全力を出し切り、集中出来た満足感はもちろん「求道と弘道」の使命感を得た表情は、五日間寝食を共に過ごした剣友としてよく解る。剣道とは何か、今後どのように練習を積み重ねて行けばよいのか、おぼろげながら課題を得た思いである。

午前の日程を終え、閉講式。一人で立って列席できない受講生が三名出て、隣りの人が肩を貸す情景もあった。再会を約束しながら帰り支度をするが、来る時防具袋に入っていた同じ量が納まらない。道衣四枚が汗を含んで重い。

五日間を通してお世話になった、諸先生、芳徳善寺の橋本和尚、又真の剣友になった、受講生にお礼の挨拶をし、お互いの精進を誓い合いながら柳生の里、正木坂道場を後にした。



徳島の剣道史

阿波における神道無念流の系譜

剣道史担当理事 坂本裕二



神道無念流の流祖は、福井兵右衛門嘉平であるといわれる。嘉平は、下野国都賀郡籐華村（現栃木県下都賀郡壬生町藤井）の郷士で、元禄十五年、（一七〇二）に生まれ、幼名を川上善太といひ、「神陰一円流」の野中権内玄慶に剣を学び、享保二十年（一七三五）に江戸に出て、四谷で道場を開き、流名を無念流といたつた。その後、信州戸隠山飯綱権現にこもつて開悟し、五加五形の形を編みだした。このころから流名を神道無念流と称するようになった。

嘉平は、この道場で神道無念流の二代目を継ぐ戸賀崎熊太郎暉芳（剣号「知道軒」）を育てた。熊太郎は、師の教えを守り、専ら神道無念流の基礎を強固にするため精進した。嘉平は晩年、熊太郎の郷里南埼玉郡清久で熊太郎と同居し、悠々たる余生を送り八十三歳で没した。

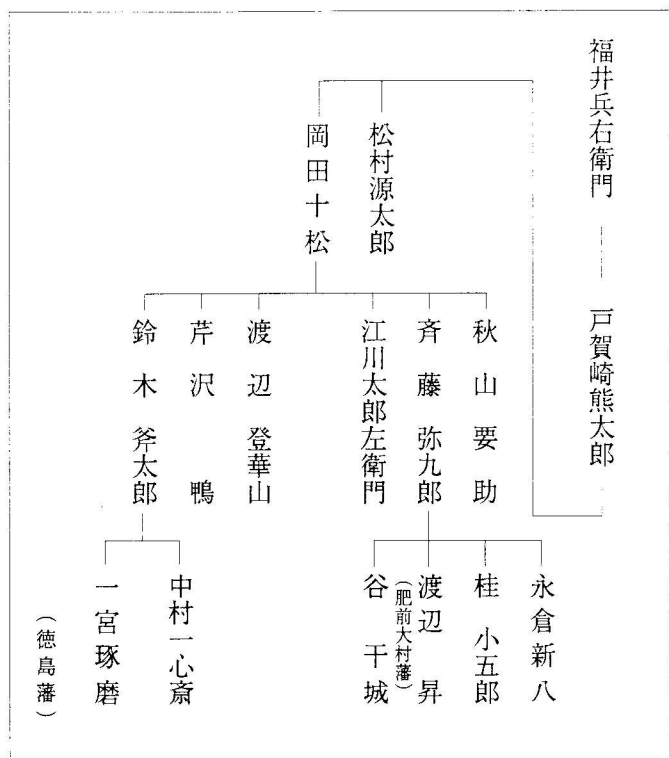
二代目の戸賀崎熊太郎暉芳は、延享五年（一七四四）、武州南埼玉郡清久村（現埼玉県久喜市清久町）の豪農の家に生まれた。十六歳の時、江戸に出て福井兵衛門嘉平に入門して二十一歳の時免許皆伝を受け、神道無念流の後継者となる。その後三十五歳、安永七年（一七七八）、江戸の麴町二番町に道場を開き、ここで多くの門弟を育てた。五十二歳の時、道場を高弟岡田十松吉利に譲つて郷里清久に帰り、近在の弟子達を指導して余生を送り、文化六年（一八〇九）、六十六歳で没した。

三代目岡田十松吉利は剣号を撃剣館（道場名でない）という。武州埼玉郡砂山村（現羽生市砂山）の農家の生まれで、十五歳の時に戸賀崎熊太郎の門人の松村源六郎に剣術を習い、戸賀崎の門に入り、十八歳で目録、二十三歳で免許皆伝となつた。戸賀崎の道場を継いだ岡田は天明（一七八八）の末頃、神田猿楽町に道場を開いた。この道場では、剣の腕を磨くとともに、自戒、自律の精神と文を重んじる教養崇拜の思想も重視した。したがつて名声高く、全国から多くの門人が集まつた。ここで育つた有名な門弟は秋山要助、齊藤弥九郎、江川太郎左衛門（伊豆の代官）、渡辺華山（三州田原藩家老）、藤田東湖（水戸藩）、芹沢 鴨（新撰組）、永倉新八（新撰組）、鈴木斧太郎（尾張藩士）等である。

岡田の門人の齊藤弥九郎は二十九歳で、九段坂上に「練兵館」という道場を開いた。この道場からは桂小五郎、渡辺 昇、谷干城、金子健四郎等が出て江戸の三大道場の一つに数えられた。同じくこの門人の鈴木斧太郎重明はのち大学と称した。鈴木は江戸

住の尾張藩士で体力も勝れ、剣理に長けたこともあり、神道無念流の組太刀、五加・非打の形に改良を加え別に鈴木派という一派を立て門人を教授したが、天保二年（一八三一）六月、四十八歳で没した。鈴木斧太郎の門人には双璧といわれた中村一心齋や一宮琢磨（阿波国出身）がいたが、のち両者は、それぞれ郷里において道場を開くことになる。以上が神道無念流の江戸における流れであるが、略系譜は次のようになる。

江戸における神道無念流の略系譜



それでは、阿波国においての神道無念流の系譜はどうか。まず、寛政元年（一七八九）紀の「書き上げ」（徳島藩から幕府に提出した報告書）、「武芸指南仕面々並芸方名目伝来書」には五十余名の各流派の指南者が記されているが、この時期には同流派の記述は見あたらない。したがって、この時代、阿波には神道無念流を学ぶものはいなかったとも推測できる。

一宮琢磨が登場するのは、その師鈴木斧太郎の生没年、修業期間等から考察すると、文化十年頃である。琢磨の出自は詳細を欠くが、一応、一宮成祐の後裔ということになっている。一宮成祐は、名東郡（現徳島市一宮）の一宮城主であったが、天正十年（一五八二）、長宗我部元親に侵攻されて滅びる。その一族は名西郡下浦に土着した。これが琢磨の先祖である。

琢磨は、郷士の身分で経済的にも恵まれていたことから江戸に出て、神道無念流の鈴木斧太郎の道場に入門した。当時道場は齊藤弥九郎の「錬兵館」と肩を並べるほどで、道場には数千人の門下生がいた。琢磨は、ここで修行に励み、めきめきと頭角を現し、同門の中村一心齋とは一、二を競う腕前となり、他の門人に先んじて師から免許皆伝を与えられた。帰郷してからは、名西郡下浦村の道場で多くの門弟の指導に当たった。

琢磨の門人の様子は資料が希薄なため詳しいことは分らないが、脇町にあった関口流の道場「神全塾」の「武術御執行被成候御方御尋被降候御姓名帳」によって、わずかではあるが知ることができさる。

神道無念流一宮琢磨門人 三村住四郎（在地の記載無し）

天保二年四月二三日

東都小川町住 真田俊之輔正之

天保二年十月十三日

これは、琢磨の門人三村住四郎や江戸の真田俊之輔が脇町の神全塾で稽古したときの記録で、門人に三村住四郎・真田俊之輔なる人物がいたことがわかる。また、岡山の津島兵左衛門の稽古帳には次のように記されている。

一宮琢磨門人遠州浜松家中 田嶋晋天

讃州白鳥 岡政三助 筒井房之丈

阿州名西郡下浦住 美馬大蔵

文政十三年四月八日

神道無念流一宮琢磨門人 讃州志度住士 中島嘉平

文政十三年八月十四日

神道無念流一宮琢磨門人 辻安之進 美馬大蔵

原見梅太郎 富田儀三郎

原見政吉 富田又蔵

谷本縁之助 中野住三郎

近藤加右衛門 近藤伊右衛門

三村虎五郎 平島傳吉

平島政吉 石井元吉

石井六次郎 岡田仙太

角野関弥

右文政十三年二月十四・十五日稽古

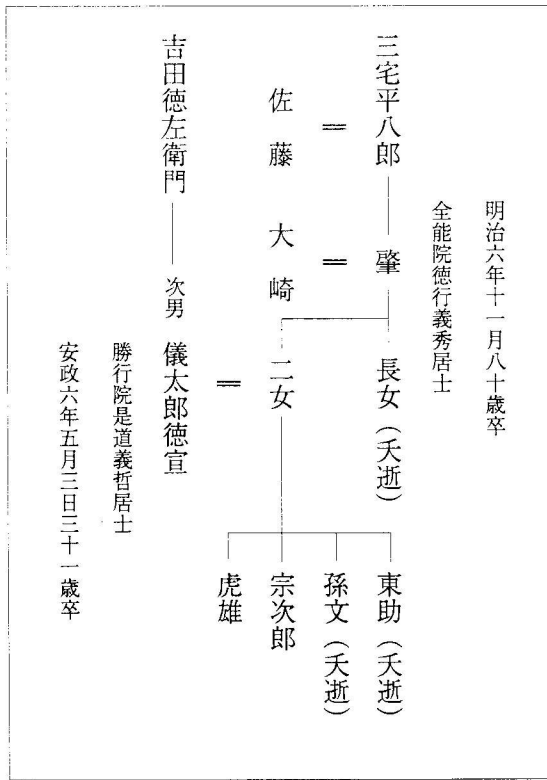
門人の大半は地元下浦村付近の弟子と思われるが、津島兵左衛門の『諸国剣術修行帳』からは、江戸、浜松、讃州など各地に弟子がいたことがわかり、これ以外の資料からも琢磨をたよった弟子達のことかわかる。板倉越中守家中で当流を納めた神田刀右衛門の門人小橋小兵衛以下八名。同じく同流派の榊原半左右衛門、三州吉良の坂部三弥、同流で江戸の下谷住和田良作などである。これらは、天保二年（一八三一）の八月二十四日に阿波で当流が主催した剣術試合に参加した者達である。

これらの資料からは、詳細は欠くものの、特に県下には相当数の門下生がいたことは想像に難くないが、どうも以後の流れがはっきりとしない。後継者に逸材が出なかつたものなのか。県下ではこの時期、別流派の鉄柱無端の弟子佐藤忠左衛門の貫心流が隆盛を極める時期であり、この流派の勢いに押されたものなのか、また、浦庄村の近久鹿之丞の神影流（新陰流の字に阿波ではこの字を用いる）の影響なのか、神道無念流の弟子達の活躍は全く見られない。対照的に貫心流の佐藤忠左衛門は、神道無念流の阿波における根柢地下浦村にほど近い牛島村（麻植郡鴨島町牛島）に道場を開き、以後、山口作十郎・山根大蔵・山根武五郎・山根正雄・近江佐久郎へと続く多くの逸材を輩出し、大正初期まで続く貫心流の一大道統を築いている。このような経緯をみると、江戸よりもたらされた一宮琢磨の神道無念流は、貫心流・神影流・想心流などの他流におされ、以後の継承者にも恵まれずいつしか歴史の

中に埋没していったとみるのがもつとも妥当である。

さて、冒頭で勢い一宮琢磨について述べたが、阿波における神道無念流の系統は大きく分けて江戸系と大阪系の二つにわかれる。すなわち江戸の一宮琢磨の系統と大坂の三浦儀太郎の系統である。大坂の三浦儀太郎については、今のところ三宅繁左衛門肇の師匠、大坂の浪華で道場を開いていた程度の資料しか得られず詳細はわかっていない。以下三浦儀太郎に始まる三宅繁左衛門肇の系統について述べるが、以後の経緯をわかりやすくするため、はじめに二つの略系譜を掲げておく。

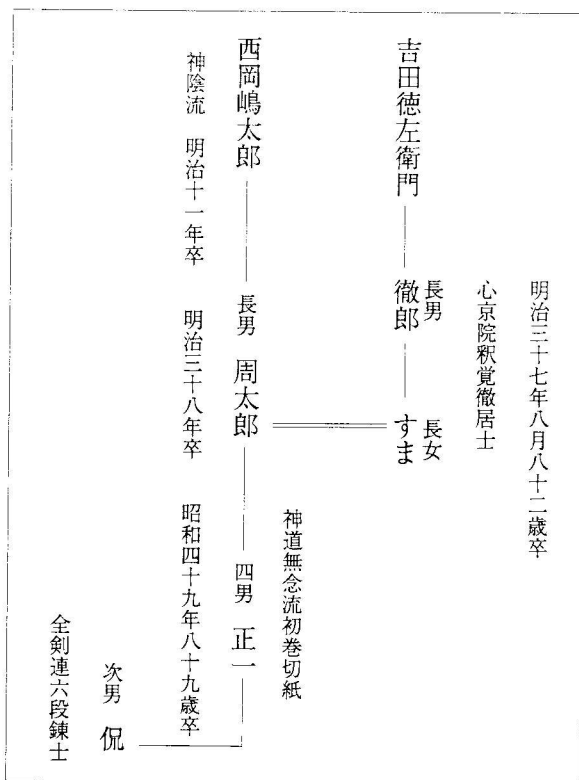
三宅繁左衛門肇の略系譜



三宅繁左衛門肇は号を鼓山といい、徳島藩筆頭家老稲田家の家臣に列した人物である。幼少より家伝の関口流剣術を習い、成人して諸国を巡遊し、諸流を研修、後、浪華に赴き神道無念流の三浦儀太郎の門を叩き筆頭門弟となる。さらに江戸の宗家鈴木斧八郎重明の門に入り免許皆伝を得る。江戸から帰国後、藩主蜂須賀侯より、その技量を見込まれ、藩の剣術指南役を命ぜられ、加えて阿波と淡路両国の神道無念流の師家となる。そして、藩内における著名な剣客を育てること數十人。藩主はこれを賞し、文久三年(一八六三)、麻上下と金子を下賜している。また、国家老稲田氏も彼を「知行取り」に抜擢している。

肇には二女があったが、長女が夭折したため、次女に稲田家臣

吉田徹郎の略系譜



図版二

の吉田徳左衛門の二男儀太郎を養子に迎えて、家督を継がすこととした。儀太郎は幼少より剣術を肇に師事していたことからその天性を見込んでの養子縁組であった。肇は剣術の他にもその才を發揮し、弓術を市原禎次郎に、槍術は沼田 某、砲術は若山八十郎に学び、学問は岡本知充に学んだ、まさに文武両道の士であったが、安政六年（一八五九）病魔におかされその才を惜しまれながら三十一歳でこの世を去る。戒名は「勝光院是道義哲居士」、墓は徳島市内の竹林院にある。養子儀太郎は、若くして天命を終

図版二



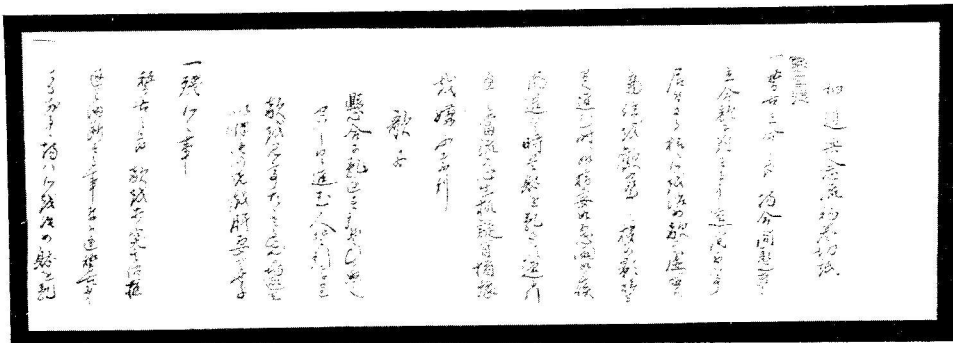
図版三



えたが、肇は天寿を全うして、明治六年（一八七三）六月、八十歳で没する。戒名は「全能院徳行義秀居士」、墓は竹林院の義太郎墓の横に寄り添うように建立されている。肇の門下には、もう一人儀太郎の兄でもある吉田徹郎図版三がいる。徹郎も幼少より、剣術を学びその才覚は弟儀太郎以上と評されるほどで、二十歳にして免許皆伝、さらに諸国を歴訪し、技を磨き、奥義を極めたという。徹郎は、性実直温厚にして、卓越した剣技は周囲の認めるところで、その人望が見込まれ神道無念流師家の後継者となる。そして、明治二年（一八六九）には、徳島藩の長久館教授という栄達の道歩む。

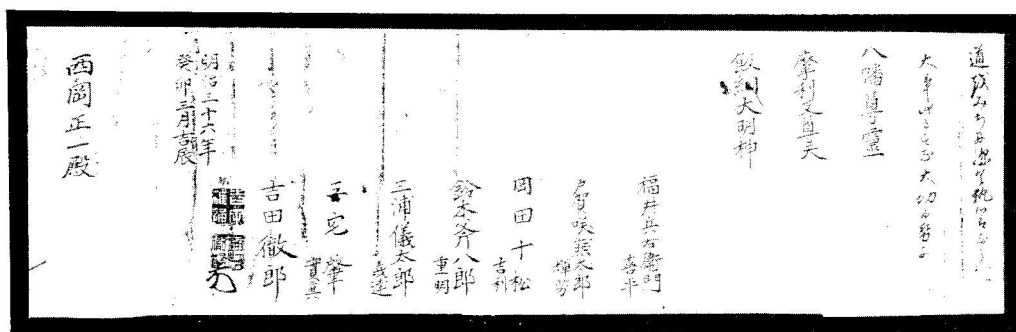
廃藩置県後の剣術界は衰微の一步をたどるが、徹郎は大いに奮起し、多くの門人を指導する。明治二十八年（一八九五）大日本武徳会が設立されるが、徹郎は、明治三十二年二月、徳島支部教授となる。そして、明治三十五年（一九〇二）には、永年剣術指導と斯界発展に寄与したとして、武徳会総裁宮彰仁親王から有功章が贈られている。没年は、明治三十七年八月、行年八十二歳、戒名「心涼院釈覚徹居士」、墓は徳島市の竹林院墓地に先師と並んで建立されている。

ともあれ、浪華の三浦儀太郎より、阿波の三宅肇に伝えられた神道無念流の流れは、その跡目を肇の養子となった吉田徳左衛門の次男儀太郎が継承したが、儀太郎が若死したため実兄の吉田徹郎がその跡を継ぐ。明治になっても徹郎は道統を守り同流派を良く維持した。徹郎には五人の男子と四人の女子があったが、男子



は誰一人として神道無念流を学ばなかった。そのため長女と他流ながら新陰流（近久・久保家に伝わる系統とは別）に長じた稲田家臣、西岡嶋太郎の長男周太郎とを娶らせた。結婚後周太郎が神道無念流を習ったかどうかは定かでないが、武門の血脈はこの縁組みによって保たれたことになる。そして、その子、四男の正一は神道無念流の初巻初巻「切紙」を取得している。巻末の奥書から祖父徹郎から教わったことは明らかである。この伝書からは孫に武門の継承を託した徹郎の心境が如実に伝わってくる。正一の次男侃かたじ（昭和十年八月二十七日生、大野小学校剣道部師範）もまた武道家で、現在、剣道錬士六段を取得している。こうした流れを見ると、三宅繁左衛門肇に始まる神道無念流の流れは、三宅家から旧稲田家家臣の吉田・西岡両家に受け継がれ、中には他流を学んだものもいたが、武門の血脈は営々と受け継がれ今日に息づいている。まさに道統の灯は消えずの感がある。

※なお、この神道無念流初巻切紙の全文現代語訳されたものが、西岡侃氏によって「徳島の剣道第十三号」に掲載されています。



矯正剣道の変遷

刑務所支部 中村 稔 裕

はじめに

矯正職員には、旺盛な士気の高揚と普段から強靱な体力と、緊急時にも動じない胆力を養う必要から武道（柔道、剣道）が正課として課せられ、日々訓練に励んでいるところでありその歴史にも長いものがある。

近年は、大学・高校等で活躍した実績を有する優秀な選手が全国の矯正施設に採用され、矯正武道のレベルアップがはかられている。全日本選手権、都道府県大会、国体等全国的な大会にも常時矯正職員が出席しており、その活躍にめざましいものがあり関係者から注目されるようになった。

しかし、矯正の武道について歴史をたどってみると戦前、即ち昭和二十年以前の詳細な記録がほとんどなく、矯正年譜の中に散見されるものの具体的なものは見当たらない。

徳島刑務所も昭和二十年七月四日の徳島大空襲の直撃を受け、二十四名の尊い人命と共にすべて灰燼と帰してしまったことからお知らせするに値する資料のないことをまず持つてお詫びいたします。

戦前の矯正武道

戦前武道にかかわった諸先輩にはすでに鬼籍の世界に入られた方も多く、また戦火に散った方も多いことから乏しい資料ではありますが、矯正年譜、OB職員の伝聞などにより紹介します。

最もふるくは、明治時代の年譜に

「撃剣の達人」

という文言が出ている。

それによると、物的・人的にも被收容者処遇の困難な時期から騒動の鎮圧に際して

「介護者撃剣の達人なれど、多勢に無勢囚徒に襲われ殉職す」

という悲しい記事が見られるが、当時矯正職員の武道大会が開催されていたかは定かではなく、大正十四年十月二十七日に今日の全国大会に代わる演武大会が各矯正管区独自に施設対抗試合として行われ、その後昭和十七年まで続いている。徳島刑務所等四国の矯正施設は広島矯正管区主催の大会に出席していた時期もある。しかし、太平洋戦争の激化とともに食料、輸送の確保の困難を理由に昭和十八年三月十五日の全国刑務所長会議において、武道大会の中止が決定されている。

戦後の矯正武道

終戦とともにシベリヤ、中国、南方の国々から武道経験者が復員されたが、日本国内は戦後の混乱から、全国の矯正施設には收容定員の二倍近くが収容されていた。刑務官として復活したものの、ある者は北海道の開拓に、またある者は巢鴨プリズンに派遣

される等必ずしも地元での勤務とはいかなかったようである。

また、当時の受刑者の労働力は戦後の復興に作業に重点が置かれ、当初でもダム建設、護岸工事、林道開発工事等、その多数は施設を離れ、構外の泊まり込み作業であったことから、順調な武道再開にはいたらなかった。

昭和二十四年に柔道の全国大会が開催され、それから遅れること四年、昭和二十八年全国矯正職員剣道試合規則が制定され、それまで各施設独自で導入していた師範が廃止され、八管区に武道教官が配置された。その年六月二十一日に府中刑務所において第一回の全国矯正職員武道大会（剣道の部）が開催され、今日の全国矯正職員武道大会の基盤が出来上がった。

ちなみに

第一回の優勝は 団体 佐賀少年刑務所

個人 田島善人（佐賀少年刑務所）

となっている。

このころ、当初も野口直之を中心に、川西善三郎、与原佐一（故人）、高田 亮、広瀬 正（故人）、広瀬 清、山川延弘、松本茂章（故人）、三木利夫（故人）等が、近江勇先生の指導の下、練習を重ねていた。

昭和三十年には、管内の新人戦で初優勝を飾り、昭和三十二年の選手権大会で広瀬正が優勝し全国大会出場を果たしている。

当時は武道場が十分に整備されておらず、練習場、武道具は劣悪であり大変な御苦労があったと聞き及んでいる。また試合にお

いても組み打ちが認められ、相手選手の面はおろか入れ歯までもしり取ってしまった強者の話は、今もって語り継がれている。一方県内においては、大麻比古神社の奉納試合等で野試合が行われていた。

刑務所支部の現況

昭和三十年中頃から、インターハイ出場等、高等学校で活躍した吉本孝、谷本修、榎本正勝、片山孝志が拝命し、昭和四十年代には中村稔裕、森直行、また昭和五十年代には鈴木伸一、西宇康治、吹田裕、猪野和男、片山尊史が、そして平成に入り、北村仁志、前田秀一、鳴川善人、遠藤雅之等が相次いで拝命し、今日の徳島刑務所支部を担っている。

今後は、各支部の先生方、警察の先生方のお力を得てより一層の発展を目指すべく努力を重ねて参りたいと思っております。

支部だより

海部支部長

張 西 政 晴



海部支部は、高知県東洋町に接する徳島県最南端に位置し、太平洋に面し、日和佐、牟岐、海部、海南、宍喰の六町で構成されています。同志的結束が堅く、毎週月曜日の合同稽古には、支部の諸先生方が自らの修練のため、かけつけてきています。また、由岐、日和佐、牟岐、海部川、西山練心館の五剣道教室においては、週二・三回の指導が行われています。こうした地道な努力を続けることで、全国的な剣道人口の減少する中で、海部支部では、子供達が剣道の懸命な修練に励んでいます。

さらにその成果として、昨年度は、富浦廣志先生の七段昇段、美馬和義先生の錬士

号取得、清原杯県下大会の三位入賞。平成十年度におきましても、坂本次男先生・小池文夫先生の四段昇段、北川成仁先生の二段昇段、支部内の高校生・中学生も二段二名、初段十四名、全員の昇段を果たして居ります。

また、先輩の諸先生方が築いてこられたした県南剣道大会も四十四回を数える県下一の大会となりました。今年も、日和佐町総合体育館の落成記念大会として、居合道範士八段平尾勝美先生をお迎えして四方払により道場を清めていただき、小学校三十チーム、中学校男子二十二チーム、女子十チーム、高校四チーム、計七十五チーム三九五名の剣士の皆様の参加をいただき盛会に終える事が出来ました。

夏休みには、徳島大学剣道部の合宿で堀江幸夫先生をお迎えして海部支部との交流会も毎日行っております。

由岐地区では防犯大会、牟岐地区では県民スポレク大会、海南地区では昇段祝賀大会と、各地域に分けて大会運営を行っております。

今後とも支部会員五十名のみなさんの益々の修練と青少年健全育成のためのご指導をお願い致します。さらに県剣道連盟の諸先生方のご指導とご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。戦後五十有余年、海部支部創立からその発展に精魂を傾けられました先輩諸先生方を偲び、また在天の諸靈に修練と愛汗の誠を誓うものであります。

歴代支部長

初代	福良 重吉	昭24・10	27・3
二	能田 忠雄	27・4	30・3
三	楠本 重佳	30・4	40・3
四	若松 修作	40・4	55・3
五	平岡 竹雄	55・4	59・3
六	西山 勝喜	59・4	平3・3
七	中山 啓男	平3・4	5・3
八	森本 好美	5・4	7・3
九	張西 政晴	7・4	現在

支部役員

支部顧問 平岡 竹雄 教士七段

〃 若松 修作 〃 七段

〃 西山 勝喜 〃 七段

〃 張野 久晴 〃 六段

〃 野田 豊 〃 五段

〃 森本 好美 錬士五段

支部長 張西 政晴 〃 五段

副支部長 滝本 博文 〃 五段

丸岡 英明 五段

監事 影山 好雄 錬士六段

〃 近藤 浩文 五段

事務局長 美馬 和義 錬士六段

理事会計 福田 文久 四段

理事 和田 拓男 三段

〃 吉坂 渉 四段

〃 山崎 直光 五段

県剣道連盟役員

支部長 張西 政晴

理事 丸岡 偉人 六段

〃 美馬 和義 六段

評議員 山崎 直光 五段

〃 佐藤 和久 五段



美馬東支部の現況について

美馬東支部長 青木茂生



人口の高齢化がだんだんと進み、六十歳以上の高齢者が国民に占める割合は一九九四（平成六）

年は一四、一％（約七人に一人）でしたが、二〇一〇（平成二二）年には二五、五％（約四人に一人）になると予想されています。

本格的に少子・高齢化社会が、進展する現在、美馬東支部においても剣道人口が毎年減少傾向をたどっています。

少年野球・少年サッカー・卓球・バレーボール等、色々と部活動がある中で、剣道へと選手を集めるのは大変な苦勞があります。剣道を愛する私たちにとって日本古来の武道、「剣道」を受け継いで隆盛に至るには、並大抵のものではないと考えます。これからはますます、指導者の腕前にかかってくる

ことでしょう。

当支部現在の剣道教室及び道場の概況を説明致します。

*** 脇町少年剣道教室** 平成三年六月に開講、徳島県剣道連盟のご要職もあり大変忙しい立場にありながら、細川昭典先生が室長として活動しています。脇町小学校体育館で週二回、火曜日、金曜日、午後七時から八時三十分まで稽古を行っています。現在、教室に通う生徒数も減少しております。現在、細川昭典先生他4名の指導者の先生方を中心として稽古に励んでおります。

*** 穴吹町少年剣道教室** 昭和五十六年四月一日に開室され、当時室長に石井一郎先生、補助員に大石雅生先生、奥村敏彦先生の指導者三名で青少年健全育成のために活躍されていきました。現在は、石井一郎先生が亡くなられた後、大石雅生先生が室長を引継ぎ、穴吹小学校体育館で、月曜日、木曜日、午後七時から午後八時三十分まで対象教室を小・中学生とし稽古に励んでいます。教室の特徴として、指導者に子供と

指導者八人の内、四人はこうした指導者であり教室生二十六名また、練習日には、時々中高生も参加して稽古に打ち込んでいます。

*** 徳島春風館道場** 昭和六十三年四月に、剣道・居合道を通して青少年健全育成のために自費を投入、道場を創設しました。現在、小学・中学・高校・一般まで二十一名が、週三回、月曜日、木曜日、土曜日、午後七時二十分から午後八時四十分まで自己の修練に励んでおります。

又、穴吹中学、脇町中学、江原中学に剣道部があり日々活発な稽古が行われています。

これらの、少年剣道教室、道場、中学校の剣道部等で美馬東支部が支えられています。

平成十年度からは、支部会員の一般の方々の稽古会も盛んに行うようになり支部会員の親睦を図っております。

当支部の活動として、主な例を上げると青少年健全育成を目的に脇町警察署主催の美馬東部防犯少年剣道大会、平成元年から始めた県西部少年剣道穴吹大会 毎年九月

十五日（敬老の日）約五百名規模の大会、文化祭剣道大会、及び県民スポレクと併せて美馬東部少年剣道練成会を盛大に毎年実施しています。県剣道連盟主催の社会人大会にも毎年参加したり、年末には、支部会員の稽古納めなども実施し会員の親睦を深めております。

このように当支部の概況を説明しましたが今後、当支部の剣道を益々普及発展をさせていくためには美馬郡内の高等学校にいか所活発な剣道部活動の受け皿を築いていくことが必要です。

今現在、各少年剣道教室、道場、各中学校とも指導者、先生、父兄、選手が一体となって剣道を正しく、楽しく、仲良く取り組んでいる現状ではありますが、その選手達が、美馬郡内の高等学校へ進学し入学して剣道部へ入部しても指導者がいないせいで何の魅力も感じないため妥協し、剣道をやめてしまわれる生徒達が多く目立ちます。

美馬郡には、穴吹高等学校・脇町高等学校・貞光工業高校・美馬商業高校と四校ありますが、剣道部がありながら活発に活動して

いない高校やもうすでに剣道部が消えてしまっている高校もあります。昔は、滝下勝先生が、脇町高等学校を中心に郡内はもちろん吉野川沿いにおいて活発に指導を図っていたらしゃった記憶があります。

今、一生懸命に剣道に取り組んでいる少年剣士のためにも又、将来の剣道人口の普及発展のためにもぜひ美馬郡内の高等学校のどこかへ指導がおこなえる高校教師の派遣を望む次第であります。

支部長としてのお願いがとばかりになりましたが、美馬郡内の剣道が発展していく上で徳島県剣道連盟及び高体連、中体連の方々のさらなるお力添えをお願いするばかりであります。今後ともご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、何卒、先生方のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

阿波支部だより

支部長 河野耀雄

阿波支部の現状をお知らせします。

阿波支部は徳島市より西方へ約三〇km、四国三郎吉野川の北岸に位置し、南には高越の山々を北に讃岐山脈を背に南面のゆるやかな傾斜地で、農業の盛んな阿波、市場両町をもって、支部を構成しています。昔、原士の集団が居たところとして又武道の熱心な方々の多い所としても、ご承知の方もあろうかと思えます。

当支部には、阿波町に県剣連審議員の細川昭典先生、県剣連監事の笠井選先生を中心に藤井利一先生、県剣連理事小川本書先生らで阿波少年剣道教室を指導していただいています。市場町では私の所属する市場剣道教室を木村秀正、井内勝則、一村喜佐雄、一村昌和、顧問坂本裕二、那須彬各先生方の支援のもとに行われています。中学校では阿波中学校が中尾誠先生、塩田昭治先生、市場中学校は当支部若手No.1で七段

合格した佐藤吉邦先生、松永貴史先生が指導しています。中学両校はお互いに良きライバルとして日々活発な稽古に励んでいます。両校の活躍は誠に目ざましいものがあります。

阿波・市場両中学校の卒業生が現在、大学校を卒業して社会人として、又学校の教員として子供達の指導に当たっています。今年度行われた社会人大会を反省して月曜日の稽古会をよりいっそう充実して、来年度を目指し頑張っています。つい先日阿南で行われた清原杯で阿波中・市場中のOBで組んだ若手のチームが三年ぶりに二度目の優勝し、先輩先生方共々に、大変うれしく思っています。

古くから先輩先生方は稽古熱心な方々が多く、昔から続いています。彼岸の中日稽古会は春と秋の年二回県剣連より講師先生の派遣をお願いして、数多くの指導者の先生方をはじめ子供達は小中高年生、一般の方々、県外からは香川県大川郡より古くから参加していただき、あくまで稽古中心の錬成会にして今日に至っています。午前の部は、

初級の者と中級以上、小中学生共に武道館と体育館の二会場に分けて講師先生より基本を教わり、十一時頃より全員で先生方に打ち込みと掛かり稽古をして小学生は午前中で終わります。午後は中学生・高校生・一般の方で、居合同好会の方々による居合の演武・英信流組太刀を見学した後、細心の注意をし、代表の者に、試し切りを体験してもらっています。その後は、講師の先生の指導の下に基本稽古、掛かり稽古を行います。最後は先生方同士で稽古をしています。

又寒い時期ですが、二月十一日の建国記念の日に阿波ライオンズ主催の剣道大会を阿波と市場で交代で続けていますが、来年度で二十四回目となります。

八月のお盆時期に阿波町の武道館にて指導者中心の稽古会を剣連より派遣講師として坂下彦之先にお越し頂き稽古会を毎年開いています。

十月には市場町主催の文化祭行事として剣道大会を小学生は近隣の各剣道教室、中学校は香川からも県下の強豪チームの参加もあり年毎に充実した大会に育ちつつあり

ます。

尚前支部長の坂本裕二先生は剣道史発行を目指し日夜懸命に努力しておられる姿に頭が下がります。

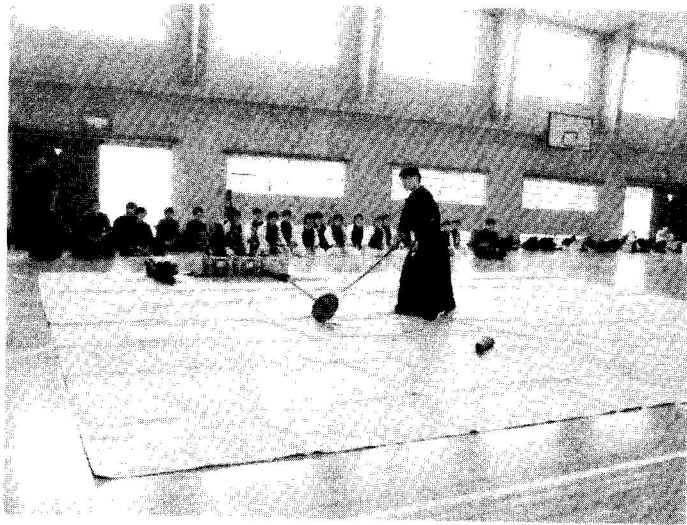
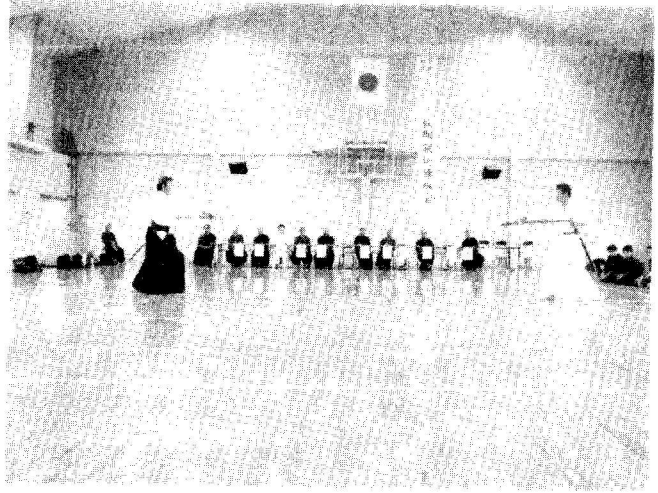
この様なところが阿波支部の現状かと思えます。

以上

毎週月曜日の阿波支部稽古会

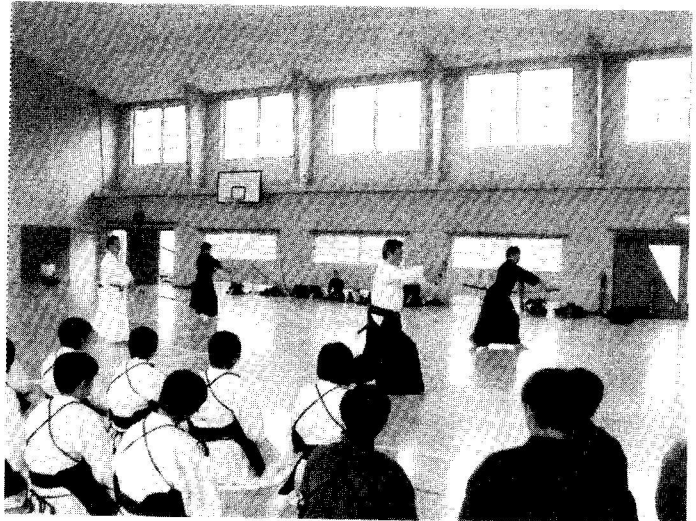


英信流組太刀の演武



中学生による試し切り

居合の演武





彼岸の中日稽古会での基本指導



各種大会に参加して

第二十回全国 スポーツ少年団

剣道交流大会に参加して

監督 池田 洋一



平成十年三月二十七日、快晴。高松市総合体育館に到着した。昨年十二月の徳島県予選会から三カ

月、今回初めて選手団の監督を任せられ、とても光栄な事である反面、代表選手団を預かる責任とプレッシャーが肩にずっしりと掛かってきたのを思い出した。

選手団の強化練習会は、まず団体戦を中心として始めた。月二、三度のペースで大野に集まってもらい、その時には、各選手道の道場や、近隣の道場の剣士達が集まって

くれ、毎回有意義な練習会ができた。だが、年明けから猛威を振っていたインフルエンザが選手団内でも流行したり、けがなどで体調不十分の者も出る中、「自分は強化練習会に参加するんだ。」という一人一人の強い気持ちにより予定通りに練習会を行うことができ、それが後のチームワークを固める一因となったのだろう。そして、団体ではかなりの試合練習ができ、選手達はもちろん他の剣士達にとっても良い剣道の錬成ができたと思う。ただ、監督としては、中学個人の住友、美馬両選手との稽古や、選手達とのコミュニケーションの時間をもっとじっくりとれば良かったと思った。

さて、大会二日目、予選リーグの初戦相手は山形であった。緊張の中「始め」の宣告。先鋒の繁田、思いもよらぬ初太刀の面を相手に一本先取されるが、焦ることなく得意のコテを二本連取、逆転勝ちを納めチームの士気を高めた。次鋒寺西は気迫十分の攻めで相手を寄せつけず会心の二本勝ち、中堅西崎引き分けの後、副将大栗、大将京小と続けて一本勝ちを納め4-0と圧勝。

予選二試合目、沖縄との対戦。繁田一本勝ちの後、寺西引き分けるが、西崎が持ち前の勝負強さを發揮し、一本勝ちを納めた。大栗は剣先を活かしながら引き分け、京小も相手に隙を与えず好戦し引き分け、2-0と勝利し、決勝トーナメント進出を決めた。中学個人の住友は一試合目引き分けるが、二試合目は持つて生まれた勝負観で面の一本勝ちし予選突破した。中学個人女子美馬は代表者戦にもつれこんだが得意の二段打ちで面を決め、全員で決勝トーナメントに進むことができた。

大会三日目、団体戦決勝トーナメント一回戦の相手は昨年度準優勝の北海道である。繁田一本負けの後、好調の寺西二本勝ちで逆転するが、西崎が接戦の末一本負けを喫し、大栗も一本を先取され取り返そうと果敢に攻めるが、一歩及ばず、この時点でチームの負けが決まったが、大将の京小は気落ちのそぶりも見せず気力十分の勝負で最後を締めくくった。

住友も万全の体勢で望んだが駒を前に進めることはできなく、美馬も上位進出を狙っ

だが、茨城の稲田に行くのを阻まれた。団体個人共にベスト8は逃したが、七名の選手全員が県の代表として誇りを持ち正々堂々と戦ったことに感謝する。

今回この大会に監督として参加し、選手の勝負に対する気持ちの持たせ方や、日頃の稽古により力を十分発揮させるなど色々なことの難しさを改めて知った。この大会で得た経験をいかし、精進していきたいと思う。

最後に今大会を御支援下さった保護者の方々、御指導下さった諸先生方、また強化練習会でお世話になった各道場の指導者、剣士の皆さん、そしてバックアップして下さいました大野小剣道部の皆さんに深くお礼を申し上げます。

出場選手

団体戦（小学校）

監督 池田洋一（大野）

先鋒 繁田晋吾 4年（至誠館）

次鋒 寺西由佳 6年（光武館）

中堅 西崎雅弘 6年（坂野）

副将 大栗里恵子 6年（入田）
大将 京小晋平 5年（大野）
個人戦（中学校）

男子 住友直城（阿南第一中）

女子 美馬真奈美（牟岐中）

○団体戦試合結果

予選リーグ

徳島4（6）—（1）0山形

徳島2（2）—（0）0沖縄

決勝トーナメント

徳島1（2）—（3）3北海道

（ベスト16敢闘賞受賞）

○個人戦試合結果

男子個人予選リーグ

住友引き分け 内田（埼玉）

住友メ——村田（秋田）

決勝トーナメント

住友——メ藤林（神奈川）

（ベスト16敢闘賞受賞）

女子個人戦リーグ

美馬引き分け 手塚（滋賀）

美馬メコ——岡（山梨）

予選リーグ代表戦

美馬メ——手塚

決勝トーナメント

美馬——コ稲田（茨城）

（ベスト16敢闘賞受賞）



第四十六回全国都道府県 対抗剣道優勝大会に出場して

大将 米倉 滋

団体戦に出場する選手一人一人は、「それぞれのポジションで精いっぱい自分の力を出し切る。」ことを心がけて試合に望むことが大事です。

大会史上初めて女性選手が参加し、従来
の男性五名に女性二名が加わり、一チーム
七名の構成で団体日本一を決する。第四十
六回都道府県対抗剣道優勝大会が五月三日、
大阪市中央体育館において開催され、本県
から、

監督 高田 豊
先鋒 山室 文江
次鋒 新沢 友弘
五将 竹内 佳代子
中堅 福多 雅英
三将 平野 誠司
副将 山田 耕司
大将 米倉 滋

が出場、一回戦で本大会最多優勝（九回）
をほこる大阪府チームと対戦しましたが、
優勝候補の大阪チームの勢いを止められず、
三対一の対戦成績で敗れました。

徳島 1-3 大阪

(先)山室 一コメ馬場

新沢 一メ寒川

竹内 × 石田

(中)福多 × 川上

平野 一コメ江藤

山田ココロメ大森

(大)米倉 × 船津

結果を見ると本県チームの大敗のように
思われますが、個々の試合内容は、各選手
ともそれぞれのポジションで精いっぱい自
分の力を出し切っており、勝負どころでの
微妙な打突の判定が勝負を左右といった状
況での試合の結果、大阪チームの勢いのあ
る流れにおし流された形となりました。

さて、本大会を振り返ってみると、本大
会から初めて女性が出場したこと、女子の
勝負がチームの成績に大きく影響し試合が
盛り上がったと同時に、一本が試合全体を

左右する団体戦の妙技が随所に展開された
ことが本大会の大きな特徴でした。

決勝戦は、大阪府と福岡県の顔合わせと
なり、先鋒引き分けの後、次鋒・三将と大
阪が連取このまま大阪の優勝と思われまし
たが、福岡県の中堅が試合終了のブザーと
同時に引き面を決め、試合の流れは一転し
て福岡県に、続く大将まで四連勝し、福岡
県が五回目の優勝を飾りました。

団体戦における「一本」の重さと「試合
の流れ」をつかむことの大切さを痛感した
大会でした。

四国剣道大会に参加して

大麻中教諭

竹内 佳代子



平成十年五月二十
四日愛媛県松山市で
第五十回四国四県剣
道大会が行われまし
た。

本大会は、昨年、二年連続優勝を成し遂げた本県にとって、史上初の三連覇を目指すと、大きな目標を掲げての大会で、チーム全体がいつも以上に勢いこんでいました。私も五年ぶりに参加させていただくことになりましたが、チームの足手まといにならないよう、そして少しでも貢献できればという思いで参加しました。でも、先鋒・次鋒が女性、そして女性に限っては年令制限がないというチーム編成の中で、各県の女子選手では、私が一番年長者だなということが、何故か引け目になってしまいました。年令など関係なく、自分の持てる力を出し切り、試合に臨めればそれでよかったです。

のに、試合をする前にもう既に諦めている自分がいたように思います。

結果は惨々たるもので、しかも後味の悪い試合をしてしまい、後悔の気持ちでいっぱいです。結局、チーム全体も三連覇を達成することができず、皆さんに申し訳ないことをしてしまいました。

そこで深く心に刻んだことは、気持ちの持ちようがいかに大切かということでした。

これは私が監督という立場の時、常に生徒に話している事ですが、あらためて勝負に挑む気持ちの在り方の大切さを実感しました。それには、年令などに左右されず、自分を信じられる実力を身につけること、そのために日ごろの練習を大事にすることが望まれると思います。仕事・家庭・育児の過重な合間を縫っての練習は、周囲の理解や協力がなくてはできませんが、幸いそのことに関しては私は、人より恵まれた環境にあるので、要は自分がいかに努力するかということ、総て自分の責任だと思いません。練習する機会はなかなか得られません。これからは、自分から練習する機会を

求め、生かしていきたいと強く思いました。

ただ、選手に選んでいただいたお陰で、前日の「四国は一つ」を合言葉としての懇親会にも参加でき、他県の選手の方々と意義ある交流をもつことができたことは大変幸せに思います。

昨年、国体で成年女子の部が新設され、更に今年度は都道府県対抗で二十代、三十代の女子も参加できるようになり、三十歳を過ぎても活躍できる場が与えられるようになりました。また、それは懐かしい剣友との再会や新たな出会いの場にもなり、剣道が続いていく上での大きな目標の一つになっていきます。平成十四年度には高知県にも開催される予定なので、たとえ結果的には出場できなくても、それをめざしてまた一から稽古をやり直したいものと考えています。その時は、十分稽古を積み、自分に自信を持って相手と剣を交えたいと思いつつ反省の記をおかせていただきます。

全国家庭婦人

剣道大会に参加して

鳴門支部

平野悦子

平成十年八月四日、今年も日本武道館に於いて、第十五回全国家庭婦人剣道大会が開催されました。私は、幸運にも、初めてこの大会に出場する事が出来ました。メンバーは監督に手塚十三子先生、先鋒・山崎砂織さん、次鋒・平野、中堅・竹内佳代子さん、副将・森本敦子さん、大将・長谷川陽子さんの五名からなり、また、私にとつては、日本武道館の試合は初めての事で、緊張は大変なものでした。そのような中で、第一試合は、栃木戦です。引き分けが続く試合展開の末、惜しくも〇対一で敗れてしまいました。内容は、全くひけをとらなかつた事もあり、直ぐに、次の試合へと気持ちを切り換える事が出来ました。そして、第二試合は、大分戦です。みんな初戦の硬さもとれ、積極的に臨みましたが、なかなか一本につながらず、内容は押していたも



の、結果は、一対三で敗れ、残念ながら予選リーグ敗退となりました。私自身の気持ちとして、試合に負けた悔しさは当然ありましたが、それ以上に、こ

の大会に出場でき、この大きな日本武道館で試合の出来た喜びの方がとても大きく、試合後のそのすがすがしさは、最近味わった事のないくらいとても心地好いものでありました。

私達、女性にとって、剣道を生涯続けていくことは、仕事は勿論のこと、家事、出産、育児等の大きな障害があり、どうしても剣道から、離れてしまう時期があります。今回、私は、十年ぶりに復帰を果たすことが出来、感動を得る事が出来ましたが、これも剣道に求めるものがあるが故の事で、人それぞれ違いはあっても、最終的にはそこに“楽しむ心”を求める気持ちがなければ、なかなか復帰は難しいかもしれません。実際私は、現在、仕事・家事・育児に追われる中での少ない時間ではありますが、剣道をする事により、活力を見出しております。様々な立場・環境の女性が集まり、稽古に参加する事によって、剣道で“楽しむ心”お互いに理解しあい、そしてまた職場、家庭で頑張れる、そんな場であってほしいと思います。

最後に今回、この大会に出場させていただいた経験を大切にすると共に、御指導頂いた剣道連盟の先生方に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。そして、今後ともよろしくお願い致します。

高松矯正管内 矯正職員武道選手権 大会で優勝して

刑務所支部 前田 秀一

平成十年九月四日（金）、四国の矯正職員武道選手権大会が徳島刑務所武道場において開催された。

本大会は、全国矯正職員武道選手権大会につながる予選大会でもあり、なんとか三位までに進出し全国大会の切符を手に入れたと思います。望んだ試合であった。

試合は、一次予選リーグ、二次予選リーグ、各三名リーグで行われ、それに勝ち残れば決勝戦になる。一次予選リーグには、松山刑務所の桑原選手、高松刑務所の小野選手と対戦した。この両選手は全国レベルの実績をもっており、私にとっては厳しい対戦相手であった。両試合ともに私が先に一本先取され、二本取り返す展開になり、一次リーグで二勝し二次リーグに進出した。二次予選リーグは昨年の覇者である高松刑

務所の横山選手、徳島刑務所先輩である北村選手との対戦であった。横山選手は非常に守りの堅い選手であったが中盤に小手を取り、それを守りきり一勝した。北村選手との対戦では、圧倒的に攻められたもの。なんとか引き分けにすることが出来た。その結果一勝一分けで決勝に進むことができた。

決勝戦は高知刑務所の森崎選手との対戦であった。この時点で全国大会への出場は決定しており、落ち着いて普段どおりの力を出すことができ、小手、面の二本を奪い優勝することができた。

この管内予選の結果、高松矯正管区代表となり十月十三日（金）大阪刑務所で開催された全国矯正職員武道大会選手権試合に出場した。やはり、全国大会となると各管区予選を勝ち抜いたハイレベルの選手ばかりであり、私は予選を二敗二分けという結果的には悔いの残るものとなった。しかし、矯正という一組織の大会であるものの全国大会を経験したことによって、自分自身にとってもよい勉強をさせてもらおうと

予選リーグ

梶木	古郡	茂呂	田巻	山口	金田	
	⊗	×	×	×	⊗	1 (2)
	⊖					0 (1)
徳島	山崎	平野	竹内	森本	長谷川	

大分	岩本	東名	笠谷	中倉	合谷	
	⊗	⊗		⊖	⊗	3 (5)
			⊗	⊖		1 (3)
徳島	山崎	平野	竹内	森本	長谷川	

もに、今後の稽古や試合等、剣道に対するとりくみ等について考える機会を得、大変有意義な大会となった。

剣道は、日々稽古の積み重ねが一番大切なことであり、これからも刑務所での稽古をはじめ、中央の稽古会等のできるかぎり参加し精進したいと考えている。

全国矯正職員武道大会

選手権試合観戦記

刑務所支部 中村 稔 裕

広島矯正管区代表 四名
仙台矯正管区代表 三名
札幌矯正管区代表 三名
高松矯正管区代表 三名
以上の三十六名となっている。

平成十年度全国矯正職員武道大会選手権試合が十月十三日（火）大阪刑務所体育館で開催され、今回観戦する機会を得ましたのでその内容についてお知らせします。

はじめに、昭和二十八年六月全国矯正職員剣道試合規則が制定され、それまで各矯正管区独自で行っていた大会を全国大会に統一し、春季に施設対抗試合（団体戦）、秋季に選手権試合（個人戦）の二種大会が開催されるとともに、法務省に武道師範がおかれ、（現在は範士九段 西善延氏が師範）今日の矯正武道の基盤が出来上がった。ところで選手権試合の出場資格は各矯正管区予選を勝ち抜いた者で

選手権大会の歴史
昭和二十八年の第一回大会から数え今年で四十六回目の大会となったが、全日本剣道選手権大会に見られるように連覇は難しく、これまで次の五名の者が二連覇したのみである。

下村 清

大阪拘置所 現在範士八段

大阪矯正管区教官

菅 波 一元

名古屋刑務所 現在教士八段

宇都宮拘置支所

大塚 尚 弘

東京拘置所 現在教士七段

東京矯正管区教官

船津 正 人

名古屋拘置所 現在錬士六段



東京矯正管区代表 七名
大阪矯正管区代表 六名
福岡矯正管区代表 六名
名古屋矯正管区代表 四名

溝 口 夏 樹

名古屋刑務所 四段

ちなみに、第一回大会の優勝者は田島善

人（佐賀少年刑務所）第二回大会の優勝者

は榊原正（名古屋刑務所）、第三回大会の

優勝者は酒井茂光（岐阜刑務所）である。

矯正出身で既に範士八段になられた先生

方も多く、今もって各県で活躍されている。

また、矯正武道関係者で全日本剣道選手権

大会で活躍した者もあり、特に榊原正先生

は優勝をしている。

一方近年においては

馬 元 剛 広島拘置所 ベスト8

渡 邊 大 三 青森刑務所 ベスト8

大 塚 尚 弘 仙台矯正管区 一回戦

河 内 隆 浩 広島拘置所 一回戦

等が活躍している。

選手権試合の内容

今年度の出場選手三十六名の内、初出場
十七名、平均年齢二十七才、身長百七十七
センチメートル以下九名と、選手の新旧交代
が進むとともに、大型化が定着してきた。

また近年矯正武道界に大学・高校で活躍し
た選手が全国的に採用され、力量の突出し
た施設がなく力量が全国平均化してきてい
る。

高松矯正管区代表として

前 田 秀 一（徳島刑務所）

森 崎 善 之（高知刑務所）

横 山 克 義（高松刑務所）

の三名が出場した。

予選は四〜五名が一組となり八ブロック

に別れてリーグ戦が行われ、前田選手が出

場した第八組には、今大会の強豪と呼び声

高かった高橋博美（名古屋拘置所・準優勝）

が厚い壁となつて立ちふさがり、前田選手

もよく健闘したもの、二敗二分けとなり

予選突破はできなかった。森崎、横山両選

手も予選敗退となり高松矯正管区代表は決

勝トーナメント進出はできなかった。

優勝者は太田晴也選手（大阪拘置所・日

大OB）が初優勝を飾ったが、主な選手を

見てみると、国士館大学、中央大学、日体

体育大学、中京大学、大阪体育大学、近畿

大学、国際武道大学等でレギュラー選手と

して活躍した者、またPL学園、西大寺高
校、清風高校、鹿児島商工、九州学院等で
活躍した選手が多かった。

今後の課題

矯正職員には士気の高揚と健全な身体、
精神の育成を目的として武道が必須科目で
あり、各施設ともにレベルアップを図るべ
き諸訓練が導入されている。特に近年は刑
務官を希望する者が多く、優秀な武道関係
者が採用され、各施設ともに活気に満ちた
訓練が展開されていることから、これらの
優秀な選手を矯正界だけで終わらせること
なく全国的な選手、武道家に育てあげる必
要があり、のためには警察、大学等と積極
的に交流を行い幅広い練習の必要性が痛感
される。

第十一回

全国警察少年剣道大会

監督 有賀 秀敏

阿南警察署管内の防犯少年剣道大会は、平成十年六月十三日、阿南市武道館にて開



催されました。管内の道場より四十八名、中学校八校から三十二名の代表剣士が技を競い、トーナメント戦による接戦の末、次の剣士が代表選手として県予選大会に出場しました。

小学校の部

原 怜 司(大野小)
玉田 康 朗(至誠館)
中西 涉(阿南)
大石 洋 史(桑野川)

中学校の部

原 祐 輔(那賀川中)
横 田 直 也(羽ノ浦中)
大石 真 也(阿南第二中)

徳島県予選大会は、七月二十三日、徳島中央武道館に於いて開催されました。

昭和六十三年に第一回大会が開催されて以来、阿南署管内チームは、幸運にも九回の優勝を果たし、全国大会の出場の機に恵まれています。例年各署のチームは互角であり、どの大会も接戦の末辛くも勝たせて頂いたのが本音であります。

今回も剣士らは、十分な稽古は勿論の事

ですが、選手各個人の勝ちたいと願う強い意志と気迫で大会に望みました。

○予選リーグ 一回戦は徳島北暑管内チームに善戦したものの、二回戦は川島暑チームに一对一の接戦の末、本数勝ちにて、辛くも決勝リーグに駒を進めることができました。

○決勝リーグ 鷲敷、鳴門、小松島暑管内チームと対戦し、選手の粘り強い戦いの結果、十回目の優勝を飾りました。

あこがれの場、夢の全国大会出場権を手にすることができ、選手も保護者の方もまた阿南暑の方も大変嬉しそうでした。

目前に迫った全国大会です。この大会の意義を自ら再認識し、猛暑の中練習に励み、大会に望みました。

第十一回全国警察少年剣道大会は、八月五日、警視庁武道館(東京都江東区)に於いて開催されました。開会式には、長野オリンピックで活躍されたノルディック複合スキー萩原次晴選手が出席され、「スポーツを通じて健全な心と身体を作り、自分の夢に向かって頑張りましょう。」と力強い

言葉で少年剣士を激励下さいました。

次に愛媛県新居浜警察署管内チームの神野圭亮選手の元氣な宣誓、続いて警視庁田村徹、塚本博之両先生の日本剣道形が披露されました。日ごろ指導させていただいている私にも又、剣士達にも大変勉強に成りました。

“さあ決戦” 厳肅な開会式の静けさを破られ、大会場は闘志満々の剣士達で熱気を帯びて来ました。

○予選リーグ

わがチームは一回戦、茨城県チームに三対一で勝ち。二回戦では、佐賀県チームに三対二で勝つことができ、昨年同様、決勝リーグへと駒を進めました。

○決勝リーグ

山口県岩国チームとまず対戦、二対二で本数勝ちし、ベスト八入り。準々決勝の相手は熊本県チーム、一本取れば取り返され、又、一本取れば取り返され、ここで引き分ければ、あと何秒持ち堪えればとサイドで手に汗

を握りの声援でしたが、善戦空しく二対二で本数負けの結果に成ってしまいました。

ベスト四強入りを目標に戦ってきた選手達の汗に濡れた顔には、負けた悔しさが強く印象的でした。

勝者の熊本県チームの技の素晴らしさを讃え、ご健闘を祈った次第です。

力を落としていた少年剣士の面々も、ベスト八の特別賞の盾を与えられると、清々しい、輝く少年の瞳に返り、次の大会にはと、決意を新たにされた様子が伺われました。

この全国大会を通じて、選手は新たな友を得、未知の世界を知り、少しでも何らかの知識や視野を広め、且つ、フェアなスポーツマンシップを身に付けてくれたことと思えます。

最後になりましたが、大会出場に際して、ご指導下さいました各道場の先生方、遠路応援並びにご支援下さった保護者のみなさま方、そして、大会期間中お世話下さいました阿南警察署の職員方、又、阿南警察署防犯協会、少年補導員協会の皆様のお陰で大

会に出場することが出来、心から感謝申し上げます。厚くお礼申し上げます。今後共尚一層のご指導よろしくお願い申し上げます。

「人を教えさせていただくことは、人間活動の中で一番難しく、一番尊いことである」故清原栄先生の言葉より。



愛媛インターハイ に参加して

富岡西高校教諭 本田 敦彦

平成十年八月、四国インターハイの剣道会場として、愛媛県松山市の総合コミュニケーションセンターで熱戦が繰り広げられた。

県大会で激しい試合を勝ち抜き、四国大会では準優勝し、大会前の福岡県・兵庫県での練習試合でもインターハイの相手をイメージして、少しずつ自信をつけながら臨んだ大会であった。

先鋒は、四国大会で四勝一分け、四勝はすべて二本勝ちと大活躍をした牟岐中学校出身の三年、谷口拓之。

次鋒はスピードと振りの大きさでは全国屈指の那賀川中学校出身の三年、大坂真石。中堅は全国中学校大会でベスト八、高校全国選抜でも二勝した。相生中学校で大将を務めていた二年藤川卓也。

副将は同じく相生中学校出身で、全国中学大会優秀選手賞に輝いた、二年小柏祐三。

大将はこの大会で、高校全国大会四回目出場となる、小松島中学校出身、三年長谷川晋紀。

補員には、全国選抜にも次鋒出場し、個人で四位に入った、羽ノ浦中学校出身、三年森英雄。同じく、上段で県選手権個人で三位に入った、由岐中学校出身、三年尾田光志。



予選リーグ一試合目は、二〇〇〇年インターハイを控え強化が進んでいる。岐阜県の代表、私立麗澤瑞浪高校である。先鋒・谷口は期待通りの戦いで一本勝ちしたが、次鋒・中堅が一本負けをする展開で、副将小柏が相手を翻弄し、二本勝ち。大事なときには勝負強い、大将・長谷川は、臆することなく二本勝ちを奪い、スコアのわりには、安定した勝負をすることができた。

予選リーグ二試合目は、昨年全国選抜を制し、今年の選抜優勝の福大大濠を退けた、福岡県代表となった私立福岡工業大学附属高校。先鋒は一進一退の攻防で引き分け、次鋒・大坂は延長で、大きな振りからの追い込み面を放ち、延長で一本勝ち。中堅は引き分けで、ポイントゲッター副将・小柏で二年連続のベスト十六入りを期待したが、何度か試合をしている相手で、勝負を避けられ引き分けとなり、勝負の行方は大将戦へと持ち込まれた。一つ前の試合で、福工大附属は麗澤瑞浪と試合をし二対一で辛勝しており、長谷川が一本負けでも勝者数で予選リーグ一位となる場面であった。この

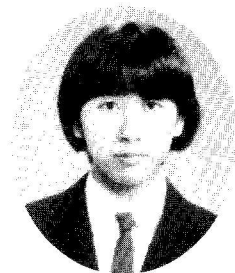
展開でも長谷川は落ち着いていて、中盤タ
イミングのいい引き小手で一本を先制され
たが、勝負にこだわることなく、伸びのあ
る技を相手に繰り出した。特に終了十五秒
前の合い面は面布団に当たった後、二セン
チ程右にずれた。しかし、一本だけ旗が上
がり、他の審判は迷いながら横に振り、一
本とはならなかったが、相手を引き出し放
つた見事な技であった。その後、終了四秒前
に相手の面を捌いたと思えたが、旗が上
り本数負け、惜しくも予選リーグ二位で、
決勝トーナメントには進めなかった。

ほとんどの試合を、相手を攻めて翻弄し、
内容的には勝ちに等しい試合であったため、
あまりの悔しさと、生徒たちの精いっぱい
の試合に対する感謝の気持ちで、しばらく
話をすることができなかった。後で生徒た
ちと話をしたときに、全力を出し切った満
足感と悔しさが入り交じった生徒の涙は忘
れることはできないだろう。実力もない指
導者である私を信頼し、ついてきてくれた
生徒たちに心から感謝したい。

インターハイ ベスト8に進出して

富岡東高校三年

竈 土 恵 子



平成十年八月六日
から八日にかけて、
愛媛県松山市でイン
ターハイが開催され
ました。私にとつて

この大会に出場できるのは今回で最後の
で、今までとは違った緊張感でいっばいで
した。私たちは、この日のために県外へ数
多くの遠征に行き、たくさんの方豪チーム
と剣を交えて自分に自信をつけてきました。
試合前はミーティングをして、お互いを励
まし合い、気合いを入れ直し試合に臨みま
した。

予選リーグ一回戦は、沖縄県興南高校と
対戦しました。初戦ではあったが、チーム
全員が思い切った試合ができました。二回
戦の相手校は、この大会の十日前に行われ
た玉竜旗大会で三位の実力を持った山口県
西京高校と対戦しました。先鋒の伊藤が小

手を先制されたが、中堅の森が面を決めて
一本勝ちし、どちらとも一歩も譲らぬ試合
となり引き分け。予選リーグ結果、西京高
校とは勝人数の差で決勝トーナメントへ駒
を進めることができました。

決勝トーナメント一回戦は、三月の全国
選抜大会で三位の実力を持つ、群馬女子短
大附属でした。やはり、遠征等でお互いの
得意技を知っているだけに、一瞬も気を抜
くひまもなく、自分に与えられている時間
をどれだけ有効に使えるかというぐらいの
勝負でした。先鋒の伊藤が面を取られたが、
次鋒の栗本が面を取り返して一本勝ち。中
堅の森が小手と胴を二本決めて逆転した。
副将の私は一本を奪われながら時間まぎわ
に引き小手を決めて引き分け、そのまま大
将の坪井も引き分けて二回戦へ進出するこ
とができました。今までに全国大会へ三回
出場していますが、ベスト8に残ったのは
今回が初めてだったのでごくうれしかつ
たです。

準々決勝は、昨年京都インターハイの子
選りリーグで惜敗している、京都府日吉ヶ丘

全国教職員

剣道大会に参加して

城ノ内高校教諭 森 幸子



平成十年八月十日、盛夏——。第四十回全国教職員剣道大会が大阪府立体育館において

高校との試合だけに、チームが一丸となって、相手より気負い負けせず全力で勝負を挑みました。先鋒の伊藤が二本勝ちし、幸先のいいスタートでしたが、次鋒の栗本が一本を取られ、中堅、副将とも引き分けて、大将戦になった。大将の坪井は前後に細かく動いて相手のペースにならないようにして、このまま逃げ切りそうであったが、延長の終盤で相手の逆引き胴に赤旗が三本上がってしまいました。ほんの一瞬の隙で逆転負けを喫し、試合は終わりました。

盛大に開催された。六月に県予選が行われ、このような大きな大会に出場ができることが決まった時は、私自身とても信じ難く思っている、細々とでもここまで剣道を続けてきて、本当によかった。と正直心から嬉しく思った。と同時に、全国レベルの強豪相手に果たして自分がどこまでの試合ができるだろうか、と不安の気持ちで一杯であった。そして、あせる気持ちばかりが募るまま、とうとう試合当日を向かえた。

私達のために日々一生懸命ご指導して頂いた河田先生を始め、温かく応援して下さった保護者の方々に感謝したいと思いません。そして一緒に頑張ってきた仲間達、ほんとうにありがとうございます。私にとつては忘れることのできない思い出になりました。

本大会では、女子は個人戦のみに出場できる。実を言うと、私は個人戦に対して前々から苦手意識を持っていた。下手に打つて

いけば打たれそうな気がして思い切った技を出すことができず、決着がつくまで永遠とも思えるような延長戦が続く。そしてそのうち、何を打っていいのか分からなくなる。体力も気力もなくなり、もういいだろうという気持ちになってくる。そして負ける——。勝ちたいと思う「欲」が足りないのか。いや、実はそこには自分自身との闘いがあり、甘えや迷いが心を覆い、結局は私自身との闘いに敗れ、私はさんざんシツポを振って逃げ出してきたのだった。今回の試合ではこの苦手意識を拭い去る為にも、ただただ最後の最後まであきらめないようにしようと思った。

初戦は新潟県代表選手を延長の末敗り、勝ち上がってきた神奈川県代表選手との対戦であった。私の脳裏には様々な思いがかけめぐり、体中の筋肉が硬直していくのが分かった。しかし、あわよくば全国の大舞台で一勝でも挙げる事ができれば、この本場に小さな野望を抱きつつ、ここまできたら自分の持てる力を存分に出し切ろうと思いつつ、いよいよその時を迎えた。

予想通り、緊張と稽古不足のためか、足も手も思うように動かず、打たれないようにするので精一杯の試合になった。そして延長戦。どこからともなく「息も苦しいし、もういいだろう。」と聞こえてきた。このままおいしい技一本も出せないまま終わってしまうのか。また自分に負けそうになる。何度も何度も甘いささやきに耳をふさいだ。幸いにも監督の塩田先生や男子団体戦、個人戦にも出場された先生方の激励があり、何とか粘ることができ、最終的には引き面を取ることができた。

ほっと一息ついたのもつかの間、続けるの三回戦は福井県代表選手との対戦であった。これも延長戦に突入したが、初戦に比べ、思い切った技が少しずつ出せるようになった。結局は相面で敗れてしまったのだが、思い切った技で敗れたとあって、何となくすっきりした気分であった。しかし、どんどん欲というものは出てくるもので、最初は一回戦突破で十分だと思っていたのに終わってみればもう一回は勝ちたかったな、と自分の実力を棚に上げて考えたりし

ていた。やはり、もっともっと稽古を積んでいかなければいけないと再認識した。

この大会で様々な全国の強豪選手の試合を見るのができ、また自分もそのような中で試合ができたことは、とてもよい勉強になり、今後の稽古に対する意欲も湧いてくるなどして、もっともっと技術面も精神面も磨いていきたいと思う絶好の機会となった。このような素晴らしい経験ができたのも、剣道連盟、学剣連の先生方をはじめ、諸先輩方のおかげと感謝しつつ、さらなる精進をしていきたいと思う。

△団体▽

玉田・白木・佐々木・福多^博・西谷

一回戦 ○徳島 二一〇 神奈川

二回戦 ○徳島 四一一 静岡

三回戦 徳島 〇一三 岡山〇

△個人▽

(高校・高専・大学・教委の部)

一回戦 谷(徳島) — ③松尾(長崎)〇

(中学校の部)

一回戦

○福多^博(徳島) × — 猫塚(岩手)

二回戦 — ③小林(和歌山)〇

(女子の部)

二回戦

○森(徳島) × — 齋藤(神奈川)

三回戦 — ④高嶋(福井)〇



第十八回四国教職員 大会に参加して

阿南工業高校教諭 谷 喜 史



真夏の太陽が身を焦がすような平成十年八月十八日、高知県立武道館において第十八回四国教職員

剣道大会が、開催されました。昨年は徳島県で開催され、三戦全勝で見事優勝を勝ち取りました。今年度も優勝目指して選手一同、一丸となって本大会に臨みました。

八月十七日、会場にて稽古会が開催され、四国四県の選手が剣を交えたわけですが、汗が滝のように流れ落ち、気が遠くなるような暑さでしたが、気迫溢れる稽古が展開され、翌日は素晴らしい大会になることを感じさせられました。

今回、初めてこの大会に参加させて頂いたわけですが徳島県チームの先生方のご配慮で緊張することなく試合に臨むことが

できたように思います。また、私が高校生の中からよく存じ上げている先生方と一緒に試合ができることを、とても嬉しく思いました。

今回、試合に出場させて頂いたのですが、私の試合を振り返ってみると、緊張はしていなかったものの、もつと自分の力を発揮できたのではないかとという反省点と、稽古不足という言葉が浮かんできます。

さて、試合ですが選手全員が自分の持てる力を精一杯発揮されたのではないのでしょうか。一回戦は香川県チームとの対戦でした。二回戦、三回戦も同様に先鋒・笠松選手、次鋒・森選手（共に女子）の両選手の活躍でチームが盛り上がり試合の流れをリードしてくれたような気がします。その後の選手もそれぞれの力を出され、素晴らしい試合を展開されました。その結果、香川県チーム四対二で勝利しました。

二回戦は高知県チームとの対戦です。一回戦の流れを大切にしながら試合に臨んだわけですが、お互いに引かず五分と五分。なかでも九将〜五将までの選手の試合は目

を離せない試合が続き、まさに「手に汗握る接戦」となり勝敗は四将以降に掛かってきました。

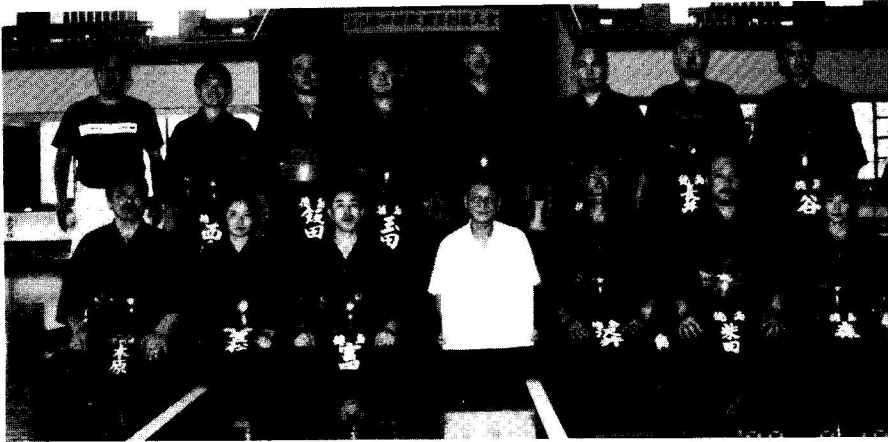
しかし、一歩及ばず五対二で敗れてしまいました。しかし、気持ちの良い試合でした。

午前は各県とも二試合ずつ消化し、昼食時間となりました。試合内容を振り返ったり、また、次の試合への活力を蓄えました。さすがに各選手とも暑さも加わり疲れがあったようですが、試合前には全員気合いを入れ直し最終戦へと向かいました。

三回戦は愛媛県チームとの対戦です。昼食時間の休憩で活力を蓄えられたのか、二回戦にもまして気力溢れる試合展開でした。先鋒から七将までは五分五分。しかし、六将から大将まで快進撃が続きこの勝負を決めました。結果、愛媛県チームに五対二で勝利したので、結局二勝一敗で、準優勝という結果でした。

この二日間の稽古会・試合を通じて、他県の先生方とも親睦を深められ、私にとつて得る事が沢山あり有意義な大会であったと実感しています。また、このような機会

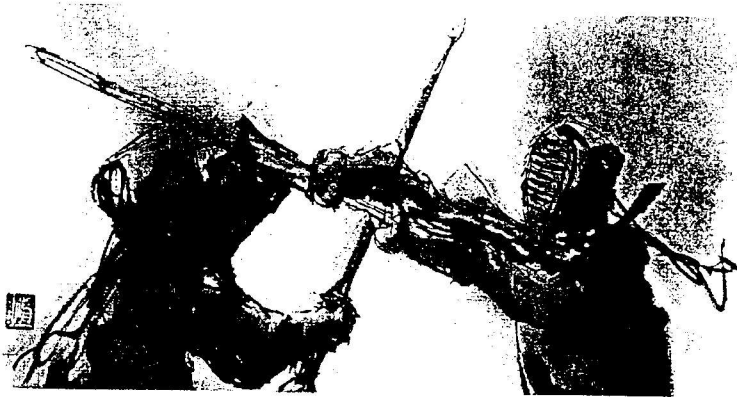
を与えて下さった先生方や関係の皆様方に
深く感謝し、お礼申し上げ報告とさせていただきます。



		先	次	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	副	大	得点
第一試合	香	谷本	諏訪	立岩	銭谷	福原	竹下	土居	香川	小川	井上	大林	大山	長尾	二
	川	×	メ		×			×	メコ		メ		×	×	五
	徳		メ	メメ		メメ	メメ			ドコ		×	×	メ	十
	島	笠松	森	谷	長井	飯田	西山	玉田	佐々木	白木	柴田	木原	富田	沢井	四

		先	次	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	副	大	得点
第二試合	高	町田	下坂	竹田	大塚	東野	石田志	石田久	田村	久保	西村	下坂	中野	小松	五
	知		コメ	メメ			×	×		反	メメ	メメ	メメ	×	十一
	徳	コ		メ		メメ				メ		メ			六
	島	笠松	森	谷	長井	飯田	西山	玉田	佐々木	白木	柴田	木原	富田	沢井	二

第 三 試 合		先	次	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	副	大	得点
	徳	笠 松	森	谷	長 井	飯 田	西 山	玉 田	佐 々 本	白 木	柴 田	木 原	富 田	沢 井	五
	島	コ	メ		メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	十一
	愛			メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	メ	六
	田	小	二	越	曾	網	増	近	菅	青	信	馬	戸	一	
媛	村	笠	神	智	我	本	田	藤		野	尾	詰	梶	一	



国際社会人剣道クラブ

全国例会に参加して

阿南支部 米倉 滋

平成十年度の国際社会人剣道クラブの全国例会は、十一月六日から八日までの三日間、愛知県蒲郡市体育センターにおいて、全国六地区一二四名の剣士が参加して行われました。

大会の様様及び結果については、国際社会人剣道クラブの紹介をふまえながら述べていきます。

国際社会人剣道クラブは、昭和四十年「剣道を通じ寛容と奉仕の精神により国際親善に寄与する。」ことを目的として発足しました。

現在の全国会員数は、約六百名（徳島県は四名）で、「寛容と奉仕の精神」のもと、剣道を愛する人は段位の上下、技術の上手下手にかかわらず皆平等であり、みんな同じ資格をもった同志であるという精神でクラブが運営されています。この同志的結合



国際社会人剣道クラブ・近畿クラブ稽古会

がこのクラブの大きな特徴であると言えます。

入会資格は、剣道を愛し、実際に道場に立って稽古をしている剣道人で、会員二名以上の推薦が条件となっています。

活動は、各地区々クラブ（東北、北海道・関東・東海・近畿・中国・九州の六地区）での月例稽古会等が主になっており、平成十年六月には、近畿地区クラブの会員二十名が来県、近畿地区クラブの月例稽古会を徳島で実施しました。

全国的には、五月（京都会大会開催中）の全国総会、十一月の全国例会（大会及び稽古会）、その他に海外への親善稽古、関係剣道大会の主催・後援などを行っています。

全国例会での剣道大会は、個人選戦と団体戦が行われますが、試合といっても和気あいあいとしており、たとえば、個人戦では三分一本勝負で勝敗が決まらなかった場合は「じゃんけん」での勝負となります。また、試合の審判もあいている人が審判に立つといった具合で、七段の試合を六段の人が審判することもあり、そういったこと

にこだわらない。必要以上に上下関係にこだわらず勝ち負けや技術の向上を追求するよりも、剣道を純粹に楽しむといった感じ
です。

私は、十一月七日の稽古会に続き、八日の個人戦（一〇二名出場）に臨みましたが準々決勝（五回戦）で関東地区クラブの選手に敗れました。

敗れて良し、勝つてなお良し、剣道を楽しみながら、さわやかな汗を流した二日間
でした。

第二十八回

全国中学校剣道大会

女子個人戦に準優勝して

那賀川中学校 中山 希実子



昨年の八月二十三日、青森県弘前市民体育館において、全国中学校剣道大会女子個人決勝が行なわれました。

「赤、徳島県那賀川中学校、中山希実子選手。白、栃木県石橋中学校、高村久美子選手」と場内アナウンスがありました。そして、会場からは私が今までに経験したことがないような大きな拍手を受けて、決勝

戦が始まりました。

剣道時代十月号に決勝戦の様子が載せられていましたのでご紹介します。

「体格は決して恵まれていないが、力強い剣遣いで勝ち上がった高村選手。対する中山選手は手元の柔らかい剣風で二年生ながら決勝進出を果たした。高村選手が先をかけて攻め、引きメンを奪えば、中山選手も鏝ぜり合いから引きドウを取り返し、一步も譲らない。延長戦に入っても両選手の果敢な攻防が続いたが、高村選手が剣先低く攻めてコテに跳び込むと、これが決まり、熱戦にピリオドを打った」と書いていました。

私は二年生で県大会で優勝することができ、全国大会に出場するだけで満足してました。せめて一回戦だけでも勝てればと思っていたのが、決勝戦に進めるなんてまるで夢のようでした。

応援に来ていた、父や母も「奇跡が起こってしまったね」と言っていて、喜んでくれました。

決勝戦では負けましたが、出場した九十

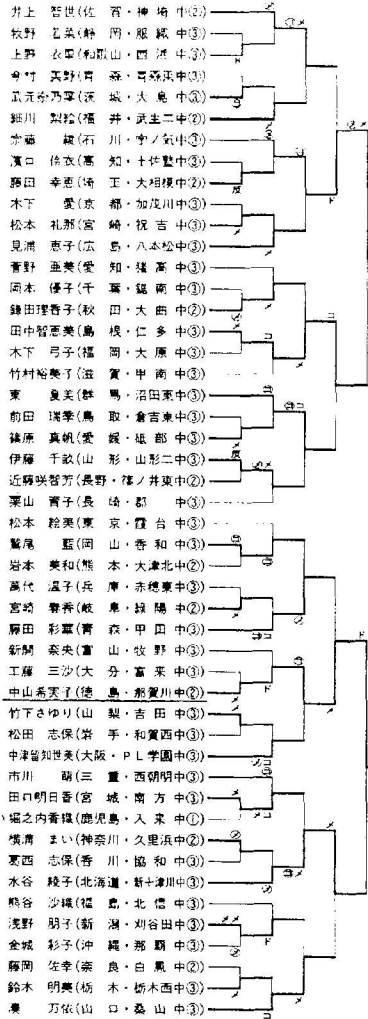
六名の中で第二位になれたことは、私にとつて大きな自信になりました。そしてこの大会では、攻撃の剣道や打突の強さ、礼儀作法の大切さなど多くのことを学びました。これらを今後の課題として練習に取り組むつもりです。

閉会式では、優勝した高村さんから「来年も頑張ってください」と気軽に声を掛けていただき、とても嬉しかったです。

来年の全国大会に向けて、練習がスタートしましたが、気を抜かずに集中して、自分から苦しい練習を求めて努力したいと思います。そして祖父から教えられた「素直な心と感謝の心」を忘れないように頑張ります。

最後になりましたが、日頃ご指導いただいている木下先生、坪井先生。一年生の時にご指導いただいた鳴川先生。小学校時代からご指導をいただいている徳島至誠館の先生方にご心からお礼を申し上げます。

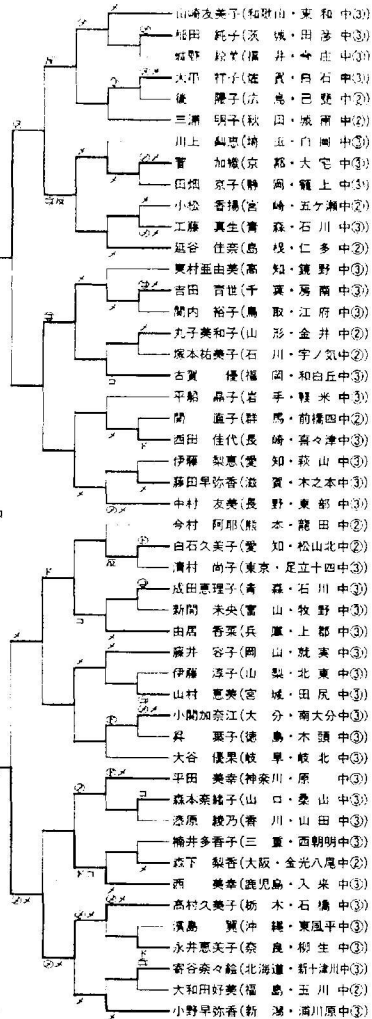




【女子個人戦】

優勝・高村久美子二段(石橋中・栃木)

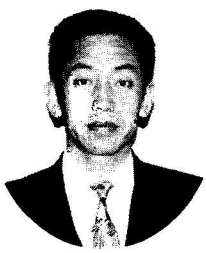
○内の数字は学年



第三十六回四国中学校 総合体育大会を終えて

中体連剣道専門部長

村井正志



高知県立武道館に
おいて八月十日(月)
に四国中学校総合体
育大会が行われまし
た。徳島県代表チー

ムは、男女とも上位に入賞する実力があり
大会前よりかなりの期待はありました。特
に女子団体選では那賀川中学校に期待が
かり、私自身もまず優勝は間違いないもの
とっていました。また男子団体選におい
ても四国四県のチームの力がよく似ており
どこの学校にも優勝のチャンスはあったと
思います。
しかし、結果は本命とされていた女子
の那賀川中学校が準優勝、男子は阿南第一
中学校が準優勝、相生中学校が三位という
結果に終わってしまいました。女子の那賀

川中学校は自分たちの力を全て発揮しようと努力したと思うのですが、相手チーム（愛媛県一本松中学校）はそれ以上に勝負に対する厳しさがあつたのではないかと思われます。男子の阿南第一中学校は準決勝で相生中学校と対戦することになり、くしくも二年連続四国大会での準決勝対決となりました。

上述したように男子も女子同様決勝に進出したのですが、これで優勝できるとの気負いすぎからか開催県の鏡野中学校に敗れてしまいました。個人戦も団体戦同様、上位入賞できる実力の選手も数名いたのですが、男子個人戦は、市場中学の田中翔選手が、男子個人戦が最高でした。

全国的にみて四国の剣道のレベルはまだまだと思われていた昔と比べ、ここ数年の四国四県の剣道も非常にレベルアップした感があります。ここ数年のデータからもわかるように男子では昨年度、全国中学校剣道大会準優勝の香川県土庄中学校、今年度は愛媛県の新居浜南中学校、女子においては数年前に全国中学校剣道大会で優勝、準

全日本女子剣道

選手権に出場して

筑波大二年 坪井 さくら



今回で三回目の出場となった。常連の選手と若い選手が入り混じり、初出場した四年前に比べ多少

顔ぶれが変わっているなと思った。最年長の選手は三十四歳、最年少の選手は十八歳と年齢層の幅が広がり、平均年齢も少し高くなっていった。それにともない、試合内容も風格があり、しっかりした剣道をする選手が増えていた。

一回戦 敗退

対 谷山選手（京都府代表）

延長 メン（一本負け）

谷山選手はこの大会は常連で、常に上位に入賞されている選手だ。実は試合で対戦するのは初めてだが、大会前に一度、国体の練習会で二試合ほど試合をさせていた

優勝した本県的那賀川中学校、また全国中学校剣道大会に出場こそ逃したものの夏の県総合体育大会までの大会で活躍しその年の全国中学校剣道大会の優勝候補の本命とされていた香川県の香東中学校……ここ数年四国のたくさんの学校が、全国から注目されだしました。そういったなかで、徳島県チームはその年の全国中学校剣道大会で入賞したチームに幾度となく競り勝っているのも見逃せない事実です。このような本県中学校の剣道のレベルアップも県剣道連盟の各先生方、各少年剣道教室の先生方、私たち中体連の基礎を作って下さった諸先輩先生方のお陰だと感謝しております。

第三十六回四国中学総体を終えてということ、結果は勿論、その他私を感じるままにいろいろと述べさせてもらいました。

現在、中体連には若い先生方が次々とたくさん育ってきています。

四国大会のみならず、できることなら全国で通用する選手を数多く育てていきたいと思いますので今後とも中体連剣道専門部をよろしくお願い致します。

いていた。だから多少お互いの手の内を知っていた。しかし、練習試合と本当の試合は全然違う。こんな大舞台で日本を代表する選手と試合できる機会は一生ないかもしれないと思い、胸を借りるつもりで試合をしようと思がけた。けれども、練習試合の影響か、谷山選手も私もいつもの調子ではなく、必要以上に警戒して仲々有効打突が打てなかった。そして、いつの間にか四分が過ぎ延長戦へ突入した。十分から十五分ぐらいの攻防の末、私が中途半端にメンを打ちにいかうとしたところにメンを合わされ勝負がついた。集中力と一本に対する気持ち谷山選手は私より強かった。負けても悔いはないと言えば嘘になるが、それ以上にとっても勉強になった。大人の剣道というか、高校生や大学生とは打つ機会が違う、相手の気が抜けたところや居ついたところ、迷ったところをすかさず打ちこんでいた。

優勝は神奈川県代表の大塚真由美選手だった。実に二十八歳で二連覇、三回目の優勝という偉業を果たされた。他にもベスト八には大学生が二名であとの六名は社会人ば

かりだった。この結果で感じたことは、やはり剣道はパワーやスピードだけで勝てる競技ではないと思った。とくに女性は体力の落ちるスピードが男性に比べて速い。社会人になれば学生のときのように十分な環境で練習できなくなる。また、結婚や妊娠、出産でやむをえず剣道を中断しなければならぬ。それでも第一線で活躍されている選手が増えている。これは女子剣道の質が向上している証拠だと思った。毎日稽古ができない状況だからこそ、一本一本の稽古に工夫と目標を持って内容の濃い剣道ができるのであろう。

今の私は毎日たいへん恵まれた環境で稽古をしているし、体も思ったように動く。しかし数年後には今のような状況で剣道はできないであろう。そうなるから練習の仕方によっていくらでも進歩できるのが剣道のすばらしさである。今後も機会があればこの大会に出場し、自分の剣道を見直し、深めていきたい。

初めての国体出場

阿南支部 安 藝 ますみ

第五十三回国民総合体育大会出場をかけたの予選が七月十九日高知武道館にて行われました。

一回戦、二回戦と、苦戦しながらも勝ち進みいよいよ最終戦、対する相手は高知県



先鋒・坪井選手は、技、動きとも充実し、見事な試合、一勝を先取した。

「あと一勝すれば、神奈川県ゆめ国体への切符を手にすることができる。」と、頭の中を一瞬過ぎました。

どういう状況下に置かれても動ぜず常に平常心を持ち、これが私のモットーの一つなのですがそんな事など何処へやら、頭の中はプレッシャーで一杯、あつと言う間に試合時間終了一本負け、自分の試合内容は反省する事ばかりでした。そして勝負は大將・手塚先生へともつれ込んだ。両者一歩も譲らず、気迫のこもった試合でしたが終わってみれば一本負け、試合が終わって、「やはり今年は無理だったか」と肩を落とし退場しようとした時、応援して下さった先生方が「おめでとう、一本差で国体出場や」と迎えて下さいました。選手誰もがあきらめかけていたのに終わってみれば徳島が一位となっていました。高知県に負けはしたものの成績を見るとリーグ戦と言う事もあって、徳島二勝一敗、高知も二勝一敗、わずか一本差で、徳島が出場す

る事になりました。

それから三ヶ月、平成十年十月二十四日、神奈川県箱根にて「ゆめ国体」が開催されました。平成八年のリハーサル大会、昨年の大会は二階観覧席から、手に汗握り応援したが、今年はコートの中に立つ事ができ

第53回 国民体育大会 剣道競技

No. 4		第53回 国民体育大会 剣道競技 (成年女子)		種別		大会	
1回戦	2回戦	3回戦	4回戦	5回戦	6回戦	7回戦	8回戦
秋田 秋田 敬太	徳島 徳島 賢光	松本 松本 悠	手塚 手塚 大	高橋 高橋 高	志田 志田 高	0	0
8分25秒	4分00秒	3分14秒	3	4			

る。そう思っただけで胸が高鳴った。

入場行進では、これまでご指導くださった先生方に感謝しながら一歩一歩胸を張り行進しました。

試合会場では、左を見ても右を見ても強豪そうな選手ばかり、それもそのはず、皆

第53回 国民体育大会 剣道競技

No. 50		第53回 国民体育大会 剣道競技 (成年女子)		種別		大会	
1回戦	2回戦	3回戦	4回戦	5回戦	6回戦	7回戦	8回戦
徳島 徳島 賢光	神奈川 神奈川 大塚	高橋 高橋 高	志田 志田 高	手塚 手塚 大	坪井 坪井 大	2	3
10分59秒	4分00秒	4分00秒	4分00秒	1	2		

予選を勝ち上がってきた選手ばかりなので
すから……。

そしていよいよ試合開始。

一回戦、対秋田県戦は三―〇で徳島県の
圧勝。

二回戦、地元神奈川との対戦、先鋒・坪
井選手は、全日本チャンピオンである神奈
川の大家選手に見事な技で勝ちました。し
かし、続く私と手塚先生が一本負けて神奈
川が三回戦へ進みました。

その後、神奈川は順調に勝ち進み決勝へ
とこまを進めました。決勝戦ともなれば、
見応えのある試合内容、結局神奈川が優勝
しました。

今回、国体出場して試合が終了し、一つ
わかった事。それは精神力・技力・体力全
てを兼ね備えていなければ頂点に立つ事は
出来ない。そして、何より大切なのは精神
力であると言う事。いくら技力、体力が並
外れていたとしても精神力が劣っているは
一〇〇%の力を発揮する事は出来ない。私
は男子・女子の決勝戦を見てそう思いまし
た。

七月の四国予選から、十月の国体終了ま

で遠征やら何やらで仕事を持つ私にとって、
剣道との両立は少々無理があると思いまし
たが、幸い私の勤務する(株)総合警備保障で
は、国体出場に際し、多大な配慮をして頂
き、心配する事なく他の選手といっしょに
行動でき、貴重な経験をする事が出来た事
をありがたく思っています。

家庭を持ち、仕事をしている女性剣士に
とって両立はなかなかむずかしいとは思
いますが、私の味わった何とも言えない三カ
月間を一人でも多くの女性に体験してい
てほしい。そして今年より来年、上へ上へ
と期待してペンを置きたいと思えます。



第三十三回

全日本居合道大会に

監督として参加して

監督 高橋 憲 司



大会前日、接近中
の台風十号の進路を
気にかけてながらの広
島入りとなった。大
会を主管する地元広

島県剣連が手配して下さったタクシーで、
丁度同じ時刻新幹線より降り立った大阪の
監督さんと七段の選手の方と同乗して折か
ら市内の大渋滞の中を宿舍に向かった。一
旦宿舍に荷物を預けて監督会議に出席する
べく、今度は約二キロ半位の距離に在る大
会会場へ市内を歩いてみる事にした。会場
の県立総合体育館大アリーナは広島市のシ
ンボルである原爆ドームのほぼ北五百メー
トル余に位置して、監督会議に出席した後、
試合会場を下見に寄ったが、さすが中・四
国一の都市にあつて立派な施設・設備であつ

た。

大会当日、全国四十七都道府県の選手入場が続いて開会式の後、五・六・七段の三会場同時にトーナメント方式による優勝試合が開始された。まず本県選手の成績は五段・高野康寛選手は、一回戦不戦勝のあと二回戦鳥取と対戦して一対二で惜敗。六段・坂本憲一選手は、一回戦青森に二対一で勝ち二回戦に進んだが地元広島と対戦して〇対三で負け。七段・前田健志選手は、一回戦三対〇で福井に勝って二回戦宮崎と対戦したが〇対三で敗退。総合成績は得点三・旗数九であり、全国順位は二十八位であった。ちなみに本大会の優勝は得点十三・旗数三十八の地元広島であり、二位東京（得点十二・旗数三十三）、三位北海道（同十一・同二十八）であった。個人では五段優勝が市川（東京）、二位柏原（広島）、六段は優勝が国方（広島）、二位森田（京都）、七段戦は金田（東京）が三連覇で制し、二位井手（福岡）の各選手であった。

試合勝敗の傾向について、あくまでも個人的な見解であるが、体勢の安定、手の内

を含めて剣の運び、所作の正確さと大きさ、加えて十分の間（時間的）を取った演武に旗が上がっているように見受けられる。演武者両者を比較しての事であって、仮想敵との間合い・間又理合については必ずしも重視されていないのではとの感じがしてならない。これは全剣連居合が普及しその解枳が一般化した結果との見方もできる。勿論先に言った事柄は居合演武上重要な点であるが、合理的な居合であるか否かの点についての配点は少ないと思われる。然しながらどのような事象も絶えず変化、変遷している訳で、時勢に対応していく姿勢がよく進歩を促し、延べては伝統を継承していく事に他ならないと思われ、今後それ等事柄への取組が重要と改めて認識させられた。

台風十号の接近に伴って交通機関の運休や高速道路の通行止め等のニュースが報じられ、個人演武に参加した人達の中には早々に会場を離れた人もあり、閉会式の後次年度開催地である天童市での再会を約して風雨が強くなった会場を後にした。

全国青年大会に参加して

阿南支部 二反田 和 則

平成十年十一月六・七・八日、東京武道館に於いて、第四十七回の青年大会に出場して来ました。大会のテーマは「友愛と共励」ということで、大会を通じて相互の友好親善を深めるとのことでありましたが当初、自分はチーム（剣道部）のことしか頭になく、チームからずれていたように感じていました。しかし、開会式は四国ブロックで応援合戦やブロック別対抗種目が多くあり、他のチームと一つになり、協力しなければ出来ない事が沢山ありました。

七日、いよいよ東京武道館で初日団体戦を迎える事になりました。三ヶ月間皆と共に汗を流してきた成果を出す時が、刻一刻とやって来ました。ウォーミングアップ、開会式が終了し、一回戦第三試合場で宮城県と対戦しました。

宮城県

徳島県

西岡 (メ)

猪原 (熊本)

先千葉 (メ)

岩尾

二回戦

次高橋 (メ)

甘利

西岡 (メ)

金城 (沖縄)

中佐々木 (コ)

湯浅

三回戦

副高橋 (メ)

西岡

西岡 (メ)

萩原 (東京)

大安部 (メ)

二反田

女子 一回戦

9 / 4

4 / 1

田中 (コ)

藤ノ木 (新潟)

一勝四敗で初戦突破することができま
せんでした。結果は大差ですが、内容は濃く、
一本一本に拍手喝采で熱のこもった試合で
した。これも選手一人一人が真剣に取り組
んでいたからだと思います。男子団体は茨
城県が勝ち二―二の本数勝ちで二連覇達成
でした。参考に女子の部は宮城県が優勝で
した。

八日、個人戦初日の悔しさバネに試合に
臨みました。結果は次の通りです。

一回戦

二反田 (ト) (メ) 岩野 (岡山)

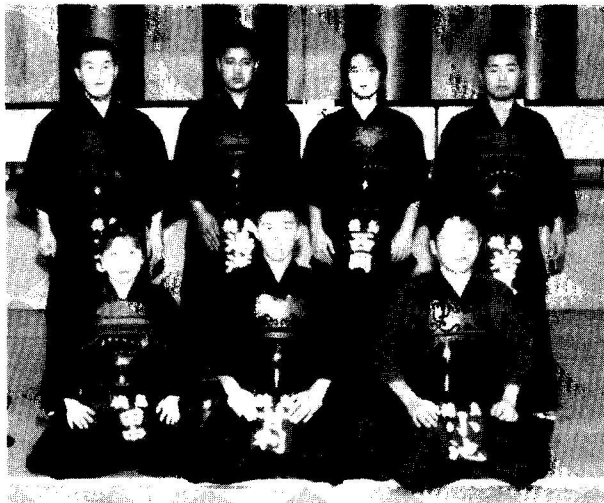
岩尾 (コ) 中野 (東京)

甘利 (メ) 国重 (兵庫)

湯浅 (メ) 風間 (新潟)

小池 (コ) 水賀美 (岩手)

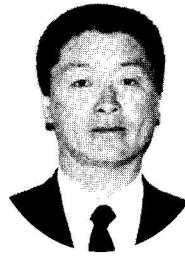
今回、二日目通して色々な事を学びまし
た。とくに初日の団体戦終了後の交流稽古
で他県選手と竹刀を交え、気剣体どれを取っ
ても自分達以上のものがあり、今後の練習
に効果的に組み込んでいこうと思っていま
す。今回は初出場者がほとんどだったので
大会の雰囲気は飲まれていた様な気がしま
す。数多くの良い体験をしたので次の出場
に向かって、気剣体を今以上に鍛えなけれ
ばという気持ちで一杯です。本当にいい時
期に良い体験をしたこと、又今回出場に当
たり各方面の皆様から沢山の援助を頂き心
より感謝しております。有難うございま
した。



全国警察剣道

大会を終えて

警察支部 近藤 巨



平成十年度全国警察剣道大会が十一月六日(金)日本武道館において開催されました。

大会は、昨年より二部制から三部制(一部十二チーム・二部十八チーム・三部十八チーム)に変わり行なわれ、本県は二部で出場しました。

二部の試合は、十八チームを三チームづつに分け一次リーグ戦を行い、勝ちあがった六チームを再び三チームづつに分け、二次リーグ戦を行なった後、上位二チームにより決勝戦が行なわれます。なお二次リーグ戦で一位・二位の四チームは、次年度一部に昇格できますが、一次リーグ戦で最下位の六チームは、三部に転落というなかなか厳しいルールとなっており、各試合とも

白熱した試合が展開されました。

△大会結果▽

第一部 優勝 神奈川県警察

準優勝 警視庁

三位 香川県警察

第二部 優勝 鹿児島県警察

準優勝 愛媛県警察

三位 福岡県警察

第三部 優勝 三重県警察

準優勝 秋田県警察

三位 富山県警察

△出場選手▽

徳島西署 四段 山室 雅幹

機動隊 三段 森 晋作

〃 四段 富 沢 憲市

〃 五段 富 田 圭介

〃 〃 小坂 治

〃 六段 岩 木 一功

〃 〃 吉 田 茂生

〃 〃 平 尾 満紀

〃 〃 平 野 誠司

本県は、予選リーグで鹿児島県・宮城県と対戦しました。庭児島県は、今年の管区

大会で優勝している強豪チームです。本県は、主将平野選手を負傷で欠き、苦しい展開が予想されました。

◇リーグ一回戦

鹿児島県警 徳島県警

先鋒 東後藤メー 山室

六将 外 園メメー 富 沢

五将 白 坂コー 富 田

四将 末 益コメー 小 坂

三将 野 間 × 吉 田

副将 渡 口メー 岩 木

大将 中 水メ×メ平 尾

結果はご覧のとおり0-5と完敗でした。

終始先手をとられ、後手にまわる悪いパターンとなり、四将戦までで勝負がついてしまいました。

続いて宮城戦。これで破れると三部転落です。「三部には落ちたくない。」これが偽らざる気持ちでした。

◇リーグ二回戦

宮城県警 徳島県警

先鋒 澤 田 ー 山 室

六将 齊 藤メー 富 沢

五将 大野 × 富田
四将 名生 コー 小坂
三将 高嶋 メー 吉田
副将 大浦 ー コメ 岩木
大将 佐藤 ー コメ 平尾

先鋒山室選手の鮮やかな面が決まり、幸先のいいスタートを切りました。しかし、六将富沢選手、初陣の緊張からか力を出し切れず面の一本負けで振り出しに戻りました。五将富田選手の引き分けを挟み、四将小坂選手が延長の末小手をとられ、続く三将吉田選手も面を打たれ、この時点で一勝三敗と後がなく「万事休す」かと思われました。

しかし、ここからの副将岩木選手、大将平尾選手の反撃はすばらしいの一語につきます。岩木選手の基本打ちをみるような腰の入った面、そして小手。平尾選手は、得意技の面返し面が見事に決まり、その後も攻めを緩めず小手をとり二本勝ちをおさめました。

結局3-3、本数勝ちで、辛うじて二部にとどまることができました。

こうして今年の総決算ともいべき全国大会が終わりましたが、多くの課題を与えられました。来年の大会にむけ、一人一人が自覚を持って地道に稽古に打ち込み、課題を克服していくしかありません。

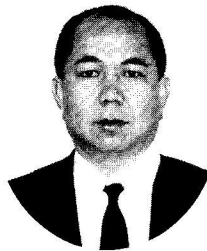
終りになりましたが、今大会に出場するに際してご支援ご激励いただきました皆様方にお礼を申し上げ、ご報告といたします。



中倉旗に出場して

石井中学教諭

白木洋一



剣道連盟からの中倉旗出場の推薦を受けたとき、私の心の中で「今度こそ納得のいく試合をしよう。」

という思いがこみあげてきた。それというのも、数年前初めて中倉旗に出場させていただいたときに、本当に納得のいかない負けかたをしてしまったからだ。

もうないと思っただけに、このチャンスを生かさなければという思いでいっぱいであった。週二回の警察学校の稽古に加え、毎週金曜日の名西支部の稽古、実際には阿波支部でも稽古をいたたくとともに、学校では生徒ともに基本稽古に汗を流した。これぐらいではまだまだなのであろうが、自分としては疲れがたまってしまいうぐらい十分稽古ができた。ともあれ、自分なりに

な結果が出せず申し訳ない限りであるが。私自身としては、同級生に会えたことと同級生から大切な一言をもらったことがこの大会に出場した大きな成果となった。

試合に向けてコンディションを整えにくい環境にあっても、常にベストな状態を保ち勝負においては妥協を許さない。すばらしい大会に参加させていただいたことを感謝するとともに、大会に向けて稽古をつけて頂いた名西支部の先生方・連盟の稽古会に参加の先生方阿波支部の先生方に感謝し、中倉旗争奪剣道選手権大会の報告とさせていただきます。

第二十回全国高齢者

武道大会に参加して

徳島県高輪剣友会

西岡金若

みだしの大会が平成十年六月八日、(財)全国老人福祉助成会主催、全国高齢剣友会共催のもとに日本武道館において開催されました。本県からは、勝浦守前会長以下十五名が参加しました。

特組では早川一也先生が決勝で二刀と対戦、熱戦の末惜しくも準優勝となられました。しかし、決勝戦に至るまでの試合数は七回を数え、その一試合一試合が一瞬の気を抜くことも許されぬ闘いであることを思えば誠にお見事と脱帽せざるを得ません。

次に、A組では、本大会の上位入賞の常連として注目されている遠藤一美先生が、昨年続き、準優勝されました。先生は通算で優勝一回、準優勝三回、三位二回と輝かしい記録を樹立されたことになりました。お忙しい県議会議員生活の中で寸暇を惜し

み、稽古に精進されていることがこの成果となつて私を私どもは肝に銘じ、範としなければと強く思う次第であります。

三回戦進出者、南 充美、東内 勉

なお、本大会は二十回記念であることから剣道形はもとより、銃剣道形、なぎなた合同演武、居合道、試し斬り、剣道対銃剣



道、剣道対なぎなたそれぞれ二組づつの異種試合、舞踊等、盛り沢山な催しが日本武道館いっぱいになり広げられました。それらはすべて武道につながりを持ったものだけに感銘深いものでありました。

なかでも、八十六才のなぎなた選手（女性）対銃剣道の試合ではなぎなたが見事「おすね」を取ったとたん足がすべって仰向けに転倒し、ヒヤッとさせられました。

しかし、元気に立ち上がり、勝利を得たのには観る者すべて驚くと同時に万雷の拍手がおこりました。武道の真髓ここにありの感を覚えました。

次に、今大会の全国からの出場者をプログラムで見ると、剣道、銃剣道、なぎなた三道合わせた出場者は五七六名でした。その内訳は、剣道三九六名、銃剣道一〇〇名、なぎなた八〇名でした。剣道での最高齢は九十三才一名、九十才以上六名、銃剣道は八十八才一名、なぎなた八十六才一名で数においても年齢においても剣道が断然他を抜いていることがわかります。よく剣道の競技年齢が他のスポーツに比べ長いと言わ

れています。この大会においても十分実証されていると思います。

次に、三道合わせた都道府県別出場者数の番付を見ると、東京の一二九名をトップに、二位神奈川県、千葉の五八名、三位四五名と続き、わが徳島は八位十八名となっております。過去の記録によると十八名が三回あり、平成元年には最高の十九名出場しています。

小さな県としては出場者数、戦績ともに剣道人口の多い県と比較して遜色ないと言えます。これは、剣友会創立（昭和六十一年）後はもとより、それ以前の昭和五十五年、二回大会以来の勝浦、西野両先生のたゆまぬご尽力によるものであることを銘記しなければならぬと思います。

第二回大会以来十回以上の出場者（敬称略）

- 十八回 西野 四郎（80才）
- 十七回 平岡 竹雄（84才）連続
- 十六回 勝浦 守（80才）
- 十五回 一村喜佐男（85才）
- 十三回 清原 栄（故人）連続

吉田 租（76才）連続
十二回 高橋 静夫（80才）

阿部 全司（76才）連続
近藤 康次（71才）連続

十一回 遠藤 一美（73才）
阿部国太郎（故人）
以上十一名。

付記

恒例により、大会に備え、早めに東京入りして三菱道場、野間道場、西山道場で稽古をさせていただき、変わらぬご厚情を賜わったこと、また一行の付き添いとして遠藤洋雅氏が同行され、何かと配意、万般のお世話をしてくださったことを付記して御礼にかえさせていただきます。

第十一回全国健康福祉祭 愛知・名古屋大会

に参加して

監督 西野 四郎

県老人クラブ連合会長中野団長以下選手団及び役員総勢一八〇余名からなる徳島県選手団の結団式が、十月三十日（金）十時から県庁十一階の大会議室にて厳肅裡に挙行されました。

小休止の後、五台のバスに分乗、十一時過ぎ出発、明日の総会開会式当日の天候を気遣いながら明石海橋大橋を渡り、選手団の宿泊地である岐阜県長良川温泉十八楼に到着した時は雨。

しかしながら、翌三十一日は雲一つない晴天に恵まれ、「年の輪・人の輪・元気の輪」をスローガンとした「ねんりんピック'98愛知・名古屋大会」の総会開会式が、名古屋市瑞穂公園陸上運動場で華々しく開催されました。今回は各県とも入場行進に参加する競技種目と観覧席から参加する剣道・

なぎなた・ゴルフ等の二組に分かれての参加となりました。

さすが愛知県だけあって式典前のアトラクションの素晴らしさ、そして常陸の宮御夫妻がご臨席のもと、厳かな裡にも誠に盛大な開会式でした。

中でも名古屋市内に住まわれる『きんさん・ぎんさん』が突然マイクを通して、会場に響き渡る大きな元気な声で「私たちは百六才です。皆さん頑張ってください。そして元気で何時までも長生きして下さい。」とメッセージを戴き、ねんりんピックには誠に相応しい言葉であり、すごく感銘しました。十五時には開会式も成功の裡に幕を閉じ、それぞれ各競技種目別に配車された場所に移動しましたが、配車場所が一般道路の交通の頻繁なバス停であり混雑と渋滞、全く驚きの一言でした。

待つ事二時間でしたが、剣道の開催地である西尾市錦城体育館での歓迎レセプションにはなんとか間に合いました。各都道府県並びに政令都市合わせて五十九チーム全員揃った所で、剣道交流大会会長の本田忠彦市長ご懇篤な挨拶、次いで宮地栄次議長並びに杉山孝雄愛知県剣道連盟会長の温かい歓迎の言葉を戴き、大いに互に明日の健闘を誓い合いながら、宿舎となっている幡豆郡吉良町竜宮ホテルにやっと落ちつきました。

二十時からの夕食懇談会では、約百名の



老剣士が大宴会場に集まり、酒を酌み交わしながら大会の談義で持ち切りでした。

いよいよ十一月一日(日)は大会本番。

五十九チーム三百六十八名の参加で四試合に分かれ、三チームの予選リーグ戦が行われました。徳島県は奈良県・大分県との試合で第二試合場でした。

徳島県は先鋒・張西雅晴、次鋒・佐々木武夫、中堅・西岡金若、副将・佐藤 勇、大将・菱田 晋・交替選手・土井 司の六名で参加しました。

諸般の事情で強化練習は二回しか出来ませんでした。今日の大いに備え、各自それぞれの道場にて鋭意練習に練習を重ねての出場とあって全く気負いする事なく試合に臨みました。

第一回戦、奈良県との試合は〇―五。第二回戦は大分県と対戦でしたが、〇―四。残念ながら、一勝することも出来ず敗退はしました。しかし、選手各位は自分の技量を十分に発揮した素晴らしい見応えのある試合振りでした。

本大会は地元愛知県が三チーム、名古屋

市二チームの五チームが参加し、優勝・準優勝・三位(二チーム)共総て独占。優秀賞を含め五チームが入賞する新記録を樹立す。

平成十五年は、徳島が当番県として第十六回全国健康福祉祭徳島大会が開催される事が決定されています。高齢剣友会会員だけでなく、県剣道連盟として対策を考えて戴くとともに全面的なご協力をお願いし、ご報告とします。

平成十年度

高齢者剣友大会報告

徳島県高齢剣友会

事務局長 東 内 勉

一、第十三回徳島県高齢者剣道交流会

日時 平成十年四月十八日

場所 徳島中央武道館



東京から松島猛全高連理事長ほか四名並びに高知から土佐生涯剣友会門田豊会長ほか九名の先生方

のご臨席を頂くとともに、県下十支部三十二名の剣士(最高齢は一村喜佐男先生八十五才)が元氣よく勢揃いして、午前九時開会となった。恒例により剣道物故者に黙祷を捧げたあと、昭和六十一年の本県高齢剣友会結成以来、会の発展の為、骨身惜しまず実に十二年間余にわたってご尽力された勝浦守前会長、西野四郎前理事長に対し濱田逸郎会長から感謝状と記念品の授与が行



われた。

続いて勝浦、西野両先生からは謝辞とともに剣道形用日本刀一揃いが会長に贈呈された。これまで高齢会専用として所有していなかったところから、両先生のご配慮となったもので会員一同感謝の念を深くした次第である。

次に会長挨拶、松島全高連理事長から祝辞を賜り、演武を皮切りに熱戦の火ぶたが切られた。

(一)、演武

日本剣道形 (前年度優勝阿南支部)

打太刀 有賀秀敏 教士六段

仕太刀 阿部三十三 五段(現六段)

居合道 英信流 平尾勝美 範士八段

いずれも、それぞれ気迫のこもる見事な技を披露された。

(二)、試合

① 団体

・優勝

阿南 A (西岡 侃 有賀秀敏 濱田逸郎)

・準優勝

丹生谷 (佐々木武夫 西岡金若 高田豊)

・三位 鳴門、小松島

② 個人

三位	準優勝	優勝	特組
岡村	蝦名久作	早川一也	A組
島村	西山勝喜	高田豊	B組
美井	菱田晋	高松実	C組
馬西	岡金西	有賀秀敏	
佐藤	大野		

午前中に団体、個人戦が終り、昼食後十三時半からいよいよ本日の目玉、はるばる来徳の東京、高知両剣士との三者対抗交流親善試合となった。

この試合途中、珍しい大粒の電が突然雷鳴とともに落下し、停電で試合中断もしばしばであったが、対戦各剣士はものともせず迫力ある熱戦を展開した。

第一試合

高知対徳島 五勝四敗一引分

徳島の勝ち

第二試合

東京対徳島 四勝三敗三引分

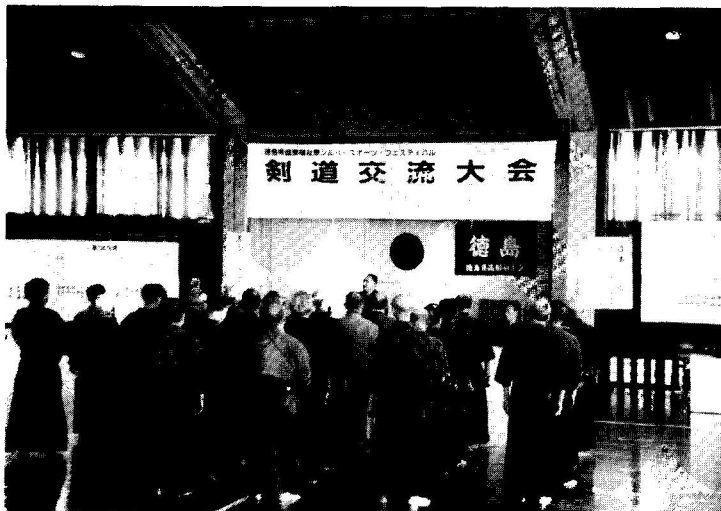
徳島の勝ち

第三試合

東京対高知 五勝四敗一引分

東京の勝ち

以上の成績で徳島が地元の利か優勢のうちに親善交流試合を終え、最後は四十分間、三者入り乱れての交流稽古で快い汗を流した。後は、夜の会場を春日ホテルに移して久しぶりの剣談に花を咲かせた。



なお、大会終了後十月末からの全国健康福祉祭愛知、名古屋大会の選手団が濱田会長から発表された。

監督・西野 四郎 大将・菱田 晋
副将・佐藤 勇 中堅・西岡 金若
次鋒・佐々木武夫 先鋒・張西 雅晴

二、第十回土佐生涯剣友交流大会

「こうちシニアスポーツ交流会」と銘打ち、五月二十一日、高知城近くの県立武道館で開催された。徳島側はねりんピック参加者および県内有志をふくめ総勢十一名、元氣よく立合稽古、A Bの団体組み合わせ試合、合同稽古等で汗を流し、入浴後さわやかな気分で見親会に臨み、楽しいひとときを過ごし一泊した。

また、この日、羽ノ浦剣道朝稽古会より濱田会長を通して新調の徳島県高齢剣友会旗の寄贈があり、一同を感銘させるとともに、この会旗の下にみんなが心を合わせ生涯剣道とともに本県高齢剣友会の発展を誓い合ったところである。

ちなみに、平成十年第二十回全日本高齢者武道大会では全国唯一の会旗としてあの広い武道館内で「徳島」の名が参加者の注目の的となった。

出席者
一村喜佐男 西野 四郎 土井 司
西山 勝喜 濱田 逸郎 菱田 晋
南 充美 佐藤 勇 西岡 金若
佐々木武夫 張西 雅晴 以下十一名

三、第五回徳島県健康福祉祭

ねりんピックシルバースポーツ交流大会

日時 平成十年十月三日

場所 徳島市民吉野川運動場他

前夜来の雨も上がり、からりと晴れたこの日、圓藤知事を始め関係役員、各選手団多数が右場所に集合して午前九時から総合開会式が行われた。

参加種目は卓球、テニス、弓道、ソフトボール、剣道等全部で十二種目、高齢剣からは西野四郎、南 充美、近藤康次、西岡

金若の四名が代表として出席した。開会式終了後それぞれ種目別に各会場に移動して競技に入る。

剣道は午前十時から中央武道館に四十名の剣士が参加して開始、濱田会長の挨拶のあと直ちに演武に入り、

(一) 日本剣道形
打太刀 土井 司 教士六段
仕太刀 阿部三十三 六段
(二) 居合道
英信流 平尾 勝美 範士八段

今回の剣道形は両先生が五月の京都審査で優秀な成績で見事六段に合格されたのを記念して行われたものであるが、お互いに気魄のこもる素晴らしい形であった。

また、永年心血をそそぎ磨き抜かれた平尾範士の技の冴えは静中動、将に風林火山の如く見る者の心を打った。

(三) 試合

〈団体の部〉

優勝 阿南A
準優勝 阿南B
三位 徳島B 徳島C

〈個人の部〉

		優勝	早川 一也	特組
	準優勝	蝦名 久作	遠藤 一美	A組
三位	岡 島 美 村	西山 勝喜	中山 啓男	B組
	糸 谷 高 下 張 西 岡 西 西 岡 西 西 岡 西	南 充美	東内 勉	C組

四、その他の主な行事

(一) 総会

平成十年三月十四日、パレス吉野において三十名出席、九年度各種報告の承認、次年度活動計画、予算案、役員選出等の議案を審議決定した。

特に役員選出は、平成十五年度に予定されているネンリンピック全国大会招致を成功させるには(役員の)若返りが必須条件との長老先輩先生方のご意見によって次の通り満場一致で決定した。

会長 濱田逸郎(72歳)、理事長 有賀秀敏(62歳)、事務局長 東内 勉(62歳)、会計 南 充美(72歳)

なお、第二回全国武道大会以来、本県高齢剣友会の創立と発展のため幾多の困難を

克服して今日に至った大先輩の勝浦守前会長には名誉会長を、また西野四郎前理事長には顧問をお願いするとともに若手理事長の補佐役としてそれぞれ会の運営にご協力していただくこととなった。

(二) 地方巡回指導

恒例の地方巡回指導、今回は九月十二日海南小学校体育館で開催され、最高齢の三木只雄先生ほか二十五名、地元青少年、一般剣士多数が参加して行われた。

先ず町当局の歓迎と謝辞の挨拶があり次いで西岡侃先生による基本指導、打込練習、かかり稽古の順で約一時間汗を流した。

その後、ネンリンピック強化組合せ試合、一般者同士の稽古を行い、終わって三木只雄先生から剣道の意義、注意点、先生自身の体験談などを子供たちにわかりやすくお話をされた。

夜は太平洋を望む丘に新規オープンした漁火の森「悠悠館」で一泊し、懇親を深め有意義な日程を終えた。

なお、今回は海部支部が地元のため張西支部長、西山先生ほか関係の諸先生方には

大会所感

全国大会の 女性審判として

徳島商業高校教諭

手塚 十三子



新春初の行事である全国選抜県予選大会は高校剣道会に春の到来を告げる大会である。男子富岡西

高校、女子富岡東高校が今年度も再び代表県を獲得、特に過去二回三位入賞を果たしている富岡東高校は今年度も上位入賞が期待された。そのような折、高体連専門部長河田清実先生より選抜大会の審判員としてご推薦をいただき、凶らずもその決定の連絡を受けることとなった。

数年前、全国家庭婦人大会の審判の命を

受けた時のことが思い出される。静かな動きの中にも永年の経験と理で迫り合う女性剣道に比し、一度に目も手足も頭脳も十二分な機能が要求される動きの素速い高校生の剣道である。その反応に遅れることなく果たして対応できるであろうかと、頭の中は重責で覆い尽くされる思いであった。

大会は愛知県春日井市において三月二十七日(金)・二十八日(土)の二日間にわたり、全国の代表校四十八チームが参加して熱戦を繰り広げた。

大会前日の審判会議(審判員五十六名うち女性六名)では、全剣連によって示された試合審判規則・細則をもととして、全国高体連の努力目標や指導方針を共通理解するとともに、適正な運営がなされるべく細心の注意を払いながらの確認が行われた。

また女性審判員の服装も男性と同様に統一されたことを始めとして、審判態度や技能等が本大会の運営に繋がりを、今後とも評価されることを申し加えられる。その場に居合わせた女性たちは互いに顔を見合わせ無言のまま研修会場へと向かう。また、未

熟な判定に対しては「レッドカード」に準えた「グリーンカード」が即座に、しかも何枚でも当日は発行されるとの宣告に、まさに戦々恐々の思いで研修初日を終えた。

前夜からの緊張は言うに及ばず、ご高名の先生方や先輩方と会場に向かうバスに乗り込む際の緊張感に加えて圧迫感、さまざまなものを全身に鋭く感じた。

前日は模範試合を繰り返し研修を重ねたにもかかわらず、どの試合場も鏢競り合いが多く、膠着と反則の間の判断に神経を多分に奪われ、必然的に反則の回数も増える結果を招いた。また決まり技として引き技が圧倒的に多かったことも大会の特長と思われる。

男子団体では福岡大濠高校、女子は熊本阿蘇と、ともに九州勢が優勝を手中に収めた。本県は上位進出の機会を僅差で逃し、数カ月後の夏の祭典インターハイにさらなる強化と期待が寄せられた。

数々の反省と課題に大会の余韻も冷めやらぬなか、再び河田先生から意外な連絡を

受ける。高体連の先生方の公務の都合上で、全国大会の女性審判は一人年一回限りという禁を破り、インターハイの審判の命を受ける結果に驚く。不安はありながらも、城南高校の大石正志先生の傍で力強さを覚えつつ開催地である松山へと向かった。

選抜大会と同様に随所で研修会が重ねられる。香川・村上済先生の「明日からの審判が例年になく不安である」との厳しいコメントに、うだるような暑さの中での研修が一変して冷や汗に変わる思いがした。

大会委員長を務められた増田三郎先生（全国高体連専門部長）から「インターハイは他の大会と異なり、観衆の応援等の熱気に呑み込まれて判定を誤ることのないように冷静な態度で臨むこと」を幾度もあらゆる機会を通じて御指導戴く。

正にそのお言葉のとおり、選手たちは先の大会とは一回りも二回りも違って感じられ、心技体ともに大きく成長、大会にかけ意気込みも既に最高潮である。真剣勝負に挑む選手たちに私も負けてはならぬと彼らに教えられて審判に臨む。



松山インターハイで主審を務める筆者

さらにもう一つ趣の異なる点がある。それは審判員の一日の始まりは三日間を通じて行われる朝稽古である。教えることは自ら学び、互いに学ぶ理の実践であることも感動を覚えた。早朝とは言え真夏であり、はや気温も上昇し始めたなか、稽古場へと向かう街中の角ごとに立ち、案内、誘導して下さった多くの方々、また会場で何かと

お心遣いをいただいた方々に心からお礼申し上げる次第である。

このたびの審判を振り返り思う時、秋晴れの下で開催される体育大会のシンボルの如く、しっかりと二本の柱で掲げられた大旗を彷彿させる。正々堂々の姿を自信満々に晒す飾らぬ姿にこそ、剣道を通して将来を担う純粋な高校生姿を見せられた思いで、今なお熱い感動が全身に焼きついたままである。そして風穴の向こうに見えたものは、他ならぬ私自身の現在の剣道に対する力量であり、全てにわたり未熟の一語に尽きることを実感した。

今回このように貴重な機会を与えていただきました高体連の先生方をはじめ、多くの方がたにお礼を申し上げます。真摯な高校剣士の成長・発展に微力ながらお手伝いできるよう、今後とも自ら研鑽に努めることをお誓いして感想とさせていただきます。

武道推進校

研究発表を終えて

教育委員会

山田浩史

板野高等学校

長井薫

発達が望ましいとされています。

この度、平成七年度から三カ年にわたり、文部省、徳島県教育委員会から「武道推進校」の指定を賜り、「楽しく積極的に取り組む武道学習」を主題に研究を実践に取り組んでまいりました。指定校としての三カ年を終えるにあたり十分な成果や実績をあげるには至りませんでした。その一端を發表させていただきます。

剣道の授業というと、生徒たちは「暑い、寒い、痛い、臭い」などのイメージをもち、消極的なものも少なくない。そこで剣道の特性を活かして、楽しく充実した武道学習を展開し、生徒が積極的に取り組むようになることを目指し、この主題を設定しました。剣道のもつマイナスイメージの一つでも多く取り除くことよって、生徒が自発的、自主的に取り組む姿勢を引き出せるのではないかと考えたとわけです。

まず、六、七月の暑い時期には、防具をつけず、木刀を用いて、基本動作や日本剣道形を多く取り入れ、一、三月の厳寒期には、剣道学習を避けました。形の授業を多

く取り入れることにより、剣道の歴史を学ぶとともに、男女差、個人の能力差を軽減することができ、また、集中力を高める能力が身についたように思われます。

次に、防具は学校備えつけのものとし、面下・甲手下（面、甲手の下にかぶったりはいたりする布のこと）を個人で購入させることにより、金銭面での負担、衛生面に配慮しました。

生徒の剣道に対する興味・関心を引き出すために武道講演を行ったり、校内スポーツ大会時に武道大会を行ったこともよかつたのではないかと思います。

その他、剣道の授業風景をビデオ撮影したのを見ることにより、自らの態度をチェックしたり、アンケート調査を実施し、生徒の希望をできるだけ授業に取り入れられるようにしたりなど、様々な取り組みをしてまいりました。

研究の途中で指導者が異動・交替するといふアクシデントもありましたが、ある一定の成果をあげることができました。その反面、今後の課題も多く見つかったように



くむことを目指しています。

また、心豊かな人間の育成のため「心の教育」の重要性がクローズアップされています。「心の教育」は様々な学習の場で展開されるのですが、とりわけ武道は我が国古来の文化と伝統にうらうちされた競技であり、「礼に始まり礼に終わる」とも言われるように、心・技・体の調和のとれた

思います。武道学習において、マイナスイメージを取り除くだけでなく、技能面、態度面両方において剣道のすばらしさ、よいところを通じて生徒に伝えることができるよう、これからも努力していかなければならないことを痛感しました。

終りになりましたが、三年間ご指導、助言をいただきました関係諸機関の方々に心から感謝申し上げます。

☆お世話になった先生方

○講演

高垣 治先生(盲学校教諭)

木原 資裕先生(鳴教大助教授)

沢井 勝之先生(富東羽浦分教頭)

○視察・指導講師等

遠山 雅也先生(京都菟道高教諭)

近藤 克美先生(愛媛西条高教諭)

筒井 雅幸先生(岡山城東高教諭)

福多 雅英先生(城北高教諭)

金本 賢治先生(新野高教諭)

○資料作成・発表

吉成 達生・板東 正裕・松本 光浩

竹崎 邦俊・阿部 和代・難波 康夫
鎌田 幸義・近藤 真代・清井 かつお
河野 寿仁・鈴江 国明

(以上板野高教諭)



随 想

九州の焼酎について思う

副会長 高 下 正 義



岡山発夜行列車が、鹿兒島に着いたのは夏の夜明け頃であった。中川虎雄監督以下全国教職員剣道大

会徳島県選手団は、宿舎に旅装を解き、しばし休養の後、市内見学、台地の公園にある西郷隆盛の墓に参り、噴煙上がる桜島の勇姿と風景を楽しみながら往時を偲んだ。昭和四十六年の事であり、記憶に曖昧な点もあるが、了承願いたい。選手は、細川昭典（現審議員）、谷崎正助（中学校）、岡崎明（現県連理事）、二宮章、小生等。下村富夫先生（故人）が審判に来ており、選手団とは別の宿舎であった。下村先生から審

判団の宿舎は「すべて焼酎だ」との話を聞いた。暑いので涼みに行こうとの事で皆で外出、大衆食堂に入った。ビールを注文したところ、あなた方県外の人には「まず焼酎を一杯飲んでいただかないとビールは売れん」と、店主の言、おっしゃる通り焼酎をいただき、ビールにありついたのであつた。鹿兒島の西部地方は、さつまいもの生産地であり、このいもを原料として焼酎を製造する。この焼酎は鹿兒島の特産物である。この店は焼酎を売るよりビールを売った方が利益は多いのであるが、特産物の焼酎を売るのは、県民の利益を考えての事であり、鹿兒島の県民性をよくあらわしている

と、後で感銘深く脳裏に刻まれた。昭和五十三年、宮崎県高千穂町で全国教職員剣道大会が開催された。高千穂町は、宮崎県の山間部の町で、中学校高校共に剣道が盛んで、全国優勝を何回もした剣道の町である。ここでも焼酎会社があり、下村先生の知人が経営しているとの事で、夕食時に沢山いただいた様に思う。ここは麦やソバを原料とした焼酎であり、車で行って

いた人もあり、土産に沢山買って帰ったと思う。

昭和五十七年、全国高等学校剣道大会が鹿兒島県国分市で開催され、審判として参加した時の事である。宿舎は農協の経営で霧島温泉、少し高台にあり立派な温泉、近くに中学校の体育館があり、朝六時～七時、審判員全員で朝稽古、帰って朝風呂に入り、八時にバス出発、八時半から夕方五時過ぎまで審判、暑い時の事とて、汗が両手から審判旗に流れていくのを覚えた。この審判を四日間、緊張が続く。宿舎に帰って、夕食時に審判一人に焼酎（湯割）二合爛壇一本とビール一本がつく。温泉の湯とこの焼酎で一日の疲れが取れた様に思った。

次に林業の視察で熊本県の山間部にある球磨町を視察した時の事である。現在林業界は不況で、国の林野庁をはじめ、赤字経営で困っているが、球磨町森林組合は、黒字経営で町財政を援助しているとの事であり、この森林組合の経営者女性参事が腕達者で直接農林省へ出かけて交渉をするなど、代議士以上の傑出した人物ではないかと思つ

た。この球磨町には、有名な球磨焼酎があり、米を原料とした焼酎である。昔殿物への年貢米を減らすため、家の中の土中に甕を埋めて、焼酎を造ったのがはじまりで、今日まで続いているとの事であり、この地方の特産物である。

以上色々焼酎について述べたが、今から二十〇二十五年前、九州の人から直接聞いた話であるが、鹿児島、宮崎、熊本地方では、婚礼、法事、お祭りなどにはすべて焼酎を使い、酒などは使用しないとの事であった。その土地で生産したものを、使用する習慣だと思ふ。

剣道の立場から考えてみると、鹿児島は中倉九段範士、重岡九段範士の大先生はじめ沢山の剣道家が生まれており、高体連と一緒に審判をした吉村八段範士の言によると、鹿児島市の道場では、正月元日以外は年中無休で、朝稽古をしているので何時でも立ち寄ってほしいとの事であった。

全国高校総体の過去の成績をみても、毎年ベスト八の中、三〇六校が九州勢で占めており、ちなみに平成十年でみると、男

子熊本の九州学院が優勝、長崎の長崎南山、準優勝、女子では熊本の阿蘇、鹿児島樟南、長崎西陵、福岡筑陽学園など強豪が多い。私なりに考察すると、この地方の生活に焼酎は浸透しており、この地方は焼酎圏に属すると考えると、焼酎圏の剣道は強いと推察できる。焼酎も剣道も、素朴、質素、儉約、質実剛健の気風をもった県民性の中に育つ共通性があるのではなからうか。

剣道歴七十年の歩み

高齢剣友会 西野 四郎

昭和六年三月に徳島商業学校を剣道部主将で卒業した没次兄満夫と入れ替わりに徳商に入学、兄に続いて剣道範士山家雪藏先生に師事しました。先生は質実剛健にして、口数こそ少ないが、非常に威厳のある恐ろしく感じた先生でした。思い出の一つに「お前は肘を打たれて相手を恨んでるだろう、人を恨むな自分を恨め」と只一言、意

味が分ならず辛かった事が今だに脳裏にある。その一言が爾来私は肘当てを使用した事は無く初心者指導に大変役立つております。

私は川内町の出身だったので、在所の岩城覚先生の道場にもよく通い、百燭の裸電球を土間に引き込み素足のままでの厳しかった稽古も懐かしい。徳島での有名剣士美馬清先輩とも稽古仲間の一人でした。

戦前は、特に土用稽古と寒稽古が重要視されたもので、土用稽古は午後二時、寒稽古は朝六時を選んでの大変厳しき剣道でありました。

土用稽古には京都から毎年小川金之助範士を招き、先生の門下生で徳島県が生んだ剣豪藤川一太郎先生（戦死）共に六尺近いがっちりした体格の両先生の前に立つ辛さ、土用の最中（さなか）で汗は流れ、構えただけで息苦しく、電信柱に突き当たって行く様なものでした。とにかく猛烈なぶつかり稽古の連続で、血尿の出たこともしばしばでした。

昭和十一年三月、徳商を卒業して大阪に就職しました。剣道は絶対に続けると親父

が新調してくれた剣道具を担いでの上阪、西も束も分からない土地での道場探し、やっと探し当てた港区市岡元町の阿久根道場（鹿児島出）に入門、火木土の週三回の稽古が始まりました。また、日曜日は天王寺の武徳殿にも通い、私にとって恵まれた実りのある素晴らしい修業の場、大阪でありました。

その頃、師匠より一度昇段審査受験に帰れと言われ、昭和十三年九月に三段受験の為に帰った時の事ですが、審査終了後に、故山本忠蔵先生より、「西野君、吉本彦吉範士の秘蔵子の岡田良幸（故人）君と試合するから準備しろ」と言われて試合する事になりましたが、大阪での私の剣道修業の成果が先生方の目に止まったのだそうです。岡田君とは少年時代岩城道場で共に競り合った剣友です。

さて、私は家庭事情で翌年の五月に大阪を引き払い、帰郷しました。その頃は、満州支那事変そして大東亜戦争へと正に戦運急を告げた時代だったので剣道熱は愈々旺盛の極みでした。武徳殿、警察の各道場は

剣士で熱気あふれ盛り上がっていました。

次に剣道研究会について述べます。昭和初期、山家先生は吉本彦吉・近江佐久郎両元老を中心に有志の先生方と相計り徳島県剣道研究会を創立し、富田橋北詰の自宅に事務所を置き、自ら事務長となり徳島の剣道発展に貢献されました。今は無き高島永吉・尾形郷一・須見善富・石井隆介・松尾誠一・浜谷晋・松永婉二・石丸来蔵・藤川一太郎・大沢善二郎諸先生や竹原常雄先生がよく事務所に来られ剣道のあれこれと談合されていた当時が子供心に偲ばれます。

又師は同十五年、自宅に振武館道場を開設し、青少年の指導育成に情熱を以つ



て当たり、剣友に越久田栄一・田村堅一両先生がおられました。私も助手の一員として徳商OB各位と共に稽古に夢中でした。さて戦後、占領軍によって剣道が禁止になったが、剣道復興に一早く心を痛め、尽力されたのが、尾形郷一先生であり、山家・竹原両先生を始め大沢善二郎・山田武雄・河野照雄・三木只雄の諸先生と企画し、進駐軍司令部その他関係機関に日夜陳情に奔走され、遂に昭和二十四年十月に徳島県体

育社会剣道クラブが発足し、会長に就任されました。間髪を入れず県下の剣道愛好家に号令し、貫心道場に馳せ参する剣士約七十名が水を得た魚の如く歓喜の裡に戦後初めての稽古が開催されました。尾形郷一先生は徳島剣道復活の大の恩人です。

さて、山家先生は昭和二十年七月戦災にあわれ、郷里鷺敷町百合に帰りましたが、尾形先生と共に戦後剣道の復興に協力された師は翌二十五年には早くも丹生谷十ヶ町村に呼びかけ剣道の精神を説かれ、又重要性を強調し、ついに丹生谷支部の結成するに到りました。同三十二年十二月には振武館を再建し、丹生谷地方が隆盛を極め県下に覇を唱える礎となりました。因に福多雅英・近藤 亘・西谷肇一・助岡克則・吉田租の先生方は振武館の門下生であり、私は兄弟弟子になる訳で大変誇りに思っています。

片や尾形先生の同志として剣道再建に尽力された竹原常雄範士は、同二十五年九月に高島永吉範士をお迎えして県下に魁け、徳島市二軒屋町の自宅青果物の作業場を道

場として、親道館道場を創立されました。

私は石井克太郎・山田新六郎・勝浦守・稲木紀一・熊本淳一の諸氏と同時に入門しました。先生は特に足捌き、一足一刀の間合については大変厳しく指導されていました。その姿はさすが師と仰ぐ高島先生の生き写しの技と剣道界では称賛の的でした。

同五十一年には親道館道場が新設なり、剣道熱も一段と高まり、後進者は後を絶たず隆盛の一途でした。然しながら師も八十八才のご高齢でやむなく、平成四年十二月に一旦道場を閉鎖することになりました。

この間実に半世紀に渡り、誠心誠意私達に賜った師の剣道観を思う時、只只感慨無量のものがあります。ここに心から敬意を表するものであります。円満にして清廉潔白な師は九十五才のご高齢ですが、今尚矍鑠として手振りに余念の無い毎日だと聞き、驚くばかりです。これからも健康に十分ご留意の上何時までもお達者であることを願っております。

私にとって山家雪蔵先生は生みの親であれば、竹原常雄先生は正に育ての親であり

ます。このような立派な二人の師匠に恵まれ、薫陶を受け、この年齢まで剣道を続けることができたことを思うにつけ、両範士に対し、心から感謝を申し上げたい気持ちで一杯であります。

学校剣道と審判の

あり方に思う

中体連剣道専門部顧問

高 島 稔 之



一時ほどの剣道人口でないにしても、今日の学校剣道の隆盛を見るにつけ、剣道に携わる者として、

本当に嬉しい限りである。

今から二十七年ほど前に、私が、県・市中体連剣道専門部長及び学校剣道連盟事務局長等を務め始めた頃には、小・中・高・大学生の剣道人口も今に比べると少なく、特に、学校剣道の指導者は極端に少ない状況であった。教職員の全国大会についても、県代表の出場選手を集めるのに、理事長の高下先生とともに事務局として大変苦勞したことを思い出す。その後、剣道関係者の働きかけや関係機関等の支援により、剣道のできる教師が多く採用され、学校剣道の

指導者、学校剣道連盟としての組織も充実し、今日に至っている。

この間、青少年の剣道人口は増加したが、その後は減少傾向にある。その原因についての分析はさておき、今後の剣道の発展と青少年の剣道人口の増加を図ろうとする時、日々の練習や試合の中で、子供たちに、剣道の厳しさとともに、剣道の楽しさや喜びを体感させることができるかどうか、大きなカギとなろう。

その一つは、日々の練習の中で、一人一人の子供たちに、向上感や成就感をいかにして感じさせるかであろう。

もう一つは、子供たちの習得した技が、試合等の場で、他者から有効打突として評価され、充実感や成就感を感じさせることができるかどうかであろう。

前者・後者の場合ともに、指導者等の評価としての賞賛の言葉は、非常に大切なものとなる。

特に、後者の場合、その最たる場は試合である。試合を、その有用な場とすることができるとかどうかのカギをにぎるのは審判

である。

私は、かつて、教職員の全国大会に出場していた頃、故・湯野正憲先生の審判長としてのご自身に対する非常に厳しい姿を何度か見る機会に恵まれた。当時、全国学剣連及び全国高体連剣道専門部の役員をされていたのであるが、一段高い審判長席の台の上で、終日、背筋をピンと伸ばし、微動だにしないで全試合場に目を配っていた姿が目には焼き付いている。

その後、本県学剣連会長で高体連剣道専門部の重鎮であった故・下村富夫先生からも、「高島、お前も年が行くと、審判長をせないかんことが起こると思う。審判員として、ポーツとしていたら一番楽なんが審判長。その気でやると、一番苦しく・厳しいのが審判長だ。自分に対して厳しい審判長でなかつたらいかん。」という意味のお話があった。

私は、台座の上に座るような審判長を務めたことはないが、県・市中体連や剣道連盟の主催する中学生の剣道大会においては、何度か審判長を務めてきた。その中で、私

が心がけてきたことが三つある。

その一つは、審判員打合せ時における審判の先生方へのお願いと、開会式の時の選手（中学生）に対する審判長注意の機会を活用することである。

二つ目は、選手の試合の様子と審判の先生方の様子をしっかり見ることである。

三つ目は、閉会式の時の審判長講評の機会をとらえて、二つ目で述べた観察結果について長所を多めに話す（評価すること）ことである。

紙面の都合もあるので、一つ目のことについてのみ、もう少し述べてみたい。

審判員打合せ時における審判の先生方へのお願いと、開会式の時の選手（中学生）に対する審判長注意は表裏一体をなすものである。

私が審判長として、中学生の選手に指示するとともに、審判の先生方にもお願いしていることの一つに、
（選手（中学生）に対しては）

「いたずらに鍔ぜり合いに持ち込むのではなく、引き技を打てる機会には、しっかり

引き技を出すように。審判の先生にも、有効打としてとれるものができるだけとってもらいますから。」と指示し、
（審判の先生方に対しては）

「引き技については、有効打突として、とろうか、やめようかと迷うものについては、一本としてとってやってください。特に、引き胴については、中学生としての発達段階を考慮して、可能なものは、とってやってください。」と、お願いしてきた。

ある時期においては、徳島支部長の馬場先生から、「なかなか、とってもらえませぬね。」という言葉を目にしていた。

そして、平成十年秋の市中学校新人大会において、「やっと、実を結んできましたね。」という意味の言葉をいただいた。

この日の大会においては、審判の先生方が、迷うレベルのものについては、とってくださったために、生徒たちは、引き面だけでなく引き胴にも積極的に挑戦し、「挑戦する」↓「とってくれる」↓「挑戦する」という循環が大変効果的に作用し、見事な引き胴が連発する大会となった。先

に述べた「子供たちの習得した技が、試合等の場で、他者から有効打突として評価され、充実感や成就感を感じさせること」のできた大会となった。

学校剣道としての大会における審判は、ただ単に、勝敗の決定をくだすと言うのではなく、子供たちの発達レベルを見据えた「教育的・指導的審判」として行われることが大切であると考える。

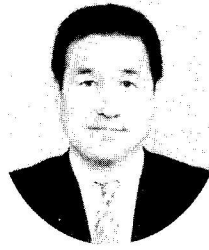
そうすることによって、子供たちの剣道に対する楽しさや喜び（成就感や充実感）の体感が増加し、今後の青少年剣道人口の増加、剣道の発展にもつながるものと考えている。

「徳島の剣道」

創刊について

城西中学校教諭

石井 博



昭和五十九年五月。
徳島県剣道連盟の機
関紙を年一回発行す
る企画書を堀江幸夫
理事長に提出した。

従来の県剣道連盟は大会行事の実践等には大変熱心であったが、大会記録やいろいろな支部の現状などについての広報活動が不十分だと思ったからだ。

企画は承認され、昭和五十九年度の機関紙を六十年三月に発行することが決定した。部数は千部。内容は全面的に任せられ、その責任の重さに身の引き締まる思いだった。連盟は行事が多く、役員の仕事分担は精一杯の量でこの上に機関紙の編集のお手伝いをお願いする余地など全く無く、結局、時間をかけて自分一人で編集・作成してい

くことにした。

県下の剣道愛好家の方々に楽しんで読んでいただけるものを、また、十年後、二十年後にも大切にしていただけるものを作りたいと思ひ、いろいろ研究した。

柔道協会が機関紙を発行しているとの話を聞き、編集者の中原祐一先生（当時県教育委員会体育保健課指導主事）に直接お会いし、本作りのノウハウを教えていただいた。

一年間の大会記録のまとめが大変だった。慣れない一回目は、毎日、夜一〜二時間かけ、記録の完成だけで一カ月を費やした。

昭和六十年三月三十一日創刊号のB5判六十ページの千部が刷り上がった。途中で投げ出しそうになったこともあったが、無事完成した。全力を尽くした満足感で感無量であった。

今回で「徳島の剣道」も第十五号ということ、これからも質の高い機関紙として、継続していただけることを願っています。

あなたは何のために 剣道をしますか

池田高校教諭 笠松寛子

「問題児笠松が帰ってきてしまった。」そんな声が南の方から聞こえてきそうだ。私は大学進学で四年間離れていた徳島へ、この四月に舞い戻った。と同時に、再び徳島県剣道連盟でお世話になることとなった。さて、その四月から今日までに、はや九カ月が過ぎた。『社会人』紙に記せばたった三文字のこの言葉に大いに悩んだ九カ月であった。日々の生活について、念願叶って就くことができた教師という仕事について、そして剣道について。本当に様々なことを考え、思い、感じたが、やはりまず剣道のことについて述べなければならぬと思う。

四月から勤務している池田高校の女子剣道部は、棚から牡丹餅の幸運にも勝るくじ運の良さに後押しを受け、彼女たちの努力は報われ、四国総体へのキップを手に入れ

ることができた。四国総体での結果は全戦完敗であり、スコアブックに残る結果は悲惨であった。しかし、彼女たちがその時持てる力の限りを発揮した、十分納得のいく試合であったことは記録には残らないが、記憶に残っている。試合を終え、明日への手ごたえを感じはじめたその夜、私の家の電話が鳴った。メンバーの一人が部をやめたいという内容のものであった。その時の衝撃は、思い切って小手にとびこんでいったら見事に抜き面をくらったようなもので、言葉が出なかつた。結局一週間以上期間をおいて、その生徒と話す機会をもった。三時間以上話す中で、初めのうちは退部したい理由は勉強の為とのことであったが、これが本音でないことは容易に想像がついた。どうしても真意が知りたくて話し合いを続けていると、私のあまりのしつこさに飽きたのか、序々に本音を語ってくれた。どうやら本当の理由はこうだった。

「何のために剣道をしているのか分からない。」
私はまたしても言葉につまった。それは、その子に対する適切な言葉が見つからなかつたからではない。何のために剣道をしているのか、この問に対する答えが私自身の中にもなくなっていることに気がき愕然としたからだ。いや、答えがないというより、自分に問いかけること自体忘れていたように思う。小学校四年生で初めて竹刀を握ってから、一度もやめることなく剣道を続けてきた。しかし就職してからは、あんなに剣道を中心に回っていたこの三月までの生活が嘘のように、稽古をしないということに恐ろしい程簡単で、むしろ剣道をするこゝとの方が私の生活の中の非日常へと始まり始めていた。

「何のために剣道をしているのか分からない。」
この時その生徒が言ってくれて本当に良かった。私が社会人として剣道が続けていこうとする上で、とても重要なキーワードに出会えた。学生の時までは、いつでも使える道場があり、練習計画も誰かが立ててくれた。稽古相手になってくれる友人がい

あった。「何のために……」などと改めて考えなくても、来月には試合がひかえていたり、後輩には負けたくないと言っしやりにかりたてられた。あえて求める必要などない程にあらゆる環境に恵まれた中で剣道をするのができた。しかし今は違う。環境はもちろんのこと、「何のために剣道をしているのか」も、自分で求めていかなければ誰も与えてくれないし、剣道が続けていくこともできない。それを考えると、イヤという程稽古をさせられ、いやで、負けるとなぐられた、いや叱って頂いた頃をなつかしく思う。

さあそろそろ結論へと近づいていかなければならないと思う。私は何のために剣道をしているのだろうか。これまで剣道が続けてきたプロセスの中では、「結局、勝てばいいんだ。」と投げやりになったり、「好きでやるだけではあかんのか。」と身勝手になったり、「もう剣道なんかやめてしまおう。」と逃げ出しそうになったことが多々あった。一体私は剣道に何を求めているのだろうか。羨望のまなざしを集める程の強さ

だろうか。いや、私は実に飽きっぽい性格だ。もし笑いが止まらない程の強さを手に入れたなら、きつと自己満足をしてやめるだろう。(その点では剣の凡人で良かった。)では精神修養のためだろうか。十五年近く剣道が続けてきたが、いよいよ性格はひねたままだ。どうやらこれも違うようだ。

こんなことを一人考えていると、大学時代の後輩のことを思い出した。剣道部でお酒を飲んでみると、剣道をするものの悲しい習性なのか、誰かの誕生日であろうと、何かしらの祝いごとであろうと、宴もたけなわになる頃には話題は剣道一色になっている。そんな中で、まさになぜ剣道をするのかという話題になったことがあり、ある先輩が言った。ちなみに彼は少々マニアックなゲームにはまり、つけものは自家製のものしか食さず、カラオケで皆が最新曲を争って歌う中、吉幾三の『酒よ』を熱唱してしまふ男だ。彼はなぜ剣道をするのかという問いに「僕は剣道が好きなんです。いや剣道が好きというより、剣道をしている自分が好きなんです。」と答え、周囲の空気を

緊迫させた。(ん、こやつやはりちよつとアブナイ……)その時は理解に苦しんだ。

私は最近体育教師という職業柄、様々なスポーツに接する。バスケット、バレーボール、卓球、どれもこれも実に楽しい。しかしどれも楽しいだけでいい。苦しんでまじしようとは思わない。苦しくても苦しくてもやろうと思うのは、やはり剣道だけだ。もしかしたら私も、バスケットをしている時の自分よりも、バレーボールをしている時の自分よりも、彼が言った様に剣道をしている時の自分が好きなのかもしれない。ごめんよ佐藤君(仮名)君は正しい(かもしれない)。剣道は常に私に苦しみを与え、そして同時にそれを乗り越えることの大切さを教えてくれる。私は弱い人間なので、常に何かで自分を律していないと、水が低きに流れ出るように流れていってしまう。その自分を律してくれる何かがある。剣道なのである。「何のために剣道をするのか。ずいぶん長々と語ったが、結局私は自分のために剣道をするのだ。」

もっと就職の喜びなども述べようと思っ

たが、もう書くのも疲れたし読むのも飽きた頃だと思うので、次の機会があればにしよう。

最後になりましたが、誌上をお借りし、これまでお導き頂きました皆様に心より感謝いたしますとともに、今後より一層の御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



段位合格者

剣道七段審査に

おける反省

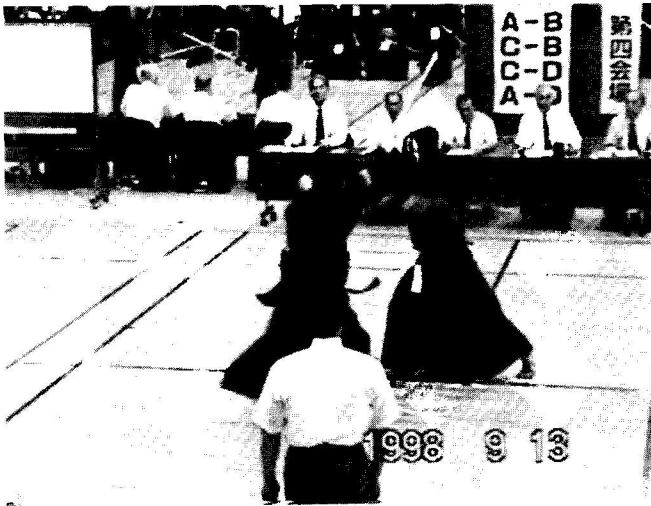
知友会 吉永明彦



平成十年九月十三日、宇都宮市にて行われしました七段審査の様相を報告致します。

立ち会いにおける最初の蹲踞から、止めまでの間相手との縁は切れずに出来たように思います。しかし、途中で悪い癖である相手とすれ違いざまに打つ引き面を打ってしまい、またそれが空振りとなって「しまった」と少し動揺しましたが、今回はあわてずに、その後すぐ気を取り直す事が出来ました。

実技審査終了後にビデオ再生を見ると、



やはり全体にのんびんだらりとした感で、メリハリのきいていない印象を受けました。攻め（静）と打突（動）のメリハリのきいた立ち会いでなければ七段合格は難しいと思います、残念ながら今回も合格は無理かなと思っていました。結果的には運良く合格でした。

反省点

1、完全に攻め勝ってから打突が出ていな



い。

2、無駄打ちがある。

3、打突に鋭さが乏しい。（冴えがない）

4、構えた姿勢を見ると、少し顎が出て、背中が湾曲して見える。

5、構えた竹刀に力みがあり小刻みに揺れている。

良かった点

1、攻めて先を取る気持ちを最初の蹲踞か

ら最後の蹲踞まで持続できた。

2、気迫はあったと思う。

3、失敗してもすぐ気を取り戻すことが出来た。

4、相手に気で押されなかった。

以上、思いついたままにまとめてみました。合格ののち、「今後の修行が大事」と肝に銘じ、今後動じない気攻めの稽古、無駄打ちのない先を取り、攻め勝って打つ剣道を心がけて稽古に励みたいと思います。中学一年生から剣道を始めて今日まで、ご指導下さりました諸先生方、先輩、同輩、後輩の皆様方に深く感謝いたしますと共に、今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。

剣道七段位、

報告、感謝、誓

清風館々長 久保隆司



このたび、平成十年九月十三日、宇都宮市栃木県民体育館で開催された、剣道七段審査会において七段位を賜りました。

これまでに、ご指導、お稽古、ご協力をいただいた皆様はこの場をお借りし、御報告と御礼を申し上げます。

七段審査会に挑むのは、平成九年十一月東京、平成十年五月京都、そして今回と三度目の挑戦でありました。

初めての東京では、受験番号DだったのでAとCの立ち合いを見て、先入観が湧いて思い切った気剣体一致の打突ができませんでした。京都では、初太刀に全神経を集中し、思い通りの初太刀の出ばな面が打てた。しかしその後、守りの気持ちと自分だけの立ち合いで対人剣を忘れて、格好だけにとらわれてしまいました。

今回宇都宮では、受験番号三〇二のBと二組目の最初だったので、いろいろなことを考えず無心になった。それと初太刀は相手に打ち負けをしたが、あせらず二太刀目は写真の通り出ばな面が打て、二人目も初太刀に出ばな面が打て、本当に不思議なくらい終始縁が切れず、心を落ち着けて気剣体一致の打突が出来たように思います。

今回の試験前まで迷い苦しんでいましたが、師匠である森川先生（香川県観音寺市玄武道場初代館長）をはじめ剣兄の先生方道友の皆様のおかげで深く感謝致しております。私自身本当に幸せ者だと感じる中に剣道を始めてから二十九年間、今四十一歳となるまで素晴らしい人々との

出合いがあったからだと感じております。

「二期一会」の言葉のごとく、一つ一つの出会いの中で私を育てて頂き、七段位を賜ったものと思っております。

それと影で支えてもらった職場、両親、子供達そして妻に感謝を致します。

今後は師匠に頂いた言葉「正しく、楽しく、仲よく」を心において七段位の実力、風格、品位を身につけるよう努力したいと思えます。そして、これからの人生遥かなる夢を抱いて精進することをお誓い致します。ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。

合掌

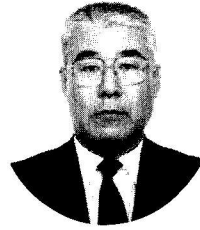


「よし！ もう一度

一からやり直しや」

徳島刑務所支部

中村 稔 裕



平成十年十一月二十五日剣道七段審査会において無事合格することができた。

私にとって、剣道を諦めた時期があったことから今回の合格は特に大きな喜びを感じる。というのは、日頃の健康の過信から、平成四年正月早々心臓疾患により緊急入院して以来六カ月にわたる入院をくりかえした後、心臓血管のバイパス手術を余儀なくされるというアクシデントがあり、平成四、五、六、七年と全く竹刀を握ることができなかつたからである。

平成八年に至り、ようやく普段どおりの日常生活をしてよろしいとの医師からの許可が下り、剣道が再開できる喜びを胸一杯

に道場に出たものの、体力的に全く自信がないにもかかわらず従前どうりの力まかせの剣道しかできない。そのため気、剣、体がばらばらになってしまったわけである。

同僚部員の練習を見取り稽古したり、自分一人で試行錯誤を繰り返したものの納得できる結果ではない。毎日同僚部員の元々な稽古を横目に見ながらいろいろ考えを巡らした末

「一寸待てよ、このままでは何も残らぬ剣道になってしまふぞ。よし！一からやり直しや」

という気持ちになり冷静に取組方法を考えた結果、自分に合った練習方法を組み立ててみた。

練習時間六十分 その内四分の三を基本稽古、四分の一を互角稽古とする計画を立てた。

基本稽古は気力を充実させ、遠間から打込むことを心掛けるとともに、相手の技の起こり際を動作を徹底して見極めることにした。走り際には剣先の動き、足の引き付け等微妙な変化が必ずあると思ったからで

ある。

一方、互角稽古では三分以上の稽古時間をとらず初一本に集中し、初一本は必ず取る、絶対に取られないをもつととうに反復練習をした。

この練習方法により少しづつながら相手が見えるようになり、加齢からくる反射作用の遅れをカバーすることができたように思う。

こう言った、一つ一つの積み重ねから気迫も自然とついてきたように思う。この成果をためたのが平成十年度の県下社会人剣道であり、これに優勝できたことが大きなはずみとなり、今回の審査の心構えがより強固なものになったように思う。

いざ審査となるとより一層厳しい練習を積む必要があり、審査二カ月前から出稽古に重点を置き、徳島支部、名西支部に夜間稽古をお願いし、諸先生方からアドバイスを頂きながら稽古を重ねた。

審査結果が出た今静かに振り返ってみると、病み上がりの者を気遣いながら気長く練習相手をつとめてくれた同僚部員、また

勤務でお疲れにもかかわらず稽古をつけて

いただいた高下正義先生、美馬政雄先生を

はじめ名西支部の各先生方、また松村克隆

先生をはじめ徳島支部の各先生方の温かい

ご支援があればこそなし得たものであり、

衷心より深くお礼を申し上げます。

すべてはこれからであり、新たななる段位

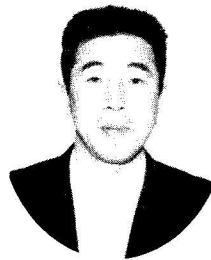
に恥じることなく更なる練習を重ねる所存

であります。

「初心を忘れず」

城東中学校教諭

富田 正



十一月二十五日、

日本武道館にて、剣

道七段審査がありま

した。午前中、実技

審査を終え、午前の

部の合格発表を待ちました。午後の受験者の説明後直ぐに、各会場に番号が張り出されました。何回も経験してきたいやな光景

ですが、今回は大学時の同期生から「一人

目は、先にしかけ、いい機会に面が出てい

た。」という言葉聞いていたので、わず

かな期待を持ちながら、若い番号から目を

通していきました。すると、〇〇〇Dとい

う番号が。一瞬、我が目を疑いましたが、

確かにそこに自分の番号がありました。そ

して、何度も見直した後、片付けてあった

防具を出し、もう一度番号を確認し、やっ

と実技合格の実感が湧いてきました。しか

し、まだ終了したわけではないので、気持

ちを入れ直し、午後の形審査・学科審査へ

と挑み、やっと終了しました。帰り支度時

に全剣連の方から「学科試験での不合格者

はなく、全員合格しました。」と館内放送

があり、受験者から自然と拍手がわき上がっ

てきました。私自身ここで「目標が達成で

き、お世話になった人に報告できる。」と、

やっと安堵感にひたることができました。

まさに、「目標に向けて頑張っていたら、

結果は後からついてくる。」ということば

が、実感できた時でした。

結果論になりますが、今回までを自分な

りに振り返ってみますと、最初の数回はあ

る程度練習さえしていれば、合格できるの

ではないかという安易な気持ちであったよ

うに思います。そんな中、徳島市への異動

が決まり、その赴任三年間を一つの区切り

にして、もう一度初心にかえって頑張って

みようと思ひ、また、部活動の生徒達の強

化も考え、その年の九月より県剣道連盟の

練習にも参加しました。いろいろな先生方

との稽古の中で指摘されたことは、第一に

「出頭の面が打てること」、第二に「小手先でなく、十分に打ち切ること」、第三に「中心をとり、堂々とした構えができること」でした。以上のことを特に心掛けながら毎回の練習に取り組みました。しかしながら、長年培ってきた自分の剣道が、直ぐに矯正できるものでなく、その後も数回の失敗が続き、「まだ、力が付いていない」と反省しました。そしてまた、気持ちを持続させるべく、年二回から、年三回へとあらゆるチャンスに挑戦するにしました。そして、九月の栃木県宇都宮審査での失敗以後、一つのことに取り付き実践しました。それは、今まで以上に「間合い」を詰めて（二足一刀）の練習に切り替えることです。口で言ってしまうば簡単なことですが、いろいろな理由があり、これがなかなかできえなかつたことです。確かに、近くになりすぎると技に見栄えがしない、相手からも打ち込まれやすい等マイナス面もあります。とにかく、中心を取り、構えさえ崩さなければ先に打たれることはなく、また、その分前に打ち切ることができると信じ、十一

月の東京審査まで頑張ることにしました。先にも述べましたが、本当に合格できたかといえることです。そしてもう一つ、この数年、いろいろ先生方の意見を聞き、できるだけそのことを素直に吸収しようと心掛けたりました。

今回このような結果で終わったのも県剣道連盟・警察・学剣連・振武館等の先生方の温かいご指導と励ましがあつたからこそと深く感謝申し上げます。とりわけ、出発前、朝まで稽古のお相手をしていただいた同僚の先生方には、本当に頭の下がる思いです。

審査後しばらくして、剣道連盟の練習に参加しました。やはり反省しかりです。これからは真の七段に向けての修煉だなど痛感した次第です。「初心を忘れず」・・・

剣道七段に合格して

警察支部 平尾満紀

平成十年十一月二十五日、日本武道館で行われた昇段審査会において、幸運にも七段に合格することができました。これも日頃から御指導いただいた剣道連盟の諸先生方、特練の先輩、同僚の皆様のおかげと心から感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。

今回の審査前、私の中には

- ・ 打ち過ぎるな
- ・ 体を起こせ
- ・ 足を跳ねるな

等、様々な思いがありました。

これまで、主に試合者として稽古してきた私にとって、これらは大変難しいことですが、そうすると立ち遅れ、技が出なくなり、集中力さえ無くなってくるのです。

「これは、アカン！」という迷いのような、諦めのようなものまで湧き出てくる始

末でした。

審査直前までその気持ちは消えず、自分より前の立会を見ていても立派な剣道しようとする方が多く、知人の中には普段の剣道ができず相手に打ち込まれている者までいて、その姿がまるでこれからの自分のようで一層不安は増すばかりでした。

そんな私の迷いを消してくれたのが「カンッカンッ!と行けよ!」

というアドバイスでした。

この言葉は、審査当日朝食の席で、たまにたま同宿させていただいた、ある先生からのものでした。

「思い切つて行つてアカンでも、ええカッコしてアカンより悔いが残らんだろ。」

私はこの言葉を思い出した時、

「よし、自分の剣道をやろう。」

と気持ちが決まり、大事な試合の時以上に相手に集中することができました。そして、自分の剣道を思い切つてすることができ、その結果として合格することができました。

結局、自分自信の力で合格できたのではなく、周囲の方の協力や、支えがあつてこ

そ合格できたのだと思います。

今後は、自分が周囲の支えとなることが恩返しと考え、精一杯努力して行きたいと思えます。

遠からず機動隊を離れることになりませんが、一警察官として勤務して行く中にも稽古ができる時間を見付け、人間として、警察官として自分自身を向上させて行きたいと思えます。

そして剣道を通じて身に付けたものを無くさないように、忘れないようにしてこれからの生活に生かして行きたいと思えます。

審査会での

剣道形を考える

阿南支部 土井 司

平成八年十一月十七日の名古屋六段審査会には、約八五〇名の参加者が集まった。規定通りの実施で、第一次審査が始まったが、私はこの時期に宮崎県で行われた健康福祉祭(ねんりんびっく)に参加した直後でもあつて、竹刀がよく振れ、脚の動きも調子が良くて、この審査発表では幸運に私の番号を確認することが出来た。続いて剣道形の審査に入った。

審査に入つて木刀を手にした時、実技程の確信は無かったものの準備期間では一通りの形はこなし得たので深い練習は積まず、その程度の満足で審査に臨んだ。

打太刀に廻った私は相手(仕太刀)の対応にも深い注意を払わず三本、四本目を「早く終れ」とのみ考え乍ら木刀を振つた。中程まで来た時、相手が動きを止めて自己の定位置に戻つて静止してしまつた。この



第13回 高齢者大会に於いて

時初めて気がついた。

自分はどうしても何処からかわからないが、仕太刀の動作をしているようだ。私の血が仰天をはじめた。焦りが先行する。落ちつけ。もう一度やり直せば良いではないか。一心の中の何処かで囁くのを、やり直した積もりで続けた次の動作が再び仕太刀に変わったことで一遍に吹き飛んだ。驚

天動地の間にある私にはもう二度も三度もなかった。ここで私は、この二次審査が無残に終了したことをはつきり識した。

終了後の審査発表で二本の線で消された自分の番号を見て「形」の不勉強を誥じる呵責に噴まさいなれつつ帰郷した。これで私のこの審査は失敗に終わったのである。

剣道形は一般的に見て打突中心の竹刀稽古とは遊離して、技能の展示型式丈のもののように思われ、とりつき難い。私がそうであった。つまりは、竹刀剣道と比べて刺身のつま的存在とみられ勝た。昇段審査では、規定通りの順序を間違えなく行えば合格出来ると思えるのが普遍的である。

その為厳しかった審査の関門を通り過ぎれば「形」の真髓など何れかに置き忘れて、何も頭に残っていない者も多いのではあるまいか。(極端か?) このことを身を以て教えられた私は、この後本格的な「形」の修業に取り組みたいと思った。毎週道場で竹刀を交わしている師の浜田先生と、同僚の平先生、その他多くの先輩の先生方がころよく指導の役を引き受けて下さり、気

持ちのよい修練を続けた。

「形」の本格的修練とは何か。本格的とは何か。どう取り組めばよいか。私は次のような考え方をした。

一、まず「形」の順序を一応体に記憶させる。次に各本目の理合の研究を徹底する。その後実技との関連を体験で検討する。二、最初に各本目の理合を勉強する。これが納得出来た時点で十本を繋いで完成とする。その後実技体験をする。

私は次期審査に備える意味もあつて一の方法で練習を始めることとしたが、理合の研究は大事で、師から時に応じて厳しい指摘を受けた。「形」が如何に実技に生かされるかの問題については、私などの知識・経験の浅薄な者がとり上げられるものではないが、「形」修練の流れの中の一人として私流に考えられる点を挙げてみたい。

○勝機をつかむこと。

形の各本目にわたり、間合に接した時、必ず機を見て打に出ることとなっている。実戦では、この打がよみによる打となるか、条件反射的打となるかは分からない

剣道と私

阿南支部 阿部 三十三

が、勝機をつかむ糸口になることは間違いない。いきなり打ち込む非を悟らなければならぬ。

○眼のつけ方、間合の大事を教えられる。

機を見るのも、作るのも相手の気を知る眼が何より大事であることを教えられる。

○「形」の技を完成させる為には打・受けを含め、その緩急・強弱の必要を求められる。審査には必要なことであるまいか。

○呼吸の大事を会得すること等が教えられる。

長々と駄文を草しましたが、今後鋭々の気を持つて審査に向かわれる皆様方の為一助にもなればとの微意から、私の経験述べさせて頂きました。

なお、お陰様で平成十年五月の京都審査にて六段に合格いたしました。



今年五月、京都審査において、お陰もちまして、六段に合格することができました。

これを機に、私と剣道との関わりをまとめておこうと、浅学非才なるを省みず、筆を執つた次第です。

六段までの道は、思い起こしてみると、長いようで短く感じられます。

昭和六年小学校に入学したとき、兄達が浅井先生に剣道を教えられているのを見（そのときの道場は教室の机を外に出した中で稽古をしていました）、私も剣道をしたくなり初めて竹刀を握つたのは、昭和九年でした。その年に大野小学校に武道館が建ち、新しい道場で小延先生より剣道の基本を教えて頂きました。五年生になつてからは、（今はもう無くなつてしまいました

が）徳島公園内の武徳殿や、徳島中・坂野・立江・岩脇小学校などで開催される剣道大会に参加させて頂きました。それらは毎年、高等二年まで続けました。今、残つている大野小学校の前で写した写真には、当時の凛々しい剣道少年たちと指導してくださつた小延先生初め偉大な先生方、そしてたくさんの優勝旗が写っています。

青年学校に入つてからは、夜、成人対象の稽古にも行つておりました。

昭和十六年、海軍に希望入隊してからも、海兵団や軍艦「妙高」の中でも剣道をしました。昭和二十一年、復員。戦後は、GHQによつて剣道は禁止されておりました。

昭和二十七年、清原先生に「大野剣道同好会を作り、稽古を始めるので来ないか。」と誘つていただき、二、三回出席しましたが、戦後の新生活に追われ、続けることができず、以後三十余年竹刀に触れることはありませんでした。

昭和五十八年、子供に家業を譲り、暇ができるようになりました。妻が、「長い間、剣道のことばかり言つていたので、老後の

健康の為に始めたら……。」とすすめてくれ、また、息子が道具一式、稽古着まで揃えてくれたので、再び剣道の稽古を始めるようになりました。清原先生にお願いして、毎週三日、阿南剣道教室に通えるようになりました。先生と一緒に通い、教えを受けました。「段を受けるなら二級から受け。」と清原先生に言われ、二級の審査を受けたのが丁度六十歳、還暦の年でした。

昭和六十年九月、初段になり、私が剣道をすることを強く勧めてくれた妻が、とても喜んでくれたのも束の間、二ヶ月後、妻は帰らぬ旅に旅立ってしまいました。それ以後、私は、剣道だけが生きがいとなり、続けてきました。

六十二年より、中山先生が開いてくれた櫛淵体育館道場に通うようになりました。中山先生が海部に転勤されてからは、羽浦中学校道場を浜田先生が開いてくださり、週二日、休むことなく続けて稽古をしてきました。

私は今七十四歳で、間三十年間剣道なしの生活をし、それが日本の発展の時期と重

なりとても波乱万丈な人生となりましたが、剣道に親しんでいたおかげで中身の濃いものになったように思います。

そして先に述べましたように、今年五月、京都審査において、お陰をもちまして六段に合格することができました。これもひとえに浜田先生始め、各先生方の格別の御指導の賜物と心に命じ、深く感謝致しております。今後とも命のある限り精進していきたいと思っております。

剣道を愛する皆さん、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

六段に昇段して

阿南支部 藤田 繁



平成十年五月、京都審査において六段に合格することができました。

四回目の受験で、

京都で審査を受けるのは初めてでしたが、私にとっては京都は仕事で五年程住んでいた思い出深い土地であり、また、しばらく休んでいた剣道を再開したところでもある。あれから二十年、まさか六段審査に京都へ来るとは、当時は思いもありませんでした。これもご指導いただいた諸先生方のお陰と感謝しております。

私が六段を受けるにあたり、気をつけて稽古をしたことは、当然の事ですが、基本を大切に。右手に力が入り、右打ちをする、足幅が少しずつ広がっていくなど、恥ずかしい事ですが、まず自分の悪いくせを直すことから始まり、間合を大切に、攻めの

気持ちを忘れず、捨て切って打つ、そして
残心。どれ一つとつても不十分だが、心が
けたつもりである。

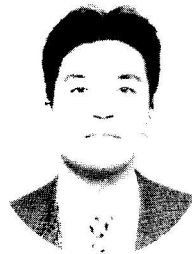
今回は、今までの失敗をくり返さないそ
の思いが強かった。「雑念を捨てる・無
心」「攻めて打ち切る」その事だけと思
い審査にのぞみました。

最後になりましたが、羽ノ浦早朝稽古の
浜田先生をはじめ各先生方、支部長有賀先
生、北條先生、大石先生、米倉先生、阿南
支部の先生方ありがとうございます。ま
た、節測小学校での早朝稽古いろいろ励まし
ていただいた中山先生、四国郵政武道会、
そして地元加茂谷少剣の高野先生をはじめ
子供達、父兄の皆さんありがとうございます
した。今後共、ご指導の程よろしくお願
い申し上げます。

剣道との出逢い

阿南工業高校教諭

曾根 徳 治



幼い頃から体が弱
く、小学校一年生の
時に腎臓病にかかり、
一年と三ヶ月間入院
生活をおくりました。

そのため、低学年まで体育の時間は見学で、
一週間ともに登校できませんでした。そ
んな私が剣道と出逢ったのは小学校六年生
の時でした。もともと剣道の盛んな土地柄
であったため、友達の多くが剣道をしてお
り、体力作りもかねて竹刀を握ったのが始
まりです。幸せなことに恩師にも恵まれ、
稽古の厳しさや勝利の喜び、そして礼儀の
大切さを学ぶことができました。この教え
は現在でも役立っており、自分自身の宝だ
と思っています。

私にとって六段の昇段は、これまで剣道
をしてきた中でひとつの目標でしたが、自

分には遠い世界のことのようにも感じてい
ました。そんな私が六段を受験しようと心
に決めたのは二人の子供が剣道を始めたた
めでした。子供と一緒に自分も頑張ろうと
思ったからです。それからの稽古の中では
六段受験のことが常に頭の中にあり、悩む
こともたびたびありました。

そのような中で、悩みを吹っ切るきつか
けになったのが、春に行われた剣連主催の
講習会でした。堀江先生に稽古をお願いし、
二日目の講習会終了後、「技術的なことよ
りも、相手に対する気迫がたりない」とご
助言をいただきました。この言葉は、学生
時代師範であった三橋秀三先生にも言われ
たことがあります。自分自身でも何かが
足りないと考えていたところでもあり、目
から鱗が落ちる思いがしました。しかし、
具体的にどうすればよいのか分からず、悩
んでいたとき、ちょうど講習会に参加して
いた白木先生に相談しました。白木先生自
身が稽古をするとき、気を付けていること
を話してくださいました。それは、吸い込
んだ息を腹にため、同時に下腹に力を入れ

ることでした。うまく表現できませんが、

この二つの教えが、その後の稽古を大きく変えたように思います。実際にやってみると、非常に苦しかったが、身体の中から力がわいてきました。稽古の回数は少なかつたが、これまでにない充実感がありました。

受験当日も、この時のイメージを持ち、集中するように努めました。最初の相手には、良いところがなく自分の竹刀が相手のまたに入り無様な姿になりました。もうこれでダメかもしれないという気持ちで脳裏をかすめました。しかし、後悔しないよう全力で最後まで頑張ろうと気合を入れ直しました。二人目の時は、初太刀の面が決まり、後は落ち着いて自分のリズムで対することができました。今回の昇段試験で幸運にも合格することができたのは、これまでご指導いただいた多くの先生方のおかげだと思います。特に、審査前に稽古を付けていただいた徳島至誠館の先生方、ご指導ありがとうございました。このように多くの先生方との出逢いがなければ、これまで剣道が続けてはいなかったであろうと思うと、

感謝の気持ちでいっぱいです。

「剣道とは、剣の理法の

修練による人間形成の道である。」

これからが本当の修練だと思えます。ひとつの目標を持ち、技術だけでなく人間としても成長できるよう努力して行きたいと思えます。



六段に合格して

丹生谷支部 岡田 豊



平成十年五月名
古屋審査においてよ
うやく六段に合格す
ることができました。
長い道のりでしたが

目標が一つクリアできほっとしました。これも、堀江先生・大沢先生・剣連の諸先生方・木頭錬心館の先生方のお陰と心より感謝・御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

ふり返つてみると、京都三回・東京一回・名古屋三回目とよく辛抱して通いました。始めのうちは不合格になると次は頑張るぞという気持ちだったが、そのうち、もう諦めよう自分の力ではダメでないかと何回も思いました。審査に臨むと緊張してしまう性格で、冷静にできない所があるので、このままの練習では同じと思いい自分なりに反省してみました。一つ、打とう打とうとい

う気持ちが強すぎるのか、剣道にタメがなく、辛抱がたらない面がある。一つ、相手に攻められると手元が上がる。一つ、打突も軽い力強さがない。一つ、無駄打ちが多い。間合に入ってから思い切りが悪い。数え上げるときりがない程反省ばかり。こういう悪い面を直していくのは日頃の練習しかないのでもいつも頭の隅において取り組みました。それと、「初一本は必ず取る、短時間で集中してやる。」という気持ちでやりました。その成果がでたのか、名古屋審査の時は、無意識に体が反応していたことが自分でもびっくりしました。最初の相手の人には、攻め合いから小手にきたのですり上げて面が決まり、次の相手の人に攻め合いから面にきたので出小手が決まりました。二人の相手共、初太刀が決まったせいか落ち着いて対処できました。何回かの審査を終え、初太刀の大切さ、攻め合いから打突まで理合の難しさを改めて知りました。まだまだ、自分のたらない所、欠点がたくさんあります。先に書いたことを忘れずこれからの練習に生かしていきたいと

考えております。

私は、木頭錬心館少年部を指導し始めて今年で二十五年となりました。これまでたくさんの子供達が巣立って行きました。県の代表選手として頑張っている子もおりますし、各職場でそれぞれ剣道を続けている者、地元へ戻った子も剣道を続けています。うれしい限りです。現在少年部は、人数の減少により団体戦は組めない状態です。しかし、部員数十一名で頑張っております。これからも子供達に基本的知識が身につくような指導をしていきたいと考えております。

私の娘も今、富岡東高でお世話になっております。伝統ある学校で先生と子供達が一体となつて頑張っております。子供が頑張る姿から、親子よい経験をさせてもらっています。娘と長時間会話できるのも剣道のお陰です。娘も悩み苦しみ弱音もはかず剣道しています。しっかり先生の言うことを聞いて成長して行ってほしいと願っています。

最後に、私自身、精神面・技術面でもま

だまだ未熟です。「剣道は、剣の理法の修煉による人間形成の道である。」と言われております。この大きな目標に少しでも近づけるよう、今後努力していく所存です。そして、次は七段めざして頑張ります。今後共、御指導よろしくお願い申し上げます。

六段に合格して

板野東支部

柳本 巖



平成十年十一月二十四日、東京審査会場である日本武道館において、六段に合格することが出来ました。

県剣連主催の春と秋に年二回、講習会が行われています。平成九年度秋季講習会の中で、講師の先生より素直な気持ちを持つことが大切であると話されておりました。先生の話の主旨は、個人の悪い癖、及びムダな所作等を我流を通してあらためることなく、また、指摘されたことについて素直に聞き入れることができない状態では何回受験しても合格することはできない、前向きな気持ちで受け入れることができる状態になって受験をすれば、合格できると言われていたことが印象に残っています。

現在、松茂町の体協に属する剣道教室で

小、中、高校生及び一般と接する時間を持つことで私は、剣道自体に次のような利点があると考えています。剣道自体の上達以外にまず地域社会との交流を深めることができる事、体力と共に精神的強さを養う事もできる。そして、チームワークによって、思いやり優しさ、『感謝』の気持ちを大切にを目標としております。ちがった世代の子供達、社会人と接する事により私も学べる点がたくさんあります。

最後になりましたが剣道の良さを教えて下さった諸先生に感謝致します。

子供達よありがとう

六段に合格して

阿南支部

山田 耕治



平成四年四月一日付をもって、大阪府警察第二機動隊勤務を退職する。男が一度志した職業途中で

やめるのは、大変迷いましたが決断し、徳島に帰ってまいりました。警察時代は、毎日体を動かし、日々訓練に励んでおりました。退職したとたん全く体を動かすことなく気力もなくなり、竹刀も握らなくなってしまう自分自身の気持ちが大変落ち込んでいました。

フツとした子供の行事で、たまたま隣り合わせになった人と剣道の話で意気投合し、「私の子供に剣道を教えてもらえないか」と頼まれ、最初は遊び半分一人二人で剣道教室を始めましたが、二年たった現在では、約二十名の剣道部になりました。この子供

達に出会い、私の剣道人生は、大きく変わったといってもいいすぎではありません。剣道を子供に教えるのではなく、自分が子供に剣道を教えてもらっている様な気がしました。

子供達の頑張る姿を見て、本当に自分自身見失っているものを教えられた気がします。冬で足が凍りつくような日、夏の暑い時、何の泣き事も言わず、一生懸命頑張る姿を見て「よし、俺ももう一度頑張つて剣道に打ち込んでみよう」と、心に決め、それからというものの毎日練習に励みました。

月曜日 高校又は中学生と練習

火曜日 養武館 米倉先生

水曜日 金曜日は、那賀川BGで剣道教室

木曜日 至誠館 中山先生

土曜日 休み

日曜日 ランニング、徹底して走る。

と、毎日練習を重ねました。その甲斐あつてか私が幼い時から憧れていた米倉先生、福多先生、平野先生と都道府県大会に同じチームで出場できるなんて夢のようでした。

この調子で今年必ず六段に合格してやるぞという気持ちで、練習にもより一層熱が入ってきました。

そして十一月二十二日名古屋審査、会場入りし、立ち合い相手は、なんと高校時代の先輩でありました。技術も体力もすべて相手が上です。私は、初めての審査ダメでもともと、思い切つてやろうと心に決めました。何の迷いもなく、一本目相手の面に自分の竹刀が、のつた瞬間「やった」と思いました。その後の立ち合いは、全く良い所なく時間となり終わりました。私の六段は、「初太刀の面一本」のみそれが総てでした。後でよく考えてみると、無心で、思い切り、開き直つてやったのが良い結果につながったのではないのでしょうか。大阪から徳島に帰り、いろんな人と出会い、そして練習をつけて頂いた先生方には、本当に感謝しております。まさしく「交剣知愛」。最後に、毎日夜になると家を出て練習に行き、何の不平不満を言わず、剣道に対して理解してくれた妻に一言「ありがとう」。



那賀川BG剣道教室 この子供達に剣道を教えられました。

六段に合格して

阿南支部 上田 宏 司



平成十年十一月二十一日、名古屋の審査において、諸先生、先輩方の御指導のおかげをもちまして、

六段に合格することができました。大学を出てから八年後、私は水産高校に勤務しておりました。当時四段の私は、かくべつ段位へのこだわりはなく昇段審査にも行くことはありませんでした。が、学剣連や阿南支部の会合などで以前より、S先生やO先生に「上田なんしよんな。受けなあかんと思うよ。」と毎回指導され、しぶしぶ昇段審査を受けに行きました。当時部員が二名だったので、生徒達の二段審査に合わせ、三人で合格に向けた練習を一生懸命に取り組んだことをとても懐かしく思い出します。この時の五段取得こそが、剣道に対する考え方が変わってきたきっかけであ

り、六段合格への道標になったと思います。

さて、今回の六段審査は私にとっては二回目だったので、最初の京都審査の時は、全国から六段合格に意欲を持つ、千人

今後とも諸先生、先輩方ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

あまりの人々の中で、自分の審査の時に極度の緊張状態になり、内容は散々で私の竹刀はついに一本も相手には当たらず、かすりもしませんでした。精神的に打ちひしがれた京都審査でした。常日頃、「平常心」という言葉を使っていますが、このことでもますます心の大事さがわかってきたように思いました。ですから私自身も六段合格はあと最低三・四回はかかるな、と思っていました。そう思っただけで名古屋審査でしたが、今回も緊張はしましたが、立ち合いの内容も自分では十分に納得できるものであり、立ち合後の気力も晴ればれとしたものでした。相手にも恵まれ、運もあつたのでしようが、自分の合格を確認した時はとても嬉しく思いました。

この六段合格を、これから剣道を続けていく上で、剣道に対する考え方を進化させるきっかけとしなければならぬと感じま



居合道六段に合格して

居合道部 一宮 和雄

平成十年十一月十四日、東京江戸川区スポーツセンターにおいて実施された、居合道六段、七段審査会におきまして、六段に合格させていただきました。

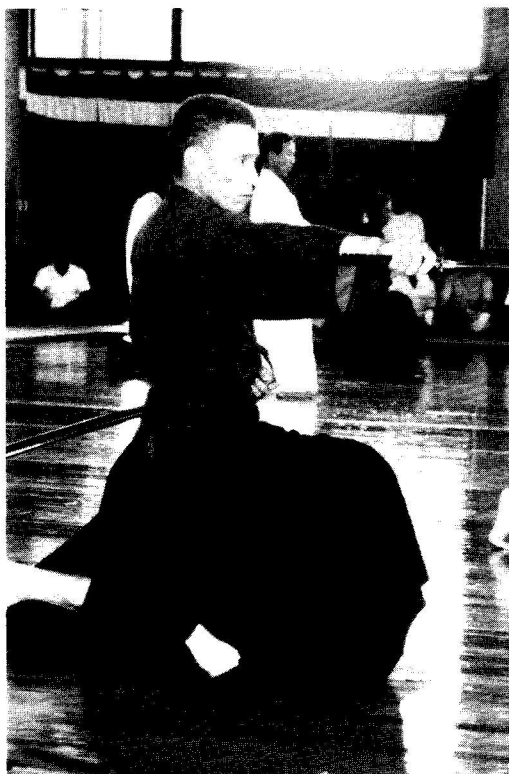
これもひとえに師匠の平尾勝美先生を始め、徹心道場の諸先輩方のご指導とご助言を頂いたおかげと深く感謝している次第であります。

私は、五段になった時、平尾先生がおっしゃったこれから六段に向けての稽古をするようにとの言葉を思い浮かべ、できるかぎり稽古を休まないようにしました。また、この度の審査に臨み稽古で注意指導されたことはかならず直すのだという心構えて

練習に励み、特に心掛けたのは技を正確に大きくゆったりと行うことでした。また一本一本心をこめて稽古を重ねてまいりました。

審査当日、始めは緊張していましたが、順番待ちの間に剣道場で練習しているうちに緊張感がほぐれ、本番では力まずに実技を行うことができた結果は幸運にも合格させていただきました。

私は、まだまだ未熟者ですが益々精進を重ねてまいりますので今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



居合道六段に合格して

居合道部 西山 光次



平成十年十一月十四日(土)お江戸の空は一点の雲も無いぬけるが如くの青天、自慢の愛刀肩にかけ一

夜の宿をあとにして、一足審査会場まで。正門前には北は北海道、南は沖縄まで全国から集まった剣友三百人弱、午前九時四十分審査開始、刻々とせまる出番、冷静に冷静にと気を静めいざ出陣、小春日和の陽気にすくわれ手足が軽い、自分なりの技が出来た。後は合か否か、運を天に任せ発表待つのみ……。

合格発表、掲示板に50番Dありました。お陰様にて合格させて頂きました。有り難うございました。

これ偏に、平尾勝美先生始め、多くの諸先生方のご指導ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。厚くお礼申し上げます。

私が居合を知ったのが、今から二十数年前、平尾先生との出逢いです。

もともと歌舞伎、股旅物の芝居が好きな上、和服一筋五十年、きもとと云う者に最高の喜びを感じる者でございます。

黒羽二重に五ツ紋、仕舞袴に角帯しめて、日本刀を振る平尾先生のお姿は何とも云えない格好良さ、これだ！早速先生にお願い申し上げ入門させて戴きました。それ以来永年ご指導を頂いております。最初の頃は無我夢中で只刀を振るだけで精いっぱい、それから段があがるにつれだんだん難しく、道の奥深さを知らされます。日本独特和の文化、障子の世界、見えそうで見えない、出来そうで出来ない。そこで修業修業と長続きさせて頂くのです。

私も還暦をすぎ、人生大きな節目、このたびの昇段を機に尚一層健康に注意し、この道に精進させて頂き、人生の後半一人でも多くの先生方との一期一会を大切に、日々習ったことを活かし、僅かなことでも一日一善目標に老後をおくれたらと思う次第でございます。

どうか県下の諸先生方始め、剣友の皆様方、今後とも宜しくご指導ご鞭撻賜ります様お願い申し上げます。



江尾 二月 森磯加川大畑大谷大中十 中十一 森遠佐原山武
 口田 月十四 田部林人内野石口下田十一月二十九日 村一月八日 知藤藤政武
 大光 日 昌茂祐介行郎生映也規 万里子 世子清敏範豪
 祐志 治仁完介行郎生映也規

豊中 小北岡矢割河森橋今川大
 田村川川野野石野英慎川又坂
 史美絵真健俊裕敏雄一郎幸大真
 子樹奈衣治夫之夫雄一郎治吾右

【二段】

青川 龜森山宮江三吉甘紅林野寶篠平佐高中奥吉松五月
 木原 島岡崎崎富好田利露 々宮井原野藤木川岡本有 十日
 真 ゆ 小 留 加 や 絃 智 正 晃 義 春 將 康 陵 次 央
 弓 かり 百合 美子 奈子 澄い 海一 哉 聖 之 樹 学 司 誠 紀 潤 次 央

山黒秋高岡藤河品岡住蔵竹山田福元九月津六月北後櫻抽
 本木山志山井野川部友本亭ノ井中本木高二十日山山裕裕 村藤佳代子紀佳
 一祐雄和真一俊健達直浩賢 徹翔志志 典 ひとみ 子 紀 佳
 成志治正輔平樹太朗城一一微翔志志 典

吉長渡矢岡下矢林松白市岡滝山川岸瀬石瀬尾森大森大福
 田浦川部田久保野村井橋川下口原上井尾崎坂田城永
 雅理陽智友奈々枝裕美子子子美幸佳規之哉夫学佳作晴史成志司
 美絵子子香枝子子子美幸佳規之哉夫学佳作晴史成志司

上佐乾中大本坂中藤藤松澤大都仁桎久津六平十一中十北白田
 平藤 東栗東田崎河本田谷築科福和條田十一月二十九日 川一月八日 川井島
 和 好 正 大 周 真 拓 和 透 宏 生 裕 仁 慎 太郎 子 仁 加 幸
 怜徳和大寛輔匡友作治哉也透宏生裕仁 慎太郎

中田重長谷山西岡宮濱大森藤畑板二月池高藤阿仁松美
 岡中松川上岡田本川下隆広秀山東十四日 添原本久由正裕
 弘千裕陽弘裕長隆広秀山東十四日 美智代明美緒子美理稔德
 美尋里介純勲己康州司裕之明洋

裏齊片田前片神測齋津湯高高塩島柿吉山加田木須曾原四月二十九日
 口藤山村田山元村藤山村谷井田田田本岡口藤中内賀根賢二
 勝和希守悠恵駿武信純潔善康雅祐祐裕優孝良勇寛賢二
 久人望通貴介一志彦一喬威浩人輔剛一郎輔次弘樹介文二
 前森西井堀都藤本岡入野岡細吉兼宮横菊木片山東松藤尾
 野西岡本都留田藤田野宮本川田西武田野田山口條田田田
 賢隆和健佑俊晃太郎輔朗樹史則幸一郎也介史希大也毅一和
 策之航大次誠助佑郎輔朗樹史則幸一郎也介史希大也毅一和
 伊古市林片坂塚中原藤花佐山茂森藤鉄大三中喜原友近加
 藤高川岡本原津田野藤下崎崎本野下井本多行松藤
 貴美和陽美可裕裕京佳真由甲真江美明由奈美美由大陽浩佳
 子代子紀苗美美子代美貴子香里菜子實映子来矢円子弓子子晶
 杉宮佐上松町六月二十一日大中吉白馬林石是黒滝豊池上満清粟清
 村本古田原谷塚村岡井原川安田根島本田川愛恵裕子子晶
 宜靖将諭伶徹子子里佳子子實映子来矢円子弓子子晶
 紀之教志介徹子子里佳子子實映子来矢円子弓子子晶
 小濱木香坂阿広南吉藤岡稲國黒前西杉葉高國切西和佐佐
 濱村川尾部沢部田原東節植藤田井吉田田田保谷坂田友中田田藤川
 正幸正俊快和康智直和公二將裕誠明祐太近長新森小池柳楠安中
 志司琢憲浩洋也介紀也己郎幸介哉慶史郎裕文諭也之也平
 辰杉桑今前大谷板大麻齋増武太近長新森小池柳楠安中
 巳浦田井田上原東節植藤田原田藤江居島野内本原藝林
 亜良亜恵令志沙真みゆひと雅真安真葉桜美真沙芳浩
 紀子希美子恵織織実き子み子紀奈季子香子和希穂吏三二
 中三國谷田島山藤青高森の井湯石湯板西戸谷原佐近三九月
 川浦見本島田田本木木下場口浅井浅東岡川田藤藤藤谷六
 健孝辰泰晃峻雄航和健照頼祐太英介潤悟将樹彦輔紀也幸
 太二德彬拓輝三介希平也祐太英介潤悟将樹彦輔紀也幸

川田千晶	安宅ひとみ	市原典子	岸香織	賀川阿喜子	吉原佳奈	小西真愛	掛水紀佳	河井千希	工藤美奈	坪井香奈	橋本佳奈	中山希美子	瀬口裕子	株木尚子	坪井舞子	杉本麻由美	小西美穂	片岡未來	檜原久美	本淨忠男	西平武史	佐藤陽祐	吉田博	武市尚也
小川泰弘	大城康輔	岡田直人	笠井雅樹	高橋啓太	遊塚慎也	山添正之	櫻谷光司	森口大輔	西峰和彦	村瀬賢晃	十月二十五日	高瀬雄介	平田慎太郎	十一月八日	西原実智子	岡本明子	岩佐光惠	森本香奈	中川瑞	谷川妃呂子	割石敦子			
田中公洋	戎敬太郎	林直紀	久田浩誌	平田拓也	西健悟	森長将浩	一月三十一日	宮越智寿	昇葉子	三橋宣子	殊才絵里奈	横田沙織	北岡奈都美	福田まり子	谷本尚毅	中川秀樹	滝花剛	尾池浩章	中村章	吉田穰	坂中貴志	柳澤仁	横田徹也	
多田裕貴奈	西内千智	細川雪絵	庄野裕実子	朝田百合奈	原美咲	前田義人	笹下博介	荒瀬陽文	林崎修一	野保美栄	久坂晶三	折板潤一郎	株東崇史	岩脇有軌	株幸輝	高橋幸平	橋本康祐	笠井卓見	林卓聡	田中直史	三谷友樹	遠藤和也	木下毅	
															清重真希	林住美希	山川亜織	細川和美	後藤奈津美	滝川和み	大久保なつみ	吉田美樹	高村真紀	
		中川典子	十一月八日	篠元徑夫	五月十日	【二段】	中村万里子	十一月八日	十一月八日	五月十日	戸村淳一	尾崎憲道	五月十日	【三段】	小引健	十一月八日	【四段】	西山光次	一宮和雄	十一月十四日	【六段】	五月十日	【初段】	
															高瀬雄介	平田慎太郎	十一月八日	坂本佳美	川原ゆかり	生原茂雄	藤井貴正			

がんばろう徳島

“さようなら、

愛する剣道連盟”

事務局 佃 久美

平成元年四月より、徳島県剣道連盟にお世話になりましたが、この度、退職させていただくことになりました。この十年は言葉で表現できない程、私にとっては貴重な、思い出深い年輪になりました。

どちらを向いても立派な先生方の中で、無我夢中でした。剣道が生活の一部となり、それをこよなく愛しておられる先生方はいつも輝いて、私の教師になってくださいました。

今、各役員会で成立した平成十一年度行事表を作成しながら……。目を閉じると、静まり返った武道館に響く力強い選手達の掛け声が聞こえてきそうです。



日頃の稽古の成果を競う県下各大会
意欲あふれる豆剣士達の錬成大会
成功を収めた徳島国体
熱気の中で我を忘れて声援を送った大阪
なみはや国体
剣道が似合う京都大会
京都六、七段審査を陰で見守った緊張感
すべてが脳裏に焼きついています。

これからはバトンを渡した長谷川さんが
しっかりと引き継いで下さる事と思います。
いままでの皆様の出会いとご芳情に、感謝の気持ちでいっぱいです。
楽しくお仕事をさせて頂き、ありがとうございます。
最後に、先生方のご健康と徳島県剣道連盟のご発展を心よりお祈り申し上げます。

徳島県下稽古場所・時間帯一覽

一般社会の方が稽古できる場所と時間帯一覽を作成してみました。未掲載の道場等につきましては次号に掲載予定しております。編集委員 白木 崇

主催	場所	住所	日	時	駐車場	常時参加人数	代表者	メッセー
剣道連盟	警察学校	徳島市論田町	水 10:00~11:00 11:00~12:00	第2・4土 その他土 15:00~17:00	50台	30名	遠藤 一美 〇八八―六五―二三三 〇八八―六五―二三三	県下の実力のある剣士が集まっています。さらに充実した稽古会になるよう、さらに多くの人の参加を期待します。
	県立武道館	徳島町城の内六番地	水 19:00~20:00	土 19:00~20:00	無	15名	馬場 力 〇八八―六六―〇三〇 〇八八―六六―〇三〇	剣道をやりたい人であれば、どなたでもおいでください。土曜のみ二七〇円利用料がかかります。
	東内道場	北矢三町四丁目県営住宅前	水 19:00~20:00	土 19:00~20:00	5台	5名	東内 勉 〇八八―三三―五七八 〇八八―三三―五七八	老若男女年齢問わず。
	上八万小学校	上八万町樋口一	水 19:00~21:00	土 19:00~21:00	10台	30名	河野 通宣 〇八八―六六―〇二七 〇八八―六六―〇二七	小学生の練習は、水曜入:〇〇・土曜七:〇〇です。
	加茂名中学校	庄町一丁目	水 19:00~21:00	土 19:00~21:00	有	10名	橋本 武 〇八八―七九―二〇七 〇八八―七九―二〇七	初心者も歓迎 基本中心
徳島支部	加茂名小学校	庄町五丁目	木 18:00~19:30	土 18:00~19:30	有	15名	橋本 武 〇八八―七九―二〇七 〇八八―七九―二〇七	少年中心の錬成
	加茂名南小学校	鮎喰町二丁目	日 17:00~19:30	火 17:00~19:30	有	8名	藤本 俊夫 〇八八―六四―三三三 〇八八―六四―三三三	元:〇より一般の稽古
	養武館	徳島市八万町馬場山 四三―二	火 19:00~21:00	木 19:00~21:00	5台	5名	米倉 滋 〇八八―六六―六六〇 〇八八―六六―六六〇	県下で唯一、空調設備の整った道場で夏でも快適!
	岫雲館	徳島市北田宮三丁目一	月 19:00~21:00	金 19:00~21:00	10台	10人	藤本 辰夫 〇八八―六九―五〇三 〇八八―六九―五〇三	基本練習からやっています。初心者の方も気軽にどうぞ。
	徳島清風館	徳島市国府町中八九	火 21:00~	木 21:00~	15台	4人	久保 隆司 〇八八―三三―〇七〇 〇八八―三三―〇七〇	基本理念は「正しく楽しく仲良く」おいで頂くときは電話して下さい。
県庁	県立武道館	徳島町城の内六番地	毎月一回土曜日 10:00~12:00	12:00~20:00	無	15名	植田 一夫 〇八八―三三―三五六 〇八八―三三―三五六	平成九年に発足しました。細く長く続けるため、月一回どなたでも気軽に参加して下さい。
鳴門支部	光武館	撫養町大桑島	第二日曜 18:30~20:00	20:00~	30台	8名	寺西 慶裕 〇八八―六五―〇七三 〇八八―六五―〇七三	
	県立鳴門武道館	撫養町立岩	月 19:00~21:00	水 19:00~21:00	50台	10名	佐藤 勇 〇八八―八五―四六一 〇八八―八五―四六一	
板野東支部	松茂町総合体育館	松茂町中喜来字群恵 二二五―二一	金 18:00~20:30	土 18:00~20:30	300台	8名	米田 利彦 〇八八―六九―六二七 〇八八―六九―六二七	いつでも自由に参加して下さい。

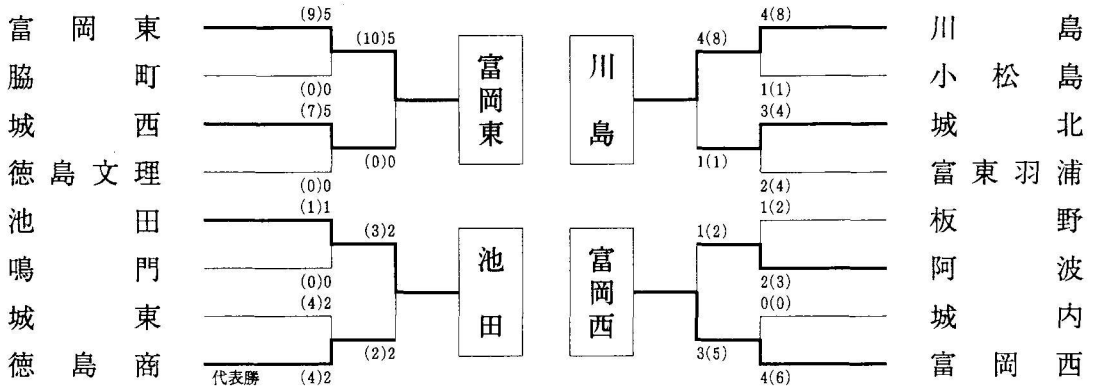
主催	場所	住所	日	時	駐車場	常時参加人数	代表者	メッセージ
美馬東支部	穴吹小学校 体育館	穴吹町穴吹字井口二三	一月 一九：〇〇～二二：〇〇	木 二二：〇〇	30台	5台	大石雅生	いつでも歓迎。
阿波支部	脇町小学校 体育館	脇町猪尻字西久保七八	火 一九：〇〇～二二：〇〇	金 二二：〇〇	30台	5台	細川欣典	いつでも歓迎。
阿波支部	市場町立武道館	市場町興崎字北分	月 二〇：〇〇～二二：〇〇	二二：〇〇	30台	8名	河野耀雄 〇八三―三六―二八三	初心者不可、ほか誰でも歓迎。
阿波支部	阿波中学校 武道館	阿波町字東原二三〇	水 二〇：〇〇～二二：〇〇	二二：〇〇	20台	10名	中尾誠 〇八三―三六―五四四	初心者不可、ほか誰でも歓迎。
板野西支部	土成町農業者 トレーニングセンター	土成町土成字漆畑	水 一九：三〇～二二：〇〇	木 二二：〇〇	15台	9名	岡田京子	少年教室を主として、一般を兼ねています。
板野西支部	上板中学校 体育館	上板町神宅西金屋四〇	火 六：三〇～七：四〇	土 七：四〇	50台	15名	坂東伸光	早朝稽古ですが誰でも歓迎します。
板野東支部	藍住町武道館	藍住町矢上前三二一	火 二〇：〇〇～二二：三〇	二二：三〇	20台	3名	高田亮 〇八六―六九―二九三〇	初心者・再開する人・剣道大好きな人大歓迎です。町外の参加者もOKです。
板野東支部	北島町立武道館	北島町江尻柳池四一	一八：三〇～二〇：三〇	二〇：三〇	50台	7名	大野義則 〇八六―六九―三三六	いつでも歓迎。
板野東支部	北島北小学校 体育館	北島町北村字壱町四友地 一月二十日	一九：〇〇～二〇：三〇	二〇：三〇	20台	6名	伊賀雅人 〇八六―九一―四五六	いつでも自由に参加して下さい。
阿南支部	徳島至誠館	羽ノ浦町宮倉沢田	木 一〇：三〇～一九：〇〇 二二：〇〇～二二：三〇	日 一九：〇〇	15台	20人	中山啓男 〇八四―四一―六六二	剣道を愛する人の為に門戸を開いています。初心者も遠慮なく。
阿南支部	羽ノ浦町武道館	羽ノ浦町宮倉	六：〇〇～七：三〇	七：三〇	10台	10人	浜田逸朗 〇八四―四一―二九四五	
阿南支部	那賀川B&G	那賀川町今津浦	水 二〇：三〇～二二：三〇	金 二二：三〇	20台	2人	山田耕司 〇八四―四一―三三八	
阿南支部	大野小学校 体育館	阿南市下大野町	二〇：三〇～二二：三〇	二二：三〇	20台	4人	池田洋一 〇八四―三三―七七八	
阿南支部	阿南市武道館	阿南市大湯町	二〇：三〇～二二：〇〇	二二：〇〇	30台	13人	有賀秀敏 〇八四―三三―六九一八	

主催	場所	住所	日	時	駐車場	常時参加人数	代表者	メッセージ
美馬西支部	重清東小学校 体育館	美馬町大泉一五	水 土	一八：〇〇～二〇：〇〇	8台	25名	香西 虎夫 〇八八四一三〇五二六	こども・一般・初心者からでも歓迎します。
勝浦支部	勝浦町体育館	勝浦町三溪字古川	水 土	一九：〇〇～二二：〇〇	100台	20名	立岩 勝己	皆様のご指導をお願いいたします。
小松島支部	直心館道場	田野町明石南二九七一	月 金	一九：三〇～二二：〇〇	10台	3名	松田 敏弘	己に勝つ。
丹生谷支部	鷲敷海洋 センター体育館	鷲敷町百合	月 水 金	一九：〇〇～二二：〇〇 二〇：〇〇～二二：〇〇 二〇：〇〇～二二：〇〇	100台	10名	井村 雅人	他町村の方も： 楽しく剣道をやりましょう。
	木頭錬心館	木頭町出原	火 金	二〇：三〇～	無	10名	松本 英雄 〇八八四一八一三三九	
丹生谷支部	木頭錬心館 一般居合道	木頭町出原	月 木	一九：三〇～	無	7名	原田 勝	元々剣道の盛んなところ。昔取った杵柄とやらで子供の少剣入門と共に復活する人が多い。
	日野谷小学校 体育館	相生町大久保中西二八一	木	二〇：〇〇～二二：〇〇	30台	5名	西浦 新 〇八八四一三一〇八二	
海部支部	延野小学校 体育館	相生町延野字王子原三二	火 木 土	二二：〇〇～二二：〇〇	30名	5名	橋本 一幸 〇八八四一三一〇〇四	指導者が共に切磋琢磨している。剣道教室出身者が、今は指導者として頑張っている。
	日和佐小学校 体育館	日和佐町奥河内	水 木	一八：〇〇～一九：三〇	20台	25人	張西 政晴 〇八八四一七一〇八二	

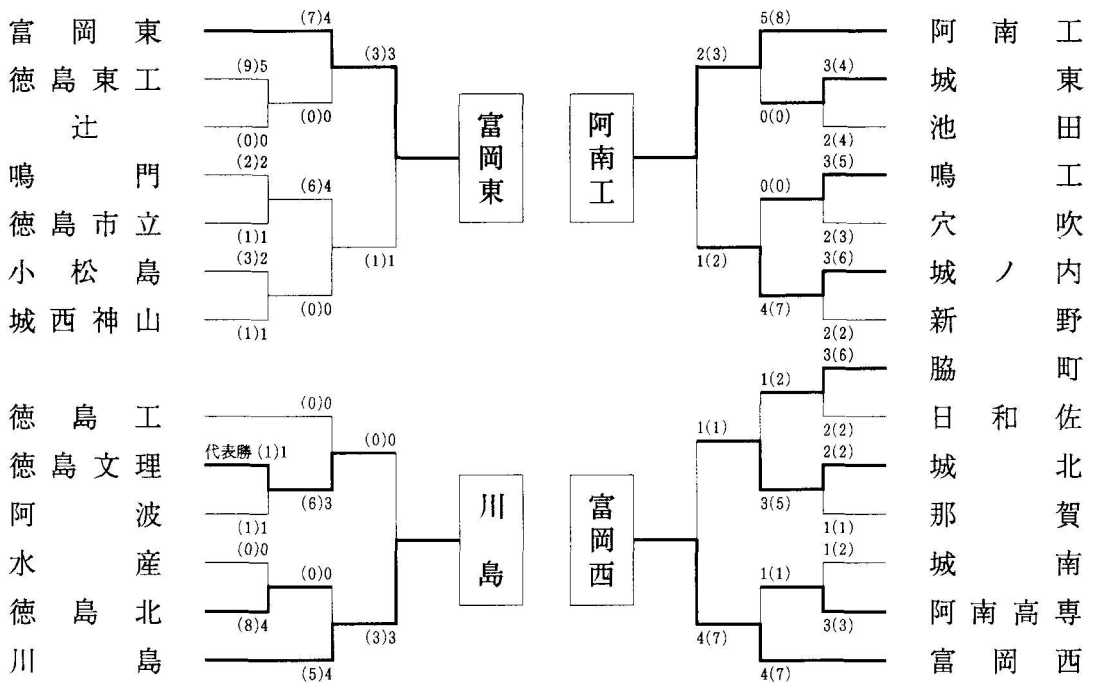
第38回 徳島県高等学校総合体育大会

平成10年6月6日～6月8日
徳島県立城西高等学校体育館

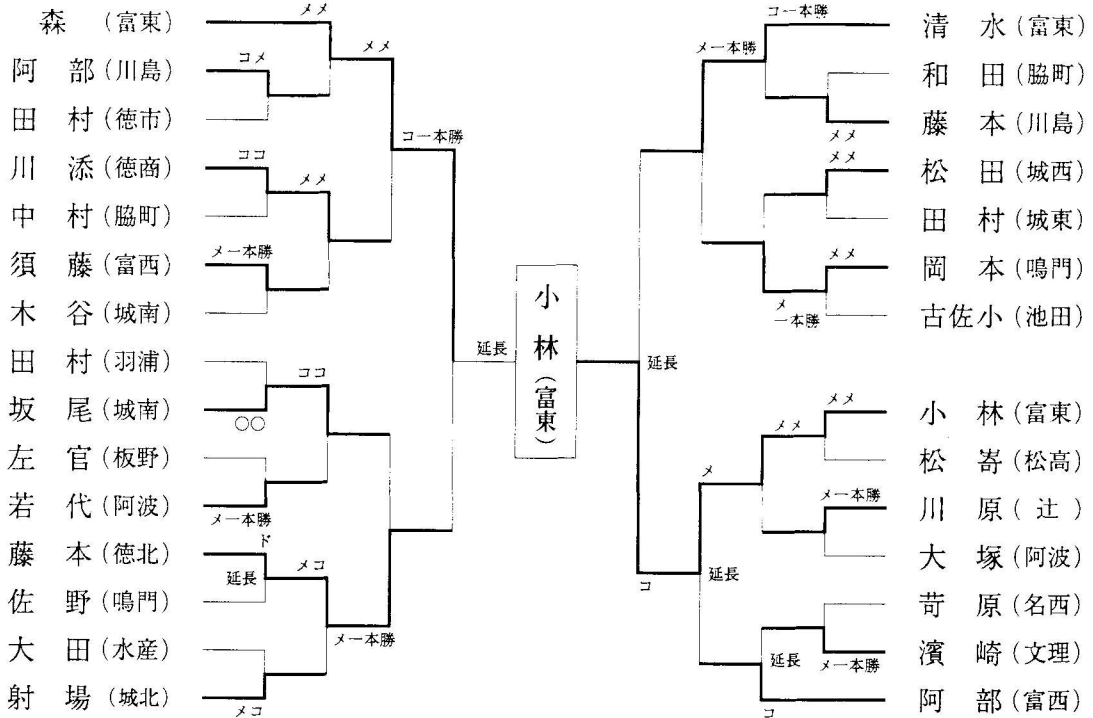
〈女子団体予選〉



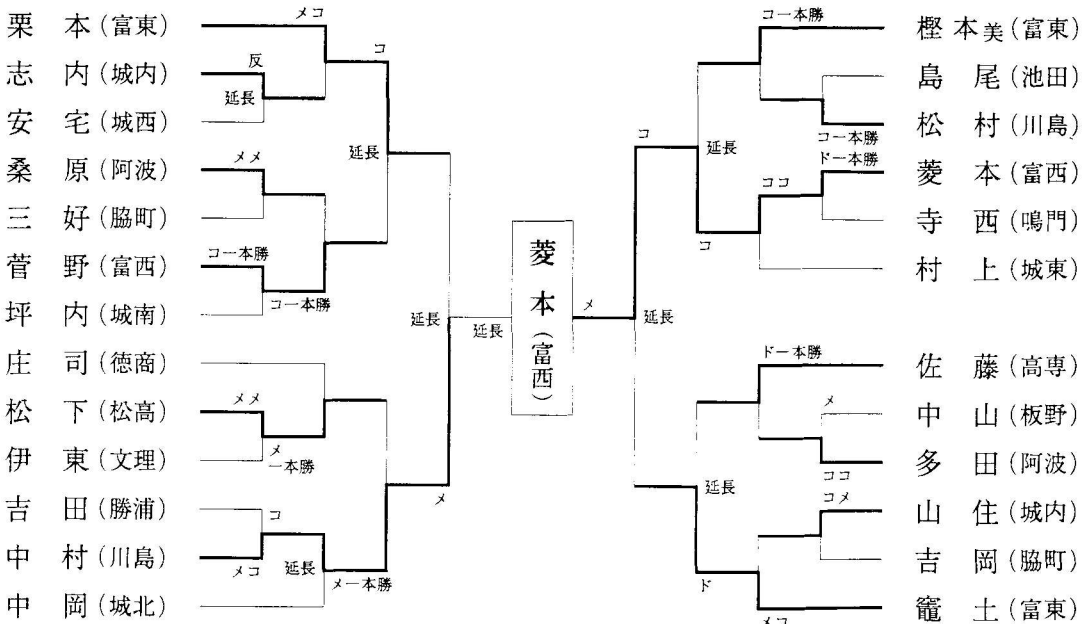
〈男子団体予選〉



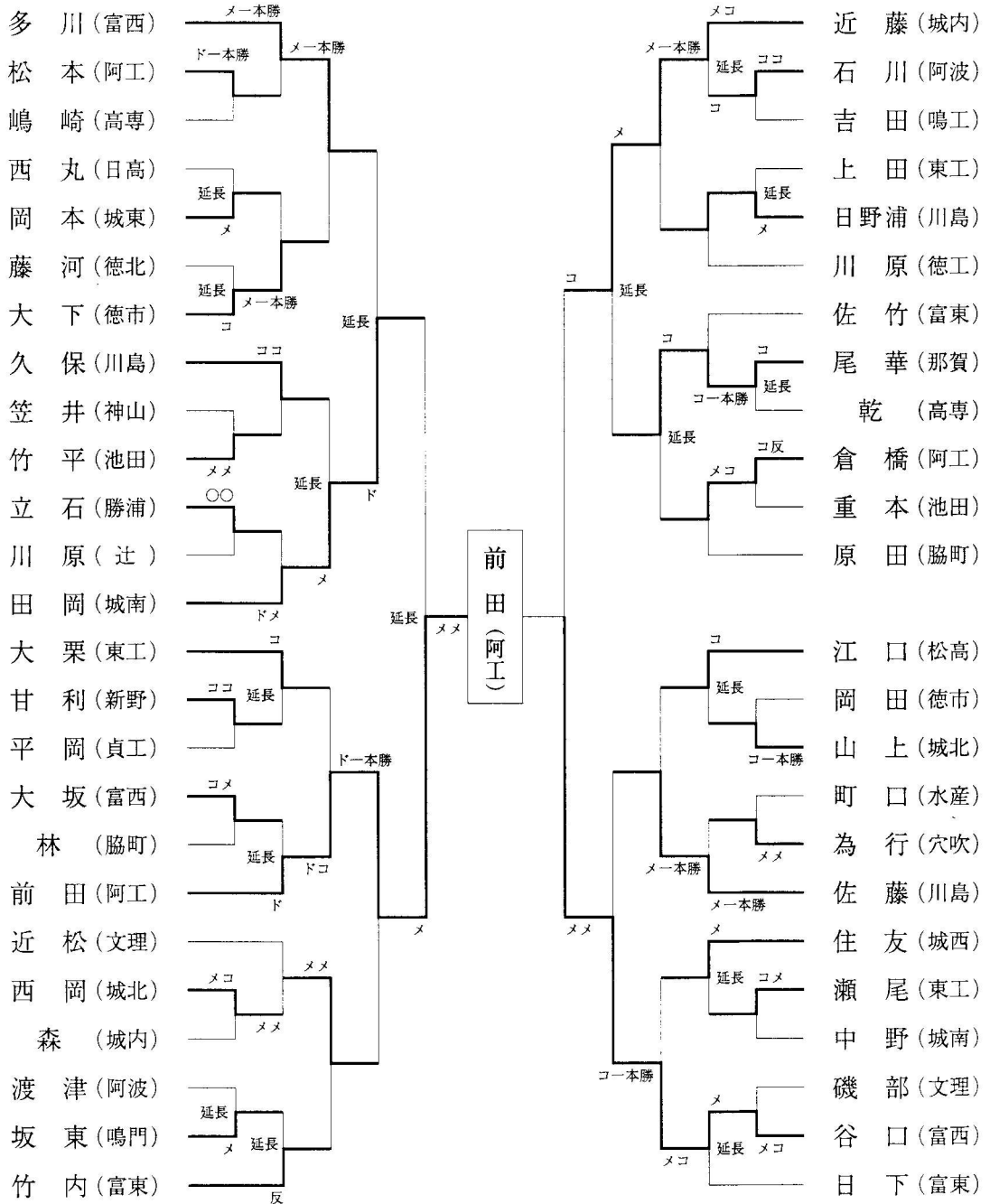
〈女子個人1組〉



〈女子個人2組〉



〈男子個人 4 組〉



<決勝リーグ>

(女子団体)

校名	先	次	中	副	大	得点
富東	伊藤	栗本	森	竈土	大坪井	5 (7)
	メ メ	▲ コ 一本勝	メ 一本勝	メ メ	コ 一本勝	
池田						0 (0)
	桂	▲ 島尾	湯岑	古佐小	石本	

校名	先	次	中	副	大	得点
川島	北川	近藤	藤原	藤本	中村	0 (2)
	延長		延長	メ メ	▲ メ 延長	
富西						2 (5)
	菱本	阿部	藤崎	菅野	小川	

校名	先	次	中	副	大	得点
富東	伊藤	栗本	森	竈土	大坪井	5 (6)
	メ 延長	メ 一本勝	ド メ	メ 一本勝	コ 一本勝	
川島						0 (0)
	北川	近藤	藤原	藤本	中村	

校名	先	次	中	副	大	得点
池田	桂	島尾	湯岑	古佐小	石本	0 (0)
			▲▲			
富西						5 (7)
	一本勝 ド	ココ	一本勝 反	メ コ	一本勝 コ	
	菱本	阿部	藤崎	菅野	小川	

校名	先	次	中	副	大	得点
富東	伊藤	栗本	森	竈土	大坪井	3 (4)
	延長	コ 一本勝	▲ コ メ	延長	コ 一本勝	
富西						0 (0)
	菱本	阿部	藤崎	菅野	小川	

校名	先	次	中	副	大	得点
池田	桂	島尾	湯岑	古佐小	大石本	1 (2)
	▲▲		ココ			
川島						4 (7)
	メ 反	一本勝 コ		メ コ	コ メ	
	北川	近藤	藤原	阿部	中村	

<決勝リーグ>

(男子団体)

校名	先	次	中	副	大	得点
富東	大前	日下	蛭原	竹内	儀宝	2 (4)
	延長	延長	コメ	延長	メメ	
川島	隅田	三木康	日野浦	三木隆	藤野	1 (1)
				メ	▲	

校名	先	次	中	副	大	得点
阿工	瀬口	吉岡	谷岡	篠原	大前田	1 (1)
	延長	延長	メメ	延長	一本勝	
富西	谷口	大坂	藤川	小柏	長谷川	3 (4)

校名	先	次	中	副	大	得点
富東	大前	日下	蛭原	竹内	儀宝	1 (2)
			ド		メド	
阿工	▲	一本勝	延長	延長		1 (1)
	▲	一本勝	メ			
富西	瀬口	吉岡	谷岡	篠原	前田	3 (4)

校名	先	次	中	副	大	得点
川島	隅田	三木康	日野浦	多田	藤野	1 (1)
	▲	一本勝	▲			
富西	谷口	大坂	藤川	小柏	長谷川	3 (4)

校名	先	次	中	副	大	得点
富東	大前	日下	蛭原	竹内	儀宝	0 (3)
	▲	コ	コ		コ	
富西	▲	延長	延長	延長	延長	4 (7)
	▲	コ	コ	コ	ドメ	
富西	谷口	大坂	藤川	小柏	長谷川	4 (7)

校名	先	次	中	副	大	得点
川島	隅田	三木康	日野浦	多田	藤野	4 (6)
	メ	ド	一本勝	メ	メド	
阿工	▲	延長			一本勝	1 (2)
	▲	コ			メ	
富西	谷口	大坂	藤川	小柏	長谷川	4 (7)

<決勝リーグ>

(男子団体)

	富東	川島	阿工	富西	勝数	勝者数	勝本数	順位
富東		4/2	3/1	3/0	2	3	10	2
川島	1/1		6/4	1/1	1	6	8	3
阿工	2/1	2/1		1/1	0	3	5	4
富西	7/4	4/3	4/3		3	10	15	1

(女子団体)

	富東	池田	川島	富西	勝数	勝者数	勝本数	順位
富東		7/5	6/5	4/3	3	13	17	1
池田	0/0		2/1	0/0	0	1	2	4
川島	0/0	7/4		2/0	1	4	9	3
富西	0/0	7/5	5/2		2	7	12	2

(男子個人)

	大前	森	蛭原	前田	勝数	勝本数	得失点差	順位
大前			延長	コ	0	1	-4	4
森	コメ		メ延長		1	3	0	3
蛭原	コ延長	メメ延長			2	3	+1	2
前田	メメ	コ一本勝	メ一本勝		3	4	+3	1

(女子個人)

	小林	菱本	伊藤	坪井	勝数	勝本数	得失点差	順位
小林		メメ	メ延長	延長	1	3	0	3
菱本			延長		0	0	-4	4
伊藤	メメ延長	メ延長		延長	2	3	+1	2
坪井	コ延長	メ一本勝	メ延長		3	3	+3	1

	選手名		選手名
1	蛭原	メ一本勝	前田
2	大前	コメ	森
3	森	コ一本勝	前田
4	大前	延長	コ 蛭原
5	森	メ延長	メメ 蛭原
6	大前	コ	メメ 前田

	選手名		選手名
1	伊藤	延長	メ 坪井
2	小林	メメ	菱本
3	菱本	メ一本勝	坪井
4	小林	メ延長	メメ 伊藤
5	菱本	延長	メ 伊藤
6	小林	延長	コ 坪井

男子最優秀選手 (前田 悟志)

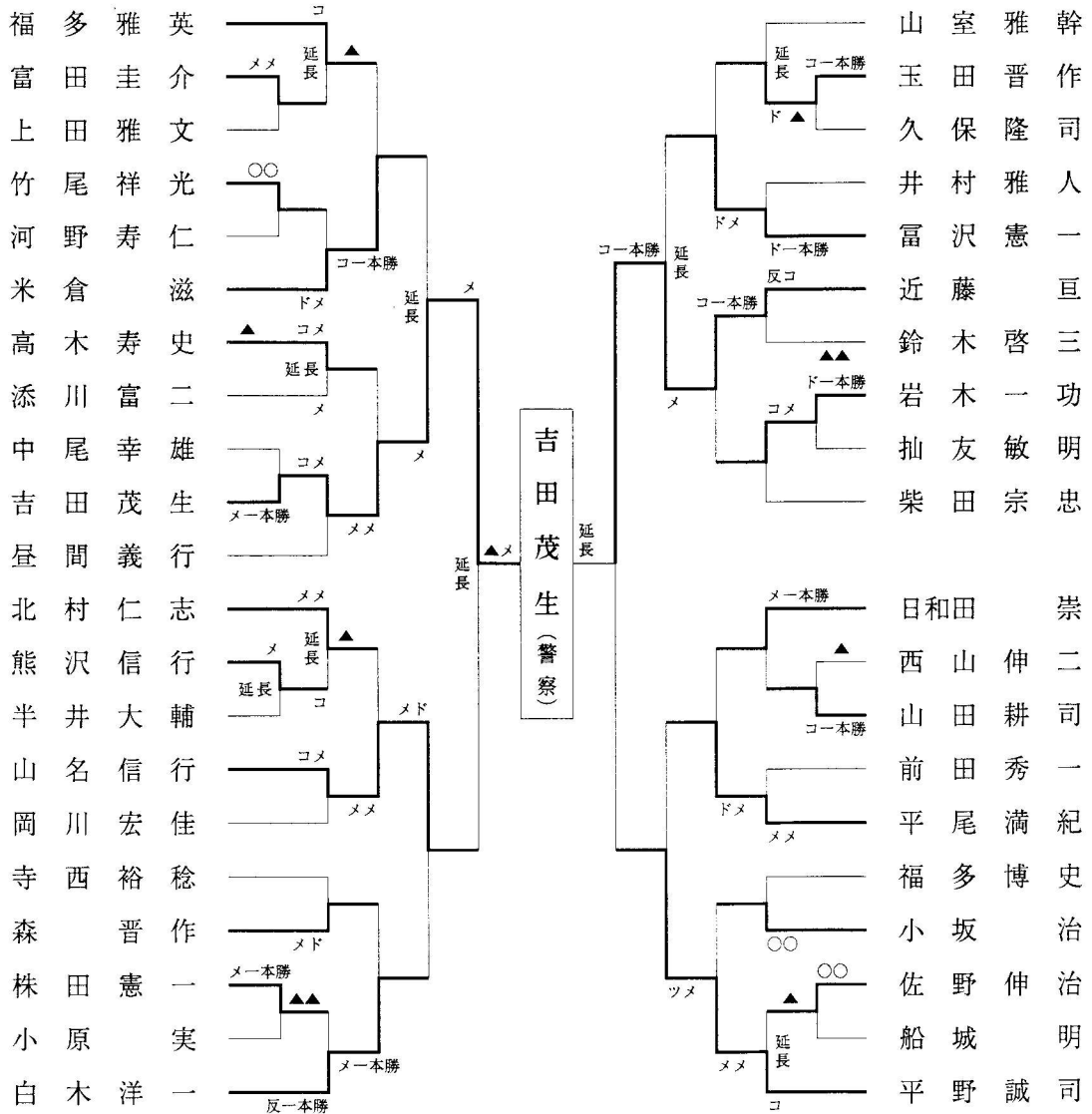
女子最優秀選手 (坪井 あき)

第10回 徳島県剣道選手権大会兼全日本剣道選手権大会予選会

平成10年6月28日
鳴門武道館

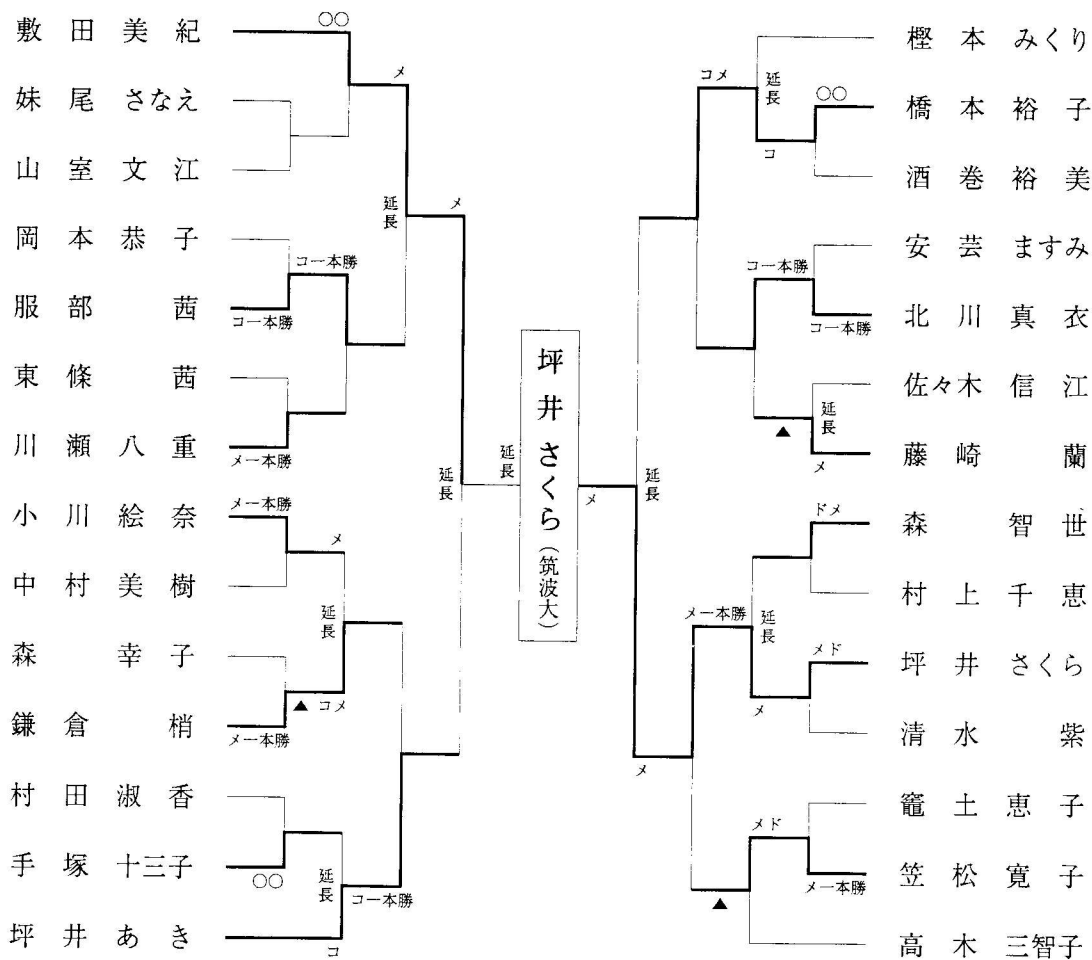
〈男子の部〉

優勝 吉田茂生
準優勝 近藤藤田
第3位 山名野信誠



〈女子の部〉

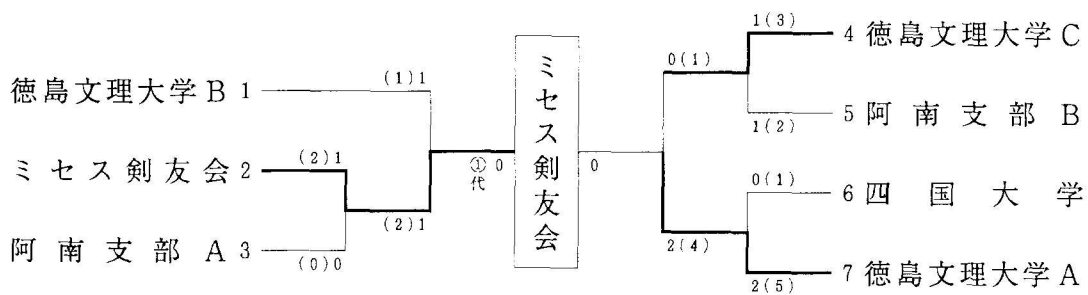
優 勝 坪 井 さくら
 準 優 敷 田 美
 第 3 位 坪 井 あ 紀
 橋 本 裕 子



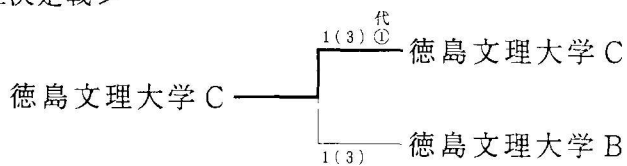
第19回 徳島県女子剣道大会

平成10年7月12日
徳島県立中央武道館

優勝 ミセス剣友会
準優勝 徳島大学文理A
第3位 徳島大学文理C



< 3位決定戦 >

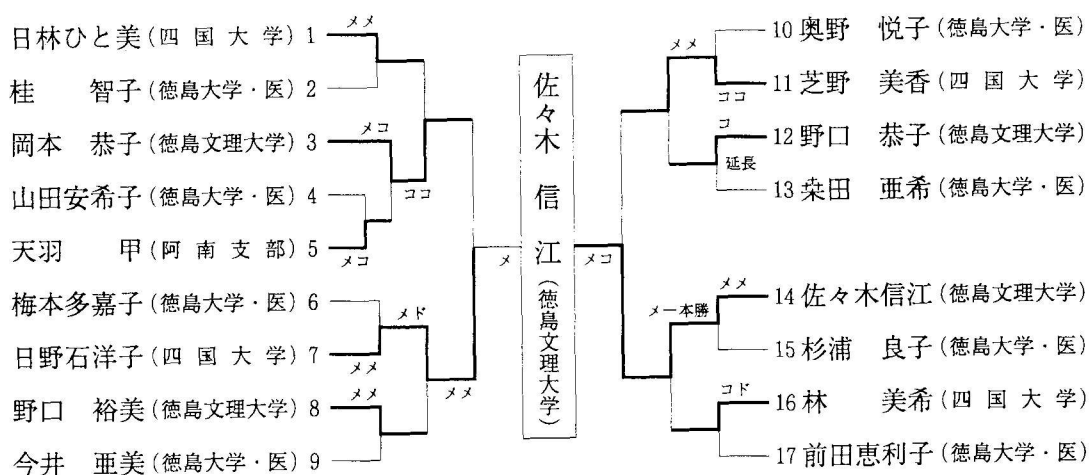


〈二段以下の部〉

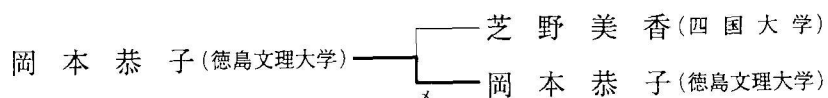
優勝 佐々木 信 江 (徳島文理大学)

準優勝 日野石 洋 子 (四国大学)

第3位 岡 本 恭 子 (徳島文理大学)



〈3位決定戦〉

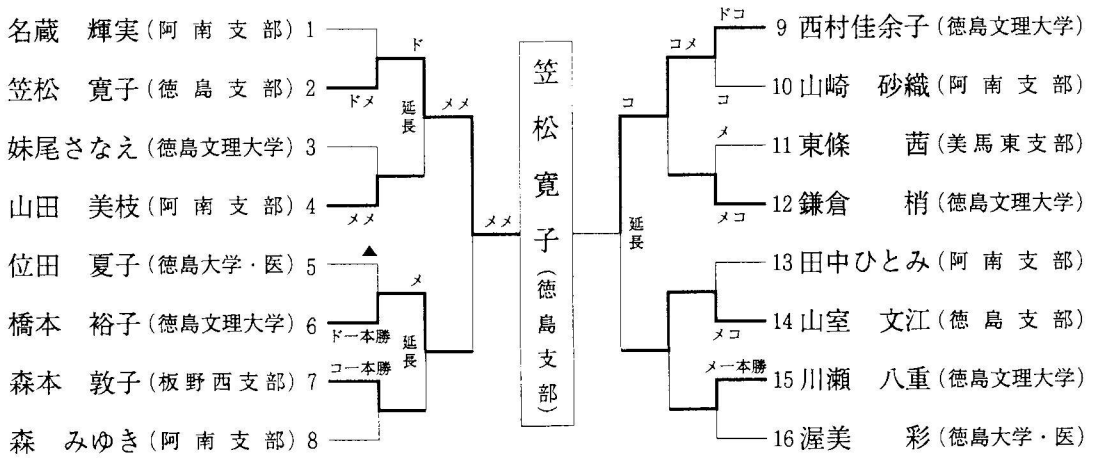


〈三段以上の部〉

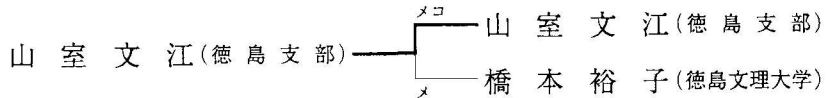
優勝 笠松 寛子 (徳島支部)

準優勝 西村 佳余子 (徳島文理大学)

第3位 山室 文江 (徳島支部)



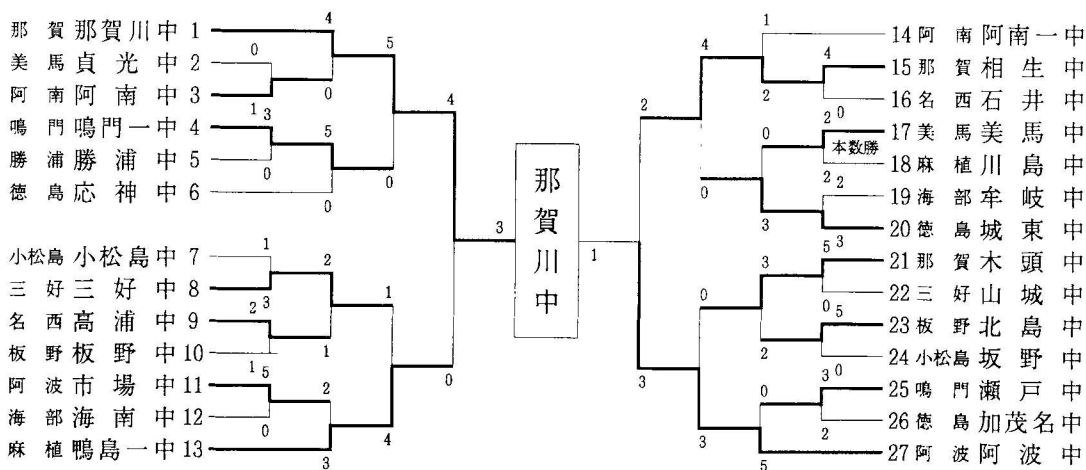
〈3位決定戦〉



第52回 徳島県中学校夏季総合体育大会

平成10年7月20日
鳴門武道館

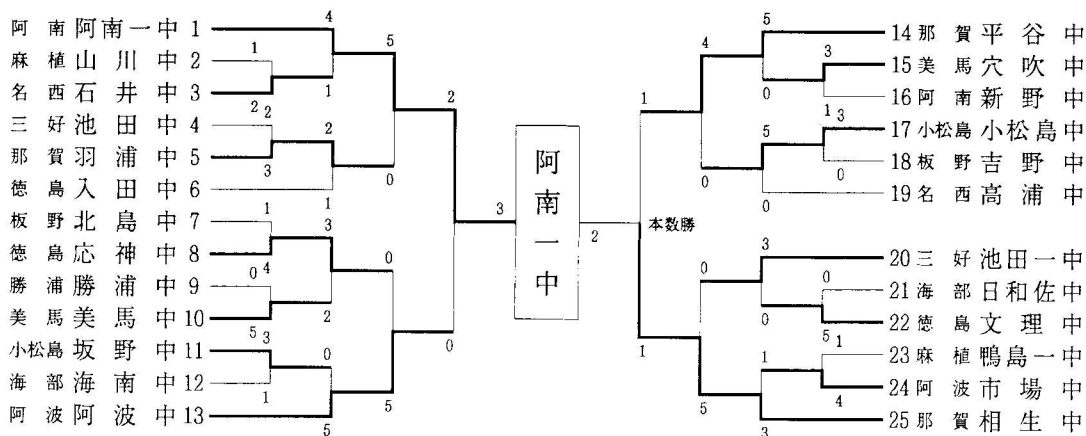
<女子団体戦>



<決勝戦>

学校名	先鋒	欠員	中堅	副将	大将	勝敗
那賀川中	中山希	河田	工藤	岸	中山真	3
	メメ	メ一本勝	メコ	延長	コ	
阿波中	川田	割石	川人	酒巻	寺井	1
				コメ		

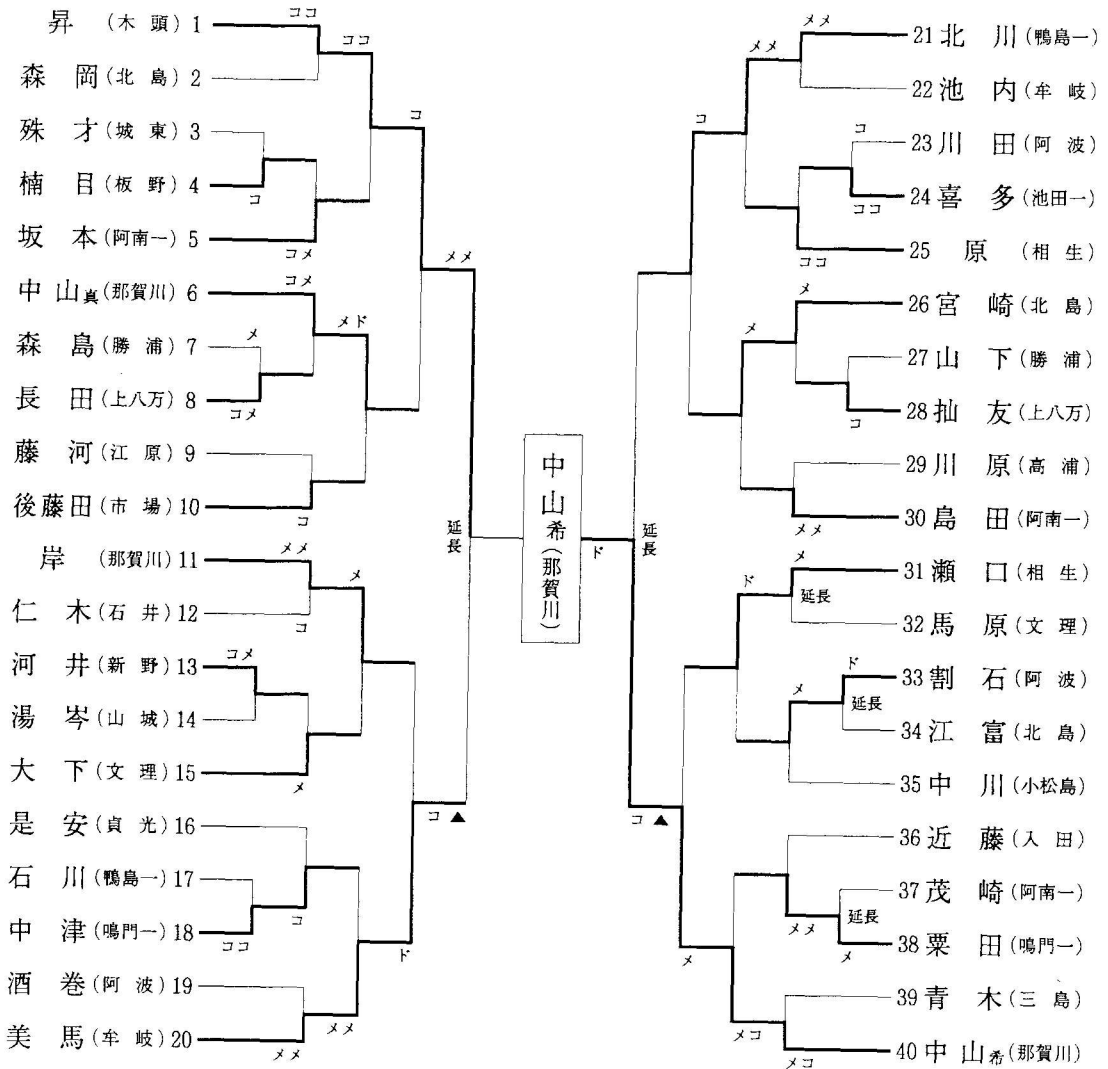
<男子団体戦>



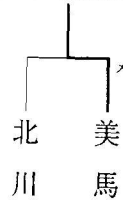
<決勝戦>

学校名	先鋒	欠員	中堅	副将	大将	勝敗
阿南一中	元木	坂本	山ノ井	竹亭	住友	3
	メ反	メ一本勝			ココ	
相生中	前川	昇	井本	樫本	元木	2
			メ一本勝	メ一本勝		

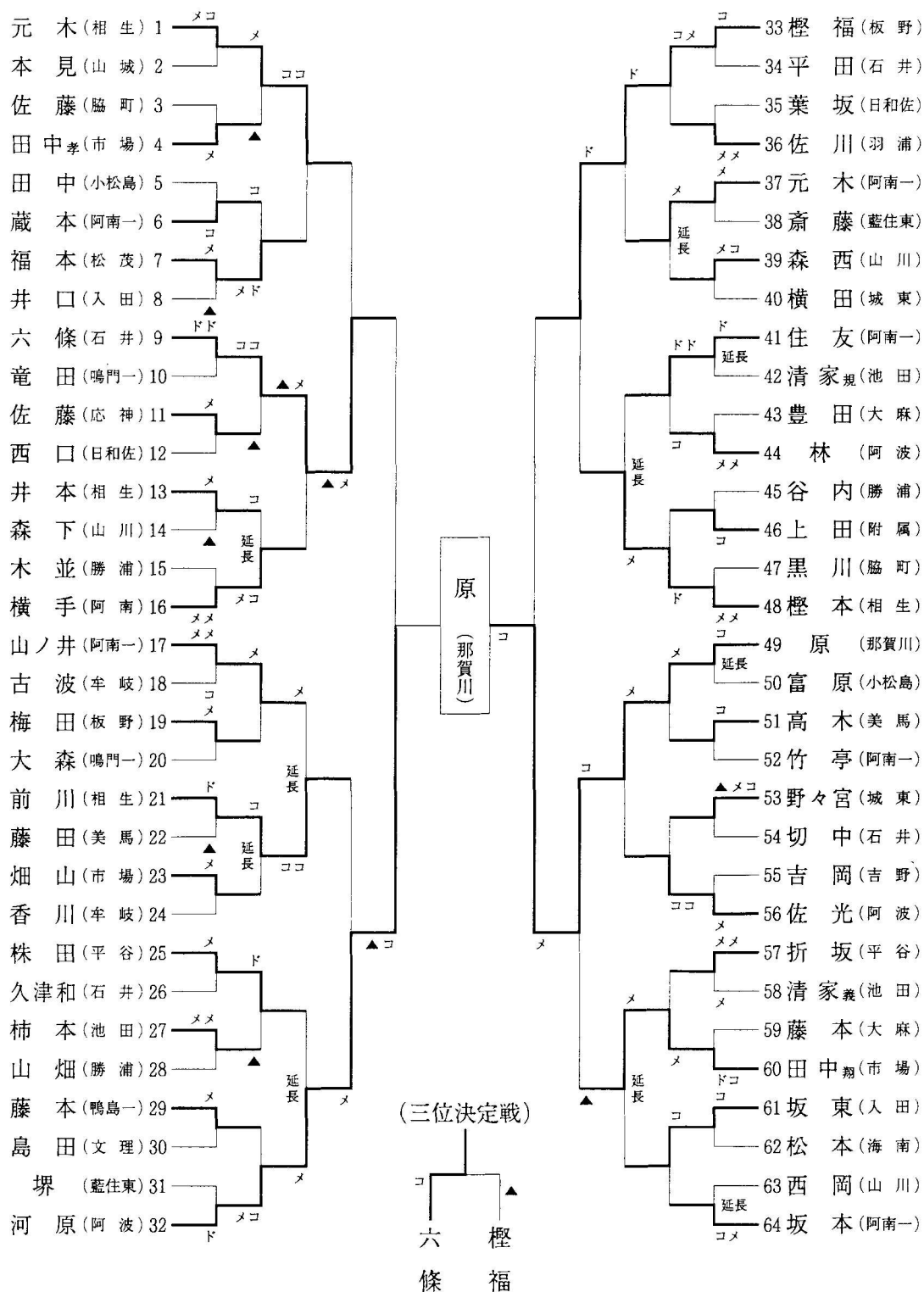
〈女子個人戦〉



(三位決定戦)



〈男子個人戦〉

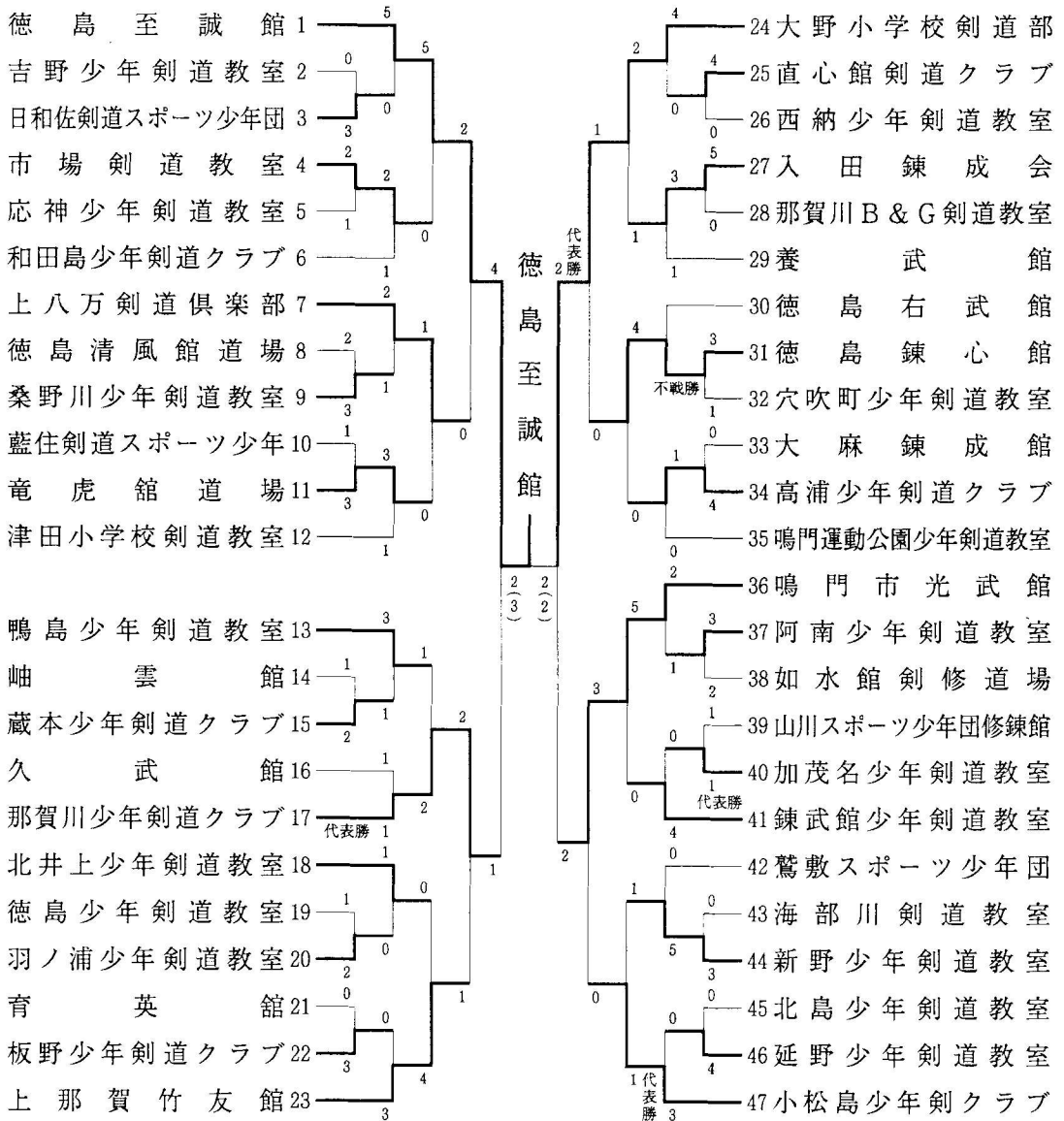


第29回 徳島県少年剣道錬成大会

平成10年7月26日
松茂町総合体育館

〈 団 体 戦 〉

優勝 徳島至誠館
準優勝 大野小学校剣道部
第三位 鳴門光武館
那賀川少年剣道クラブ



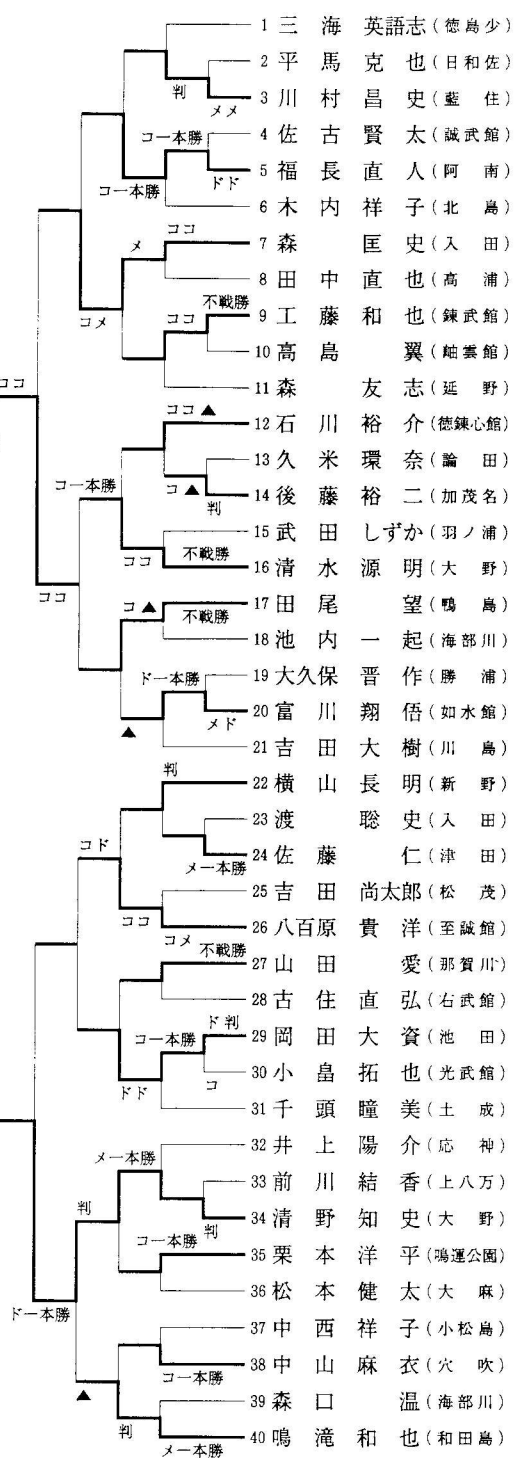
〈個人戦〉

(A組)

(B組)



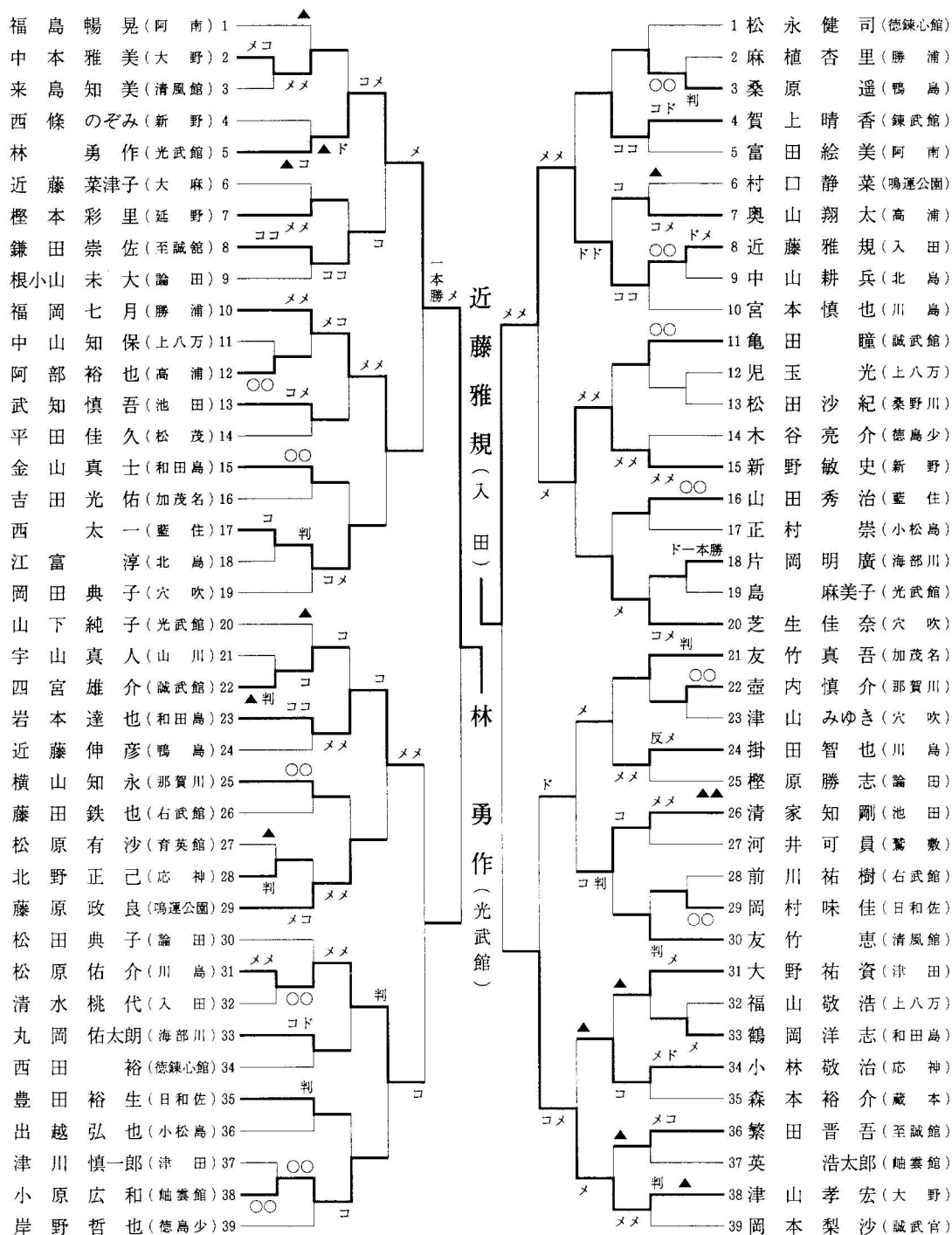
清水源明(大野)
 富本剛至(鴨島)



〈個人戦〉

(C組)

(D組)



<個人戦>

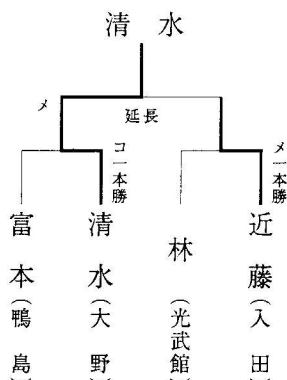
準決勝・決勝

優勝 清水源明
(大野小学校剣道部)

準優勝 近藤雅規
(入田錬成会)

第三位 富本剛至
(鴨島少年剣道教室)

林勇作
(鳴門市光武館)



<団体戦>

準決勝

(代) 川口

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
那賀川少年剣道クラブ	菱本	大磯元	片岡	橋本	大磯友	1 (2)
	コド					
徳島至誠館	コ	一本勝 メ	コメ	メコ	ココ	4 (8)
	清本章	岸	玉田	清本涼	河田	

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
鳴門市光武館	橋本	山本徳	山本裕	米田	川口	2 (5)
			メコ	コ	▲メコ	
大野小学校剣道部	メコ	X	メ	コメ		2 (5)
	西浦	服部	原	大西	京小	

(代) 京小コ

決勝

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
大野小学校剣道部	西浦	服部	原	大西	京小	2 (2)
		メ一本勝			メ一本勝	
徳島至誠館	一本勝 メ		メメ	X		2 (3)
	清本章	岸	玉田	清本涼	河田	

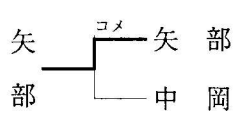
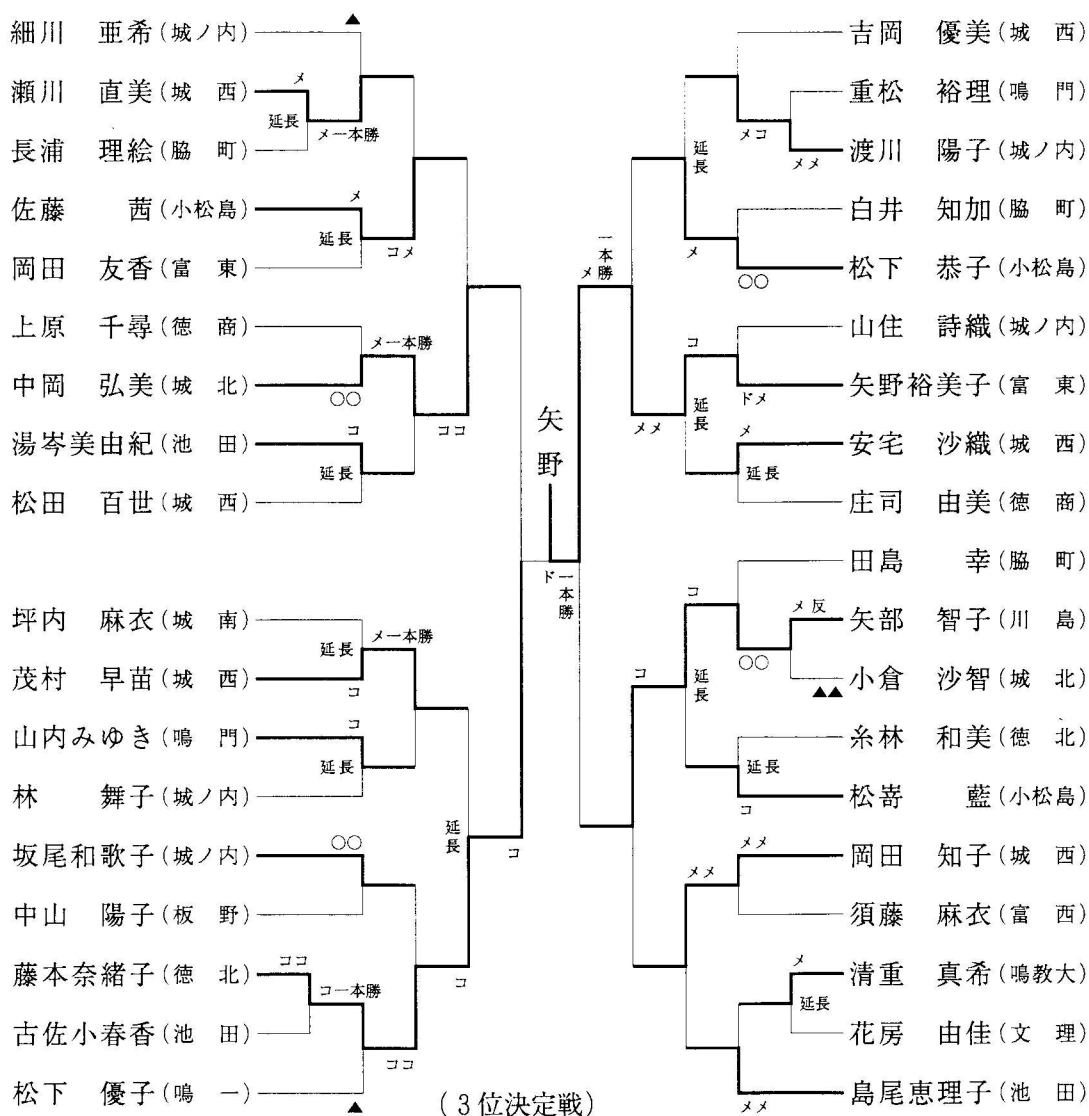
第21回 徳島県剣道段別選手権大会

平成10年8月30日
鳴門武道館

〈女子の部〉

(初段の部)

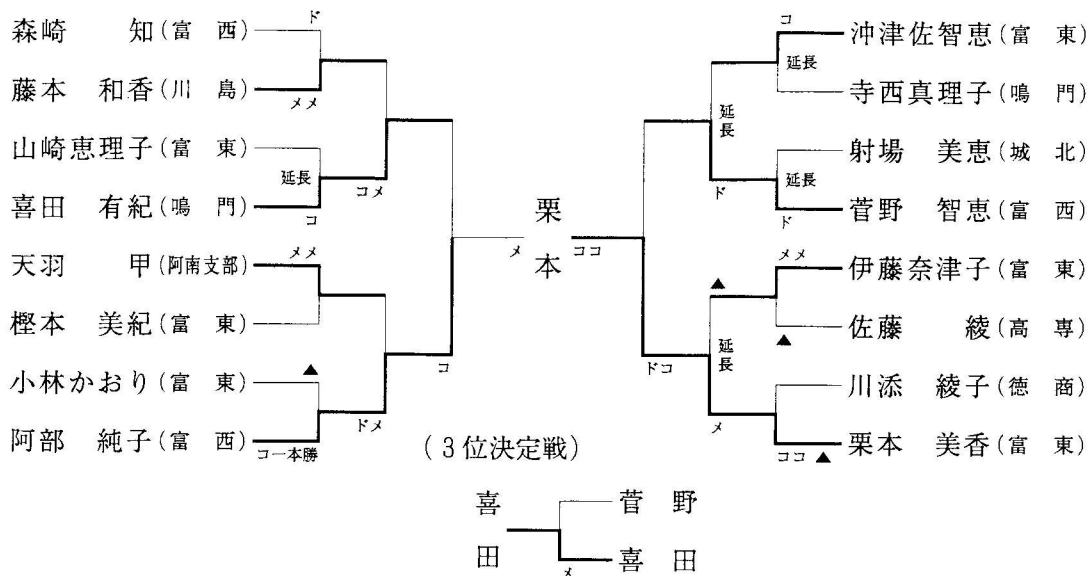
優勝 矢野 裕美子(富岡東)
準優勝 藤本 奈緒子(徳島北)
第3位 矢部 智子(川島高)



〈女子の部〉

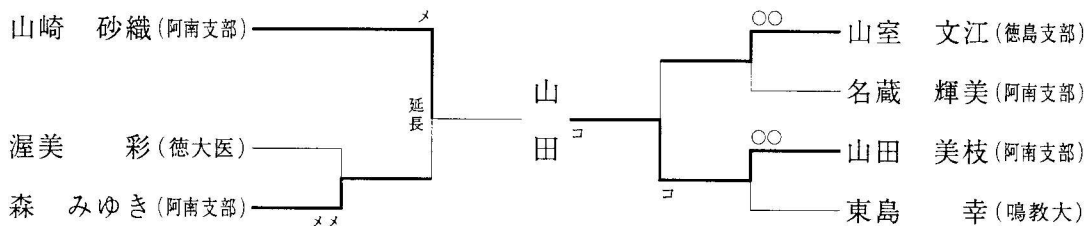
(2段の部)

優勝 栗本美香(富岡東)
 準優勝 阿部純子(富岡西)
 第3位 喜田有紀(鳴門)



(3段以上の部)

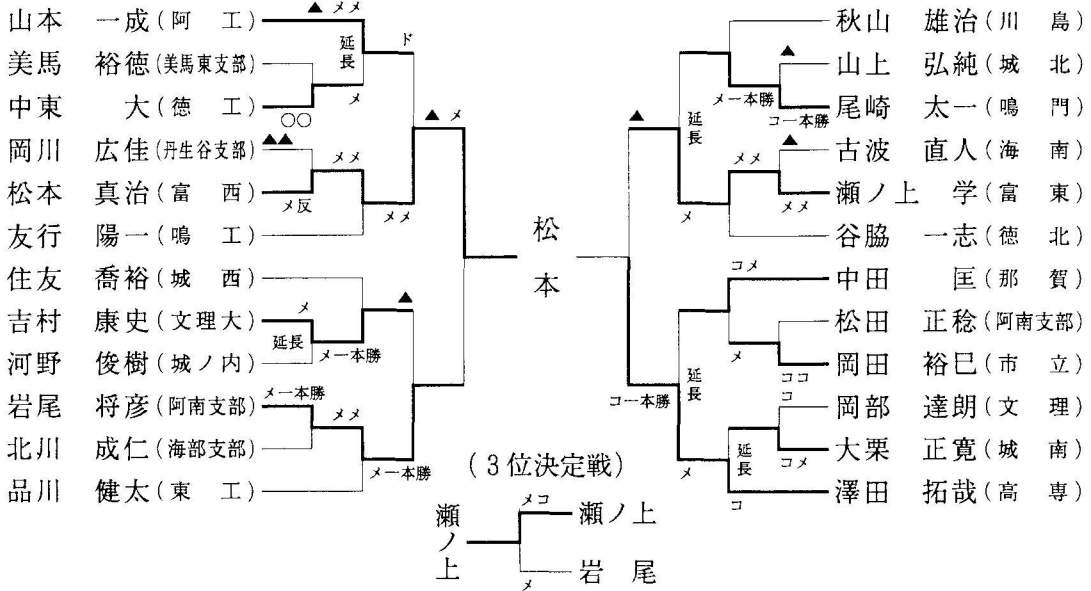
優勝 山田美枝(阿南支部)
 準優勝 山崎砂織(阿南支部)



〈男子の部〉

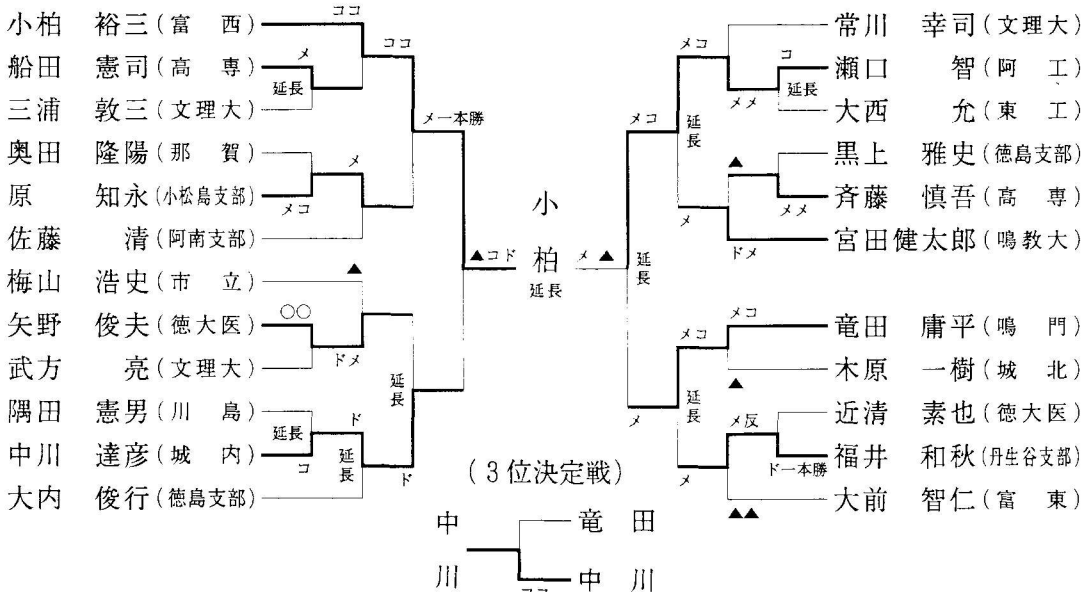
(初段の部)

優勝 松本 真治(富岡西)
 準優勝 澤田 拓哉(阿南工専)
 第3位 瀬ノ上 学(富岡東)



(2段の部)

優勝 小柏 裕三(富岡西)
 準優勝 瀬口 智(阿南工)
 第3位 中川 達彦(城ノ内)



第27回 徳島県社会人剣道大会

平成10年10月18日

〈予選リーグ〉

鳴門武道館

A

	阿南支部 A	丹生谷支部 A	小松島支部(梅)	勝者数	勝本数	順位	
阿南支部 A	-	$\frac{3}{2}$	$\frac{9}{5}$	2	7	12	1
丹生谷支部 A	$\frac{2}{1}$	-	$\frac{8}{5}$	1	6	10	2
小松島支部(梅)	$\frac{2}{0}$	$\frac{0}{0}$	-	0	0	2	3

B

	徳島支部 D	阿波支部 B	応神クラブ	阿南支部 B	勝者数	勝本数	順位	
徳島支部 D	-	$\frac{2}{2}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{3}{2}$	0	5	7	4
阿波支部 B	$\frac{5}{3}$	-	$\frac{4}{2}$	$\frac{4}{2}$	2	7	13	2
応神クラブ	$\frac{5}{2}$	$\frac{1}{1}$	-	$\frac{0}{0}$	1	3	6	3
阿南支部 B	$\frac{5}{2}$	$\frac{4}{2}$	$\frac{8}{4}$	-	3	8	17	1

C

	徳島刑務所	美馬東支部 B	板野東支部	勝者数	勝本数	順位	
徳島刑務所	-	$\frac{8}{4}$	$\frac{8}{4}$	2	8	16	1
美馬東支部 B	$\frac{0}{0}$	-	$\frac{2}{1}$	0	1	2	3
板野東支部	$\frac{1}{0}$	$\frac{5}{3}$	-	1	3	6	2

D

	養武館	阿波支部 C	鳴門支部 B	勝者数	勝本数	順位	
養武館	-	$\frac{6}{4}$	$\frac{6}{4}$	2	8	12	1
阿波支部 C	$\frac{1}{0}$	-	$\frac{7}{3}$	1	3	8	2
鳴門支部 B	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	-	0	1	2	3

E

	小松島支部(竹)	丹生谷支部 B	海部支部 A	勝者数	勝本数	順位	
小松島支部(竹)	-	$\frac{2}{1}$	$\frac{3}{1}$	0	2	5	3
丹生谷支部 B	$\frac{2}{2}$	-	$\frac{2}{1}$	1	3	4	2
海部支部 A	$\frac{9}{4}$	$\frac{7}{3}$	-	2	7	16	1

F

	板野西支部 B	阿南支部 D	麻植支部	勝者数	勝本数	順位	
板野西支部 B	-	$\frac{4}{2}$	$\frac{6}{3}$	1	5	10	2
阿南支部 D	$\frac{5}{2}$	-	$\frac{7}{4}$	2	6	12	1
麻植支部	$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{0}$	-	0	1	3	3

G

	阿波支部 A	徳島支部 A	右武館	勝者数	勝本数	順位	
阿波支部 A	-	$\frac{3}{1}$	$\frac{7}{5}$	1	6	10	2
徳島支部 A	$\frac{4}{1}$	-	$\frac{7}{4}$	2	5	11	1
右武館	$\frac{1}{0}$	$\frac{0}{0}$	-	0	0	1	3

H

	名西支部	美馬東支部 C	徳島支部 B	勝者数	勝本数	順位	
名西支部	-	$\frac{10}{7}$	$\frac{8}{4}$	2	9	18	1
美馬東支部 C	$\frac{0}{0}$	-	$\frac{7}{4}$	1	4	7	2
徳島支部 B	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	-	0	1	2	3

I

	岫雲館	徳大医 O B	木頭錬心館	勝者数	勝本数	順位	
岫雲館	-	$\frac{4}{2}$	$\frac{3}{1}$	1	3	7	2
徳大医 O B	$\frac{2}{1}$	-	$\frac{6}{3}$	1	4	8	1
木頭錬心館	$\frac{4}{2}$	$\frac{2}{0}$	-	1	2	6	3

J

	徳島錬心館 A	美馬東支部 A	小松島支部(松)	勝者数	勝本数	順位	
徳島錬心館 A	-	$\frac{6}{3}$	$\frac{0}{0}$	1	3	6	2
美馬東支部 A	$\frac{2}{1}$	-	$\frac{0}{0}$	0	1	2	3
小松島支部(松)	$\frac{6}{4}$	$\frac{5}{3}$	-	2	7	11	1

K

	阿南支部 C	蔵本剣道クラブ	小松島支部(梅)	勝者数	勝本数	順位	
阿南支部 C	-	$\frac{9}{5}$	$\frac{9}{5}$	2	10	18	1
蔵本剣道クラブ	$\frac{0}{0}$	-	$\frac{5}{2}$	0	2	5	3
小松島支部(梅)	$\frac{1}{0}$	$\frac{6}{2}$	-	1	2	7	2

L

	鳴門支部 A	美馬西支部	徳島錬心館 A	勝者数	勝本数	順位	
鳴門支部 A	-	$\frac{5}{3}$	$\frac{4}{4}$	2	7	9	1
美馬西支部	$\frac{2}{1}$	-	$\frac{4}{2}$	0	3	6	3
徳島錬心館 A	$\frac{2}{1}$	$\frac{5}{2}$	-	1	3	7	2

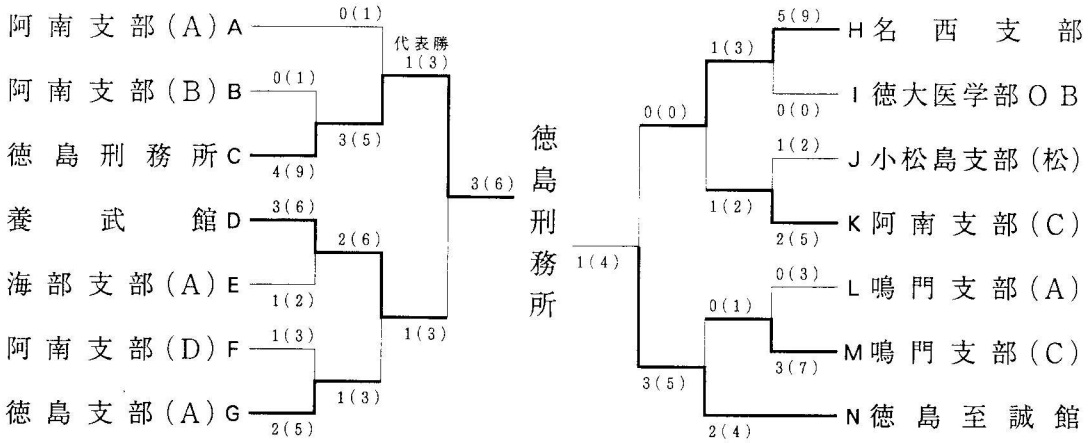
M

	鳴門支部 C	振武館	小松島航空隊	勝者数	勝本数	順位	
鳴門支部 C	-	$\frac{5}{3}$	$\frac{7}{4}$	2	7	12	1
振武館	$\frac{3}{1}$	-	$\frac{5}{3}$	1	4	8	2
小松島航空隊	$\frac{0}{0}$	$\frac{3}{1}$	-	0	1	3	3

N

	徳島至誠館	海部支部 B	徳島支部 C	勝者数	勝本数	順位	
徳島至誠館	-	$\frac{7}{4}$	$\frac{6}{3}$	2	7	13	1
海部支部 B	$\frac{0}{0}$	-	$\frac{3}{1}$	0	1	3	3
徳島支部 C	$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{1}$	-	1	1	4	2

〈決勝トーナメント表〉



準決勝戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点	代表
徳島刑務所	北村	前田	片山	森	中村	3 1	中村コ
	▲	メ	コ				
	×	メ	×		×		
養武館		ド	メ	一本勝		3 1	谷崎
	山田	熊沢	福多	米倉	谷崎		

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
名西支部	Casting	高野	白木	久保	大西	0 0
			×		×	
徳島至誠館	メコ	一本勝		メ	×	5 3
	玉田	中山	村井	河田	中山	
		紫		田	啓	

決勝戦

優勝 徳島刑務所

準優勝 徳島至誠館

第三位 養武館

第三位 名西支部

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
徳島刑務所	北村	前田	片山	森	中村	6 3
	メド	コ	一本勝		コ	
			メ		×	
			ド	メ	ド	
徳島至誠館	玉田	中山	村井	河田	中山	4 1
		紫		田	啓	

第9回 徳島県小・中学校剣道強化錬成大会

平成11年1月24日

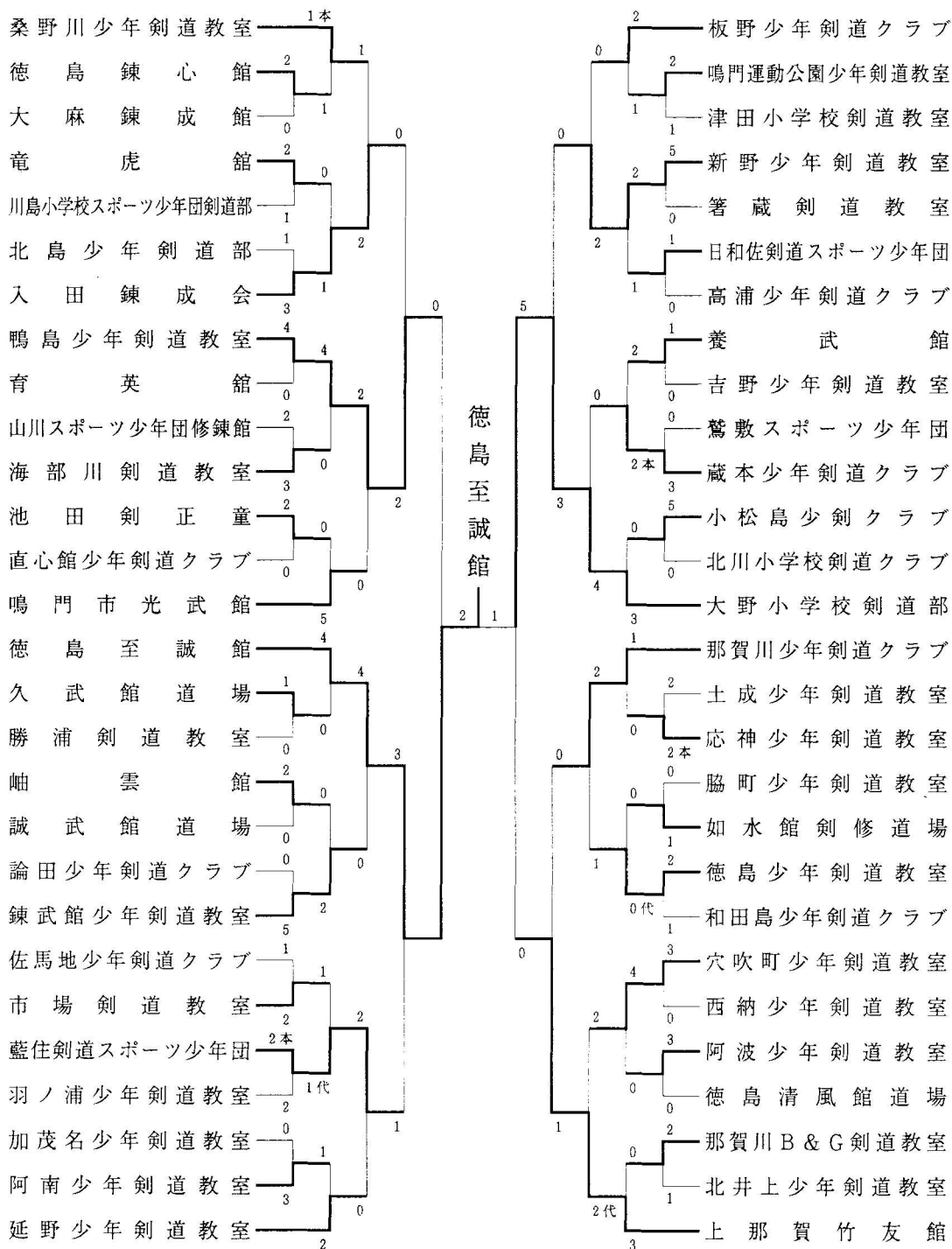
〈少年の部〉

鳴門県民体育館

優勝 徳島至誠館 第三位 鴨島少年剣道教室

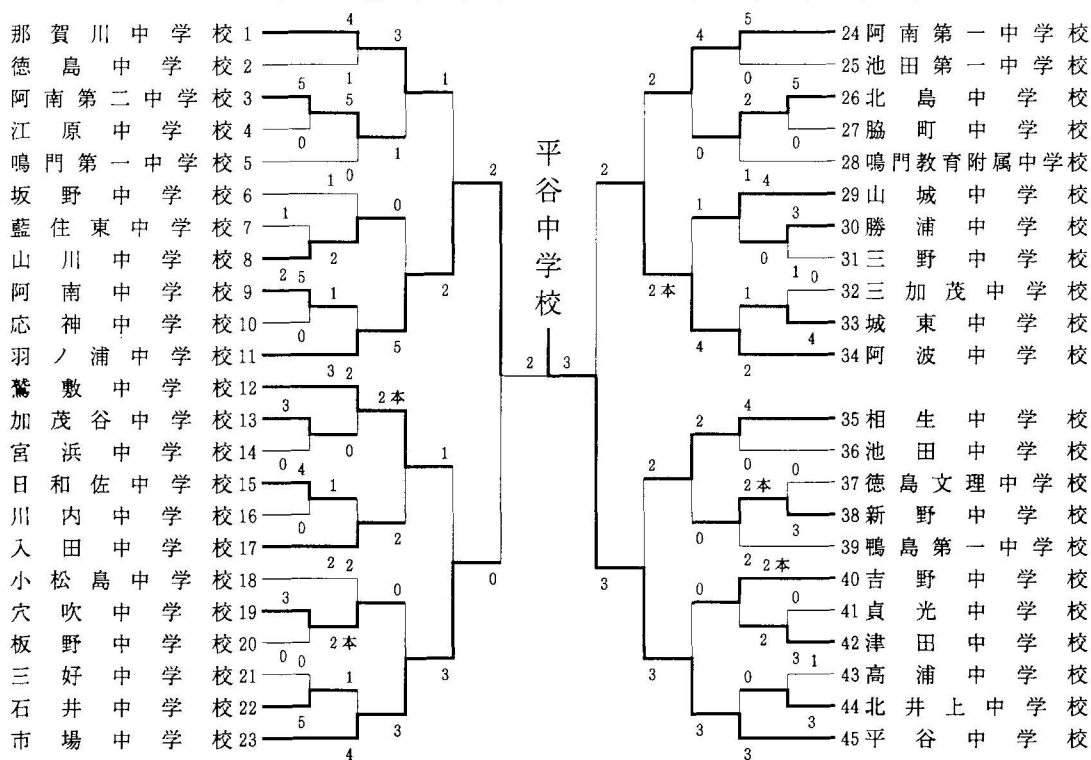
準優勝 大野小学校剣道部

上那賀竹友館



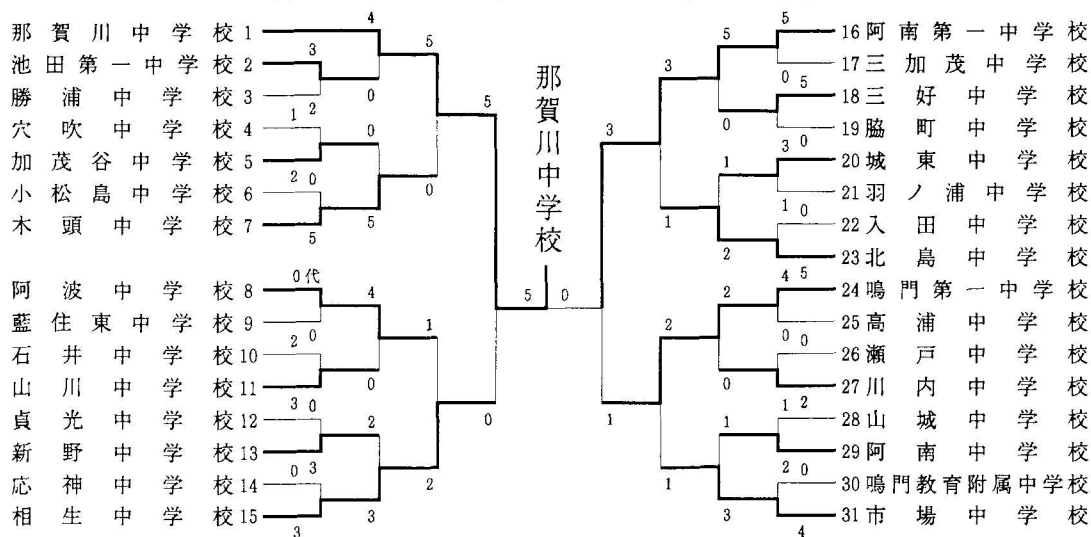
〈中学校男子の部〉

優勝 平谷中学校 第三位 阿波中学校
準優勝 羽ノ浦中学校 市場中学校



〈中学校女子の部〉

優勝 那賀川中学校 第三位 鳴門第一中学校
準優勝 阿南第一中学校 相生中学校



徳島新聞にみる戦いの跡



副将戦・延長の末、メンを決めて一本勝ちした山田(自営)
 県警察学校体育館

大将に米倉

7人の県代表決まる

都道府県対抗 剣道大会県予選

第四十六回全日本都道府
 県対抗剣道優勝大会の県予
 選は二十二日、県警察学校
 体育館に大会の参加資格に
 基づく計二十三人が参加し
 て7種別の県代表を争っ
 た。

沢(会社員)、五将竹内
 (鳴門一中教)、中塚福多
 (城北高教)、三将平野
 (県警)、副将山田(自
 営)、大将米倉(会社員)
 の七選手が、それぞれ制し
 た。

七選手は全国大会(5月
 3日・大阪市中央体育館)
 に出場する。

【決勝リーグ】先づ①山室文
 江(阿野郵便局)1勝1敗②森さ
 1勝1敗③山崎1勝1敗11順位は
 勝ち本数差による▽次ほう①新沢
 友弘(会社員)3勝②山本2勝1
 敗③中尾1勝2敗④下司3敗⑤
 将①竹内伴代子(鳴門一中教)2
 勝②森本1勝1敗③安袋2敗④中
 堅①福多雅英(城北高教)2勝②
 飯田1勝1敗③白木2敗④三将①
 平野誠司(県警)2勝②吉田1勝
 1敗③小坂2敗④副将①山田研司
 (自営)2勝②久保1勝1敗③熊
 沢2敗④大将①米倉滋(会社員)
 3勝②木原2勝1敗③鈴木1勝2
 敗④松村3敗

徳島新聞 2月23日(月) スポーツ

池田 剣道大会
鎌成

6年は西崎君(坂野) V 四国の少年剣士512人熱戦



第24回阿波池田少年剣道
鎌成大会(池田町少年剣道
教室連合会主催) 22日、
池田町総合体育館。
四国四県の三十三道場か
ら大会史上最多の五百十二
人が出場、一十六年生の少
年剣士が二十ブロックに分
かれ、気迫の込もった熱戦
を繰り上げた。

【6年】①西崎雅弘(坂野) ②西崎雅弘(坂野) ③岩本正尊(鴨島少年剣道教室) ④服部康佑(大野小剣道部) ⑤寺西由佳(鴨門市光武館) ⑥川口雄大(鴨門市光武館) ⑦新居大(鴨島少年剣道教室) ⑧橋本祐希(鴨門市光武館) ⑨村若菜(高知) ⑩林勇作(鴨門市光武館) ⑪白井由加里(穴吹町少年剣道教室) ⑫高地勇貴、長崎篤(以上香川) ⑬山本義征(鴨門市光武館) ⑭岩雲大樹(鴨島少年剣道教室) ⑮宇高龍一(愛媛) ⑯片山将志(鴨島少年剣道教室) ⑰西浦大地(大野小剣道部) ⑱芝生麻

3月24日(火) 県南版

由(穴吹町少年剣道教室) ⑲高城みどり(香川) ⑳近藤直弥(鴨島少年剣道教室) ㉑左藤裕(穴吹町少年剣道教室) ㉒岩雲程吾(鴨島少年剣道教室) ㉓大谷啓剛、小山尚哉(以上香川)

◆第16回徳島剣友会少年剣道練習大会・第2回勝浦争奪剣道大会(29日、城西高校)
【中学校】男子団体①山川②入田③北島、鴨島▽女子団体①北島②高浦③勝浦▽男子個人①藤本広之(鴨島)②坂東悟(入田)③坂東充洋(鴨島)④中屋孝(山川)▽女子個人①北川希依(鴨島)②宮崎加奈子(北島)③川原ゆかり(高浦)④野(北島)

【小学校】団体①鴨島少年剣道教室A②延野小学校剣道教室③北島少年剣道教室、山川スポーツ少年団▽個人一年①中山健人(鴨島)②北浦良介(北島)③高橋理忠(山川)④森出大介(入田)▽二年①近藤麻②新居春菜③石原英祐(以上鴨島)④谷沢勇(延野)▽同三年①須見康生②片山将志(以上鴨島)③西本忠理子(延野)④三木裕真(高浦)▽同四年①

近藤雅規②井口あすか③佐藤一貴、坂東潤(以上入田)▽同五年①新居大②須見政弘(以上鴨島)③船越俊弘、木内祥子(以上北島)▽同六年①井上崇希(鴨島)②高野和哉(加茂谷)③池谷一葉(北島)④岩本正尊(鴨島)
◆海部郡剣道練習大会(1日、海南中体育館)

【小学生以下】①藤本健登(牟岐剣道クラブ)②多田恭兵(由岐少年少女剣道クラブ)③高部彩加(牟岐)④同三年①美馬一(中学生女子)②多田康一(由岐)③大城由香里(日和佐剣道スポーツ少年団)④同四年①丸岡佑太(山口県)②山口温③片岡明廣(以上海部郡)④森口温⑤片岡明廣(以上海部郡)⑥山崎真司⑦中谷理恵(以上海部郡)⑧古渡千秋(牟岐)

⑨寺口祐輔(由岐)【小学生以下】①由岐A②牟岐③日和佐A【中学生女子】①山崎留美子②谷原令恵③湖村山香(以上海南中)【中学生男子】①葉取祐太郎(日和佐中)②松本有央(海南中)③西口大輔(日和佐中)【中学生団体・男子】①日和佐中B②日和佐中A③海南中A④同女子①海南中A②海南中B

3月31日 県南版

県選抜チーム
16強の政闘賞
 第20回全国スポーツ少年団剣道交流大会、日本体育協公日本スポーツ少年団など主催。3月27、28日、高松市の同市総合体育館。
 全国大会は、団体戦と個人戦の一部門。団体戦は全国各地から小学生で構成する四十八の選抜チーム(五人編成)が出場。個人戦は中学生の男女別で行われ、それぞれ四十八人ずつ計九十六人の代表選手が熱戦を繰り広げた。
 徳島県からは、団体戦に繁田晋吾君(全誠塾)・寺西由佳さん(鴨野光武館)・西崎雅弘君(坂野少年剣道)・大柴甲恵之さん(入田錬成館)・京小晋吾君(大野小剣道部)の五人が選抜チームを組んで出場し、ベスト16の敢闘賞を獲得した。
 個人戦には、住友酒城君(阿南二中)と美崎真奈美さん(全誠中)が出場、ベスト16に入った。

(23) 読者のひろば

第3種郵便物認可

夢は「善意銀行」の設立



「阿南にボランティアという新風を吹き込む」ことができればと胸を膨らますのは、阿南中富町のひまわり会館で料理研究家の平野レミさんの講演会成功させた尾崎純子さん(むむじ)農家、阿南市下大野町畑田、写真。
 十三年前に宮城県仙台市から夫の実家のある阿南市に移住。しきたりやしがらみが残る農村で文化の違いに戸惑いながらボランティア活動を始めた。市内の家庭から使用済み牛乳パックを回収したり廃油のせっけんを作ったり。自宅裏庭で慣れない野菜づくりに精を出すかたわら地道な活動を続けてきた。
 三百五十人を超す来場者で立ち昇るほど盛況だった講演会について「徳島はまだまだボランティアに関心が薄い。でも活動の起爆剤にはなった」と思つたと満足そう。ボランティア不足が予想されるこれからの高齢化社会に向けて「ボランティアの労働力をフルする。善意銀行を設立したい」と夢は大きい。

徳島市内で開かれた清酒 間に三十年がたつてしまつた。受賞者代表として謝辞 入社以来、アルコールの造りを述べた森下寛さん(まろ)分析、瓶詰、清酒の製造

酒にこだわり続け30年



日新酒類土成工場副社長、徳と、多くの部門を転々とし島市北三町一、写真。た。「若いころの思い出は「勉強しなければいけない」特になが、八年前、職人無いた」と振り返る。同社の清酒は、国産序主

「地方の酒造会社にとって金賞を取れるかどうかが売れ行きを大きく左右する。それにしても、六年連続で受賞しているのは大きなプレッシャーですね」。永年勤続表彰を受けたといつても、気が抜けない様子だ。さらには強くなりたいたい」と連覇を誓った。



精神面を鍛え連覇誓う

香川県高松市で行われた(四)徳島市南田宮三、写る愛媛の選手と対戦したが四国管内の警察柔道・剣 真一は、指導してくれた先「気持ちで負けてはいけない」と自分に言い聞かせ、闘方のおかげで力を出し切ることができた。とても闘事に勝利を取めた。この

勝利で波に乗った山室さんは、四国四県の、猛者とを押しきりチャンピオンに輝いた。これからは勢いだけでは勝てないと聞き、経験を積むことで精神面を鍛え、

桑野川少年が団体V

大野 250人が剣さばき競う

第22回大野剣道大会入局 ③湯浅彰(全誠館) ④4年①鎌田崇野小学校剣道部主催 22 窪内美沙希(那賀川) ④2 阿南市下大野町の大野小学校。阿南市や小松島、肥前町、那賀郡から十六チーム、四百五十人の参加者が参加。団体戦には十三チームが出場、個人戦は特別に優勝者を行った。その結果、桑野川少年剣道教室が団体戦を制した。

【団体戦】①桑野川少年剣道教室②新野少年剣道教室A③徳島全誠館 坂野少年剣道クラブ

【個人戦】1年①松本太朗②小西倫③以上和山太郎④小西倫⑤以上和山太郎⑥小西倫⑦以上和山太郎⑧小西倫⑨以上和山太郎⑩小西倫⑪以上和山太郎⑫小西倫⑬以上和山太郎⑭小西倫⑮以上和山太郎⑯小西倫⑰以上和山太郎⑱小西倫⑲以上和山太郎⑳小西倫㉑以上和山太郎㉒小西倫㉓以上和山太郎㉔小西倫㉕以上和山太郎㉖小西倫㉗以上和山太郎㉘小西倫㉙以上和山太郎㉚小西倫㉛以上和山太郎㉜小西倫㉝以上和山太郎㉞小西倫㉟以上和山太郎㊱小西倫㊲以上和山太郎㊳小西倫㊴以上和山太郎㊵小西倫㊶以上和山太郎㊷小西倫㊸以上和山太郎㊹小西倫㊺以上和山太郎

小中生剣士 68人が熱戦

第29回相生町少年剣道大会(相生委など主催)15日、相生町西納の西納小学校校体育館。

町内の小学生七チーム五十人、中学生四チーム十八人が参加。団体戦と個人戦果を競った。

【団体】小学生①延野少年剣道教室A②高虎館A③岸吉④西村太一⑤山本ゆかり⑥以上高虎館⑦四年生⑧新田裕(高虎館)⑨栗本拓磨(西納)⑩藤本彩里(延野)⑪井東萌(西納)⑫五年生⑬川口了(高橋本臨太郎)⑭井内葉太⑮谷沢航美川智也(高虎館)⑯谷澤健太郎(延野)⑰高右衛門⑱奥田和也(以上高虎館)



熱戦を展開する大野剣道大会の選手たち 阿南市の大野小学校

2月24日(火) 県南版

丹生谷剣道

一般団体相生が頂点

小6の部 谷沢君 延野ク

中2の部 元木君 相生中

第44回丹生谷剣道大会(木頭村委など主催)1日、木頭村民体育館。那賀郡丹生谷地方五町村の小学生から二般まで百六十八人が出場。個人と団体戦で競った。

【個人△小学生】①元木那賀郡丹生谷地方五町村

3月10日(火) 県南版

藤花旗 団体は鴨島制す

第4回藤花旗争奪少年剣道大会(石井町休協等主催)1日、石井中学校体育館。

県内各地から十六チーム、二百九十八人が参加。団体戦は鴨島少年剣道教室が優勝した。

【団体】鴨島少年剣道教室②津田小学校剣道教室③入田錬成会④北島少年剣道教室⑤入田錬成会⑥5年⑦新田大⑧須見政成⑨木良平⑩以上鴨島少年剣道教室

【個人△小学生】①岡田大樹(徳島石武館)②鈴木智也(清風館)③以上和山太郎

的場大和(上那賀竹友館)②中山泰仁(北川少剣道)③井内葉太(川口了)④延野少年剣道教室⑤同六年⑥谷沢健太郎(山本少)⑦東根四子(以上延野少年剣道)⑧内仁志(北川少剣道)⑨中学一年⑩久保菜(株田幸輝)⑪株田崇史(以上平谷中)⑫前田誠成(宮原中)⑬同二年⑭元木寛(相生中)⑮株田大樹(北谷中)⑯前川剛志(相生中)⑰以上相生中

【団体】小学校①延野少年剣道教室②丹生谷小竜虎館③北川少剣道④西納少年剣道教室⑤中学校⑥相生中⑦平谷A⑧相生A⑨木頭⑩一般⑪相生A⑫相生A⑬相生A⑭相生A⑮相生A⑯相生A⑰相生A⑱相生A⑲相生A⑳相生A㉑相生A㉒相生A㉓相生A㉔相生A㉕相生A㉖相生A㉗相生A㉘相生A㉙相生A㉚相生A㉛相生A㉜相生A㉝相生A㉞相生A㉟相生A㊱相生A㊲相生A㊳相生A㊴相生A㊵相生A㊶相生A㊷相生A㊸相生A㊹相生A㊺相生A

第46回都道府県対抗剣道優勝大会 初の男女混合布陣

先鋒・山室選手



次鋒・新沢選手



五将・竹内選手



中堅・福多選手



第四十六回全国都道府県対抗剣道優勝大会は五月三日、大阪市中央体育館で開かれる。今年は大会史上初めて女性選手が参加し、男性五人、女性二人の混合チーム

各チーム先鋒と、三人目の五将に配属される。試合の流れを左右する序盤を担うだけに、女性の戦いぶりがカギを握りそう。本県の先鋒・山室文江（徳島公園前郵便局）は全

われ、関係者も期待を寄せ、この二人の間に入る次鋒・新沢友弘（安田生命保険徳島支社）は鹿児島県出身で昨年、徳島に転勤したばかり。法政大学四年時に

機動隊）は九四年の世界選手権個人3位の名剣士。大将・米倉滋（東條電機）は副将・山田耕司（山田製菓）は無名ながら高校時代に強豪・P1ブスをみせている。

カギ握る女性陣 県勢

過去、県勢はベスト8の壁をまだ破れずにいるが、

で団体日本一を決める。本県は予選を勝ち抜いた剣士チームを編成し、一回戦で大阪府と対戦。昨年の大阪国体成年男子の回戦で1-3で敗れており、雪辱に燃えている。女性は、大会規定によ

国郵政武道大会個人で三連覇中、五将の竹内伴代子（鴨門一中教）は一九八八（昭和六十三）年の全国教職員大会個人を制した実力派。竹内は県内の現役女性剣士で最も充実した選手とい

関東インカレ優勝の経歴を高く評価。高田忠監督（県連盟審議）は「近年では最強チームとあっていい。大阪にひと酒吹かせたい」と話す。中盤からはおなじみの顔初戦の相手、大阪はこの大会並ぶ。中堅・福多雅英（城北高教諭）は上段の名だが、本県も意地をみせた

いところだろう。

三将・平野選手



副将・山田選手



大将・米倉選手



高田監督



4月28日（火）スポーツ

あわスポーツ

県南版

阿南第一、中学団体制す

山家旗争奪剣道 高校男子は富岡東A



県内各地の中高校生約300人が熱戦を展開した山家旗争奪剣道大会。BとCの試合が中心。

第3回山家旗争奪剣道大会、同町で熱戦を繰り広げた。

【団体戦】中学校①阿南 住友貞城 坂本浩 ②幸 佐野基 大前烈仁、竹内西 A 急阿南工 A 富岡女子 A 富岡東 B (森知世、櫻本みどり、伊藤奈佳、栗本美香、小林さおり、岡田友貴、森本香恋) ③富岡東 A (個人賞)

県内各地の中高校生約300人が熱戦を展開した山家旗争奪剣道大会。BとCの試合が中心。

阿南駅前
 <入院応需>
 <労災指定>
岩城医院
 整形外科 内科 耳鼻咽喉科 皮膚科
 院長 岩城 孝
 〒720-0309

有事、事故、話、
 件、方、災、提、供、の、局、へ
 運、送、下、り、支、局、へ
 支、局、支、局、支、局
 0886-86-2691
 0886-99-3707

徳島県は初戦敗退
 郡道府県対抗剣道
 剣道の第四十六回全日本
 都道府県対抗優勝大会(四三
 日、大阪府中央体育館)で、
 都道府県代表が参加して回
 体戦で争われ、決勝で福岡
 が大阪を4-2で下し、五
 年ぶり五度目の優勝を果た
 した。

今回から女子1人が加わ り、男子15人7人の構成とな った。決勝では先発者が引 き分け、福岡は続く2試合 を落とした後、4連勝して 逆転勝ちした。本県は準復 勝した大阪に1回戦で1 3で敗れた。	▽1回戦	大 阪 3-1 徳 島 ▽1回戦	福 岡 5-1 山 梨 ▽1回戦	大 阪 4-2 山 梨 ▽1回戦	大 阪 5-1 山 梨 ▽1回戦	大 阪 4-1 山 梨 ▽1回戦	大 阪 5-1 山 梨 ▽1回戦	大 阪 4-2 山 梨 ▽1回戦	大 阪 5-1 山 梨 ▽1回戦
--	------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------

5月4日(月) スポーツ



乃無く行進する各地の
県高校総体開会式一瞥
(北野 昭雄撮影)

来月6日から 県高校総体

県立高校の体育大会として、今年で31回目を迎える「県高校総体」が、来月6日から18日まで、県立総合体育館(高松市)で開催される。今年大会は、男子が18日、女子が17日に閉幕する。今年大会は、男子が18日、女子が17日に閉幕する。今年大会は、男子が18日、女子が17日に閉幕する。

若い力で県を盛り上げよう

日	種目	会場
6日	男子バレーボール	県立総合体育館
7日	男子バレーボール	県立総合体育館
8日	男子バレーボール	県立総合体育館
9日	男子バレーボール	県立総合体育館
10日	男子バレーボール	県立総合体育館
11日	男子バレーボール	県立総合体育館
12日	男子バレーボール	県立総合体育館
13日	男子バレーボール	県立総合体育館
14日	男子バレーボール	県立総合体育館
15日	男子バレーボール	県立総合体育館
16日	男子バレーボール	県立総合体育館
17日	男子バレーボール	県立総合体育館
18日	男子バレーボール	県立総合体育館

—48校、32競技で熱戦—

5月19日(火)

第50回四国四県剣道大会
(24日・愛媛県武道館)
リーグ戦 香川4徳島

5月25日(月)

愛媛1・高知、香川4(本数勝ち)・4高知、愛媛8・3徳島、高知6・4徳島、愛媛8・2香川
▽最終成績①愛媛3勝②香川2勝③高知1勝④徳島0勝(山崎竹内、山崎留、白木、玉川、福家、河田、本原、近藤、北條、長久保、坂下)3敗



半田町教室(小学校)に栄冠

さつき 豆剣士200人が熱戦

あわいスポーツ

第13回さつき剣道大会(美馬剣友会主催)は、5月31日、美馬中学校体育館で、小中学生約200人が、団体戦と個人戦に分かれて、さつきの練習の成果を競い合った。団体戦・小学校高学年の部は、半田町剣道教室が優勝した。

【団体戦】小学校低学年の部 ①穴吹町剣道教室②半田町剣道教室③美馬町剣道教室、徳島香風道場▽同高学年の部 ①半田町剣道教室②脇町剣道教室③穴吹町剣道教室、宇村少年剣道クラブ

【個人戦】小学校1・2年の部 ①穴吹(穴吹)②藤田雄也(美馬)③西岡紗友菜(半田)尾崎勇大(谷風)▽同3年の部



小・中学生が熱戦を繰り広げた丹生谷地方防犯少年剣道大会＝鷲敷町民体育館

第36回丹生谷地方防犯少年剣道大会(丹生谷地方防犯連合会、鷲敷町民体育館)は、5月31日、那賀郡鷲敷町民体育館で、同郡内5町村から小学校の部に5団体・55人、中学校の部に5校・61人が出場し、個人・団体戦で熱戦を展開した。

【個人戦】小学1、2年の部 ①福川敬太②毎水啓人③前川淳史、以上丹生谷道徳道場▽同3、4年生①松本和起、延野少年剣道教室②相永智己(日野谷道徳道場)③株川一志、本那賀竹

①丹生麻田(穴吹)②竹澤一樹(谷風)③福島史也(脇町)河井一馬(山)▽同4年の部 ①内藤佳仁(穴吹)▽同5年の部 ①栗尾了史(美馬)奥村圭白井田加理(穴吹)②正木翔太(脇町)③出山あゆみ、山佳奈(以上穴吹)▽同6年の部 ①井澤志良(穴吹)②安達良(武原)③以上半田)中山麻衣(穴吹)▽中学校1年男子の部 ①佐藤光②重田圭祐(以上穴吹)③吉本一明(香風)④正木雄輔(穴吹)▽同2年男子の部 ①阪本慎太郎(貞光)②藤本大樹(美馬)③脇田雅人(森長岡)④以上貞光▽同3年男子の部 ①高木誠

町)②平野学、篠原春樹(以上貞光)③藤原朱美(以上穴吹)▽同1年女子の部 ①西前香織(美馬)②竹澤優香(香風)③中江優真(穴吹)近藤繁央(美馬)▽同2年女子の部 ①掛田彩世②滝川奈津天(美馬)

【団体】小学1、2年の部 竹友館(前場入和)株田篤久会社、中川博英(中)③前田誠哉(宮浜)④同3年生①元木繁前川副志②昇吉、以上相生

【団体】小学1、2年の部 竹友館(前場入和)株田篤久会社、中川博英(中)③前田誠哉(宮浜)④同3年生①元木繁前川副志②昇吉、以上相生

6月2日(火) 県南版

徳島出版 TEL 0876-44-5577 FAX 0876-64-5982



女子団体決勝リーグ・富岡東対富岡西 先ぼうの菱本 (富岡西) を攻める伊藤 (富岡東) ①=城西高体育館

女子富東V7、男子富西V4

剣道 城西高

【男子】団体決勝リーグ富東1勝0敗
富東2勝1敗川岸1勝2敗

【女子】団体決勝リーグ富東1勝0敗
富東3勝0敗

【男子】団体決勝リーグ富西1勝0敗
富西3勝0敗

【女子】団体決勝リーグ富西1勝0敗
富西3勝0敗

いきなり開始5秒。先づう伊藤がメンを決める。これが庄勝剛の序曲だった。4チーム総当たりの決勝リーグでは池田、川島、富岡西を完封。しかも相手に本も取らせない完ぺきな内容で、7年連続のインターハイ出場を飾った。

四国のライバル 倒して全国へ

連続のベスト入りの。惜しむが統制している。と全国をくも逃した全国8強の座を。前年同様手強で、かたき口指し「足から出ている。を討つとかなければいけない。を殺んだ成果が、相手いチームがある。と、昨年を素早く追いつめ、粘り強い防衛に結びついた。知にライバル心をもち出し、あつちと攻撃力。坪井は、いままで、一生懸命を「つづける。伊藤、栗坪井は、選やうてきたことを出し残す坂大会で副得た。本を「試合戦います。目に「かなり強うなチーム。き相手は、はつきりといえ

意地がさふれた。決勝リーグ最終戦。こころ試合連敗を喫している富岡東との全勝対決。先ぼうが口が、先一本を許しながら、先一本を許しながら、延長で引きこもつて、延長で逆転勝ちする。いすれも延長に持ちつれれた接戦を40で制し、四強制を決めた。

6月9日(火) スポーツ

北島ライオンズ
クラブ少年剣道

小学生
団体

藍住スポーツ制す

中学個人 吉岡君(吉野) 宮崎さん(北島)



気合の入った戦いが続いた少年
剣道大会—北島中学校学校体育館

第8回北島ライオンズクラブ主催(7日、板野郡北島町高房の北島中学校学校体育

あわ—スポーツ

館。郡内や徳島市内の小、中学校から220人の少年剣士が参加。団体戦と個人戦に分かれて技を競い、団体は藍住スポーツが制した。

【団体戦】小学生①藍住スポーツ②北島少年剣道教室▽中学生男子①応神②藍住夷▽同女子①北島②藍住東

【個人戦】小学2年生以下①梶康平(北島)②北浦良介(同)▽同3年生①浜航介(藍住)②高松意知郎(応神)▽同4年生①木内康寛(北島)②高松真美子(応神)③吉岡万里子(板野)森本龍毅(吉野)▽同5年生①佐古啓太(誠武館)②岡本梨沙(同)③町

谷晴香(応神)森踊子(板野)▽同6年生①舟越俊弘(北島)②木内祥子(同)③兼松和弘(上成)西宇真之(誠武館)▽中学男子①占岡陵次(吉野)②矢野真一(板野)③丸岡嵩(応神)佐古将教(北島)▽同女子①宮崎加奈子(北島)②藤井東深子(上成)③江富澄(北島)三好やよい(藍住)

6月9日(火) 県南版

高校競技スポーツの四国一ル男子の海南は、背が低利に対する執念に、河田監一を決める98年度四国高校選手権前期入会は、十二でカバール、柔道男子の城た。体操会場は、鳴門旋風が吹き荒れた。鳴門男女は初の四国一。特に八年ぶりに出場した女子は、個

四国高校選手権 前期を振り返る

卓勢の優勝数33

昨年の17を大きく上回る

香川県勢や、四年後の高知団体で強化を始めた高知県勢らに交じり健闘した。優勝数は、昨年の17(団体、個人)を大きく上回る33(団体)を数え、全体的にインターハイへ向けて弾みがついた大会だったといえそう。

ノ内はパワーで圧倒した。人総合、種目別と合わせて完全制覇。須原コーイチも指導者みよりに戻きよう。個人戦でも、前張った選手が多い。四国チャンピオンを生んだ競技は、陸上、備前ある勝利だった。

団体競技の優勝は男女合せて6校、バスケットボ

勢が予想された決勝の高知下が多い。四国チャンピオンを生んだ競技は、陸上、備前ある勝利だった。

優勝は逃したものの、インターハイで活躍が期待される競技は少なくない。サッカーの徳島市立、バレーボール女子の徳島南、剣道男子の富岡西、卓球男子団体の徳島市立、新体操の男子・小松島、女子・徳島市立などで、本番で巻き返してほしい。

98年度の高校優秀選手
男女38人を発表
県剣道連盟

県剣道連盟は三日、98年度の高校優秀選手として男子24人、女子14人を発表した。

優秀選手は次の通り。

【男子】谷口拓之、大坂真石、長谷川晋紀、森英雄、尾田光志、橋本慎一郎（以上富岡西）目下誠、蛸原正基、横坂幸憲、儀宝正志（以上富岡東）三木康寛、日野浦勉、三木隆寛、藤野伸弘、北野良三（以上川島）谷岡和夫、篠原義治、谷口智映、中田将規、前田悟志（以上阿南）川又大吾（城北）田岡大資（城南）近藤大輔（城内）一村健治（徳島東工）【女子】坪井あき、森知世、齋土恵子、櫻本みく、服部茜、清水紫（以上富岡東）小川絵奈、菱

本美希、藤崎蘭（以上富岡西）北横絵美（以上川島）石本涼子（池川真衣、中村美樹、藤原洋子、下田）

7月4日（土）スポーツ

鳴門の光武館
健闘、3位に

作 小島招也

植田杯争奪少年剣道大会
植田平八郎範士顕彰会主催
6月14日、高松市総合体育館。

四国4県など8府県から103チームが参加。トーナメント方式で戦い、徳島県勢は鳴門市撫養町の光武館（寺西明弘監督）が小学生高学年の部で3位に入る健闘を見せた。光武館の選手は次の皆さん。
山本義裕、橋本祐希、川口雄大、米田正人、林勇

7月14日（火）県南版

ミセス剣友会が連覇

個人戦 笠松と佐々木初王座

第十九回女子剣道大会は二十日、中央武道館で総勢36人が参加して一般団体と個人戦に熱戦を繰り広げた。7チームによる団体戦はミセス剣友会が、連続二度目の優勝を飾った。個人戦、段以上の部は笠松文子(徳島支部)、二段以下の部は佐々木信江(徳島支部)がともに初めて制した。

またこの日は第十五回全国家婦人大会(8月4日・日本武道館)への限代表メンバの選考試合も行われ、20歳代が山崎紗織(阿南支部)、20歳代が平野悦子(鴨岡支部)と菅内佳代子(鴨岡支部)、40歳代が森本敦子(板野支部)と長谷川陽子(小松支部)の計5人に決まった。

▽団体戦
 ミセス剣友会(徳島支部) 1-0 徳島文理大(徳島支部)
 佐々木(徳島支部) 1-0 西野(徳島支部)
 佐々木(徳島支部) 1-0 西野(徳島支部)
 佐々木(徳島支部) 1-0 西野(徳島支部)

▽個人戦
 笠松(徳島支部) 1-0 徳島文理大(徳島支部)
 佐々木(徳島支部) 1-0 西野(徳島支部)
 佐々木(徳島支部) 1-0 西野(徳島支部)

教え子たちに大きな土産

個人戦三段以上の部、笠松文子(徳島支部)が、その立役者、先づつた。山室(同好)木下は「主将バウ」で、昨年の団体戦に、同好の仲間が揃い、結成しがよき精進された。上運を担任した池田高は剣道た、今年もメンバー全員が一筋を志した。若さ溢れる選手が揃った。山室(同好)木下は「主将バウ」で、昨年の団体戦に、同好の仲間が揃い、結成しがよき精進された。上運を担任した池田高は剣道た、今年もメンバー全員が一筋を志した。若さ溢れる選手が揃った。



団体決勝 代表戦で山室(ミセス剣友会)が橋本(徳島文理大)にコテを決め、2連覇を飾る。中央武道館



取、鮮やかな逆転勝ちを取めた。あまり覚えていないと、そのけがが、つたが、教え子たちに大きな土産が、大きな土産だ。

7月13日(月)スポーツ

第五十回県中学校総合体育大会(県中体連)開催。徳島新聞社主催。九日から八日間、徳島市立体育館が10会場である。0人(男子)と21人(女子)の14種競技(15種目に熱戦を繰り広げる。

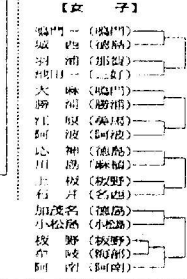
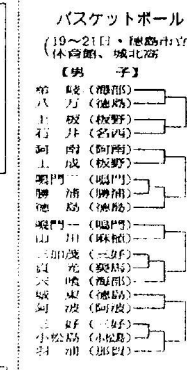
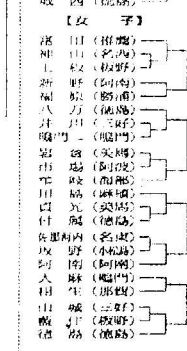
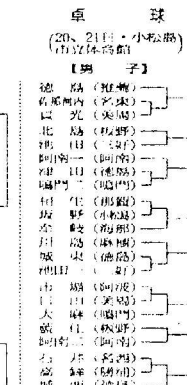
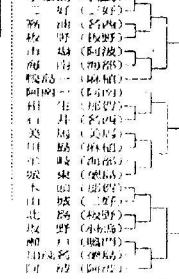
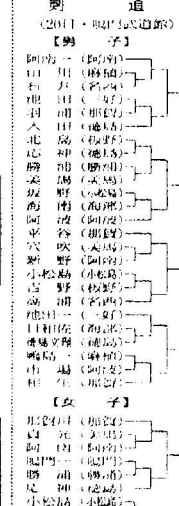
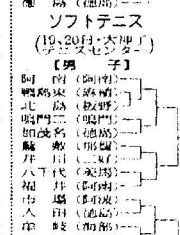
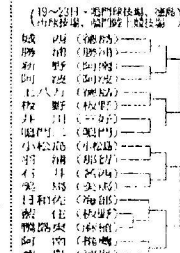
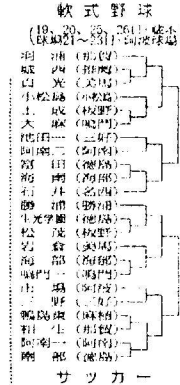
競技別の組み合わせは、個別表の通り。剣道、ソフトボールを除く各競技は四回総体を8月9日、10日、4県の予選を兼ねて10日(優勝)開催。優勝校は、優勝校は優勝校のみ、

県中学総体

組み合わせ決まる

19日から8日間 熱戦展開

相撲は上位学校、個人の上位入賞者代表校が与えられる。また、剣道、柔道、相撲の団体優勝校と水泳、陸上の標準記録突破者。学総体、団体も選手を兼ねた。合同開会式は十九日午前九時、徳島市立体育館で行われる。ソフトボール男子の予選が参加して行われ、ソフトボール男子は、ソフトボール男子が選



7月14日(火) 県南版

中学校総体都市予選



県中学総体きょう開幕

第五十三回県中学校総合体育大会(県中体連)県競技、徳島新聞社主催は十九日、午前九時十五分から徳島市立体育館で行う合同開会式で幕を開ける。県上座をめぐる熱戦は7日間にわたり、四国総体、全国大会の予選も兼ねる。

第一日は郡市代表が争うソフトテニスなど6競技とる。二日は、郡市代表で争われる剣道について県中体連の阿南一・村井正志専門部長は次のようにみている。

阿南一と相生が軸 剣道 男子

出場は男女各27校。男子団体は眞邊千穂優勝の第1シード阿南一と第2シード相生を中心に展開される。この2校に加え平谷、阿波が有力。個人は元々(相生)を筆頭に、坂木(阿南一)、柳福(坂野)、河原(阿波)らがV候補とみられて

種目	予選	決勝	準決勝	3位決定	試合時間
男子剣道	阿南一	相生	阿南一	相生	15分
女子剣道	眞邊千穂	相生	眞邊千穂	相生	15分
男子柔道	阿南一	相生	阿南一	相生	10分
女子柔道	眞邊千穂	相生	眞邊千穂	相生	10分
男子空手	阿南一	相生	阿南一	相生	10分
女子空手	眞邊千穂	相生	眞邊千穂	相生	10分
男子バドミントン	阿南一	相生	阿南一	相生	10分
女子バドミントン	眞邊千穂	相生	眞邊千穂	相生	10分
男子バレーボール	阿南一	相生	阿南一	相生	10分
女子バレーボール	眞邊千穂	相生	眞邊千穂	相生	10分
男子バスケットボール	阿南一	相生	阿南一	相生	10分
女子バスケットボール	眞邊千穂	相生	眞邊千穂	相生	10分

山希(那賀川)らのつばぜり合いか。

県勢2種別で出場権を獲得

国体剣道四国予選 剣道の第五十三回国体四国ブロック予選は十九日、高知県立武道館で少年男子、女子、成年女子の三種別に熱戦を展開。徳島県勢は少年女子、成年女子の二種別で国体出場権を獲得した。

- ①少年男子 リーグ戦①香川3勝②高知2勝③徳島1勝④愛媛1勝⑤徳島3敗
- ②少年女子 リーグ戦①香川3勝②高知2勝③徳島1勝④愛媛1勝⑤徳島3敗
- ③成年女子 リーグ戦①香川1勝②高知2勝③徳島1勝④愛媛1勝⑤徳島3敗
- ④成年女子 リーグ戦①香川1勝②高知2勝③徳島1勝④愛媛1勝⑤徳島3敗

四国 インターハイの顔 ⑥

四国選手権決勝で、春の全国選抜大会八強の高知に競り勝って、二年ぶりに四国の頂点に立った。

勝利への執念を感じさせるチームである。95、96年のインターハイで3位に食い込んだときのような絶対的なポイントゲッターはいないが、五人が粘り強く次の選手へつなぐ。試合が終わってみれば小差で勝っているという感じだ。

剣道女子団体

富岡東

十五年目の河田監督は「最も精神力のあるチーム」と、白らの想像を超え活躍を続けるまな弟子たちに驚いている。

先ほう伊藤は173cmの長身からメンを打ち下ろす。次は栗本は足さばきがいい。中堅森はパワーの

精神力の強さが武器

四国を代表する実力校、富岡東女子剣道部
11回校



れ、臨機応変の竹刀さばき。控えの服部もコテにさえをみせる。タイプの違いがそろってているのも、ことしのチームの強みでもある。過去十年のうち、四国を制すること九度。文字通りの強豪チームが、強豪相手が続く序盤を乗り切れば、95、96年大会の再現は不可能でない。

7月28日(火) スポーツ

小松島少剣ク団体制す

少年剣道野

第16回坂野少年剣道錬成大会(坂野少年剣道クラブ主催) 19日、坂野小体育館。小松島市内6チーム79人

の小学生剣士が熱戦を繰り広げ、団体戦は高学年、低学年とも小松島少年剣道クラブが優勝した。

【団体】低学年①小松島 ②和田島少年剣道クラブ③直心館少年剣道クラブ、坂野少年剣道クラブ▽高学年①小松島②坂野③立江少年剣道教室、新開剣道クラブ

【Aゾーン個人】1、2年①松本凜太郎(和田島)②桜木鉄也(坂野)③吉原颯(和田島)小西衛(同)▽3年①暮石貴之②切中めぐみ③合尚弓、上田祥平(以上小松島)▽4年①近藤徹(小松島)②喜川照正(同)③江崎恭平(立江)

7月28日(火) 県南版

◆剣道 第29回県少年錬成大会

(26日・松茂町総合体育館)

【団体】準決勝 大野小剣道部

2(代表勝ち) 2鳴門市光武館、

徳島至誠館4-1那賀川少年ク

▽決勝

徳島至誠館 2-2

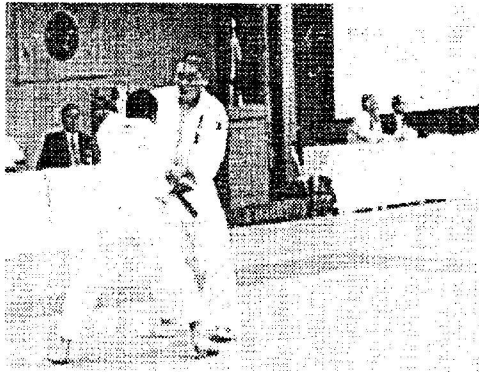
大野小剣道部 (本教勝ち)

【個人】①清水源明(大野小剣道部)②近藤(入出錬成会)③富本(鳴島少年剣道教室)④林(鳴門市光武館)

石井やよい(小松島)▽5年①生長祐樹(坂野)②村瀬聡美(同)③切中真志(小松島)出越弘也(同)▽6年①播磨良幸(小松島)②佐川洋介(坂野)③本田章訓(和田島)中島悠紀(新開)【同Bゾーン】1、2年①江口直希(小松島)②久能弘嗣(新開)▽3年①岩本美帆(和田島)②船越裕真(新開)▽4年①長野祐介(立江)②中津恭兵(同)▽5年①福井克彦(直心館)②鶴岡洋志(和田島)▽6年①倉崎修平(立江)②坂本和人(和田島)

7月27日(月) スポーツ

あかースポーツ



柔道 剣道
板野署管内
阿南署管内

県防犯少年大会

15チームが熱戦

9連覇

第11回徳島県防犯少年柔道剣道大会(県防犯協会主催、県警本部など後援)23日、徳島市内の県立中央武道館。
県内15警察署ごとに組織された小中学生によるチームが熱戦を展開。柔道は板野署管内チーム、剣道は阿南署管内チームがともに9連覇を達成し、8月5日に東京の警視庁武道館で開かれる県防犯少年柔道剣道大会で熱戦を展開する選手たち。県立中央武道館

県南版

阿南市学原町 へ入院応需

木下

産婦人科
内科

医院

院長 木下恒夫 ☎(0874)23-3900

れる全国大会への出場権を獲得した。

【柔道】①板野署(平川 柱一、生越貞行、石本匡史、川野達也、富上大輔、梶真太郎、近持幸介)②市場署③徳島東署、石井署▽特別賞 徳島北署

【剣道】①阿南署(原裕司、玉山康朗、中西渉、大石洋史、大仁貞也、原祐輔、横田直也)②徳島東署③鳴門署、小松島署▽特別賞 鷲敷署

ニッポン支局へ

事件、事故、話
題、写真提供のこへ
連絡は下記支局へ

鳴門支局
0886-86-2691

松茂支局
0886-99-3707

勝負どころは
群女短大付戦

女子・富岡東



剣道

河田 清実
(富岡東教)

男子団体は、全国選抜大会優勝の福岡大付大濠(福岡)を破って出場を果たした福岡工大付と選抜大会3位の九州学院(熊本)を中心に展開されそうだが、混戦模様。女子団体は、阿蘇(熊本)の優勝が濃厚視されている。昨年は三連覇を逃したが、春の全国選抜大会では巧みな試合運びで連

覇を果たしている。これに對抗するのが修徳(東京)群女短大付(群馬)左沢(山形)あたりか。徳島県代表の男子・富岡西は、予選リーグで優勝候補の福岡工大付と対戦する。接戦に持ち込んで、大将の長谷川に勝負を託したいところ。一方、女子・富岡東は、予選リーグを突破し、ベスト8入りをかけた群女短大付戦(決勝トーナメント1回戦)が勝負どころとなる。勝てば3位が狙える。個人戦は徳島真から男子が前田(阿南工)蛭原(富岡東)、女子は坪井、伊藤(以上富岡東)が出場する。

7月30日(木)スポーツ

剣道

- ◆男子団体 富岡西
- 監督 本田 敦彦
- 選手☆長谷川 晋紀 ③
- // 小柏 祐三 ②
- // 藤川 卓也 ②
- // 大坂 真石 ③
- // 谷口 拓之 ③
- // 森 英雄 ③
- // 尾田 光志 ③
- ◆同個人
- 前田 悟志 (阿南工③)
- 蛭原 正基 (富岡東③)
- ◆女子団体 富岡東
- 監督 河田 清実
- 選手☆坪井 あき ③
- // 櫻本 みくり ③
- // 森 知世 ③
- // 栗本 美香 ②
- // 伊藤 奈津子 ②
- // 電土 恵子 ③
- // 服部 茜 ③
- ◆同個人
- 坪井 あき、伊藤 奈津子 (以上富岡東)

- ◆剣道(松山市総合コミュニティセンター)
- ▼富岡西 予選リーグで麗澤瑞浪(岐阜)福岡工大付(福岡)の2試合17日
- ▼富岡東 予選リーグで興南(沖縄)西京(山口)の2試合16日

19日市武道館。

阿南市在住の小学生115人が参加。学年別に分かれて熱戦を展開した。

新入生の部①森崎勝人（新野少年剣道教室）②久米田高輝（阿南少年剣道教室）③中本恵理未（大野小剣道部）④大西梓（大野小剣道部）▽3年生以下の部①西浦大地（大野小剣道部）②鈴木建太郎（鎌武館少年剣道教室）③水浦暲（阿南少年剣道教室）④矢野翔太（阿南少年剣道教室）▽4年生の部①神元蒼（鎌武館少年剣道教室）②大津孝太郎（阿南少年剣道教室）③服部明日香（大野小剣道部）④溝上部（桑野川少年剣道教室）▽5年生の部①久米勘四郎（阿南少年剣道教室）②中本雅美（大野小剣道部）③近藤愛（大野小剣道部）④清水源明（大野小剣道部）▽6年生の部①京小晋平（大野小剣道部）②中西渉（阿南少年剣道教室）③磯田沙希（新野少年剣道教室）④服部勝彦（大野小剣道部）

小学生115人が熱戦

98年度阿南夏祭り少年剣道大会

会（高商店街協同組合、市教育委員会、市剣道連盟主催）7月

8月4日（火）県南版

富岡東ベスト8進出

女子団体短大付属に2-1

剣道

富岡西 2-1 富岡東	富岡東 2-1 富岡西	富岡東 2-1 富岡西	富岡東 2-1 富岡西
富岡東 2-1 富岡西	富岡東 2-1 富岡西	富岡東 2-1 富岡西	富岡東 2-1 富岡西
富岡東 2-1 富岡西	富岡東 2-1 富岡西	富岡東 2-1 富岡西	富岡東 2-1 富岡西
富岡東 2-1 富岡西	富岡東 2-1 富岡西	富岡東 2-1 富岡西	富岡東 2-1 富岡西



女子団体決勝トーナメント 富岡東対群女短大付属(群馬) 富岡東の栗本(愛媛県松山市総合コミュニティセンター)

富岡西は、有力校の富岡東大付属と大戦を戦い抜いて1-0でリード。しかし、大将戦で敗れたため、勝者は1-1と同数ながら取手栗本(愛媛)で決着を

のんだ。本田監督が「みんな頑張った。次はう大坂は、全方勝トーナメントに出たのをよくしたので悔しくなく、同じくらい価値がある」といふさわやかな表情で話さうほどの喜びを語った。

因縁の対決に闘志 富岡東女子

剣道女子団体で富岡東が初めて1-1に、続く四国大会の群女の群女短大付属(群馬)と対戦。富岡東が2-1でリード。この相手は春の全国選抜大会の後、肝を冷やした。富岡東は、栗本(愛媛)が先陣の伊藤が敗れたもの、次にコテを先取され、大ピンチになったが、気力でコテを奪い返し、延長戦を戦い抜いた。

富岡東は、栗本(愛媛)が先陣の伊藤が敗れたもの、次にコテを先取され、大ピンチになったが、気力でコテを奪い返し、延長戦を戦い抜いた。

栗本は、栗本(愛媛)が先陣の伊藤が敗れたもの、次にコテを先取され、大ピンチになったが、気力でコテを奪い返し、延長戦を戦い抜いた。

8月8日(土) スポーツ

中山(那賀)見事2位個人女子

剣道

弘前市民
体育館



中山希実子選手

三 瀬は初優勝	三 本数勝	二 本数勝	二 本数勝
三 瀬は初優勝	三 本数勝	二 本数勝	二 本数勝
三 瀬は初優勝	三 本数勝	二 本数勝	二 本数勝
三 瀬は初優勝	三 本数勝	二 本数勝	二 本数勝

一瞬の勝機逃さず
○：一瞬の勝機を見逃さなかった。剣道女子個人戦準決勝、中山希実子(那賀)のメンが鮮やかに宗藤(石川・宇ノ氣)を倒した。

では最後にコテを斬したが、先にメンを取られたあとに、ドウを決めて接戦に持ち込んだ。団体戦では一人が3分以内に勝負を決めなくてはならない。かたや、この個人戦は果てしなく延長が続く。両女子初の個人準優勝の要因は、口々勝負をかけてきた一気持ちを切らない集中力にあった。

「とにかく一試合一試合、自分の剣道をする事だけを心掛けた。上出来でさえ。試合後のコメントは控えめだったが「来年も出て頑張りたい」という目は、今回逃した頂点へと向けられた。

8月24日(月)スポーツ

◆剣道連闘昇段審査合格者

(6H・鳴門武道館ほか)

▽初段 片岡未来、小西美穂、杉本麻由美、坪井舞子、株本尚子、瀬口裕子、中山希美子、橋本佳奈、佐藤友紀、坪井香奈、原祐輔、工藤美希、河井千佳、小西愛、湯浅潤、湯浅順英、賀川阿喜子、岸香織、的場健祐、青木雄希、谷本彬、森本香奈、榎原久美、二谷敬幸、西岡将、吉原佳奈、森下和也、藤本峻介、川田干晶、荻石敦子、谷妃弓子、田島拓、國見辰徳、岩佐光恵、西原実智子、近藤真也、戸川和樹、谷田雅彦、掛水真紀、板東悟、石井祐介、井口照太、市原典子、高木航平、安宇ひとみ、山田晃三、島田泰輝、中川瑞、三浦孝二、中川健太、武市尚也、吉田尊、佐藤陽希、西平武史、岡本明下、本淨忠男

9月8日(火) スポーツ

高 乗 昇 1998年(平)

あわいスポーツ

至誠館(羽)

2部門で2位

第17回香川県普通通少年剣道錬成大会(普通)寺剣正会主催)8月30日、普通寺市民体育館
那賀郡羽ノ浦町の徳島至誠館チームが、小学校高学年と同低学年の両部で健闘し、それぞれ準優勝を果たした。
【高学年】清水亨太、鎌田俊、玉田康朗、清水原太、河田真吾(低学年)村井俊、鎌田憲資、松本明夫、河田毅、玉田正大
四国四県と岡山県から高学年の部には68チーム、低学年の部は66チームが出場。団体戦で鍛錬の成果をぶつけあった。至誠館の高

学生チーム(中山繁輝監督)は、3回戦で香川県の十河剣道スポーツ少年団を破ったが、決勝戦で全国屈指の強豪チーム・福田道場(岡山県)に一步及ばずか

9月9日(水) 県南版

●東署チーム柔道8連覇

九八年度県警柔道剣道大会が十七日、鳴門市の鳴門総合運動公園武道館であった。県内十五警察署のうち十四署と警察学校、県警本部から計二百二十一人が参加、日ごろ鍛えた技を競い合った。

参加チームは署の規模によつてA、B組に分かれて熱戦を展開。迫力ある掛け声とともに見事な技が決まるたびに、場内に歓声が響いた。この結果、柔道Aは徳島東署が八連覇を達成、剣道Aは徳島西署が五年ぶりに優勝した。

【柔道】A組②県警本部▽B組①徳島北②牟岐▽敢闘賞 岡田健司(徳島東) 益田寛彦(県警本部) 平野智久(徳島北)、川口勝彦(牟岐) 【剣道】A組②県警本部▽B組①警察学校②鷺敷▽敢闘賞 高橋敬治(徳島西) 田川秀明(県警本部) 林高幸(鷺敷) 山名信行(警察学校)

9月18日(金) 社会

●阿波連闘昇格審査合格者
 20日、鴨門武道館
 〓段 元高忠、福本泰志
 田中明、山ノ井徹、竹野西一、成
 本高、住友直成、岡部達朗、白
 月徳美、高川健太、河野俊樹、藤
 月一、岡田昌輔、高志和正、秋
 山雄哉、松村法子、黒木祐志、山
 本、成、福永健司、大城健志、森
 田、成、体跡了、大坂高史、森茂
 明、久野裕次、下久保安枝、
 岡田友次、矢部智子、渡川陽子、
 長崎太夫、長瀬和絵、瀬尾左衛
 門、月守佳、瀬ノ上孝、岸信人、高
 田雅夫、田島幸、川原徹哉、白井
 知加、山田之、滝下裕規、岡川
 広貴、市橋秀幸、〓段 藤藤在
 子、下城、前田栞志、森田中
 橋坂幸親、大島博史、武澤隆、山
 本武範、原政成、佐藤清四郎段
 吹田隆司、小池大、藤多、栗
 坂本公男、〓段 高原勉人、高川
 正吉、鎌上、合田秀雄、
 〓段 南本明彦、久保隆司、
 山口、宇都宮市。

9月22日(火) スポーツ

渡 島 乗 斤 月 日

阿波中が団体戦優勝

県西部少年剣道大会 460人が熱戦展開

第10回県西部少年剣道大会(穴吹町体育協会主催)15日、同町スポーツセンター。
 23剣道教室、18中学校から460人が参加、練習の成果をぶつけ合った。
 【団体戦】小学校低学年①鴨島少年剣道教室②鴨門市光武館③穴吹町少年剣道教室、入田錬成会④同高学年①鴨門市光武館②兼住剣道スポーツ少年団③鴨島少年剣道教室、穴吹町少年剣道教室④中学校男子①阿波中②石井中③山川中、穴吹中④同女子①市場中②阿波中③好中、鴨門第一中
 (個人戦)小学2年①岩雲祥吾(鴨島)②高橋理恵



白熱した試合を繰り広げた県西部少年剣道大会穴吹大会15日、穴吹町スポーツセンター。

煙

あわースポーツ

9月22日(火) 県南版

(山川)⑤佐藤裕(穴吹)、①中山大地(鴨島)②新居川)④同4年①林義貞(春菜(鴨島)③峰本直季④森本龍毅(吉野)、原中綾女(光武館)⑤同5年①太田宏生(蔵本)②新居見航(鴨島)③米澤弘朗(光武館)、黒田あゆみ(穴吹)④同6年①森山伊(入田)②兼松和弘(上成)③佐藤森也(脇町)、本馬(吉野)

宮崎正 最多の5度目

全日本剣道

剣道の盛況は十六回全日本選手権は、日、東京、日本武道館で四十七都道府県の選手が参加して行われ、宮崎正七段（神奈川県）が二年ぶりに優勝、白井の持つ最多優勝記録を五と伸ばした。

宮崎正七段は一回戦から安定した戦い、準決勝で一年前準優勝の原田悟四段（愛知県）を延長で下し、決勝では日暮善久六段（大阪府）に決死の必死必死面を決めた。

連覇を狙った宮崎正七段の弟、宮崎史裕六段（神奈川県）は一回戦で岩佐英範五段（愛媛県）に敗れた。

▽準々決勝
原田悟四段（愛知県）対 岩佐英範五段（愛媛県）
宮崎正七段（神奈川県）対 日暮善久六段（大阪府）



宮崎正

優勝重ね剣風に重み

くないというが、しかし、強さを示すことでいつの間にかその雑音を封じ止めた。その実力のある選手を、昔縁ある戦いで下しての優勝だった。準決勝は一年前の優勝を争った原田、決勝の相手は得意な宮崎正七段。二人の実力を準備した上で、「前に出る気持ちがなければ打たれる」と思ってと、気付けず攻めた結果と表した。弟、史裕六段との対決が注目されたが、弟は一回戦で敗退。剣道の勝負の難しさを痛感した弟とは対照的に兄の強さだが「意識はしなかったが、できればやりたくなかった」と打ち明けた。

去年は推薦で十度目の出場となる。「また」の大会に出られるのがうれしですね。大勢剣士の日が笑った。

連覇を狙った宮崎正七段の弟、宮崎史裕六段（神奈川県）は一回戦で岩佐英範五段（愛媛県）に敗れた。

宮崎正七段は一回戦から安定した戦い、準決勝で一年前準優勝の原田悟四段（愛知県）を延長で下し、決勝では日暮善久六段（大阪府）に決死の必死必死面を決めた。

連覇を狙った宮崎正七段の弟、宮崎史裕六段（神奈川県）は一回戦で岩佐英範五段（愛媛県）に敗れた。

宮崎正七段は一回戦から安定した戦い、準決勝で一年前準優勝の原田悟四段（愛知県）を延長で下し、決勝では日暮善久六段（大阪府）に決死の必死必死面を決めた。

連覇を狙った宮崎正七段の弟、宮崎史裕六段（神奈川県）は一回戦で岩佐英範五段（愛媛県）に敗れた。



江藤善久六段を改める優勝した宮崎正裕七段一日本武道館

11月4日（水）スポーツ

た。長丁場を終え、流れる汗をぬぐいながら、「調子は悪くなかったのに、悔し頑張ります」と至野を期した。

初決勝に充実感
○「惜しくも優勝を逃したが、初の決勝進出を果たした江藤六段の表情は充実感に満ちていた。

「これまで一回出場して、ともにベスト16止まり。江藤にとっては準々決勝進出が目標だったが、今回はどの試合も大事にした。かかった」との気持ちを、「抱きかかえて満足そうだった。」

た。この日は全部で6試合をこなして少し疲れた様子だったが、小さいころから「あしがれた人」で、こころを覚えて本心にのり、い、と、最後にかけた「人娘の良代ちゃん」を抱きかかえて満足そうだった。

眉山ライオンズ少年剣道 鳴門光武館に栄冠

チビっ子剣士568人参加

第28回徳島眉山ライオンズ少年剣道大会、同ライオンズ市立体育館、10月10日、徳島。土568人が参加し、団体、個人の部で熱い戦いを繰り広げた。団体低学年の部は鳴門少年剣道教室が3度目の栄冠を手にし、同高学年の部は鳴門光武館が初優勝した。



氣迫のこもった試合を見せるチビっ子剣士
徳島市立体育館

11月10日（火）県南版

部は鳴門少年剣道教室が3度目の栄冠を手にし、同高学年の部は鳴門光武館が初優勝した。

【団体】高学年①鳴門市光武館②大野小学校剣道部③八吹少年剣道教室、徳島市誠館▽低学年①徳島少年剣道教室②徳島誠館③小松島少年剣道クラブ、大野小学校剣道部

【個人男子】6年①大石洋史（桑野川）②榎谷神男（日和佐）③中田泰仁（北川）清水裕太（入田）▽5年①清水源明（大野）②新田裕（竜虎館）③岸廣一（全蔵館）中山樹平（北島）

【個人女子】6年①新居見綾（鳴門）安海萌（勝浦）②舟岡咲野（十八方）中島繁紀（新館）▽5年①尾田和佳、大野②中本雅美（大野）③山屋望（鳴門）西條のぞみ（新野）

流島業斤月昇

延野少年教室が優勝（小学生）

丹生谷剣道 130人、白熱の攻防

あわいスポーツ

第45回丹生谷剣道大会、郡也、松室清勝、本山朋一、原剣道連協生谷支部、治、川野武史、②振武館、③鷲敷町体育、鷲敷町教委主、不鳴支所、④敢闘賞、竹友館（併）8日、鷲敷町B&G海洋センター体育館。

【個人】小学生2年生以上竹友館▽同3年生①上海人村から、小学生から一般まで17団体、約130人が出場。団体戦と個人戦で熱戦を繰り広げた。

【団体】小学校①延野少年剣道教室、熊木剛太郎、松本和起、井内環夫、谷野、川口了意、森友志、②竜虎館③竹友館④敢闘賞、⑤西納少年剣道クラブ、中学校①延野少年剣道教室、大岡孝一、郎乃一、智哉、野々宮史朗、大伏善則、兼道秀幸、②相生中③本道中A④敢闘賞、⑤相生中A▽一般①竜虎館、②相生中A▽一般①竜虎館、②相生中A、大城健作、山川友館、③川口了意、延野少年



130人が熱戦を繰り広げた丹生谷剣道大会、鷲敷町B&G海洋センター体育館

年剣道①久保礼香、竹友館、②敢闘賞、中山泰仁（北川小）▽中学校1年生①福智也、谷澤健太郎、高石誠一（以下相生中）②敢闘賞、折上慎太郎、③敢闘賞、折上慎太郎、④敢闘賞、折上慎太郎、⑤敢闘賞、折上慎太郎、⑥敢闘賞、折上慎太郎、⑦敢闘賞、折上慎太郎、⑧敢闘賞、折上慎太郎、⑨敢闘賞、折上慎太郎、⑩敢闘賞、折上慎太郎、⑪敢闘賞、折上慎太郎、⑫敢闘賞、折上慎太郎、⑬敢闘賞、折上慎太郎、⑭敢闘賞、折上慎太郎、⑮敢闘賞、折上慎太郎、⑯敢闘賞、折上慎太郎、⑰敢闘賞、折上慎太郎、⑱敢闘賞、折上慎太郎、⑲敢闘賞、折上慎太郎、⑳敢闘賞、折上慎太郎、㉑敢闘賞、折上慎太郎、㉒敢闘賞、折上慎太郎、㉓敢闘賞、折上慎太郎、㉔敢闘賞、折上慎太郎、㉕敢闘賞、折上慎太郎、㉖敢闘賞、折上慎太郎、㉗敢闘賞、折上慎太郎、㉘敢闘賞、折上慎太郎、㉙敢闘賞、折上慎太郎、㉚敢闘賞、折上慎太郎、㉛敢闘賞、折上慎太郎、㉜敢闘賞、折上慎太郎、㉝敢闘賞、折上慎太郎、㉞敢闘賞、折上慎太郎、㉟敢闘賞、折上慎太郎、㊱敢闘賞、折上慎太郎、㊲敢闘賞、折上慎太郎、㊳敢闘賞、折上慎太郎、㊴敢闘賞、折上慎太郎、㊵敢闘賞、折上慎太郎、㊶敢闘賞、折上慎太郎、㊷敢闘賞、折上慎太郎、㊸敢闘賞、折上慎太郎、㊹敢闘賞、折上慎太郎、㊺敢闘賞、折上慎太郎、㊻敢闘賞、折上慎太郎、㊼敢闘賞、折上慎太郎、㊽敢闘賞、折上慎太郎、㊾敢闘賞、折上慎太郎、㊿敢闘賞、折上慎太郎、

11月11日（水）県南版

11月16日 (月) スポーツ

小柏(富岡)男子個人V

女子 富東勢対決、伊藤制す

【富岡】富岡東同士の対決となり、富岡東の代表として出場した小柏は、富岡東の代表として出場した伊藤が、富岡東の代表として出場した小柏と対決し、小柏が勝利した。富岡東の代表として出場した小柏は、富岡東の代表として出場した伊藤と対決し、小柏が勝利した。



女子決勝 富岡東同士の対決は伊藤が栗本にコテを決め、一本勝ち一城西高体育館

久川 久川 久川 久川
阿南 阿南 阿南 阿南
中川 中川 中川 中川
藤 藤 藤 藤
小柏 小柏 小柏 小柏
伊藤 伊藤 伊藤 伊藤
栗本 栗本 栗本 栗本
阿南 阿南 阿南 阿南
栗本 栗本 栗本 栗本
阿南 阿南 阿南 阿南
栗本 栗本 栗本 栗本

【富岡】富岡東同士の対決となり、富岡東の代表として出場した小柏は、富岡東の代表として出場した伊藤と対決し、小柏が勝利した。富岡東の代表として出場した小柏は、富岡東の代表として出場した伊藤と対決し、小柏が勝利した。

試合後は笑顔の2人。富岡東同士の対決となった女子決勝。開始2分、バシッという鋭い引きコテが決まり、富岡東の代表として出場した小柏が勝利した。

鹿屋体大が連覇。全日本女子学生剣道。剣道の全日本女子学生優勝大会は十五日、全国の地区大会を勝ち抜いた56校が参加して、名古屋市の愛知県武道館でトーナメントによる団体戦を行い、鹿屋体大が二年連続四度目の優勝をした。

11月16日 (月) スポーツ

県南版

富岡東高が男女制覇

隣部旗 中学団体の那賀川も

第26回隣部旗争奪那賀川剣道大会(那賀川町教委主催) 11月23日、B&G那賀川海浜センター。県内全域から小、中、高校チームが参加して、団体、個人戦を展開。6部門に分かれて争った団体は、中学校で那賀川、高校で富岡東がそれぞれアベック優勝した。

【団体】小学校高学年①徳島至誠館②大野小剣道部③阿南少年剣道教室④新野少年剣道教室▽同低学年①阿南少年剣道教室②徳島至誠館③那賀川少年剣道クラブ④桑野少年剣道教室▽中学校男子①那賀川②阿南第一③新野④羽浦▽中学校女子①那賀川②阿南第一③阿波

③和牛▽高校男子①富岡東②富岡西③城ノ内④川島▽高校女子①富岡東②川島③城西④城ノ内
【個人】小学1年①曹根建貴(徳島至誠館)②山田深太(那賀川B&G)③中野誠(同)④大羽貴史(新野少年剣道教室)▽同2年①湯浅彰義(徳島至誠館)②福永啓人(竜虎館道場)③正村良太(小松島少年剣道クラブ)④榎木鉄也(坂野少年剣道クラブ)▽同3年①島田晃郎(大野小剣道部)②中野由貴(那賀川B&G)③松本明真(徳島至誠館)④切中めぐみ(小松島少年剣道クラブ)▽同4年①安部聡志(阿南少年剣道教室)②泰地健人(同)



450人が参加した県南剣道錬成大会 一口和佐町総合体育館

【団体】小学校①鶴島少年剣道教室A②阿南少年剣道教室③徳島至誠館A▽中学校男子①那賀川②阿南第二③室戸岬山▽中学校女子①那賀川中②阿南第一③相牛山▽高校①徳島東工業②富岡東③日和佐
【高校個人】①大前智仁(富岡東)②山ノ下敬仁(富岡東)③大西允(徳島東工業)

③西澤英吾(傘岐剣道クラブ)④美馬憲太(同)▽同5年①岸賢一(徳島至誠館)②金山雄祐(和山島少年剣道クラブ)③生長祐樹(坂野少年剣道クラブ)④

那賀川中アベックV
第44回県南剣道錬成大会(徳島県剣道連盟海部支部日和佐町体育協会など主催) 13日、日和佐町総合体育館。県内の小松島以南と高知県室戸市の小学生から高校生までの男女約450人が参加。個人、団体戦の結果、団体は那賀川中学校が男女アベック優勝した。

本雅美(大野小学校剣道部)▽同6年①大村洋史(桑野川少年剣道教室)②福岡七月(勝浦剣道教室)③島幹彦(如水館剣道場)④中西浩司(加茂谷少年剣道教室)▽中学男子①

阿南駅前
〈入院応需〉
〈労災指定〉

岩城医院

整形外科・内科・耳鼻咽喉科・皮膚科

院長 岩城 孝 (0886) 22-0309
副院長 岩城美津代 (0886) 22-0309

ニュース局

話の、事故、事件、真実、提供、下、記録、写真、連絡、速報

支局 2691
支局 86
支局 99-3707
支局 0886-99-3707

団体優勝は光武館A

鳴門市
少年剣道

第10回鳴門市少年剣道選手権大会・第1回寺西杯争奪少年剣道大会(鳴門市剣道協会・鳴門市光武館主催) 12月23日、鳴門市民会館。

鳴門市周辺の小中学生約200人が参加。団体戦では鳴門市光武館Aが優勝を飾った。

ラリス1-0林崎、里浦2-1大森、明神4-0なかよし、鳴門第一4-0桑島▽準決勝 里浦3-2ポラリス、鳴門第一5-0明神▽3位決定戦 明神1-0ポラリス▽決勝 里浦3-1鳴門第一



200人の小中学生が熱戦を展開した鳴門市の少年剣道大会＝鳴門市民会館

【団体戦】①鳴門市光武館A②上八万剣道倶楽部③藍住剣道スポーツ少年団【個人戦小学校低学年】①

山本義征(光武館)②梅木宝命(同)③松浦一真(入田錬成会)【同高学年】①川口雄大(光武館)②橋本祐希(同)③米田正人

(同)【中学校個人試合】女子の部①寺西由佳(鳴門一中)②笠井友加(同)③福田まり子(藍住東中)久保雅美(加茂名中)▽男子の部①佐伯隆仁(小松島中)②木田崇史(北島中)③湯村潔喬(蔵本剣道教室)山口裕輔(藍住東中)

1月5日 県南版

那賀川中女子 無傷の優勝

県小・中学校練成剣道

第五回県小・中学校剣道強化練成大会は二十四日、鳴門県民体育館で行われ、小学校の部は徳島全誠館、中学校男子は平谷、同女子は那賀川がそれぞれ制した。那賀川女子は、人も負けない強さを見せての優勝だった。

【少年の部】準々決勝 大野小 剣道部3-0 新野少年教室、上那賀竹友館1-0 那賀川少年クラブ、鳴島少年教室2-0 入田練成会、徳島全誠館3-1 藍住スポーツ少年団

▽準決勝
大野小 剣道部 5-0 上那賀竹友館
徳島全誠館 2-0 鳴島少年教室

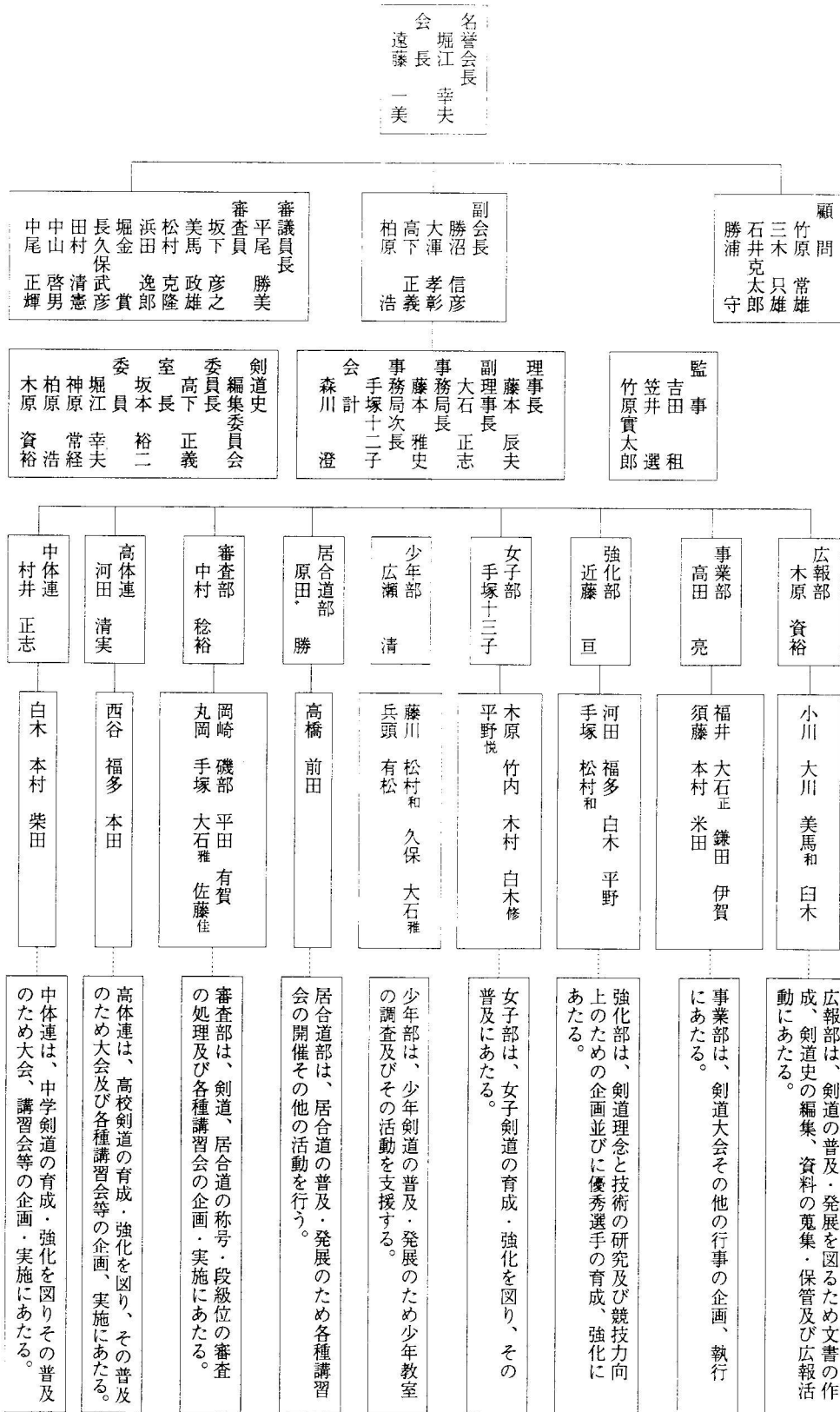
▽決勝
徳島全誠館 2-1 大野小 剣道部
河田 コーメ 西浦
繁田 コーメ 服部
清本章 原
○清木 涼メ 大西
○玉田 下 京小
【中学校男子】準々決勝 羽浦 2-1 那賀川、市場3-1 鷹敷、阿波2(本教勝ち) 2 阿南1、平谷3-2 相生
▽準決勝

1月25日 スポーツ

羽浦	2-0	市波
平谷	3-2	阿波
▽決勝		
平谷	3-2	羽浦
株田 崇	1-0	片山
株田 幸	1-0	菊野
○的場	ドメ	横田
○折坂	メメ	湯浅
○久保	メメ	吉田
【中学校女子】準々決勝		
川5-0	木頭、相生	2-1 阿波、
阿南1-3	1 北島、鳴門	2-1 市場
▽準決勝		
那賀川	5-0	相生
阿南	3-1	鳴門
▽決勝		
那賀川	5-0	阿南
○岸	メメ	住友
○橋本	メメ	佐竹
○上藤	メメ	茂村
○小西	メメ	服部
○中山	三三	茂崎

徳島県剣道連盟事務分掌表

平成十一年四月一日現在



編集後記

小川忠太郎先生の講話の中に、王陽明が弟子の病氣見舞いをする話が出ています。弟子の病氣は

難病でしたが、王陽明は「近頃、病氣の工夫はどのようにしているか」と聞きました。弟子は、

「難病で、とても苦しく、どう工夫していいかわかりません」と答えました。すると王陽明は「難

病といつても体が病んでいるのであって、心が病んでいるのではない。体が病むと心まで病んでし

まいがちだが、人間の心は快活なものだ。心まで病んではいけない。」病気で結構、逆境で結構と

自分を練っていくことが必要であり、その心の持ち方の大切さを小川先生は強調されています。

私たちの身の回りでは、「生活即剣道」と言いながらも、何かと自分の忙しさに言訳をつけて、

当面する対処すべき課題を避けていることが多いことか。忙しくて結構、「常に快活是れ工夫」の

精神で、当面する課題を乗り越えたいものです。

『徳島の剣道』第十五号

編集委員会

編集顧問

堀江幸夫	柏原浩	木原資裕	福井軍二	中村稔裕	大川功	白木崇	美馬和義
------	-----	------	------	------	-----	-----	------

『徳島の剣道』第十五号

平成11年6月25日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 遠藤一美

☎770-0853 徳島市中徳島町2丁目96

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360